

にして、もと天寧寺温泉といふ、三面峰樹を回らし西一面開けて遙かに會津平野を望む、中央に一小流あり湯川と稱す、激流岩に激して崖々飛瀑を爲す、風光極めて佳なり、温泉は川の沿岸各地に發し、鹽類泉にして脚氣、痛風、眼病等に効あり、浴客常に多く、一ヶ年平均數萬人に及ぶと。

**ひかたはちまんこく 干潟八萬石** 下總國匝根郡にあり、此地もと、椿湖と稱して、周圍十里に亘れる大湖なりしが、寛文年間新川を鑿ちて、湖水を排出し、遂に今日の其田を得るに至れり、此收獲八萬石に達す、依て此名あり。

**ひかわこーえん 氷川公園** 武藏國北足立郡大宮町氷川神社の境内にあり、一に大宮公園といふ、開地廣瀾にして、老樹蒼鬱として繁茂し風致頗る佳なり。

**ひかわじんじや 氷川神社** 武藏國北足立郡大宮町にあり、同地停車場を距る東北十町、官幣大社にして、素戔鳴尊、大己資命、奇稻田姫命を祀る、本朝武運の守護神にして、景行天皇御宇の創立と稱す、境内廣く氷川公園の勝ありて、遊覽の客多し。

**ひきがわ 日置川** 紀伊國にあり、源を西牟婁郡の東北山中に發し、熊野川、前川、將軍川を合し、南流して、南日置浦に至りて海に入る、流域二十五里、一に安宅川とも云ふ。

**ひくまの 引間野** 遠江國三方ヶ原の古稱、「みかたがはら」

吉征西して國を佐々成政に賜ひ、次で其封を没して加藤、小四の兩氏を熊本及宇土に分封せり、關ヶ原役後小四氏滅び加藤氏獨り全國を領せしが、寛永年間國除かれ細川氏代つて封を受け、宇土及新田に支藩を置き子孫世襲して王政維新に至る、又人吉に相良氏あり、二萬二千石を領す、廢藩後八代、熊本二縣を置き、尋で八代を熊本に併せ、白川縣と稱せしが後改めて熊本縣とす。

**ひこさん 彦山** 豊前英彦山の略稱、「えひ、やま」を見よ。

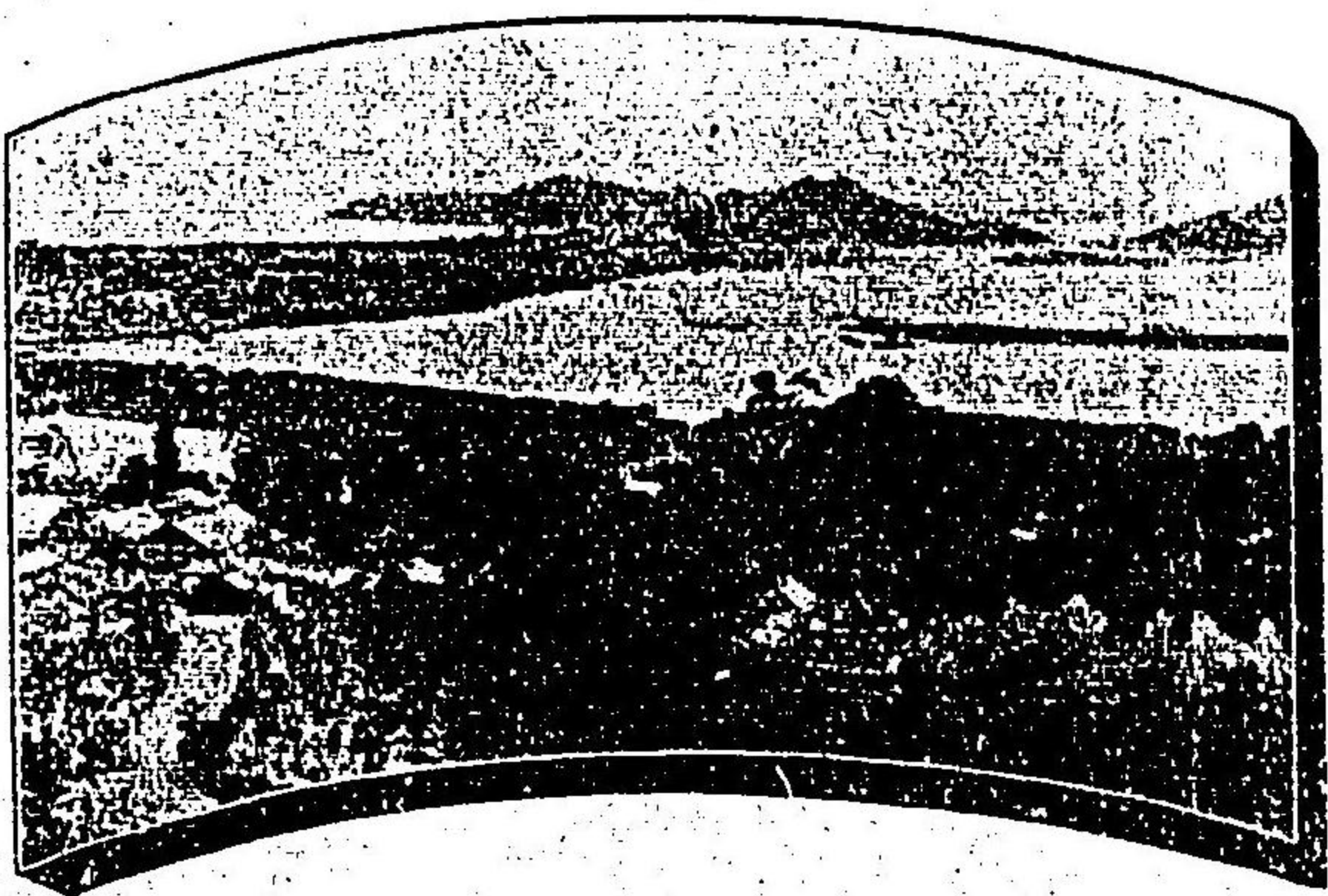
**ひこさんじんじや 英彦山神社** 官幣中社、豊前國田川郡彦山山上にあり、忍骨尊を祀り、相殿に伊弉諾、伊弉册二神を祀る、古くは彦山權現と稱せり、其創立年代詳かならざるも上古より知られ、歴代皇室の尊信篤く、勅使を派して國家の安寧を祈られたることもありと中世當山の勢頗る盛にして一時三千六百坊ありしともありき、天正年間大友氏の兵本山に押寄せ一山の僧兵三千餘を討拂ひ、寺坊悉く燬盡せしこと史に見ゆ。

**ひこねまち 彦根町** 近江國犬上郡琵琶湖畔にあり、井伊氏三十五萬石の舊城下にして、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、測候所、中學校、女學校等あり、東海道鐵道の一驛にして、近江鐵道又此地より分る、絹縮、漆器等を産す、城址は町内金龜山上にあり、金龜城と稱す、慶長八年

を見よ。  
**ひけたむら 引田村** 讃岐國大川郡の東隅にあり、當國の名邑にして、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、天正年間矢野三武此地に據りしが同十二年長曾我部元親の爲めに攻陥せらる、城址今村の北方にあり。

**ひご 肥後國** 四海道十一國の一にして、東豐後、日向二國に、北豐後、筑後に、南薩摩に接し、西一帯内海に面す、地勢東西に短かく、南北に長く、南東北の三面は山脈連亘せるも、國內數多の川流ありて縱横に貫通し、普く田野に灌漑せるを以て、農産物の産出夥しく、所謂肥後米の産多し、國を分つて、飽託、玉名、鹿本、菊池、八代、球磨、上益城、下益城、阿蘇、宇土、葦北、天草の十二郡となし、熊本縣の管下たり、古くは肥前と共に火の國と稱す、國郡制定の際初めて肥前肥後の稱起る、國府を飽田郡に置き全國を治む、藤原氏の末藤原則隆菊池郡を賜ひ菊池氏を稱し子孫永く其地に據り、漸次其勢力を得て終に當國の守護に補せられ建武中興の際、武時武重父子尤も忠勤を擢んで足利氏と争ひ降らず、征四將軍を奉じて豐前を略し、筑後、肥前を併せ其威一時遠近に振ひしが、既にして官軍日に衰へ、菊池氏の威令亦行はれず、永正の頃八世の孫武包遂に肥前に走る、天文年間豐前の大友氏來り侵す、次で島津氏の略する所となりしが、豊臣秀

井伊直勝の築く處、子孫世襲して維新に及ぶ、明治の初年之を廢して公團地となす、五層の天主閣今猶巖然として残る、前に湖水を控へ、右に膽吹山を望み、左に比叡山を眺め風景絶佳の稱あり。



(彦根公團)

**ひつや 肥後平野** 肥後國熊本市北方の大平野を云ふ、菊池川、白川、緑川其中を流る、有名なる肥後米の産地たり。

**ひさいてつごー 尾西鐵道** (私設) 尾張國の西部にあり、東海道線新一の宮驛より分岐し、南行關西鐵道彌富驛に至る、延長十五哩四十六鎖。

**ひぜん 久松山** 因幡國鳥取市の東北部にあり、城址あり、鳥取城と云ふ、天文年間山名氏の城く所、天正九年毛利の部將、吉川某、ここに自盡せしより其名顯る、次で羽柴の部將宮部繼潤之に據り、二十萬石を食む、慶長五年池田長吉之に代り六萬石を受く、元和三年池田光政播磨より入りて三十二萬石を領し、城址此時に完成す、寛永九年光政備前に移り、從弟光仲之に代り、世襲して維新に及べり。

**ひぜん 肥前國** 西海道十一國の一、筑前、筑後兩國の西南方に斗出せる半島國にして、海岸線の屈曲頗る多く、至る所港灣に富む、平戸及び五島の群島を始め、島嶼亦頗る多し、國內山岳縱横に起伏し平地少なきも東筑後に接するの地は所謂筑後川の流域にして、一大平野をなし、九州第一の沃野と稱せられ、國を十四郡に別ち、東彼杵、西彼杵、南高來、北高來、南松浦、北松浦の六郡は長崎縣に屬し、佐賀、三養基、神崎、小城、杵島、藤津、東松浦、西松浦の八郡は佐賀縣に屬す、此地古くは肥後と共に火の國と稱す、後ち火の字を忌みて肥と改め、次で二國となすに及び「ひのみちのさき」「ひのみちのり」と呼べり、鎌倉幕府の頃少貳氏國事を管せしが南北朝時代に肥後菊池氏の勢盛に一時其勢力の下に屈せり、足利氏の代、今川氏、大内氏相ついで九州探題となり、菊池氏と争ひ、漸次本國を復し、應永年間澁川氏探題となり、當

國綾部城に居り本國を治む、天正年間龍造寺氏起り全國を略せしが、後島津氏と戦ひ敗る、次で豐臣氏の征西あり、島津氏降り、龍造寺氏苗領を復し、有馬、大村、松浦等の諸氏とともに全國を分領せしが、後之を其臣鍋島直茂に讓る、關ヶ原役後鍋島氏の苗封故の如く、佐賀三十五萬七千石を領し、寺澤、大村、五島、有馬の諸氏亦各地に分封せらる、後島原藩起り鍋島、松浦の諸氏各支藩を出し、佐賀、大村、小城、蓮池、鹿島、唐津、島原、平戸、平戸新田、五島の十藩ありて王政維新に至る、維新後、長崎、伊萬里の二縣を置き後伊萬里縣を廢して佐賀縣を置く。

**ひぜん 備前國** 山陽道八國の一にして、東播磨に、西備中に、北美作に接し、南瀬戸内海に瀕す、地勢東北部は山嶽重疊、一の平地を見ざるも、南部は概ね平坦にして土地肥沃なり、殊に海岸の出入極て多く良海亦乏しからず、國を和氣、邑久、上道、赤嶺、御津、兒島の六郡となし、岡山縣に屬す、此國古くは備中、備後、美作と一國にして、吉備國と云へり、吉備は桑にて、國産によりて起れる名か、元明天皇の和銅六年六郡を割きて美作を置き、光仁天皇の寶龜年間二國となし、後備前、備中、備後の三國に別ち、備前を「きびのみちのくち」、備中を「きびのみちのなか」、備後を「きびのみちのしり」と云へり、鎌倉幕府の初土肥實平、梶原景時當國の守護に任ぜ

られ、北條氏の末加治長綱守護となる、足利氏の世赤松氏代々守護職に任ぜられしが、滿祐將軍義教を弑して、誅し伏し、山名氏之に代はり、應仁年間赤松氏再び起り、其臣浦上、松田等代り治む、後幾多の變遷あり、足利氏の末年宇喜多氏起り、當國及美作を併す、關ヶ原の役に浮田秀家四軍に與して國除かれ小早川秀秋代り治めしが、其歿後國除かれ池田氏代はり、寛永年間池田光政封を岡山に受けてより子孫相襲いて王政維新に至る。

**ひだ 飛騨國** 東山道十三國の一にして、東信濃に、西加賀越前に、南美濃に、北越中に接す、地勢群山連疊、四面險峻を極む、これ南北兩山系の集合點にして、我が邦第一の高峯地たればなり、地味礫礫にして全く耕作に適せず、國を分つて益田、大野、吉城の三郡となし、岐阜に屬す、此國古昔に斐陀又は斐太と書し、國府を大野郡に置く、鎌倉幕府の末信濃の國守小笠原氏當國を兼治す、建武中興の際姊小路氏當國の國司に任ぜられしが、小笠原氏之れに抵抗して降らず、國司相傳ふる三世にして足利氏の討滅する所となる、天正年間金森長近豐臣氏の命を奉じて來り全國を討平し、高山に治む、六世の孫頼時出羽上山に移され、當國は一時前田家の管する所となりしが、後幕府の直轄領となり郡代を置き之を治む、維新後高山縣を置き後ち廢して筑摩縣より兼治せし

が、間もなく廢して岐阜縣下に屬す。

**ひだか 日高國** 北海道十一國の一にして、東北十勝に、西勝振に接し、南海津に面す、地勢山岳相重り、殊に北部國境は尤も高峻にして南方海岸に至るに従ひ漸く平坦なり、國を分つて、浦河、沙流、新冠、靜内、三石、様似、幌泉の七郡となし、浦河支廳之を管す、當國は蝦夷創業の地と稱せられ、アイヌ人の居住者の多き全道に冠たり、松前氏の時佐溜、新冠、靜内、三石、浦河、様似、幌泉の七領あり、享和年間國館奉行に屬し、文政年間松前領に復し、安政年間再び國館奉行の管下となる、明治二年七領を改めて七郡とし日高國を置く。

**ひだかがわ 日高川** 紀伊國日高郡にあり、源を同郡龍神山に發し、西南流して諸水を含し中山路村より北流し、又西流、西南流して江川と會し、四折して紀州灘に注ぐ、流域五十五里、河口より三十一里舟楫の便あり。

**ひだかみのくに 日高見國** 今の北上川の流域則ち陸前陸中の地を云ふか、景行天皇の朝、武内宿禰東北の地を巡視して、此國の情況を説明し、宜く討伐すべき由を奏せしこと史に見えたり、陸前桃生郡に日高見神社なごあるも亦一證とすべし。

**ひたち 常陸國** 東海道十五國の一にして、太平洋に面し、

南下に、四下野に接し、北磐城に連なる、地勢南部は利根川流域の平野にして、霞浦を始め他の沼澤多く、土地頗る豊饒なり、北半部は阿武隈山脈を受け、八溝、鳥子、筑波等の山嶺連綿し、沃土少なし、國を分つて東茨城、西茨城、筑波、新治、久慈、稻敷、眞壁、那珂、多賀、行方、鹿島の十一郡となし、茨城縣の管下に屬す、古へ日高見國と唱へたる地にして、日高見路と云へるを後世約りてかく呼ぶに至りしなるべし、大化改新の際常道の國を置かれ、天長年間當國を親王の任國とし特に之を太守と稱せり、鎌倉幕府の頃佐竹小田の兩氏交々國事を掌り、南北朝の際佐竹氏足利氏に應じ小田氏南朝に屬し互に相争ふ、應永の頃江戸氏水戸城に據り勢大に振ふ、豊臣氏の時佐竹義宜全國を領せしが、關ヶ原の役に四軍に應じ、戦後出羽の秋田に徙され、徳川家康の子信吉、賴宣相尋で封ぜられしが、賴宣駿河に轉するに及び弟賴房代りて水戸に治し、支藩を府中及水戸に置き子孫世襲して王政維新に至る、此他土浦、笠間、下館、牛久、谷田部、下妻、麻生の七藩あり、廢藩後新治、茨城の二縣を置きしが、後新治縣を廢して茨城縣を置く。

**ひぢかわ 肱川** (比地川、比志川) 伊豫國にあり、源を東宇和郡の東方山麓に發し、諸流を合して、喜多郡に入り、西流して奈賀野川、新谷川を容れ、西北流長濱町に至りて懸崖に

注ぐ、流域十里餘、一に長濱川と稱す。

**ひぢまち 日出町** 農後國速見郡別府灣の西北隅にあり、木下氏二萬五千石の舊城下にして、人口約四千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、稅務署等あり、日出港は其前面にあり、東西十町、南北三町、水深四仞、船舶常に騁馳す。

**ひつち 備中國** 山陽道入國の一にして、東備前に、西備後に、北美作伯耆に接し、南瀬戸内海に瀕す、地勢北方は高く、南方は低く、平地少なければども、大川の流は城農産物多し、國を別つて都賀、淺口、吉備、小田、後月、上房、阿哲の七郡となし、岡山縣に屬す、古くは吉備國と云ひ、後、さびのみちのなか」と云へり、古へ國府を賀陽郡に置く、元弘年間高橋英光當國の守護となり、松山城に居る、足利氏の世高師秀守護となりしが、後土森秋葉氏起りて師重を逐ひ守護代となる、天授年間、細川頼之守護となり子孫相襲ぐ、戰國の際群雄割據の有様なりしが、後、毛利氏安藝より來りて全國を併す、天正十年豊臣秀吉來りて高松城を陥る、毛利氏河邊川以東の地を削きて和す、秀吉其地を浮田秀家に給ふ、關ヶ原役後小早川秀秋の領となりしが、其後後國除かれ庭瀬、足守、松山、岡田、新見、淺見の諸藩相尋で起る、王政維新後松山を改めて高梁とし、成羽藩を立て、倉敷縣を置きしが、後廢して

深津縣に併せ更に改めて小田縣を置き、次で岡山縣に併す。

**ひづめまち 日詰町** 陸中國紫波郡北上川畔にあり、盛岡市の南方四里二十町、人口二千餘、町の北方古館は、古への志波城の址にして、城は延暦年間坂上田村麿、蝦夷に備へんが爲に築きたる處なりと。

**ひごよしまち 人吉町** 肥後國球磨郡球磨川畔にあり、人口四千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、種馬所等あり、相良氏二萬二千石の舊城下にして、城址今球磨河の南岸にあり、明治十年後、賊の本營を置かれたる地にして、官軍の將山田顯義、奇計を用ゐて之を破れる古戰場とす。

入り、福生村に至りて海に入る、流域十七里餘。

**ひのくに 火國** 西海道肥前肥後の古稱なり、「ひびん」を見よ。

**ひのくまがわ 檜隈川** 大和國にあり、源を高取山に發し、檜隈を経て眞弓に至り、眞弓川となりて敵傍山の四方を北流して、曾我川となり、磯城、北葛城兩郡境を北流して、廣瀬川に入る。

**ひのくまじんじや 日前神社** 官幣大社、紀伊國海草郡宮村字秋月にあり、日前大神を祀り、石凝姥命、思兼命を相殿に奉祀す、本社は國懸神社とならんで、古來有名なる神社にして、天武天皇朱鳥元年天皇病にかかり紀伊國懸神社に奉幣せること日本紀に見え、又持統天皇六年伊勢、大倭、住吉、紀伊大神に新都造營の報告せられたること同書に見ゆ、爾來歷代の尊信淺からざりしが、天正年間豊臣秀吉の怒に觸れ神宮亦兵禍に罹る、徳川賴宣入國の後之を再興して大に神威を發揚せり。

**ひなもりだけ 夷守嶽** 日向國四諸縣郡の南西方にあり、霧島山脈の一支部にして別に一嶽を爲す、同郡小林村大字細野より一里十八町にして山頂に達す。

**ひのかわ 篠川** 出雲國斐伊川の別稱、「ひのかわ」を見よ。

**ひの野川** 越前國南條郡の南隅より發し、北流して足羽川と合し、安居川となりて、坂井港に注ぐ。

**ひの野川** 伯耆國日野郡西南の山中より發し、數多の小流を合して、西伯郡に

**ひのま 日野町** 近江國蒲生郡日野川の上流にあり、人口六千餘人、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所あり、町内織物の産多く、町民は主に行商をなす、所謂日野商人之なり、此地は元蒲生秀賢の據りし處、天正十年本能寺の變に信長の夫人此地に逃る。

ひのみさき 日御崎 出雲國簸川郡の西北端にあり、岬  
邊岩礁多く波浪激悪なり、一に御前の鼻とも云ふ、附近に日  
御崎神社あり。紀伊國比井崎の舊稱。

ひのみさきじんじや 日御崎神社 出雲國簸川郡日御崎村  
にあり、國幣小社にして、素戔嗚尊を奉祀す、一に御崎神社  
とも云ふ。

ひのみね 日峰 阿波國名東郡徳島市の南方、小松島の北部  
にあり、山上の眺望極めて佳なり。

ひばらごーげ 檜原峠 岩代國耶麻郡より羽前國南置賜郡  
に出づる峠にして合津米澤兩方面交通の要衝たり、高さ千  
八百餘尺。

ひばりやま 日張山 大和國宇陀郡の南隅にあり、吉野郡  
に亘る、山中に青蓮寺あり、右大臣豊成の女中將姫の住みし  
處なりと云ひ傳ふ。

ひびきなだ 響灘 長門國豊浦郡の西方の海洋を云ふ、西南  
支界洋に連なり、南筑前國遠賀郡の陸岸に至り、北川尻御崎  
の邊に至る、東西約二十里、南北三十里、萬葉集に「昨日こそ  
舟出せしがいさなとり、比治奇の奈太をけふ見つるかも」。

ひぶりしま 日振島 伊豫國北宇和郡の西方海中にあり、周  
回五里三十三町、北宇和郡に屬す、天慶二年藤原純友此地に  
據りて遙に平將門に相應せると諸書に見ゆ、本島は古來

魚類多く殊に鱒の漁獲を以て名あり。

ひのみまち 氷見町 越中國氷見郡の東海岸、布勢湖と富山灣  
との間なる沙嘴にあり、富山市を距る九里、伏木港へ三里、  
人口一萬三千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁  
判所出張所あり、縫針、干鰯、鱒、鱈等を産す、此地古くより知  
られ源平盛衰記に「爰に氷見湊を渡らんとし給けるが折節  
潮潮て深き淺きを知らざりければ」云々とある之なり。

ひんご 備後國 山陽道八國の一にして、東備中に、西北安  
藝、石見、伯耆に接し、南は瀬戸内海を隔てて伊豫、讃岐に  
對す、地勢東西に短く、南北長く、國內山嶺重疊平地少なし、  
國を蘆品、神石、世羅、御調、深安、甲奴、雙三、沼隈、比波の九  
郡に別ち、廣島縣の管下となす、古くは備前、備中、美作と同  
國にして、吉備國と稱す、光仁天皇の寶龜中兩國に別ち、後  
又三國となし、「きびのみちのしり」と云へり、正平年間足  
利尊氏其庶子直冬を頼に置き中國探題として政務を掌らし  
む、同十七年山名時氏本國を略せしが明德年間子清叛し  
て誅せられ備中の守護細川滿之父子當國の守護を兼ね、嘉  
吉年間山名氏封を復し、天文年間大内氏に滅ぼさる、天文  
の末毛利氏安藝に起り當國及び其他附近の諸國を略す、關  
ヶ原の役後福島正則封せしが、罪あり國除かれ、淺野長晟  
代り當國の八郡を領し、水野勝成福山に治む、元禄年中水野

氏嗣絶え松平氏代はりしが、寛永年間桑名に徙り阿部氏代  
はり王政維新に至る、廢藩後福山縣を置き尋で深津縣と改  
め又之を廢して小田、廣島兩縣より分治せしが、明治九年悉  
く廣島縣の管下に屬せり。

ひんごなだ 備後灘 備後國の南海を云ふ。

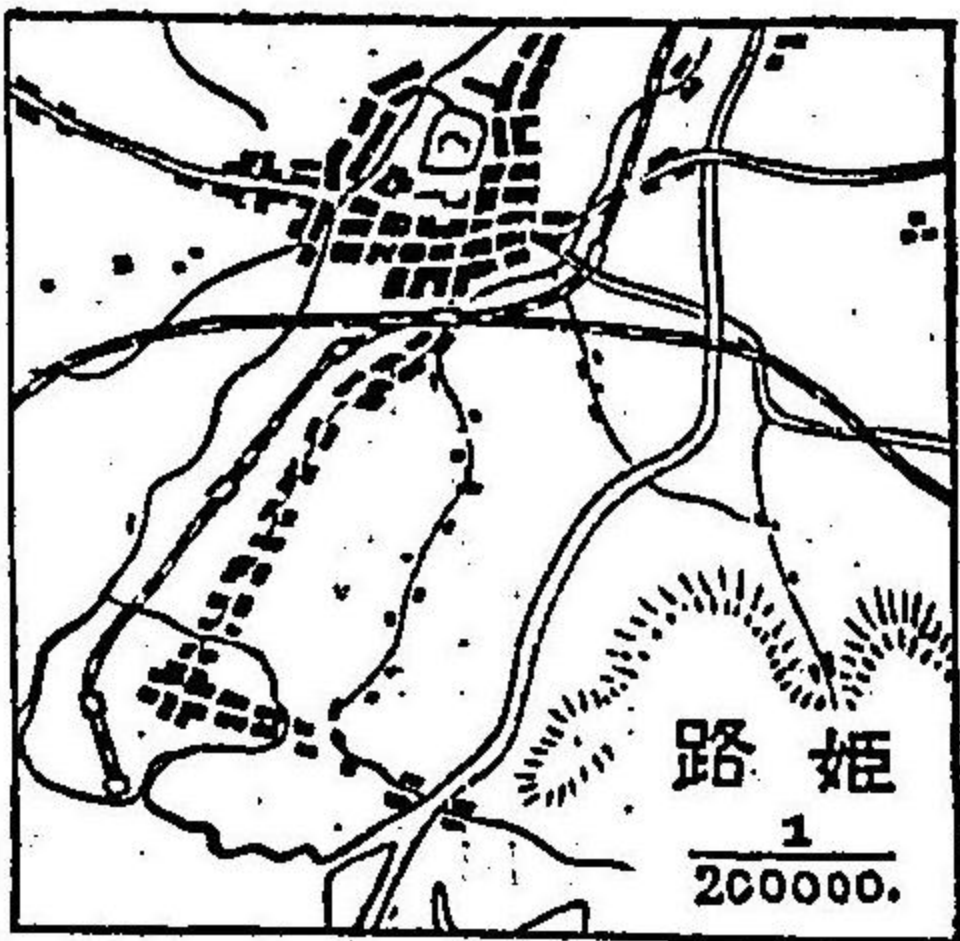
ひめがわ 姫川 越後國にあり、源を信濃國北安曇郡黒鼻嶽  
に發し、北流して越後に入り、二三の小流を合して、糸魚川  
町に至りて海に入る、流域十七里。

ひめがみだけ 姫神嶽 陸中國藤手郡、岩手山の東北にあ  
り、高さ三千三百餘尺、一に玉頭とも云ふ。

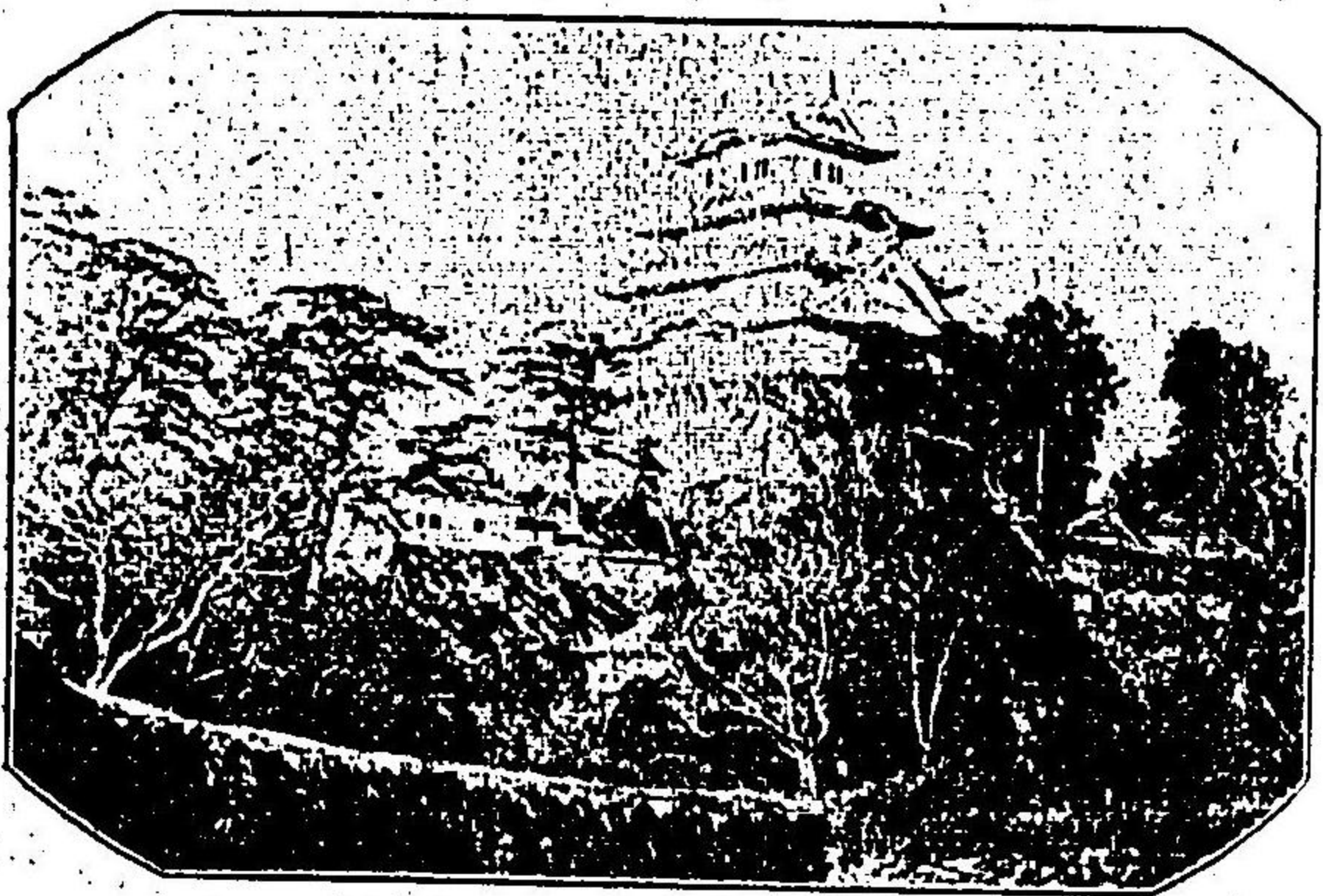
ひめしま 姫島 豐後國東半島の北方海中にあり、周回四  
里二十町中央に大嶽あり、北海郡郡に屬す。

ひめぢし 姫路市 播磨

國飾磨郡の東境にあり、  
酒井氏十五萬石の舊城下  
にして古くは姫山と稱  
す、山陽鐵道の要驛にし  
て、播但鐵道は此地より  
但馬に入る、兵庫を距る  
拾六里、岡山へ二十七  
里、人口三萬六千餘、郡役



所、警察署、郵  
便電信局、區  
裁判所、稅務  
署、小林區署、  
第十師團司令  
部、第八旅團  
司令部及之れ  
に屬する諸兵  
營、中學校、女  
學校、病院、銀  
行、諸會社等  
あり、晒木綿、  
姫路革等の産  
出を以て有名  
り、城址は市  
の中央にあ  
り、貞和中赤松貞範の築く處、慶長五年池田輝政此地九十萬  
石に封せらる、爾來、寛永、慶安、寛文、天和、寶永、寛和の交  
替を経て、寛延二年酒井忠恭十五萬石に封せられ、世襲して  
維新に及ぶ、城址は今第十師團の屯營地たり。



(城 路 姫)

ひんご 百萬遍 淨土宗四個本山の一にして、山城

國愛宕郡山中村にあり、寺を長徳山智恩寺と稱し、慈覺大師の草創たり、百萬遍の名は後醍醐天皇の賜はりたる處なりと云ふ、尙「ちおんじ」を見よ。

**ひーが日向國** 四海道十一國の一にして、北豊後に、西肥後、薩摩に境し、南大隅及有明灣に臨み、東一帯日向灘に面す、地勢東西に短かく、西北に長し、山嶽西南北三方に連亘し入跡を絶つが如き處多きも、東方一帯は稍平坦にして、灌溉の利あり、國を分つて、東臼杵、西臼杵、兒湯、宮崎、南那珂、北諸縣、東諸縣、西諸縣の八郡となし、宮崎縣に屬す、當國は我國に於て最も古き歴史を有する國にして天孫降臨の傳説より始め、神武天皇東征以前の行在所として有名なる所とす、爾來久しく熊襲の根據地となり王化に浴せざりしが、大化改新の際日向國を置かれ、次で薩摩の國名現はれ、大寶年間大隅國を置く、鎌倉幕府の初、土持氏當國に封ぜられ、戰國の際島津伊東の兩家相争ひしが天正年間島津氏の勢漸く強く、殆んど九州全土を征服せんとするに至り遂に豊臣氏の西征を見るに至れり、かくして島津氏の軍敗れ其領土大に減少せられる、關ヶ原の役後島津氏薩摩大隅の兩國及び日向の佐土原を領して支藩を置き、高鍋、飯肥、延岡の三藩とともに全國を分領せり、維新後都城、美々津の兩縣を置きしが後廢して新に宮崎縣を置く。

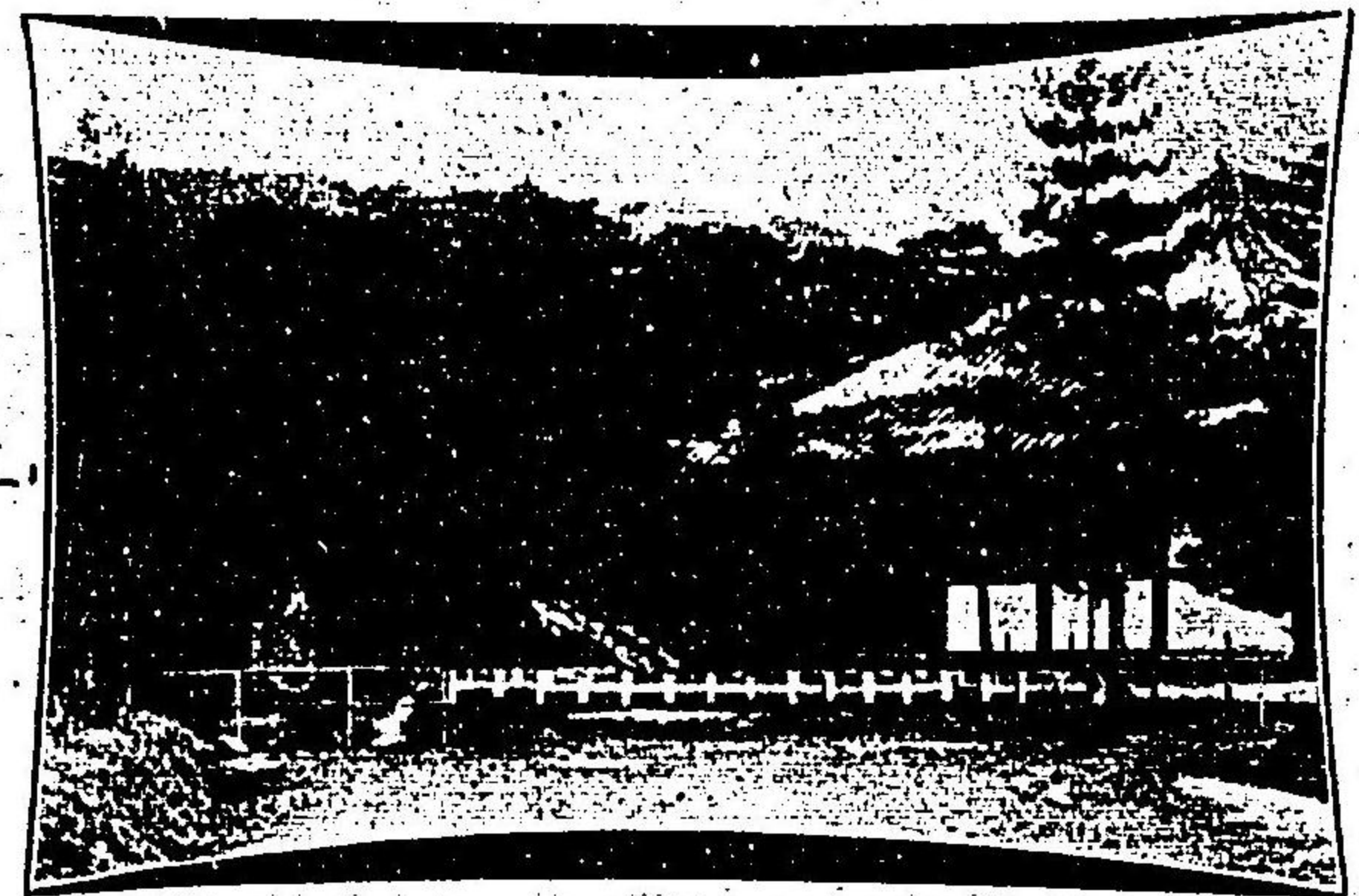
寺とせるなり、佛殿は有名なる鳳凰堂とす、同寺境内に扇の芝と稱する所あり、傳へて源賴政の戰死の所と云ふ。

**ひよりのこえ 鶴越** 攝津國武庫郡の西方、鐵拐ヶ峯北面の中腹より南向して、一の谷に出づる間道を云ふ、元暦元年源義經此地を越えて、一の谷城の後而を衝きしは史上著名の事たり、或は鶴越は兵庫の西北にある山にして一の谷とは何等の關係なく義經は此鶴越を越えて當時の都福原に切り入れるなりと憶面もなく斷定せらるる人あるも果して然るや否や詳かならず、識者の攻究を待つ、因に云ふ今世に稱する鶴越は兵庫福原より播磨國美濃郡へ通する山路なり。

**ひよぶがうら 屏風浦** 讃岐國中多度郡多度津の西海岸つづきにして青松白砂の間に枝を交へ風景甚だ佳なり、此地に海岸寺あり、弘法大師誕生の地と傳へられ境内に産湯の泉、湯手掛の松など稱するものあり。

ひよぶ

美濃國土岐郡餘戸村大字釜戸の南



(芝扇内院等平)

方に聳ゆる高山にして一に釜戸山と稱す、峯巒數派に分れ恰も屏風を樹てたるが如し、故に此名ありと、秋時紅葉の際眺望大佳、夫木集に「みのの國かまごの山に日暮れば烟たえせぬ歎きをぞする」。

**ひよりのこえ 日和山** ●志摩國の東北隅島羽町にある小丘なり、山上の眺望大佳なるを以て有名なり。●陸前國牡鹿郡石の巻町字淡にあり、葛西清重の城址にして山上に鹿島神社あり式内神社に屬し、古來有名なるものとす、山は石巻灣に臨み、左に白砂青松の濱を控え、右に茫々たる太平洋を望み、海色山光明媚にして東海一の壯觀と稱せらる。●羽後國飽海郡酒田港の西南にあり、一帯の丘阜にして、南は最上川の河口に臨み、北遙かに島海山に對し風光明媚を以て知らる。●越後國新潟市の北端にあり、高さ五六十尺許の小丘にして、もと船見臺を設けたる所なり、丘上の眺望極めて快裕にして、風光亦頗る佳なり。

ひよ

BOH

**ひーがなだ 日向灘** 日向國東方の海を云ふ。

**ひよこけん 兵庫縣** 縣廳は神戸市にあり、播磨、但馬、淡路一圓及攝津の内神戸市、武庫、川邊、有馬の三郡、丹波の内氷上、多紀の二郡を管す、面積五百五十六方里六八、二市二十五郡二十九町四百二村より成る。

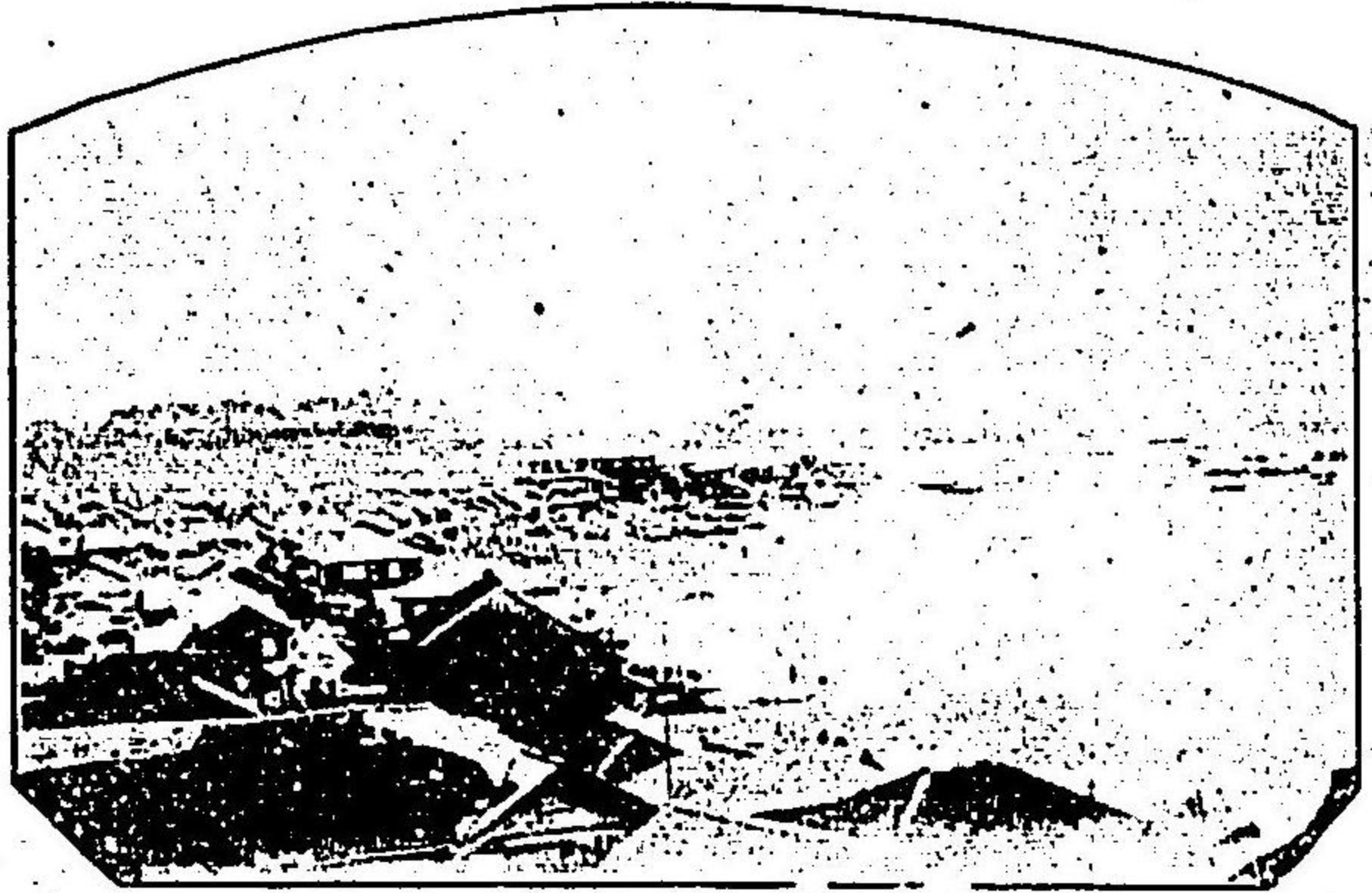
**ひよしまち 兵庫町** 攝津國神戸市の一部にして、湊川以西の町を云ふ、此地古くは務古の水門、又和田の泊と稱し、早くより史上に著はる、平清盛別墅を福原に營み、次で造都の計畫をなすに及びて大に修築を加ふ、其後元弘三年には補正成軍駕を此地に迎へ、延元元年には、新田義貞此地に陣し、慶應元年には外國船渡來して通商を乞ひ、同三年には此地を外國互市場となして神戸を開港す、爾來神戸の日に月に盛なるに及び、此地の繁昌は全く神戸に移り、明治十二年遂に神戸市に合併せらる、尙神戸市の條參照。

**ひよたんやま 瓢箪山** 河内國北河内郡六萬寺の北方讚良にあり、山に紹荷神社あり、山は瓢箪の古墳なり、此社にて辻占をなす、瓢箪山辻占とて全國に有名なり。

**ひよとーいん 平等院** 山城國宇治郡宇治にあり、永承七年、關白賴通の建立なり、元河原左大臣の別荘たりしが、後ち陽成院の行宮となり、宇多醍醐二帝の離宮たりし處にして關白道長請ふて山莊となし子賴通に傳へ、賴通修理して

ひらいそまち

平磯町 常陸國水戸市の東方四里、那珂郡の東端にあり、水戸より汽船日々往來す、此地漁業の盛地にして、春期四ヶ月間の漁利十萬圓に達すと云ふ、人口九千餘、夏期は海水浴場ありて、殊に繁昌す、東に觀瀾所あり、眺望絶佳を以て知らる、觀瀾所とは水戸烈公の自から命名せられしものなりと。



(平磯の海岸)

ひらいつみ 平泉 陸中國磐井郡一の關町の北方二里にあり、上野青森間の鐵道通過す、此地は元藤原清衡以下四世居館の故地にして、其遺址即平泉館址は停車場前敷町にあり、

し。

ひらだてかききー 平館海峡 陸奥國陸奥灣口、即ち斗南

半島九艘泊角と津輕半島平館との間の海を云ふ。

ひらつかまち 平塚町 相模國中郡

馬入川畔にあり、南相模灘に臨む、東海道鐵道此地を通ず、人口四千餘、町の西方、花水川に花水橋あり、橋上富士の遠望を以て鳴る、海濱松林の中宮家、紳士の別墅多し。

ひらさかききー 平戸海峡 肥前

國北松浦郡の西海岸と平戸島との間を云ふ、北口六町、南口五町、此間海潮尤も急なり、一に平戸の瀬戸とも云ふ。

(平 海 町 島 岸)

ひらとじま 平戸島 肥前國西北方

の海中にある大島にして、東西二里十二町、南北七里三十町、周囲四十三里二十町あり、松浦氏の舊藩地にして、今は北松浦郡に屬し、平戸、田助、紐差等の名邑あり。

ひらとまち 平戸町 肥前國西北方の海中、平戸島の東北

ひらた

柳館といふ、嘉保元年藤原清衡の築く所とす、有名なる中尊寺は同村字中尊寺にあり、寺中の金色堂は清衡以下三代の遺骸を収むる所にして、當時榮華を極めし跡今猶見るを得べし、高館は同村高館にあり、一に衣川館と稱し、源義經の居館の址にして、又其自刃の所とす。

ひらおかしんじや 枚岡神社 官幣大社、河内國中河内郡

枚岡村にあり、天兒屋根命、建雷神、齋主神、比賣神を祀る、神武天皇御宇天種子命の建立し給ふ處なり、一に本春日と稱す、蓋し春日神社の祭神たる天兒屋根命の此地より遷座せられたりとの傳説より言ひ傳へるならんか。

ひらかたまち 枚方町 河内國北河内郡淀川畔にあり、人

口三千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署等あり、此地當地物産の集散地にして、又淀川航行の要津たり、○平瀨村 常陸國多賀郡の東北隅にあり、水戸市の北方十八里、陸前濱街道の要衝にして、且沿岸唯一の港灣なるを以て船舶の往來常に多し、人口二千餘、警察分署、郵便電信局あり、此地平瀨灣に臨めるを以て、夏期海水浴場の設けあり、浴客多し。

ひらかたわん 平瀨灣 常陸國多賀郡の東北隅、平瀨の内

灣を云ふ、東西二町二十五間、南北三町二十四間、水深一仞二尺、灣口中央の水深五仞二尺、船舶の碇繫便にして出入多

端にあり、松浦氏六萬石の舊城下にして、人口三千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署等あり、

平戸港は元龜二年南蠻との貿易場に定められたる處にして、東西四町南北一町三十間、水深三仞當國中長崎に次げる良港たり。

ひらとりむら 平取村 日高國沙流

郡沙流川附近にあり、アイヌ人の都とも云ふべき地にして、其居住者多し。

ひらのしんじや 平野神社 官幣大

社、二十二社の一にして、山城國葛野郡にあり、北野神社を距る西北二町許、今木神、久度神、古開神、比賣神を奉祀す、境内櫻花多く花時遊覽の客多し。

ひらさん 比良山 近江國滋賀郡琵琶

湖の西岸にあり、最頂を蓬萊山と稱し、直立二千八百餘尺、土人小松山と稱す、山頂樹木なく、觀望に適す、近江八景の一に數へらる。

ひらがこじま 蛭小島 伊豆國田方郡韭山の西方にあり、昔

ひらが

は狩野川の小島なりしが、水路移るに及んで今田畝と變ぜり、源頼朝流瀆せられたる地として有名なり。

ひるせん蛭山

中國山脈に屬し、出雲國の東南隅にあり、伯耆、美作の兩國に亘る、高さ約四千尺、一に三國山とも稱す。



(社 神 野 平)

ひれふるやま 領巾振山

(鱒振山、領巾屋山) 肥前國東松浦郡唐津町の東方にあり、松浦湯に臨める孤山にして、昔時大伴狹手彦、渡韓の時、其妻佐用姫離別を悲しみて、此山に上り領巾を打振りて其船を見送りしことあるより此名あり。

ひろさわのいけ 廣澤池

山城國葛野郡大秦の西北にあり、東西二町、南北一町餘、もと寛朝僧正の開きたる池にして、古來觀月の名所たり、對岸に遍照寺山あり、名跡多し。

ひろしまけん 廣島縣

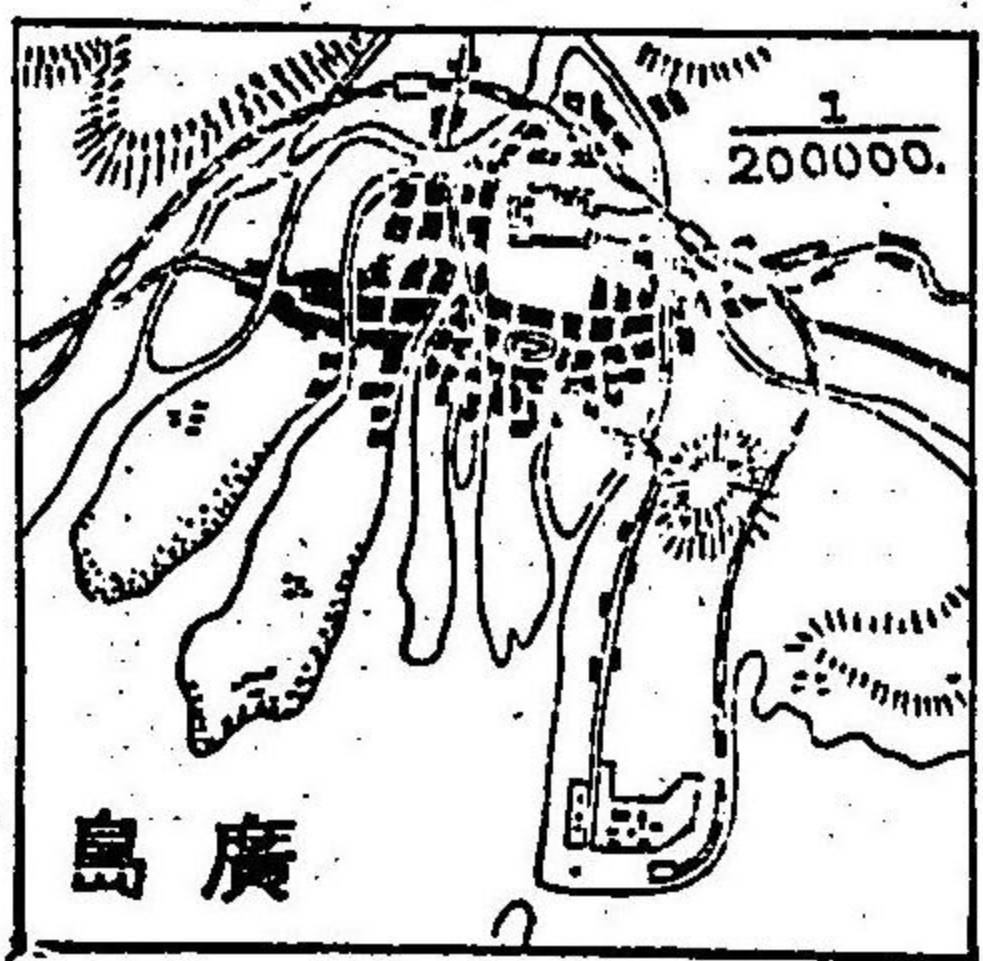
縣廳は廣島市にあり、安藝、備後一圓を管す、面積五百二十方里七八、二市十六郡二十六町四百二十三村より成る。

ひろしまこーえん 廣島公園

廣島市の北端大須賀村二葉山にあり、明治七年の開園にして、地は神田川の北岸に當り、常盤橋を渡りて之に入る、園内饒津神社、鶴羽根神社あり、山上の眺望殊によろし。

ひろしまし 廣島市

廣島縣廳の所在地にして、東京を距る二百三十一里、安藝國安藝郡の西部、大田川の下流にあり、山陽鐵道は此地を経て馬關に向ふ、又宇品支線は此地より發して宇品に至る、此地は淺野氏四十二萬六千石の舊城下にして、古くは五箇庄又已斐と稱す、天正十七年毛利輝元此に築きて今名に改む、一に廣陵又は藝府と



り、一に松浦山とも云ふ。

ひろせきし 弘前市

陸奥國中津津郡にあり、岩木川に臨む、青森市を去ること十里二十九町、もと津輕氏累代の城下にして、一に津輕とも稱す、官設鐵道秋田より來りて青森に至る、人口三萬六千餘、區裁判所、警察署、郵便電信局、稅務



(島 小 ケ 蛭)

署、小林區署、第八師團第四旅團司令部、中學校、女學校、銀行、諸會社等あり、津輕織、津輕殼塗の産出を以て名あり、城址は市の中央丘上にあり、今は陸軍省の所管にして第八師團司令部あり、城は慶長年間津輕信牧の築く所にして爾來累世の居城たり。

稱す、中國第一の大都會にして、宇品港を距る約一里、海陸運輸交通の便多し、入口十二萬一千餘、縣廳、控訴院、地方、區裁判所、市役所、警察署、郵便電信局、測候所、稅務管理局、稅務署、大小林區署、第五師團司令部、第九旅團司令部、歩兵第十一聯隊、砲兵第五聯隊、騎兵第五聯隊、工兵、輜重兵第五大隊及び高等師範、師範學校、中學校、女學校、幼年學校、職業學校、農業試驗所あり、蚊帳、山繭紬、縫針、鐘錶、建具類、傘、牡蠣等を産す、城址は市の西北部にあり、天正十七年毛利輝元の築く處、慶長五年福島正則五十萬石に封ぜられ、元和五年淺野長晟四十二萬六千石を以て之に代る、爾來世襲して維新に及ぶ、維新後廢城となり、今は陸軍衛戍地たり、附近には元龜天正年間の古戰場多し、近くは慶應元年征長の役徳川茂徳牙營を設け、明治二十七八年の役には、大本營を設けらる、城東に泉邸あり、舊藩主淺野氏の築く所にして泉石花木の幽勝を以て知らる。

ひろしまわん 廣島灣

安藝國の南海を云ふ、東方に安藝郡の一部斗出し、南方には江田島、西方には嚴島ありて灣口をなす、灣内、吳、宇品及び二三の小港あり、此邊牡蠣の産多し。

ひろせがわ 廣瀬川

大和國にあり、源を南葛城郡の山間に發し、屈曲北流して、二三の小流を合し、北葛城郡に入り

て初瀬川に會す、一に葛城川とも云ふ。

**ひろせじんじや 廣瀬神社** 官幣大社、二十二社の一にして、大和國廣瀬郡河合村にあり、若宇迦賣神を祀る、天武天皇白鳳四年の創建と云ふ、毎年四月四日大祭を行ひ勅使の参向あり。

**ひろたじんじや 廣田神社** 官幣大社、二十二社の一にして、攝津國武庫郡大社村にあり、四宮停車場を距る約十五町、天照大神の荒御魂を祀り、住吉、八幡、諏訪、八祖神等を配祀す、神功皇后攝政元年の創建と云ふ、二月、三月、十一月例祭を行ふ。

**ひろのむら 廣野村** 磐城國雙葉郡にあり、水戸岩沼間の鐵道通過す、北方に楢葉八幡あり、源頼義の勸請せし處なりと、社内に代官島田帶刀の碑あり。

**びわこ 琵琶湖** 日本第一の大湖にして、近江國の中央にあり、甲賀郡外十一郡に亘る、東西五里南北十五里、周囲七十三里三十一町、國中の水流悉く此に注ぎ、其水流れて瀬田川となる、湖中竹生島、奥島、沖島、多氣島等散在し、沿岸良港多く源五郎鮒の産あり、古くは淡海、又鳩の海、鹽不成海と云ふ、其形琵琶に似たるより琵琶湖の名ありと。

**びわさかざりげ 琵琶坂峠** 美濃國土岐郡餘戸村字大久手にあり、中仙道の舊驛大湫、細久手以東にある十三峠中の一

ふ

**ふえふきがわ 笛吹川** 甲斐國にあり、源を東山梨郡國司ヶ嶽に發し、諸流を合して南方に流れ、東八代郡境に沿ひて西南に流れ、西八代郡市川に至りて、芦川、釜無川と合し、富士川となりて、駿河に入り、南流して駿河灣に注ぐ、「ふじかわ」を見よ。

**ふちるもみ Forouma** 臺灣島の洋名にして、美麗の義なりと、「だいわん」を見よ。

**ふかがわこーえん 深川公園** 東京市深川區の南方にあり、元宮岡八幡社の境内なりしを、明治六年公園地となす、地域一萬九千三百餘坪、園内八幡宮及深川不動あり。

**ふかこののぞき 深草里** 山城國紀伊郡伏見町の北方にあり、伏見街道の邊より、稻荷神社の南方黒染の近傍に至る迄の總稱なり、今は深草村と稱す、古くよりの名所にして、和歌などに數多よまれたり、新古今集に「深草のさとの月かげさびしさも、住みにしままの野邊のあき風」及後鳥羽院御集の「深草やあかつきさむく吹く風に、いと身にしむきりきりすかな」など尤も名あり、深草村字谷口に仁明天皇深草御陵あり。

坂路にして峻峻を以て知らる、近時中街道開け又官鐵中央線成り、今や殆んど廢道に歸せり。

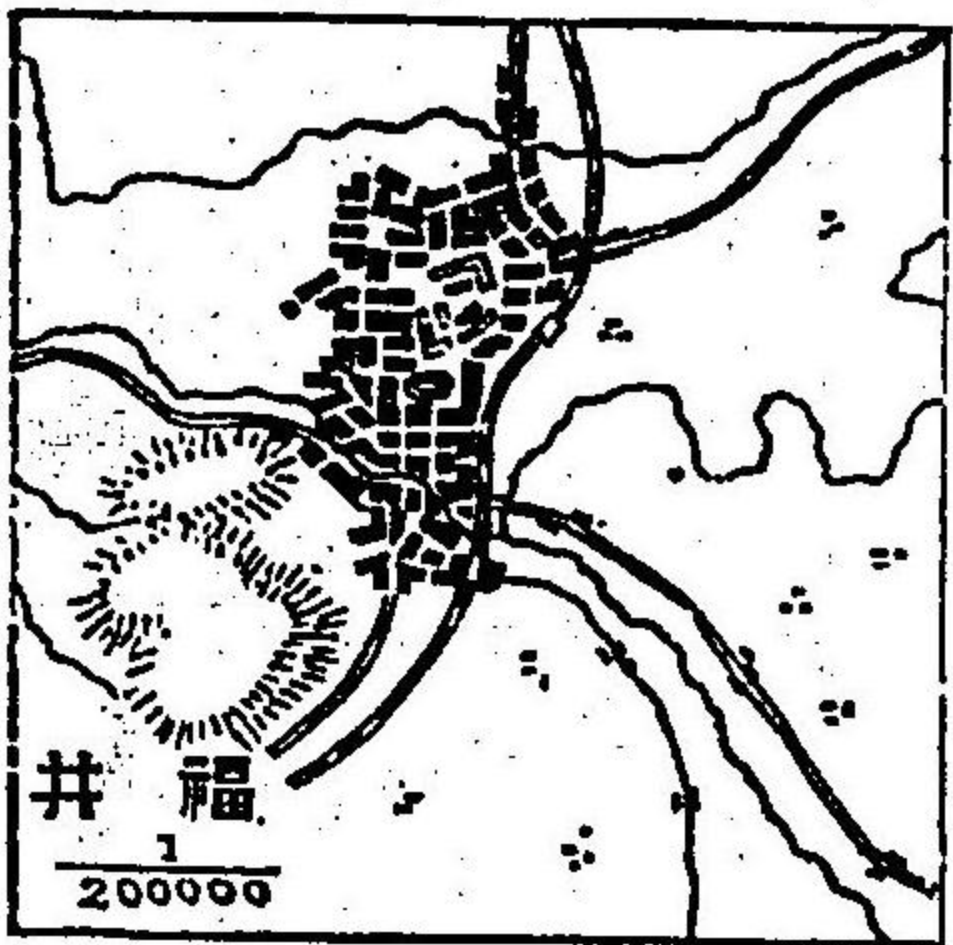
**ひわさむら 日和佐村** 阿波國海部郡の東海岸にあり、當國南部の名邑にして、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所等あり、此附近太平洋に面して、漁業の利頗る多し。

**ふきわけぎえん 吹上御苑** 宮城の御苑にして、宮城の西背より半藏門内に至る、舊名を局澤と稱す、苑内山丘、原野、池泉、樹林あり、尤も美なるは、吹上の瀑、瀧見茶屋、紅葉山、釣橋等にして、其間山村野徑、花園菜園相交り、其美觀名狀すべからざるものありと。

**ふさかく 富貴角** 臺灣の最北端に突出せる岬角にして、小鷄角と相對す、岬頭燈臺あり、明治三十年の築造にして高さ十丈、燈光十九裡に達す。

**ふくいけん 福井縣** 縣廳は福井市にあり、越前、若狹の一圓、一市十一郡九町百七十一村を管す、面積二百七十二方里四〇。

**ふくいし 福井市** 福井縣廳の所在地にして、東京を距ること百三十七里、越前國足羽郡の西隅にあり、吉田郡に亘る、足羽川市内を貫流し、足羽山市の南隅に發つ、北陸鐵道は此地を経て加賀に入る、松平氏三十二萬石の舊城下にして、人口五萬餘、縣廳及地方、區裁判所、警察





署、郵便電信局、測候所、稅務署、小林區署、師範學校、中學校、女學校、農業學校等あり、羽二重、相手市、生糸、漆、油桐等の産出を以て名あり、殊に羽二重は本市を中心として、四隣より産出し、毎年の産額七八百萬圓に及び、相手市又四百萬圓を下らずと云ふ、此地は元柴田勝家の居城地にして、北の庄と云ひしが、慶長六年徳川秀康此に築きて今名に改め、七十五萬石を領せしが、後事ありて削封せられ三十二萬石となる、子孫世襲して王政維新に至る、廢藩後廢城となり、今廢藩遺蹟の遺址を存す。

**ふくえじま 福江島** 松浦五島の一にして、久賀島の西南十八町にあり、周回六十里十三町、松浦氏の舊藩地たり、島内、富江、福江の名邑あり。

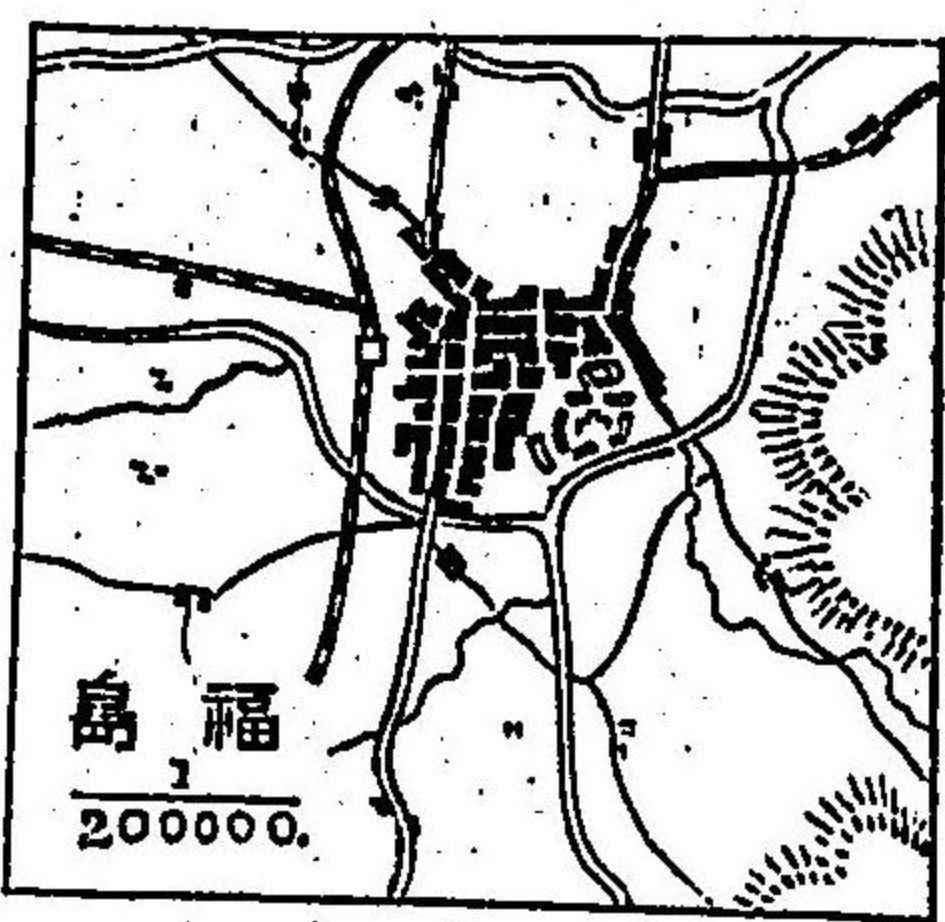
**ふくえむら 福江村** 肥前國五島列島中福江島の東海岸にあり、長崎市を距る二十四里、人口九千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、中學校、小林區署、稅務署等あり、漁業を以て名あり、福江城址は一に五島城址と稱す、五島氏の祖盛定の築く所、慶長年間火災にかり焼失せしが、嘉永年間之を再興せり、維新後廢城となる。

**ふくおかけん 福岡縣** 縣廳は福岡市にあり、筑前、筑後一圓及豊前の内、門司市、小倉市、京都、築上、企救、田川の二市三郡を管す、面積三百七十七方里、四市十九郡三十三町、三百

口約二千、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、中學校等あり、此地もと宮城野と稱し安倍貞任の族白鳥高任の居館地たりしが、天正年間九戸政實此に據り、豊臣氏に叛き、蒲生、淺野、井伊、堀尾等の諸將と戦ひ敗死す、城址今詳かならず。

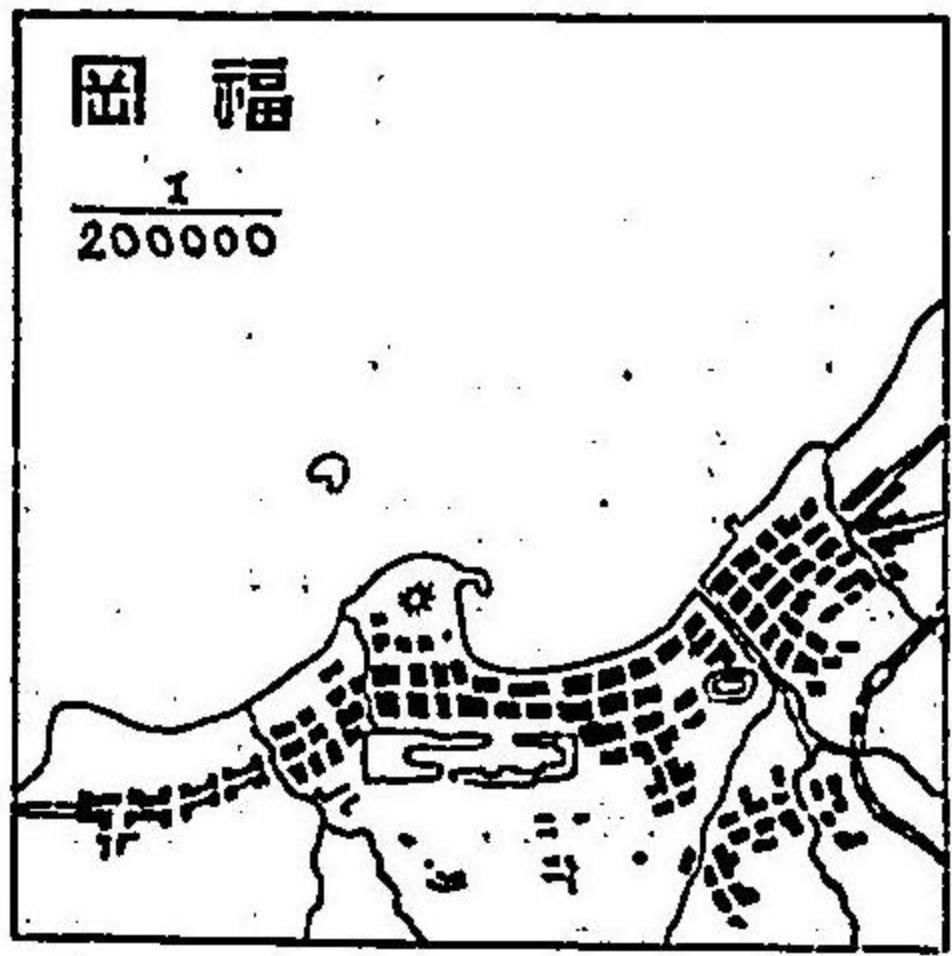
**ふくおかわん 福岡灣** 博多灣の別稱。  
**ふくしまけん 福島縣** 縣廳は福島町にあり、岩代一圓及磐城の内東白川、四白川、石城、石川、田村、雙葉、相馬の七郡を管す、面積八百四十六方里〇七、一市十七郡三十町三百九十九村より成る。

**ふくしまち 福島町** 岩代國信夫郡信夫山麓にあり、阿武隈川に臨む、東京を距る七十一里、上野青森間の鐵道通過す、又官鐵奥羽線は此地より分れて羽前に入る、もと板倉氏



三萬石の舊城下にして、今福島縣廳の所在地たり、人口二萬七千餘、警察署、地方裁判所、區裁判所、郵便電信局、稅務署、大小林區署、聯隊司令部、師範學校、中學校、高等女學校等あり、製糸、蠶卵紙及羽二重の産多し。○筑後國八女郡にあ

五十村より成る。  
**ふくおかし 福岡市** 福岡縣廳所在地にして、東京を去る三百三里、筑前國博多灣頭にあり、九州鐵道此地を通過す、那珂川其中央を流れ、東を博多とし、西を福岡となす、市制實施後合併して福岡となす、黒田氏五十五萬石の舊城下にして、縣廳、地方區裁判所、警察署、郵便電信局、測候所、稅務署、稅關支署、大小林區署、鐵山監督署、土木監督署、歩兵第二十



四聯隊、福岡醫科大學、師範學校、中學校、女學校、工業學校、商業學校、病院等あり、福岡城址は市の西南にあり、慶長年間黒田氏の築く所、もと福岡と稱し博多警固所の古城を改め築城せるものにして、四方圍らずに城濠を以てし、海潮を通ず、維新後廢城となり、今陸軍省所管に屬し、歩兵第二十

**ふくおがまち 福岡町** 陸奥國二戸郡にあり、奥州街道の要驛にして、馬淵川の東岸に位し、川を隔てて石切村に停車場あり、南一戸町へ二里十三町、北金田市驛へ一里五町、人

り、久留米市の南方三里三十町、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務所、小林區署等あり、此地に筑紫廣門の築ける城址あり、關ヶ原役に筑紫氏西軍に與みし、戰後國除かれ後廢墟となる。○信濃國四筑摩郡木曾川畔にあり、中山道の一驛にして、人口四千餘、郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局、稅務署及び舊關所址、木曾義仲陣等あり。

**ふくおがわ 福知川** 丹波國にあり、源を北桑田郡の山中に發し、西南流して棚野川を合せ、高屋川を結び、福知山町に至りて土師川を合せ、丹後國に入りて、北流由良港に注ぐ。

**ふくちやままち 福知山町** 丹波國天田郡福知川の東岸にあり、人口五千餘、京都を距る廿一里、阪鶴鐵道の一驛たり、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、第二十旅團司令部、歩兵第二十聯隊、工兵第十六大隊の營所あり、此地は朽木氏三萬二千石の舊城下にして、俗に丹波の京と稱し、山陰の要鎮たり、城は天正十二年羽柴秀勝の築く

所、秀勝の歿後小野木氏の有となり、次で有馬、岡部、稻葉、松平の諸氏を経て、寛文九年朽木植昌の領邑となり、子孫世襲して維新に及ぶ。

**ふくやままち 福山町** 備後國深安郡芦田川の東岸にあり、阿部氏十一萬石の舊城下にして、山陽鐵道通過す、人口

一萬六千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、中學校、女學校等あり、生糸、素麴等の産出を以て名あり、城址は町の西部にあり、元和五年水野勝成の築く所、後ち松平氏の有に歸し、寶永七年桑名に移るに及び、阿部正邦封ぜられ、世襲して維新に及び、渡島國松前郡の南端にあり、松前氏三萬石の舊城下にして、古くは松前と稱す、人口六千餘、松前支廳及警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署等あり、同地七面山上に舊城址あり、慶長五年松前慶廣の經營する處、當時之を陣屋と稱し、後築きて城となす、爾來子孫世襲して王政維新に至る。



(袋の田の湯)

ふくらま 福良町 淡路

國三原郡の四海岸にあり、人口六千餘、警察分署、郵便電信局、要塞砲兵隊あり、福良港は其前面にあり、東四十二町、南北十二町、港灣深く灣入し船舶の好碇繫地たり、阿波の播磨港を距る四湊半、近海眞珠貝の産多し。

ふくらたのたき 袋田瀧 常陸國久慈郡袋田村月折山中に

あり、一に四度瀧と云ふ、高さ十四丈、幅四間、飛泉岩頭に激して飛沫四散、風光頗る雄大、四時の眺望佳なるも、秋時紅葉の候尤も佳なりと、四行法師嘗て此地に遊び、また和歌などに多く詠まれしが、徳川光圀一たび之を探りてより其名益々世に著はる。

三百餘尺。

ふじかわ 富士川

日本三急流の一、上流を河鹿川と稱す、甲斐の笛吹川、釜無川、蘆川三川の合流にして、身延山の東麓を過ぎ、東南に轉じ駿河に入り、富士郡の芝川を容れ、蒲原町の東に至り海に入る、流域三十一里、水流激甚、甲斐の

ふくらま 武甲山

關東山系に屬す、武藏國秩父郡の東南方にあり、高さ四千

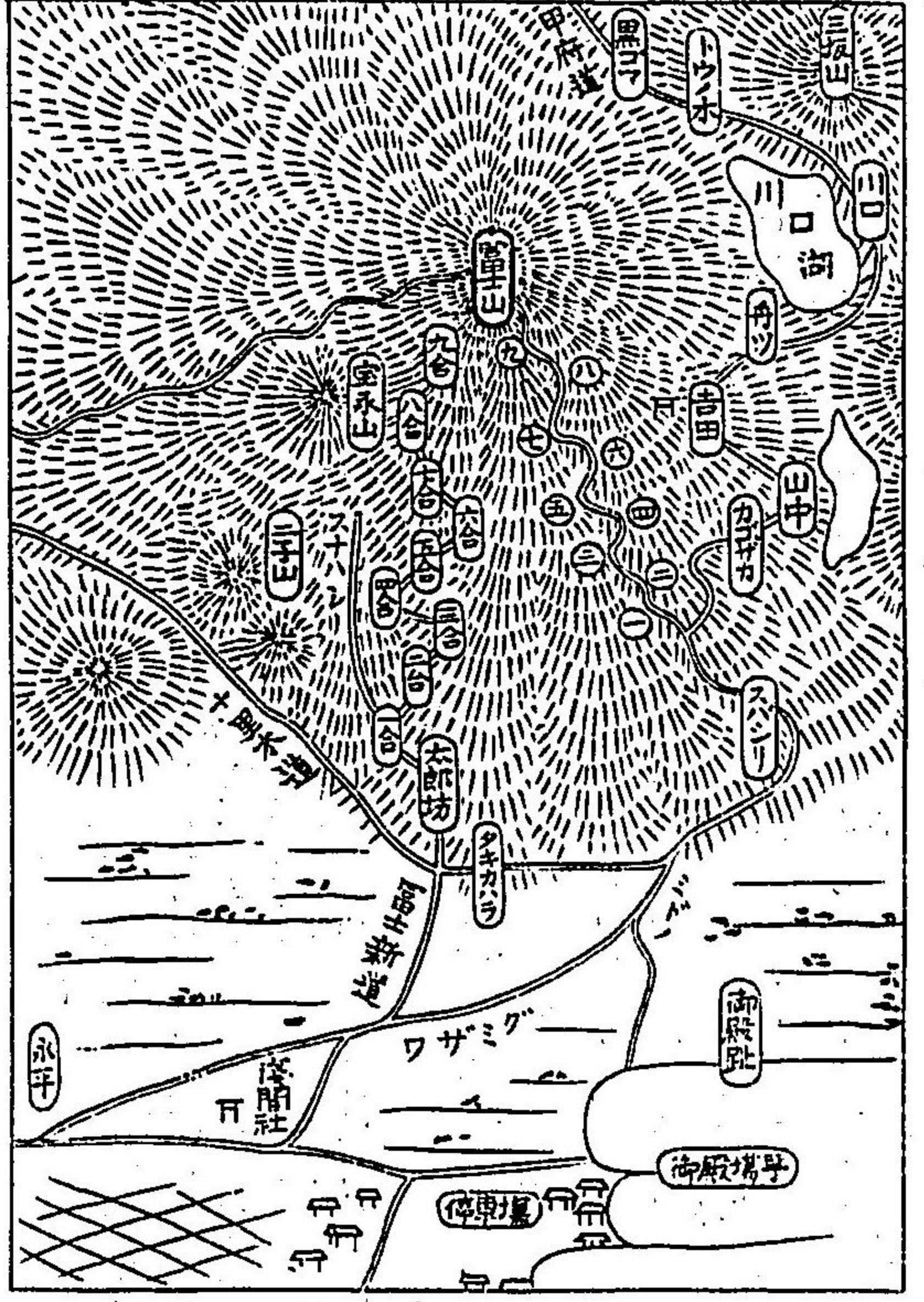
ふくらま せき 福原舊蹟

攝津國武庫郡神戸市の西方にあり、此地もと福原の莊と稱し、平清盛別莊を置き、次で安徳天皇福原内裏を經營せられたるの故地にして、四方須磨に連る、今此地に遊廓あり。

歟津より駿河の岩淵に至る十八里、僅、五六時間にして達し得べく、舟航危險なるが如きも、舟子操縦自在にして巧みに岩角を避け、兩岸の奇勝を愛賞し得べし、慶長年間徳川家康に遡る航路を開き、世人今猶ほ其利益を被むると云ふ、治承年間平軍此川を狭んで源軍に對し、一夜水禽の音に駭き、遁逃せし所として有名なり。

ふしきまち 伏木町

越中國射水郡射水川の河口にあり、富山市の西方六里、三町に位す、人口七千餘、警察署、郵便電信局、港務部、稅關支局あり、特別輸出港たる伏木港あり、且北陸鐵道の伏木支線高岡より分岐し來るを以て、海陸運輸の便多く、市街日に繁榮に赴く。



(富士山)

ふじくさんみやく 富士火山脈

日本三大火山脈の一にして、越中國射水郡射水河口にあり、東西二十町四十間、南北十町餘、水深五尺乃至二尺、新潟港を去る四方百二十一里、北海岸に於ける一要港にして、船舶の往來頗る頻繁なり。

ふじさん 富士山

甲斐、駿河二國境に屹立する本州第一の高山にして、高さ一萬二千四百餘尺、頂上に舊噴火坑あり、

り、八ヶ嶽、妙高山、燒山、高妻山に至る。

次で愛鷹山、富士山等となり、尤も高峻を極め、本州の中部を横斷して北陸に入

内院と云ふ、坑の周圍に入峯あり、劔ヶ峯、最も高く、山頂の平地を抜くこと四百尺、山頂常に雪を頂き、眺望太佳、山姿秀麗、古來本邦第一の名山と稱せられ、夏時登山者頗る多し、其登山は古來四ヶ所あり、大宮口、御殿場口、須走口、吉田口是なり、大宮口は駿河の鈴川驛より下車し、大宮より登るものにして、御殿場口、須走口は御殿町驛より、吉田口は甲斐方面より登るものとす、右の中吉田より登山するもの多きも御殿場より登るは最も便にして、登山の設備よく整ひ、馬返送約一里八町馬背の便あり。

**ふじさんのいみ** 富士山異名 富士は本邦唯一の靈峰にして、昔より歌にもよみ、詩にも作り、其異名数多あり、即ち下の如し、常磐山、鳴澤高嶺、二十山、三重山、新山、見出山、塵山、三上山、神路山、羽衣山、乙女山、東山、竹取山、鳥子山、芙蓉峯、吹風穴山、國深山、八葉嶽、和合山、御影山、影向山、仙人山、七寶山、四面山、養老山、妙高山、高師山、戀の中山、時不知山、四季鳴山。

因に同山に關する詩歌の主なるもの二三を紹介せん、最も人口に膾々たるは石川丈山の詩にして「千客來遊雲外嶺、神龍栖老洞中淵、露如執素烟如柄、白扇倒懸東海天」、次に林羅山の「一山高出衆峯巔、炎裡雪冰雲上烟、太古若問仁者樂、遂萊何必覓神仙」、國歌にては山部赤人の「田子浦ゆ打出でて見ればましろにぞ、ふじのたかねに雪はふりける」、面白きは琉球の讀谷山王の「人とはばいかがかたらん言の葉も、

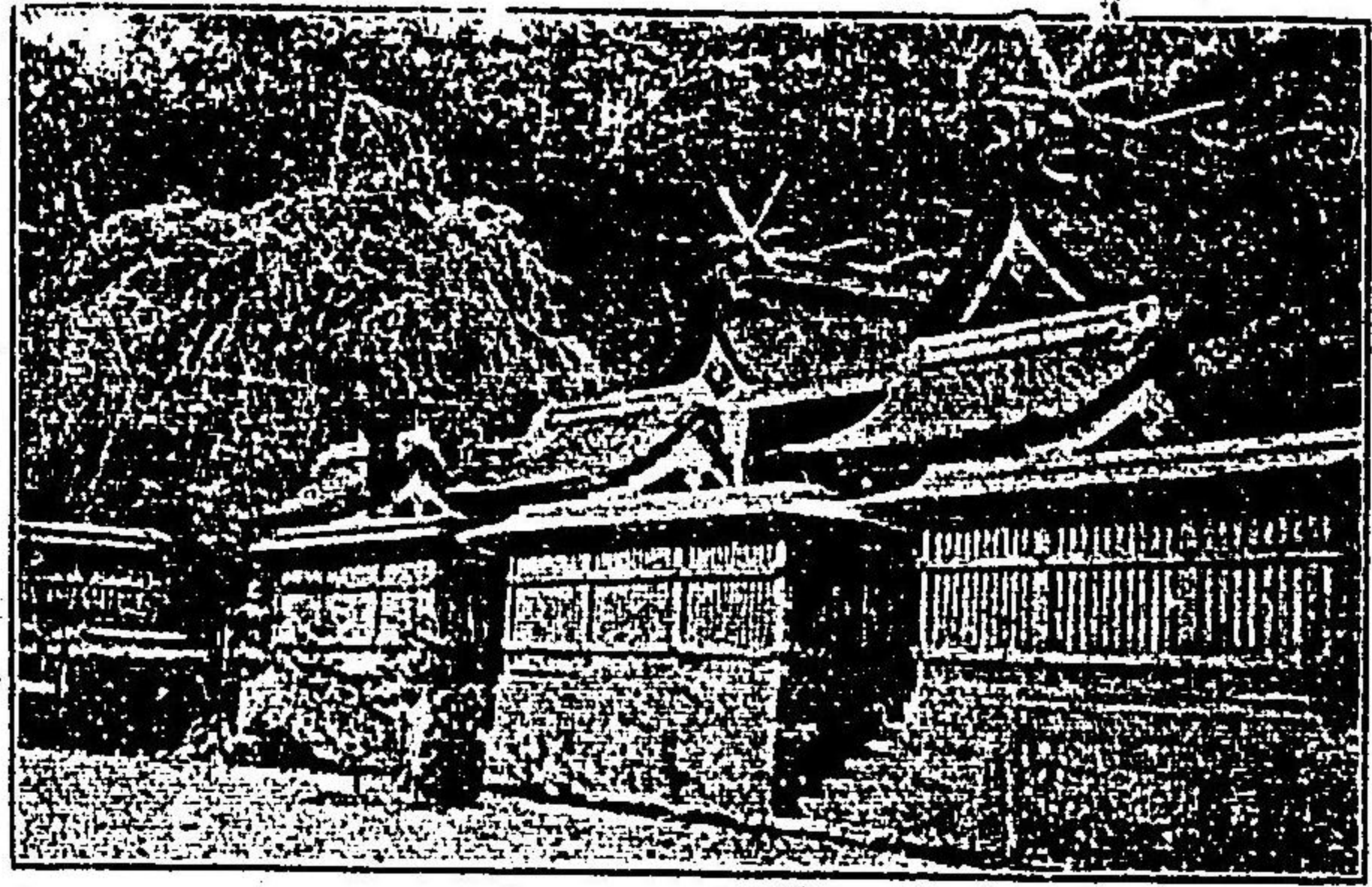
山にあり、文祿年間豐臣秀吉の築く所、秀吉薨後徳川家康之に居り權に國事を見しが、石田三成の亂に大破す、關ヶ原役後家康之を修理し、子秀康を置きて、近畿の鎮たらしめしが、元和年間之を廢して、今は唯其遺址を止むるのみ。

**ふしみいなり** 伏見稻荷 「いなりじんじや」を見よ。

**ふしみやま** 伏見山 山城國紀伊郡伏見町の東方、木幡山の西方にあり、舊伏見城のありし處にして、山上を桃山と云ふ、南方巨椋池及宇治川を臨みて、風光甚だ佳なり、山の西方より少しく北に桓武天皇柏原御陵あり。

**ふすみじんじや** 夫須美神社 熊野三社の一にして、那智權現の別稱、「なち」の條を見よ。

**ふせ** 布勢 (布施) 因幡國氣高郡、鳥取市の西一里、湖山池の東岸にあり、同國中の名邑にして、昔時山名氏の城郭を構へし處、城址は其北方天神山にあり、今に小字として其町名を存す、四方宇



(社神美須夫野熊)

忠興代りて全國を治めしが、後肥後に移り小笠原氏代つて小倉に治し支藩を新田に置き、中津の奥平氏と全國を分領

及ばぬ富士の雪のあけはの「イギリス國の博士ミルン」  
 "Not Only is this mountain an object of admiration to the European, but it obtains an equal if not greater share of admiration from the Japanese."  
 と言ひ、其他多し。

**ふじのすその** 富士裾野 駿河國富士山の南麓、富士郡の中央にあり、東西五里三十町餘、南北二里二十町、面積凡そ四千五百町に及び、大淵、富士根、鷹岡、北上の諸村あり、建久四年源頼朝此地に狩す、世に富士の卷狩と稱し、曾我兄弟仇討の美談を傳へたる處なり、今は三極の産多く、製紙業盛に行はる。

**ふじはつこ** 富士八湖 富士山の東北麓にある八箇の湖水、即ち、蘆の湖、浮島沼、四尾連湖、山中湖、河口湖、西湖、本栖湖、精進湖等を云ふ、精しくは各條を見よ。

**ふしみまち** 伏見町 山城國紀伊郡宇治川の北岸にあり、京都市を去ること、南方約二里、京都、奈良間の鐵道停車場あり、人口二萬餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、稅務署及歩兵第三十八聯隊、工兵第四大隊あり、此地中世伏見の莊と稱し、山を貫ひ河に臨み頗る形勝の地たりしも、豐臣氏の世迄は著はれず、秀吉此に築城するに及び、大に勃興して畿内の名邑となるに至れり、徳川時代伏見奉行を置く、陶器の産出多く伏見燒の名高し、城址は町の東方桃

山に日吉神社あり、山名氏の盛時、平安京に准じて、北割山より勸請せし處なりと云ふ。

**ぶせん** 豊前國 西海道十一國の一にして、東南二方は豊後に、西筑前に接し、北一帯内海に面す、地勢山脈東南西南を圍繞して、處々に山嶽を隆起し、高低不同なり、國を六郡に分ち、田川、築上、企救、京都四郡は福岡縣に屬し、下毛宇佐二郡は大分縣に屬す、古くは豊後と共に豊の國と稱す、後二國に別つに及び「よのみちのくち」、「よのみちのしり」と呼べり、鎌倉幕府の初め宇都宮氏當國の守護に任ぜられ、南北朝の末に大内氏當國の守護を兼ね、應永年間大友氏興り大内氏と争ふ、天文年間大内氏亡び、毛利、大友二氏の争起る、豊臣氏の時毛利秀勝小倉にあり企救、田川の二郡を領し、黒田孝高他の諸郡を領有せり、慶長年間細川

して王政維新に至る、磯藩後小倉縣を置きしが後廢して福岡縣に併す。

**ふたあらかまじんじや** 二荒山神社 ①野國河内郡宇都宮市の北部、八幡山と舊城址との間にあり、内幣神社にして豊城入彦命を祀る、當國の一の宮なり。②下野國上都賀郡日光山中にあり、國幣神社にして二荒山神を奉祀す、もと日光三所権現と云ひ、延暦年間僧勝道、補陀洛山の三神の示現を得て社壇を建てしものと云ふ。

**ふたがみやま** 二上山 「にじよがたけ」を見よ。

**ふたがわ** 二川 東海道の一驛にして、三河國渥美郡大川町大岩に屬す、戸數約四百、附近の大岩寺に岩屋剝音あり、剝音の銅像は巖上に立つ、汽車中より望むを得べし。

**ふたごみやま** 二平山 ①相模國上足柄郡箱根山中にあり、箱根火山脈に屬し、山上噴火口あり、高さ五千七百餘尺。②上野下野の兩國境にあり。③河内國二上嶽の別稱。④西後國東國東郡の西武藏村にあり、西國東郡との境に接し、高さ二千餘尺、一に足曳山とも云ふ、山勢巍峨として高く雲表に聳え、四望開濤海を隔てて遠く四國の諸山を望み、眺望極めて佳なり。

**ふたみがら** 二見浦 伊勢國度會郡宇治山田町の東方、東二見村大字江浦村の海濱を云ふ、東方神崎を以て志摩に

台宗にして、文武天皇の「日本第一補陀洛山寺」と書かせ給ひしと稱する古額を存せり、現在の堂宇は文化四年の再修なりと。

**ふたらくせん** 補陀洛山 駿河國久能山の別稱。

**ふたらやま** 二荒山 下野日光山の別稱。

**ふちえたまち** 藤枝町 駿河國志太郡の南隅にあり、東海道五十三驛の一にして、今は東海道鐵道の一驛なり、人口八千餘、郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局、稅務署等あり、町の南十餘町の所に田中城址あり、天正年間武田信蕃の築く所とす、又町の西二十町許、青島村に志太鑛泉あり、關類泉にして浴客多し。

**ふちおかまち** 藤岡町 上野國多野郡にあり、高崎市の東南三里、武藏國境に位す、人口七千餘、郡内第一の名邑にして、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、中學校等あり、此地に松平康賴の舊城址あり。

**ふちのまむら** 藤崎村 陸奥國南津輕郡にあり、弘前市の東北に位す、鐵道停車場、郵便局、區裁判所出張所等あり、昔時安倍賴時の裔なる安東氏の居地なりしが、南部氏に滅ぼされてより、遂に南部領となる。

**ふちのわまち** 藤澤町 相模國高座郡にあり、東海道の要驛にして今は東海道鐵道の停車場あり、近時江島電氣鐵道

界し、西方大湊に至る、其海岸數間を隔てて著名なる双岩あり、常に注連を張りて之を祀る、近傍、鯨岩、鼻岩、屏風岩などの奇岩ありて稀有の絶景たり。

**ふたむらたま**

二村山 尾張國愛知郡沓掛村にあり

て、一名を嶺山と云ふ、昔の海道は此山麓を廻りて三河の入橋に出づ、山頂の眺望極めて佳なり、覺孝の歌に「けふこゆる二村山のむら紅葉、まだ色うすし歸るさに見ん」とあり。

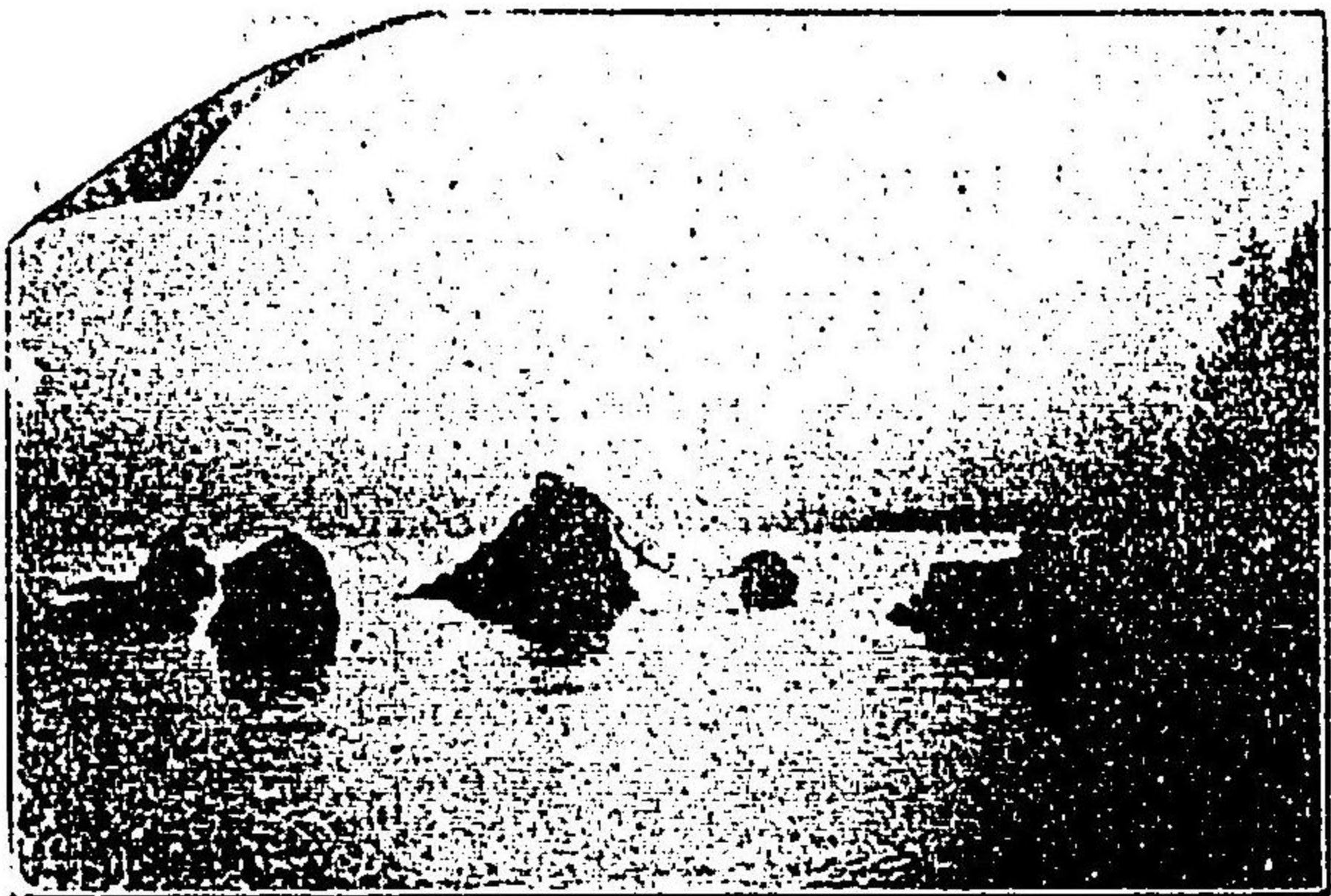
**ふたらくせん** 補陀洛寺 紀伊國東牟婁郡淡之宮にあり、天

の設ありて、此地と江島及鎌倉間を往復す、此地に清淨光寺あり、俗に遊行寺と稱す、時宗の本山にして、遊行上人在住の寺とす、什寶數多藏す、寺内に長照寺あり、小栗判官の墓を以て知らる、此地元境川をへだてて、大坂町大宮町の二に別る、今は合併して藤澤町と稱す、人口七千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署等の官衙あり。

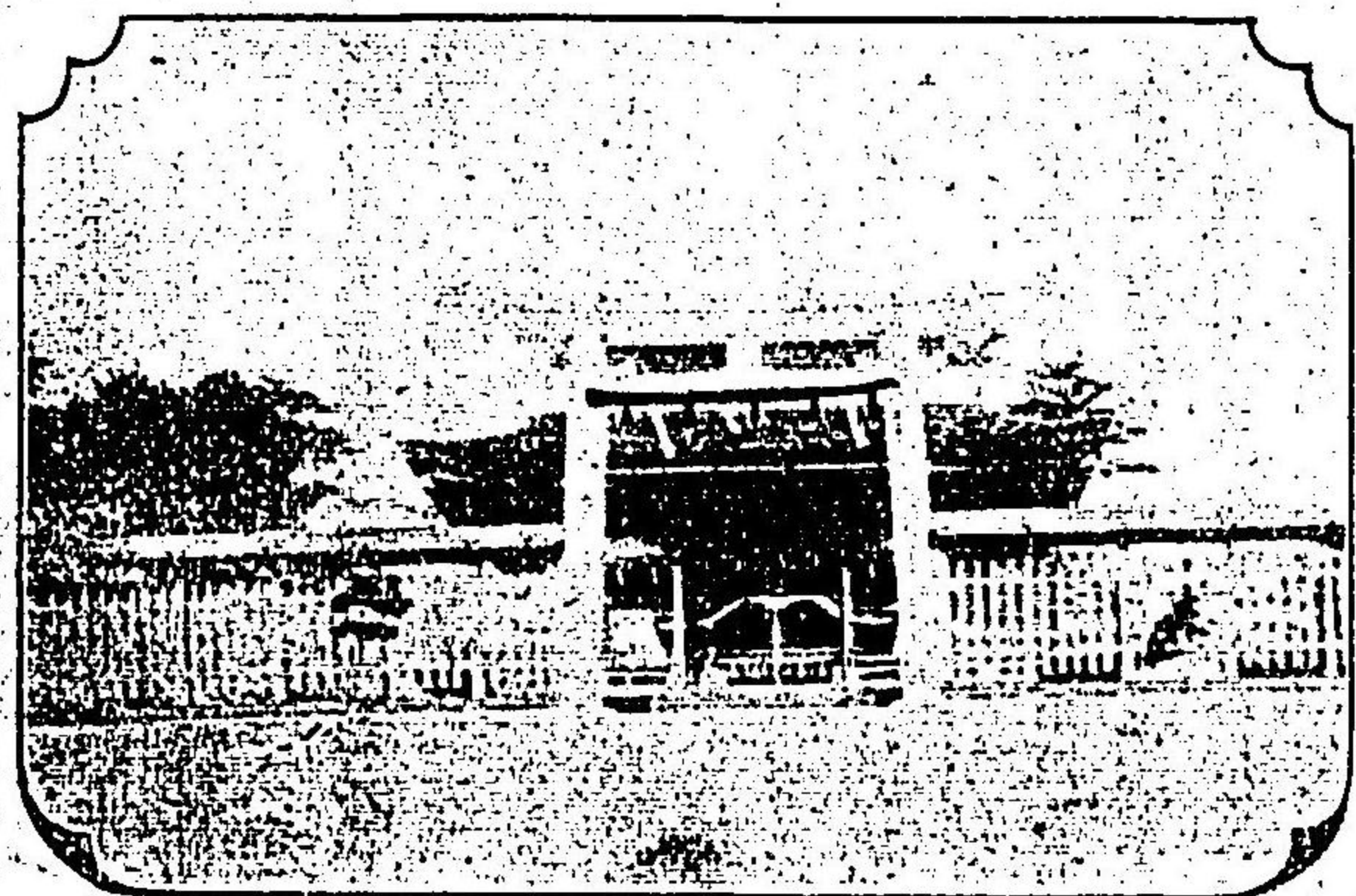
**ふちしましんじ**

や 藤島神社 越前國福井市の南方足羽山にあり、別格官幣社にして、新田義貞を奉祀す、もと市の北西藤島村にありしを、明治三十一年今の地に移せり。

藤島神社



(浦ヶ見二)



(社神島藤)

ふちもりじんしゃ 藤森神社 山城國伏見町字鳥居前にあり、府社にして舎人親王、早良親王及び伊豫親王を祀る、昔は藤花多かりしも、今は其名残を止むるのみ、毎年六月五日大祭を行ふ、母衣甲冑を着け、旗幟を飄へしたる騎馬武者の行列あり、頗る壯觀たり。

ふちのー府中 對島國嚴原町の古稱。

ふちのーまち 府中町 武藏國北多摩郡にあり、舊甲州街道の一驛にして、古ハ武藏國府のありし地なり、毎月二回生糸、繭の市を開く、市況頗る盛なり、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、銀行、諸會社等あり、町の中央に官幣小社大國魂神社あり、大國魂神を祀る、又此地の西南十餘町、西府村に分倍河原の古戰場あり、元弘三年新田義貞北條氏の兵と戦へる所とす。 備後國芦田郡にあり、舊國府のありし處にして、府中市とも云ふ、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所等あり、煙草、味噌等の産多し、此地福山藩の舊領地にして、當時は府中の名を忌みて、府川と稱したりしが、今は舊名に復せり。

ふつ 富津 上總國君津郡の四方富津岬にあり、砲臺ありて、三浦半島觀音崎と相對して、東京灣の咽喉を防備す。 つかい、あまち 二日市町 筑前國筑紫郡福岡市の東南三

里三十一町にあり、人口二千餘、警察署、郵便電信局あり、九州鐵道の一驛たり、驛の東北十餘町に太宰府址、天満宮、觀世音寺等あり。

ぶつこうじ 佛光寺 眞宗佛光寺派の本山にして、京都市下京區佛光寺通高倉にあり、元興正寺と稱し、順德天皇の建曆三年親鸞上人の創建たり、初め山科にありしが、元應中澁谷に移し、豊臣秀吉又之を今の地に移せり。

ぶつこうじま 筆捨山 武藏國久其岐郡金澤の西南にあり、山上の能見堂に上れば、金澤八景眼下にありて、其勝景名狀すべからず、嘗て歌人四行此地に來り、其絶景に驚きて、一首を詠ぜずして去れりと、筆捨の名は蓋しこれより起れるならんか。

ぶつこうじ 武德殿 京都市岡崎町平安神宮の西にあり、延暦年間桓武天皇大内裏に武德殿を造營し、専ら武道を奨勵し給ひし安謨に則り、明治卅二年に造營せしものにして、毎年五月全國の武術家をここに會し、各種の武術を演ぜしめて斯道の隆興を圖る。

ぶつこうじ 不動瀧 越後國北魚沼郡十日市町の南方高倉山中にあり、高さ七十五丈、巾七間、岩代國只見川の水源をなす。 越後國中頸城郡の南方黒姫山中にあり、高さ六十丈、巾二間餘、下流は合谷川の水源をなす。 越後國中魚

ふななかごーげ 舟坂峠 (舟坂山) 播磨國赤穂郡の西部にあり、備前の和氣郡に亘る、一に三石嶺と稱す、元弘二年兒島高德此地にて後醍醐帝を擁ひ奉らんとして處として名あり。

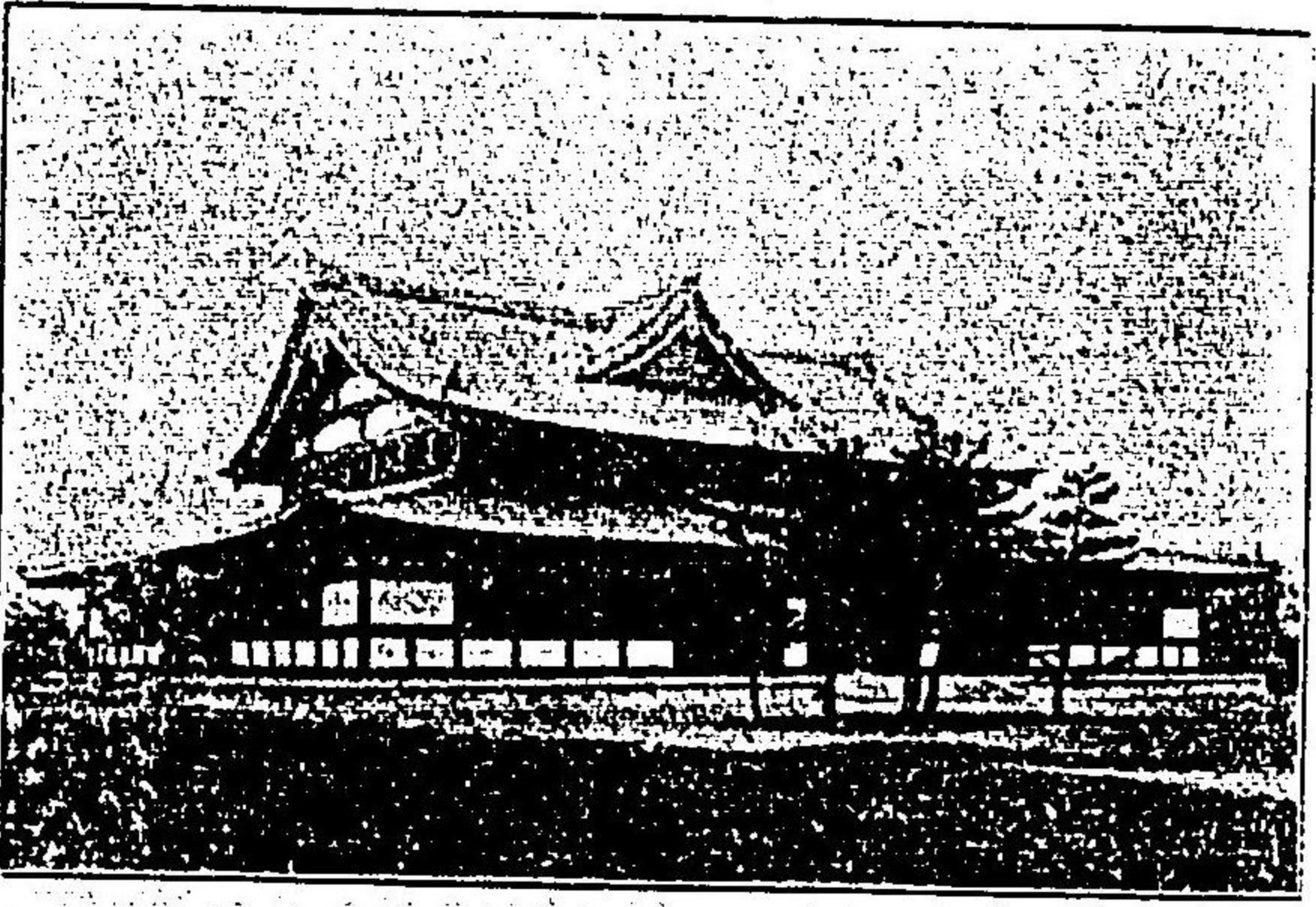
ふなつじんじや 船津神社 越前國今立郡舟津村上鱒江にあり、鱒江停車場を距る約二町、縣社にして大彦命(四道將軍)を祀る、成務天皇四年の勸請と稱せられ式内神社たり、現在の社殿は文化年間の再建と稱せらる。

ふなつまち 船津町 飛騨國吉城郡にあり、高山町を距る、北七里十町、人口六千餘、警察署、郵便電信局、小林區署、區裁判所出張所等あり、此地大富嶺山に近きを以て市街稍々股眼にして、町内に三木嶺山合名會社の出張所あり。

ふなのえさん 船上山 伯耆國東伯郡赤崎驛の南三里、以西村字山川の上方にあり、大山の東北に位す、元弘三年名和長年、後醍醐天皇を奉じて義兵を擧げし處として知らる、山中にありし智積寺は天皇行在の遺跡として傳へらる。

ふんご 豊後國 四海道十二ヶ國の一にして、南日向、肥後に接し、西豊前、筑後に界し、東北二方内海に面す、地勢連山起伏して嶮夷相混じ、高低一ならず、國を分て大分、速見、大野、南海部、北海部、直入、玖珠、日田、東國東、西國東の十郡となし、大分縣に屬す、古くは豊前と共に豊の國と云へ

沼郡秋成村大字結東にあり、高さ六十丈、巾一間四尺餘、志久見川の水源たり。 越後國北蒲原郡赤谷村大字瀧谷にあり、高さ三十丈、巾五間、下流小矢部川に合す。 伊勢國多氣郡大杉谷村の山中にあり、高さ五十丈、巾五尺、下流富川に注ぐ。 越後國新羽郡入石山中にあり、柏崎町を距る南約三里、善根村より山に入ること十餘町にして透す、三層より成り其高さ合せて二十丈、巾五尺あり、下流鱒石川に入る、此他全國にて不動の名を冠する瀑布頗る多し。

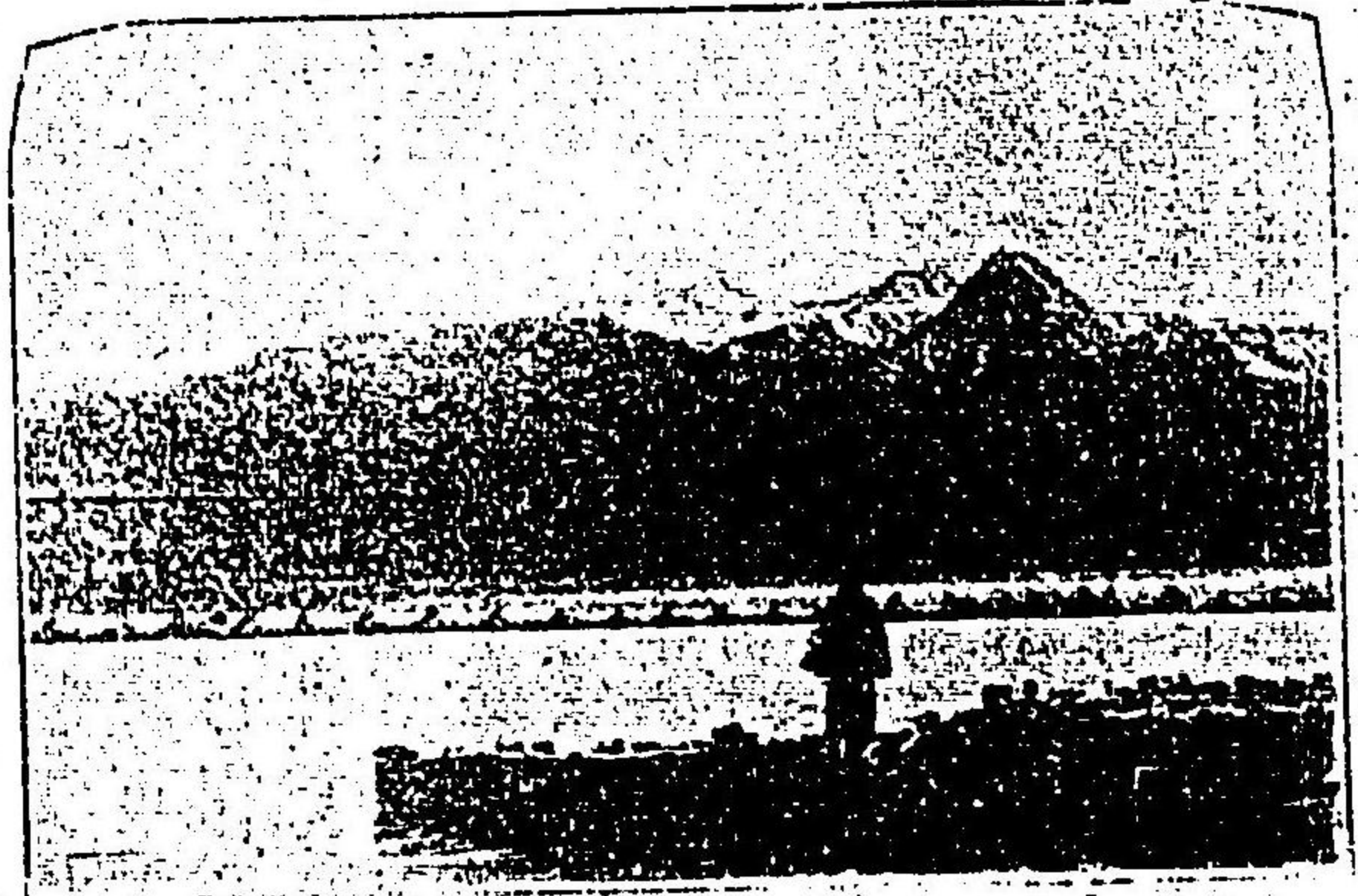


(殿 德 武)

り、鎌倉幕府の初、大友氏當國の守護に任ぜられ鎮西奉行を兼り子孫相襲ぐ、足利幕府の末年大友義興池田氏を滅して肥後を併せ更に兵を豊前筑前の間に出して毛利氏と戦ひ次第に筑後を取り肥前を略し、其領土六州に跨る、其歿後國漸く亂れて遂に島津氏の略取する所となる、豊臣氏の時、中川、毛利、太田、福原、熊谷、垣見の諸氏各地に分封せられ、徳川氏の代、佐伯、臼杵、岡、府内、杵築、日出、森の七藩ありて全國を分領せり、維新後豊前の二郡とともに大分縣の管下となる。

**ふんごふじ 豊後富士** 豊後國由布嶽の別稱。

**ぶんすいさんみやく 分水山脈** 北海道西部の火山地より、本土に渡り陸奥山脈に沿ひつつ、下野の那須火山を盟主とし、榛名、妙義、諸山を経て富士帯に接するものを云ふ、本脈中の重なる火山は、北海道にて、樺前山、恵庭山、マクカリヌプリ山、有珠岳、駒ヶ岳、大川岳、本土に入り、忍山、焼山、



(山名様)

八甲田山、岩手山、船ヶ嶺、蔵王山、熊梯山、郡須岳、高原山(鷓頂山)、男體山、白根山、赤城、榛名、妙義山等にして、本州北半の軸線を成し、太平洋日本海の兩海に注入する大小數百河流の分水界を成す、故に分水山脈の名あり。

**ぶんばいがわら 分倍河原** 武藏國北多摩郡府中町の西南十數町、多摩川河畔の下河原中河原附近を云ふ、元弘三年新田義貞小手差原より進軍して、大に鎌倉勢を破りたる處にして、其後享徳四年足利成氏、上杉房顯と戦ひ、享祿三年北條氏康、上杉朝興と合戦せし地として知らる。

**ふよーのみね 芙蓉峰** 富士山の別稱。

**ふるかわまち 古川町** 飛騨國吉城郡宮川の東岸にあり、高山町の北方四里八町、人口五千餘、國中高山町につぐ繁榮の地とす、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、小林區署等あり、此地天正年間金森氏の支城を置きたる處にして、城址今猶存す。

陸前國志田郡にあり、陸羽街道の要驛にして人口八千餘、仙臺市を距る十里三十四町、吉岡町へ四里、郡役所、警察署、區裁判所等あり、同町字稻葉に古城址あり、大崎氏の臣古川刑部が居館の址なりと。

**ふーれんこ 楓連湖** 根室國根室郡にあり、根室半島の頸部より起り野付郡の境に至る、本道屈指の大湖にして、周囲十五里、海岸湖にして海と相通す。

**ふわの 不破野** 美濃國不破郡垂井の北方にあり、大野、各務と共に美濃三大平野と稱せらる、古へ不破關を置かれたる地にして、一に守野ヶ原と稱す、尙青野ヶ原参照。

**ふわのせき 不破關** 大寶令制定の三關の一にして、美濃國不破郡關ヶ原村大字松尾の大木戸坂は即ち其故地なりと、初め天武天皇の時、之を置き、爾來鈴鹿、愛媛と共に三關と稱せしが、桓武天皇の時廢せられてより、遂に荒廢に歸したり、芭蕉翁の句あり「秋風や藪も鳥も不破の關」。



(址關の破不)

**べしむら 別子村** 伊豫國宇津郡の西南隅、寒川山の西南にあり、人口一萬餘、其首部を日出度町と云ふ、此地に有名

**へいあんじんぐう 平安神宮** 官幣大社、山城國京都市岡崎町にあり、桓武天皇を祀る、明治二十八年の創建にして、境内一萬六百餘坪、本殿は南面にして檜皮葺なり、拜殿は有名なる紀念殿を以て之に充つ、前面に應天門あり、左右に白虎蒼龍の二樓あり、蓋し舊平安京宮殿に模したるものなりと。

**へいさき 閉伊崎** 陸前國閉伊郡の東邊、宮古灣口にあり。

**へいじょうきやう 平城宮址** 「ならのみやこ」を見よ。

**へいさき 艦作崎** 陸奥國西津輕郡深浦村大字艦作の西端に斗出したる處を云ふ。

なる銅山あり、其産額の多き本邦第二に位し、毎年約五百萬斤の産額ありと云ふ、元禄四年始て採掘す、今は大阪住友氏の所有たり。



(社 神 安 平)

べんてんじま 別府町 豊後國速見郡龜見嶽の東麓にあり、人口五千餘、大分町に距る西三里餘、郵便電信局、區裁判所等あり、別府港は其前面にありて、東西一町一間、南北一町三十間、水深一仞餘あり、船舶常に輻湊す、此地に温泉あり、炭酸泉にして、僕麻質斯、痛風、貧血、腺病等に効ありと、浴客多し。

べんてんじま 辨天島 陸奥國下北郡大間崎の前面にあり、周囲二十五町餘。根室國根室町の前面にあり、周囲九町十三間、島上白色燈竿あり、高さ七丈五尺。

(堂 風 鳳)



賞讃を博せりと。

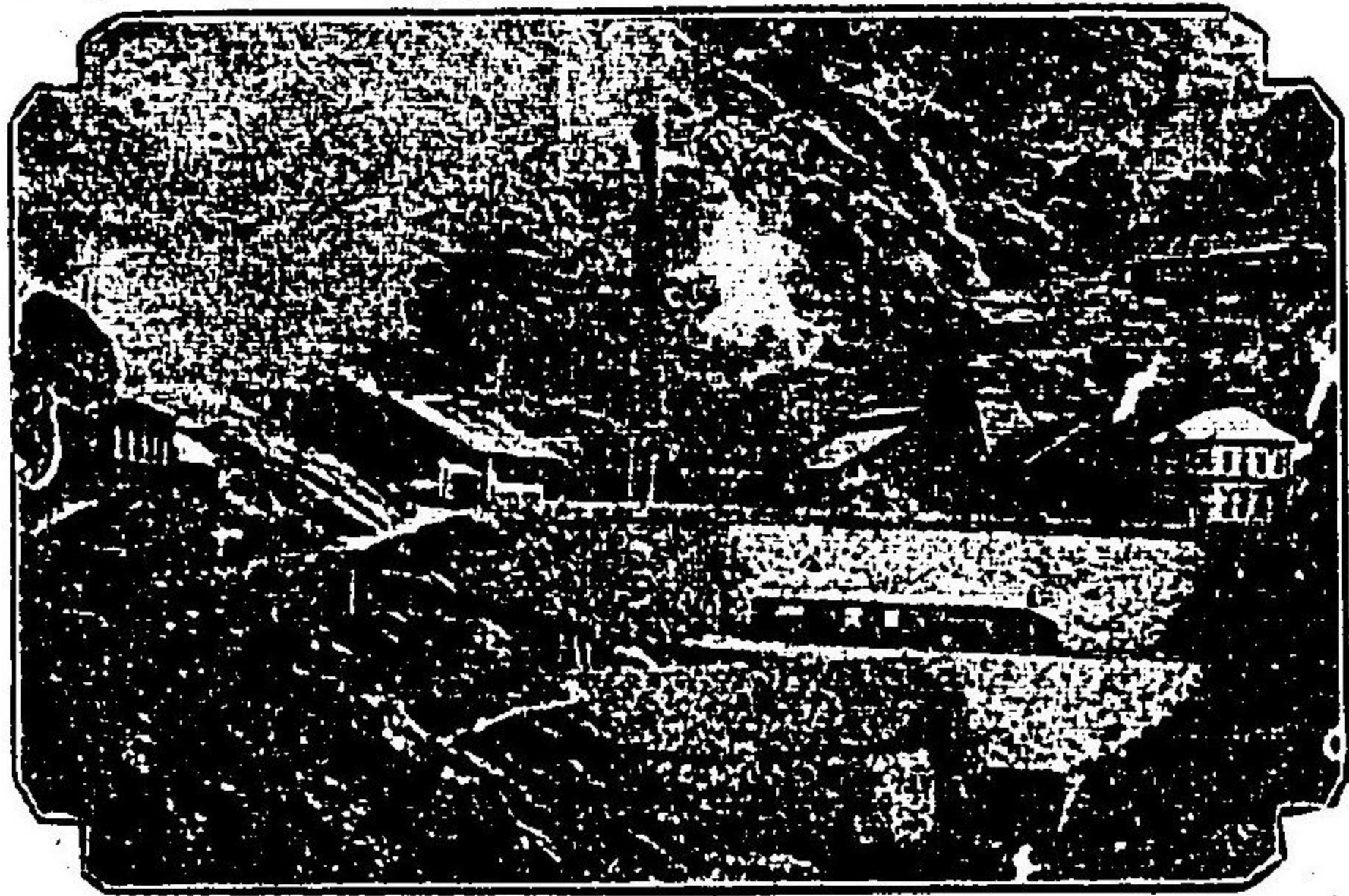
ほーおんじ 報恩寺

浄土宗智恵院の末寺にして、京都市

べつわん 別府灣 豊後國速見、大分兩郡の東方にあり、國東半島北方に斗出し、佐賀關南方に斗出して遙に灣口をなす、灣内、豊岡、別府、濱脇、龜崎等の諸港あり。

べつむら 別府村 播磨國加古郡土山停車場の西南一里餘にあり、此地に住吉神社あり、境内の手枕に甚だ有名なり、此の海濱は古への標灘にして風景佳なり。

べんてんやま 辨天崎 波島國龜田郡國館港の西北端にあり、一に河野岡崎と稱す、此處に辨天岬砲臺あり、松前氏の時初めて修築せるものなりと。



(山 銅 子 別)

ほ

ほーえいざん 寶永山 駿河國富士郡富士山の東南腹にあり、寶永四年十一月富士山噴火して、此山を現出す、依て此名あり、高さ八千二百餘尺、芙蓉峰の美觀を傷くる二贅物とす。

ほーおんじ 鳳凰堂 平等院の佛堂にして、山城國宇治郡宇治にあり、宇治關白頼通の建立たり、堂形鳳凰の兩翼を伸ばしたるに似たり、而して棟上に黃銅製雌雄の鳳凰を置く、堂内の裝飾壯麗美麗にして、内外美術家の嘆賞措く能はざる所とす、我國特別保護建造物に屬す、明治二十七年アメリカ合衆國チカゴ博覽會に其模造建造物を出品して大に外人の

上京區小河の西上立賣の北にあり、明應年中舟橋の地に創建し、法音寺と號せしが、後今名に改む。東京市本所區天神橋通柳島にあり、日蓮宗に屬し、太田道灌の建立にして、初め江戸平川口にありしを元祿年間今の地に移せるなりと。

**ほ一き 伯耆國** 山陽道八國の一して、東因幡に、西出雲に、南美作、備中、備後に接し、北日本海に面す、地勢は西南山脈重疊たるも、海岸は一帶に平坦にして、土地豐沃物産に富む、國を東伯、西伯、日野の三郡となし、鳥取縣に屬す、古は伯伎に作り國府を久米郡に置く、元弘年間後醍醐天皇隠岐より遷幸し國人名和長年に據り給へるは史上有名なる事實とす、足利氏の初山名氏當國の守護となり、覇を山陰に唱ふ、大永年間尼子氏興り、次で毛利元就當國を略し、天正年間豊臣秀吉の征西あり、關ヶ原役後、中村一忠當國に封せられ、米子に治せしが嗣なく國除かれ加藤氏之に代り、元和中伊豫に轉じ池田光政代り領し、後光政備前に移り、從弟光仲代り世襲して王政維新に至る、廢藩後鳥取縣に屬す。  
**ほくえつてつどー 北越鐵道** (私設)越後國直江津より起り、柏崎、長岡、三條を経て、新潟市の對岸沼垂に至る、延長八十四哩五十二鎮。  
**ほくこー 北港** 臺灣臺中を距る二十三里四町にあり、人口

六千三百餘、もと辨務署の所在地にして、警察署、憲兵屯署、郵便電信局あり、臺灣北府を距る六十二里。

**ほくしきやくかい 撲仔脚街** 臺灣臺南府を去る十五里にある名邑にして、人口七千餘、警察署、郵便電信局あり、もと辨務署の所在地にして、總督府を距る七十里三十三町。

**ほくごかい 北斗街** 臺灣臺中府を去る十一里六町、北斗溪の沿岸にあり、もと辨務署の所在地にして、警察署、郵便電信局、憲兵屯署等あり、人口五千餘、臺灣北府を距る五十里。

**ほくりくごー 北陸道** 東山道の北部にあり、若狹より起りて越後に至る、若狹、越前、越中、加賀、能登、佐渡、越後の七ヶ國より成る、北部は一帶日本海に面し、南方は山嶽を以て東山道に界す、詳しくは各縣各國の條を見よ。

**ほりりかごー 北陸街道** 北陸道の沿岸を通ずる大街道にして、若狹の小浜より起り、越後の新潟に至る、此間凡そ百三十九里二十六町餘あり。

**ほりりてつどー 北陸鐵道** (官設)東海鐵道の支線なる敦賀線の後を受け、福井市を経て加賀國に入り、津幡驛より七尾鐵道を分岐し、本線は越中の高岡に至りて中越鐵道を分岐し、富山市に至る。  
**ほりりごんじや 豐國神社** 山城國京都市下京區茶屋町

豐臣秀頼再建す、家康が鐘銘を以て秀頼を苦めしは此時なりとす、此寺に座像六丈三尺の大佛あり、寛文二年幕府之を銷潰して文鏡となし、今は木像となりて、其首ばかりを存す。

**ほりごー 澎湖島** 澎湖列島中の最大島にして、一に大山嶼と稱し、周囲二十里、面積八方里〇七、漁翁、白砂の二島と澎湖灣を擁し、良港に富む、馬公港尤も著る、狹隘の水道あり島内を三分す。

**ほりごんごーいん 法金剛院** 山城國葛野郡花園村妙心寺の西南三町にあり、一に双丘寺又天安寺と云ふ、眞言、天台、禪、淨土四宗兼學なり、創建年代詳かならざるも、もと清原夏野の山莊たりしを捨てて寺と爲す、天安二年官寺となり、保延年中鳥羽天皇の中宮待賢門院之を再興し、今名に改めたるものなりと。

**ほりごんじ 寶嚴寺** 山城國宇治郡山科村にあり、眞言宗にして、牛尾山法嚴寺と稱し、俗に清水の奥院と云ふ、方丈の左に有名なる音羽の瀧あり。

**ほりこれごー 澎湖列島** (Peng-hu-Islands) 北緯二十三度十一分―二十三度四十五分、東經百十九度二十分―百十九度四十三分、支那福建省と臺灣との間にある諸島にして、大小四十七個の島嶼よりなる、澎湖、漁翁、白砂の三島尤も

にあり、別格官幣社にして、豊臣秀吉を祀る、社は明治十年別格官幣社に列せられてよりの建立にして、元は方廣寺境内に一の石塔を存したるのみにして頗る慘憺たるものなりしが、明治三十一年朝野の有志者豊國會を組織し現今の殿堂を經營せるなりと、尙ほ阿彌陀峰の條を参照せよ。



(寺 廣 方)

**ほりこーじ 方廣寺** 天台宗にして、京都市下京區博物館の北方にあり、大佛殿とも云ふ、天正六年豊臣秀吉の創立にして頗る偉觀を極めしが、慶長七年火災に罹り、同十五年



大にして、巴状をなし相擁して澎湖海を作る、地勢一般に低平にして海拔三百尺以上の高地なし、全島樹木なく、僅に矮草を生ずるのみ、故に河流の大なるものなし、米穀其他産物に乏し、馬公城は首府にして、澎湖廳及要塞あり、此地は臺灣海峡の要路に當り、軍事上重要な所なり。

**ほしさんかい 鳳山街** 臺灣の南部にあり、打狗港を距る三里許、人口六千餘、鳳山廳の所在地にして、警察署 郵便電信局、憲兵屯署、學校等あり、もと塊頭城と稱し、清朝の乾隆五十三平林爽文の亂後、鳳山縣を置けるより今の名ありと、城は土壁を繞らし、五門あり、臺南へ北方十一里三町、臺北へ九十二里十三町。

**ほしがおかこえん 皇岡公園** 東京市麹町區永田町二丁目日枝神社境内を云ふ、明治十四年六月公園地となす、此地一帯の高丘にして、老樹鬱蒼、中に櫻楓あり、南崖に數軒の掛茶屋ありて、東方に星ヶ岡茶寮あり。

**ほしづくる 星月井** 相模國鎌倉の南西、極樂寺坂に上る坂下にあり、星の井とも稱す、周圍四間餘、其水清冽にして、夏時は茶亭の設けあり。

**ほししゃん 鳳翔山** 尾張國知多郡武野町にある小丘なり、海岸に臨みて眺望頗る佳なり、元迎戸山と云ひしが、明治二十年陸下行幸ありて、陸海軍の演習を觀覽せられしよし。

**ほしたつさんみやく 寶達山脈** 美濃、飛騨高原より分派し、俱利伽羅峠を経て越中能登の境界を成す者にして、本脈中主なる山は三國房(加、越、能境)、寶達山(能登南端)、三方山、石動山等なり。

**ほたんしゃ 牡丹社** (Bunansia) 臺灣の南部、恒春の東方地方にして、恒春廳の管轄に屬す、住民は悍猛殘忍なる蠻族にして嘗て殺戮同盟を作りて虐殺を恣にする、ことあり、明治四年我が琉球の漂民を殺戮し、同七年遂に征臺の役を見るに至り、王師堂々之を征服せり、牡丹社入口に石門あり、牡丹社石門と稱す、天嶮を以て知らる、征臺の役我軍の大に苦戦せる所とす。

**ほつかいどー 北海道** 本州の東北海中にあり、西南は津輕海峡を隔てて陸奥に接し、東南は太平洋に、東北はオコック海に、西北は日本海に面し、北は宗谷海峡を隔てて、樺大島に接す、別つて後志、渡島、膽振、石狩、天鹽、北見、日高、十勝、釧路、根室の十州となし、千島群島を附屬す、詳しくは北海道廳及各國の條を見よ。

**ほつかいどーちやー 北海道廳** 道廳は石狩國札幌區にあり、渡島、石狩、天鹽、後志、日高、十勝、釧路、根室、膽振、北見、千島の十一ヶ國を管す、面積六千九百五十五方里三六、三區、八十八郡、百八十町、五百九十八村より成る。

り、今名に改む。  
**ほししゃんかいどー 房州街道** 東京より起りて安房國館山に通ずる街道にして、東京より下總の行徳、千葉を経て上總に入り、水更津を経て、海岸安房の館山町に至る、此間凡そ三十八里二十六町あり。

**ほしじよーまち 北條町** 安房國にあり、館山灣に望み、南沙入川を隔て館山町に接す、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、實業支局、稅務署、病院等あり、灣内水清く眺望頗る佳、夏季納涼の客多し。

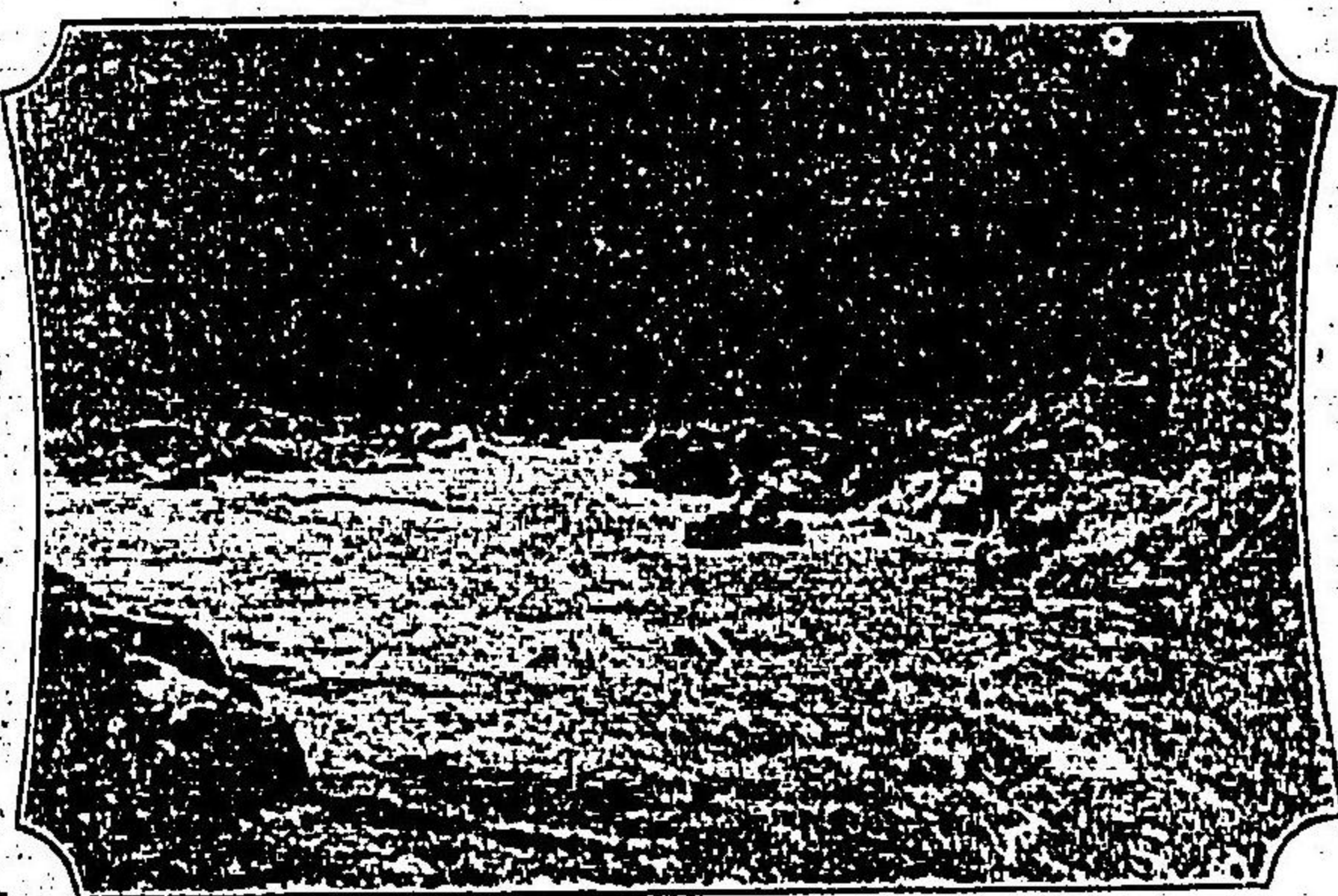
**ほそじまぢ 細島町** 日向國東臼杵郡にあり、宮崎町を距る十七里、人口四千餘、警察署、郵便電信局等あり、細島港は其前面にあり、同國第一の良港にして、東西二十町、南北七町、水深約八仞、大阪、神戸、鹿児島等に汽船の定期航海あり、運輸交通最も便なり。

**ほしそーてつどー 房總鐵道** (私股) 下總の千葉より起り、東行上總に入り、大網驛より支線を東金に分岐し、本線は南行大原に至る、延長三十五哩六十二鎮、支線は三哩五十鎮。  
**ほしそーはんんどー 房總半島** 下總の南方に突出して、東

京灣を擁せる、半島にして上總、安房の二國より成る、其四海の突端は遙に三浦半島と相對して、東京灣口を扼す、安房上總の條を見よ。

**ほつがわ 保津川** 丹波にあり、源を北桑田郡の東北瀧山地に發し、諸小流を合して南流し、船井郡の東南部を経て、南桑田郡に入り、東流して山城國葛野郡に入り、大井川、桂川となりて加茂

川と合し淀川に入る、流域五十五里、一に大布施川、藤田川、鳥羽川、山本川、並川とも云ふ、其山城國嵯峨の邊大井川の南岸は所謂嵐山の勝地にして、天下の絶景として知らる、嵐山參照。



(川 津 保)

**ほつけし 法華寺** 大和國奈良市の北方佐保村字法華寺村にあり、眞言律宗に屬す、天平年間聖武天皇の皇后光明皇后の御願により、

建立せられたるものにして、天下の總國分尼寺たり、蓋し總國分僧寺たる東大寺に對して建立せられたるものなりと、爾來藤原氏出身の尼を以て住職と定め現今近衛家の令嬢其門跡たり、現在の堂宇は慶長年間豐臣氏の修築する所なりと。

**ほつつかさざり 北國街道** 京都より加賀國金澤に至る大街道を云ふ、通路は近江國鳥居本より米原、長嶺を経て、北行越前に入り、福井を経て加賀大聖寺に出て、海岸を東北行して金澤に至る、此間六十八里餘、三十二驛あり。

**ほつみさきぞら 最御崎寺** 土佐國安藝郡室戸岬の南端にあり、眞言宗の巨刹にして、僧空海開基たり、四國第二十四番の靈場にして俗に東寺と稱す、蓋し室津の金剛頂寺を四寺と稱するに由れるなり。

**ほごがや 程谷** 東海道五十三驛の一にして、今停車場あり、武藏國桶狭郡に屬す、戸數約一千、郵便局、銀行、東京麥酒會社製造所等あり、此驛と戸塚驛との間、武相兩國の境に品野坂のトンネルあり、停車場より約二里二俣川村に品山重忠の碑あり、重忠敗死の地とす。

**ほのつ 坊津港** 薩摩國川邊郡の西南海岸にあり、坊泊と稱し、又泊浦とも云ふ、港灣西に開けて坊岬其南方に突出す、東四十一町、南北十六町、水深三十六仞、此地は昔時伊

山にあり、古くは大権現と稱して、修験者の奉祀せし處なるが、維新の後之を改めて熊野坐神社と稱し、國幣中社に列せらる、祭神は熊野牟須美神、熊野速玉神、家津美御子大神、天照大神(以上上四社と云ふ)天忍穗耳命、瓊々杵尊、彥火々出見尊、鸕鷀草不合尊(以上中四社)國狹植命、豐斟淨命、泥土煮命、大月之邊命(以上下四社)の十二神なり、世に之を十二社權現と稱す、神武天皇五十八年熊野川の北、淵谷に鎮座ありしを、崇神天皇の六十五年今の地に移し神殿を営まれたるなりと、往古は壯麗なる社殿、甍を並べて立て列れられしが、其後漸次衰微せり、殊に明治二十六年の大洪水により神殿破壊し、石寶殿二所を留むる外一切蕩盡し遂に之を祓戸に移して再興し、四殿を建て儼かに其體面を保つのみ。

**ほんぐーさん 本宮山** 熊野三山の一にして、紀伊國東牟婁郡熊野川の左岸にあり、新宮を去る七里、山に熊野坐神社あり、尙ほ「ほんぐー」を見よ。

**ほんこくじ 本國寺** 京都市下京區松原の南堀河の西にあり、日蓮宗の巨刹にして、大光山と號し、もと日蓮上人の徒弟日朗鎌倉松葉谷に建立せしを、曆應年間、日僧日靜、今の地に移したりと云ふ。

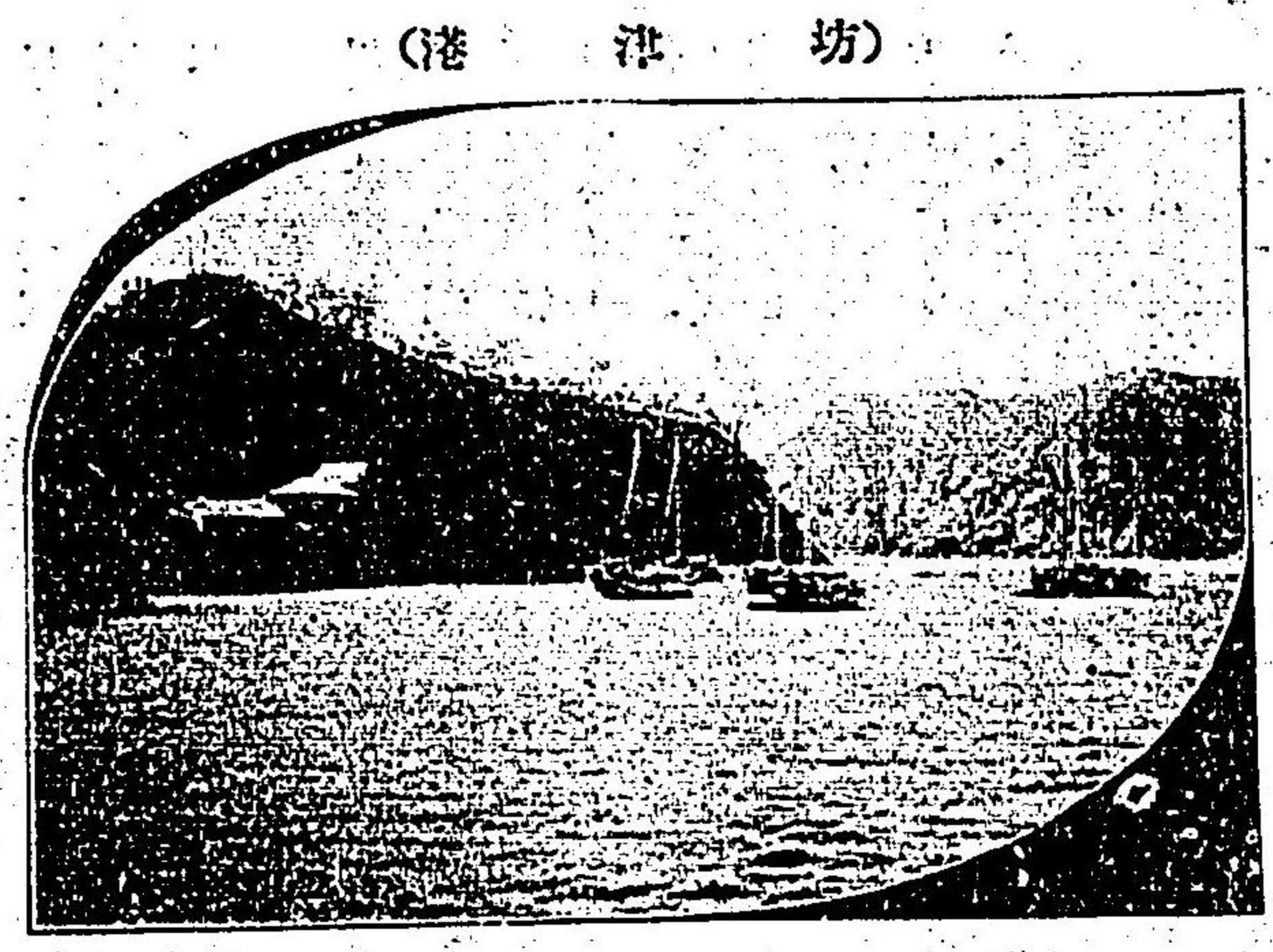
**ほんしゅー 本州** 日本國畿内、東海、東山、北陸、山陰、山陽、諸道の總稱にして、東は陸中國閉伊郡東端(東經百四十二度

ほんぐ

ほんぐ

ほんぐ

四三〇



勢の安濃津、筑前の博多の津と共に日本の三津と稱して、専ら支那と交通せし處なりしも、今は衰へて一漁村と成れり。  
**ほばらまち 保原町** 岩代國伊達郡にあり、福島町の東北四里餘、人口四千九百餘、警察分署。

郵便電信局等あり、生絲の産地として知らる。  
**ほんかくじ 本覺寺** 武藏國神奈川町宇骨木にあり、禪宗の古刹にして、安政年間、徳川幕府が米國使節ハリスと通商條約を結びし所なり。  
**ほんぐー 本宮** 紀州熊野三社の第一にして、東牟婁郡本宮

二分)より、西長門國豐浦郡の西端(東經百三十度五十二分)に至り、南は、紀伊國東牟婁郡潮崎(北緯三十三度二十六分)より、北、陸奥國下北郡大間岬(北緯四十二度三十一分)に至る、隔島約百七十餘、面積一萬四千五百七十一方里餘、詳しくは各道、各縣、各國に就て見よ。  
**ほんしゅーちーぶ 本州中部** 新潟、長野、山梨、静岡、愛知、岐阜、富山、石川の八縣、十四國九市百〇七郡の地を云ふ、詳しくは各條に記せり。

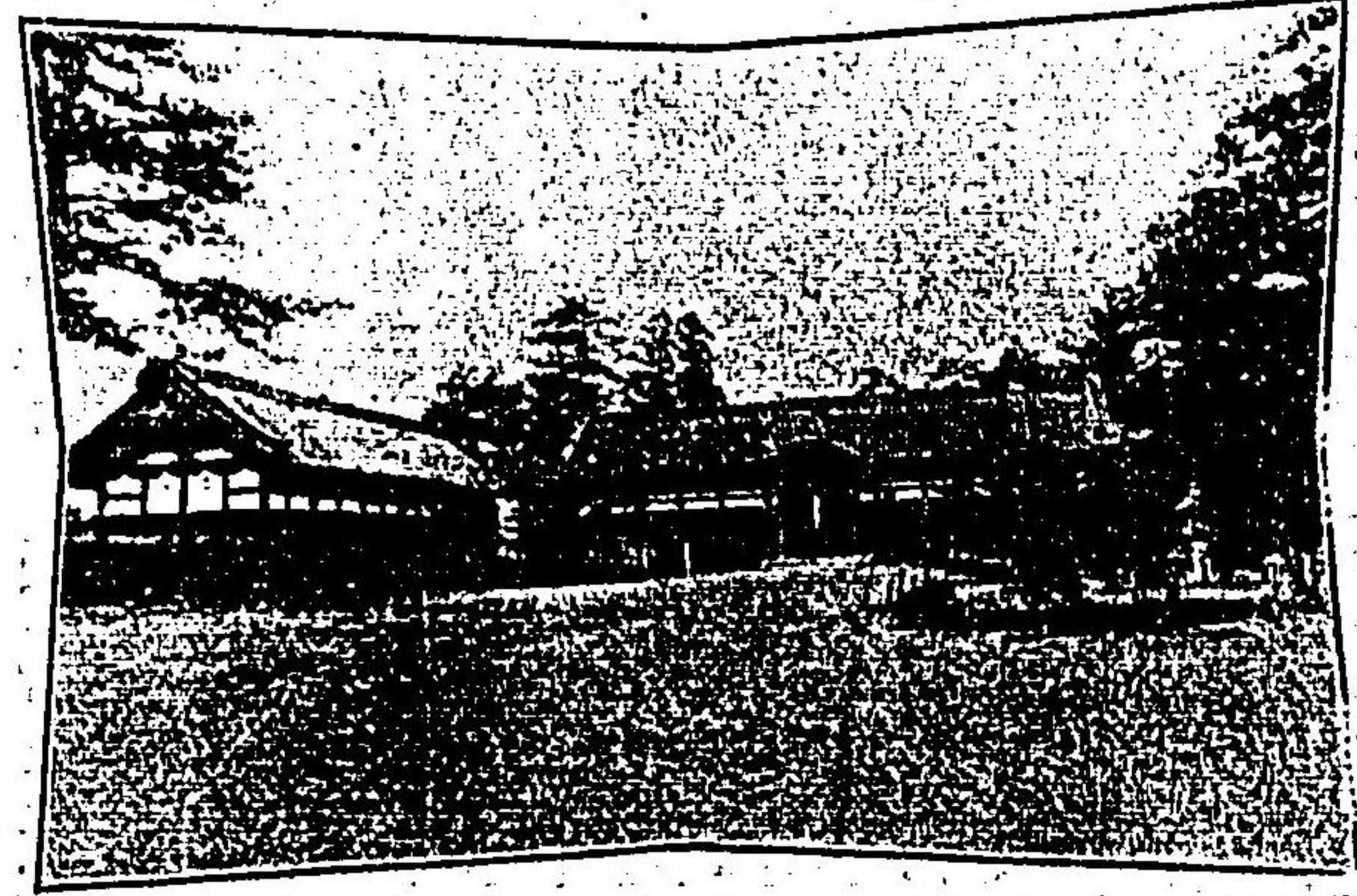
**ほんじーまち 本莊町** 羽後國由利郡子吉川口にあり、秋田市の南方千里十四町、六郷氏二萬石の舊城下にして、羽前街道の要路たり、人口九千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、税務署、小林區署等あり、鮭、鱒等の漁獲多し、町内に屋崎城あり、一に舞鶴城と稱し、最上義光の巨楯岡満茂の築く所にして、最上氏の滅亡後六郷氏の有となり、子孫世襲して王政維新に至る。○武藏國見玉郡にあり、中仙道の要路に衝り、郡内第一の郡邑にして、人口八千餘、郡役所、警察署、税務署等あり。秩父地方或は伊勢崎方面への旅客は多く此地をすぎ、日本鐵道高崎支線の停車場あり、町の東南に古戰場あり、昔時足利成氏兩上杉の兵と合戦せし地なりと。

ほんた

**ほんたはちまんぐー 譽田八幡宮** 河内國南河内郡古市村

四三一

大字豊田にあ  
り、應神天皇  
惠我漢伏崗陵  
の南二町許、  
府社にして、  
應神天皇を祀  
り、仲哀天皇  
以下の數神を  
合祀す、欽明  
天皇の朝の創  
建にして、冷  
泉天皇の御宇  
に今の所に移  
して、大に社  
殿を修築せる  
ものなりと、

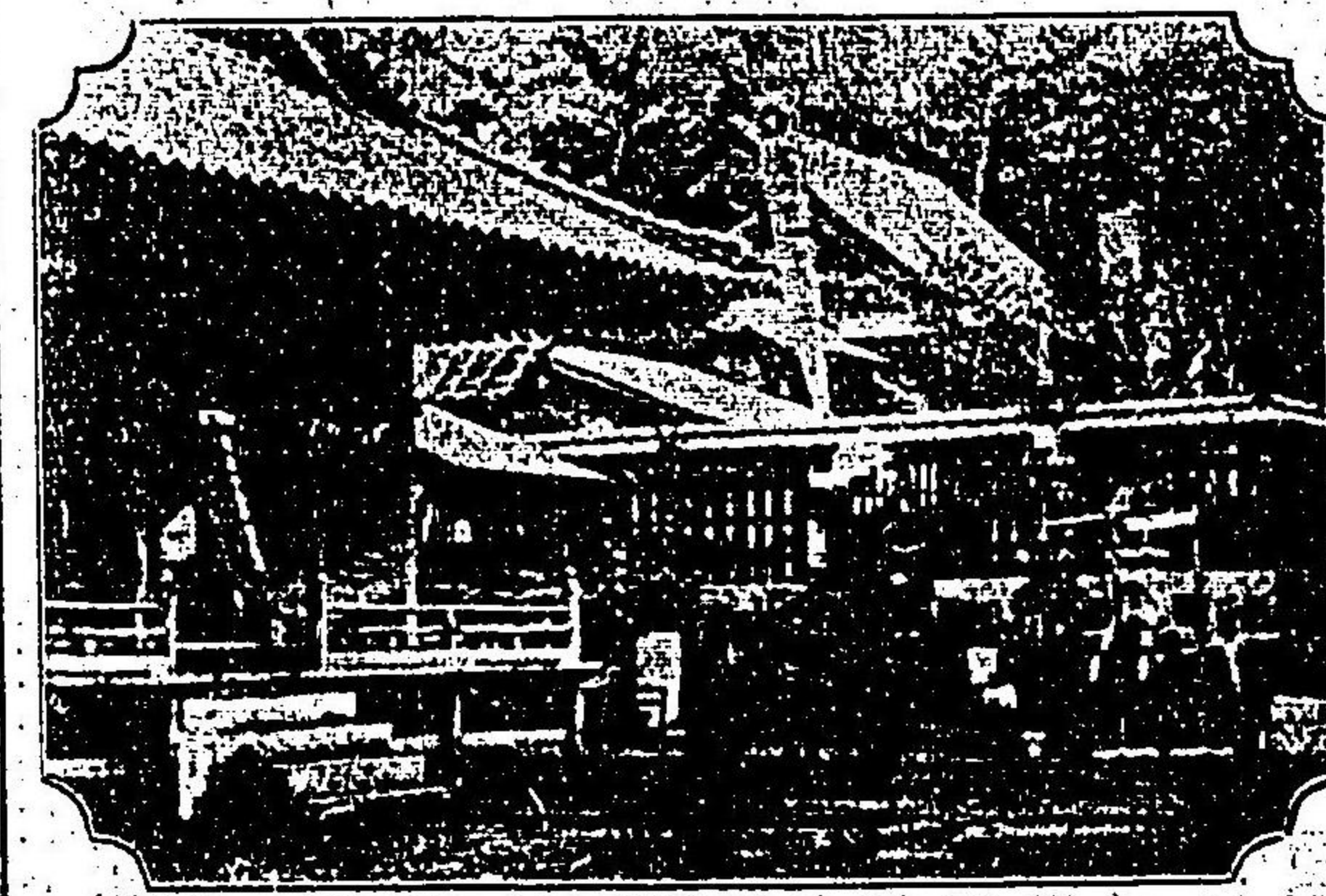


(宮 隱 入 田 豊)

毎年五月大祭を行ふ、之を豊田の車樂祭と云ふ。

**ほんのーじ 本能寺** 京都市上京區寺町三條通り、矢田地蔵の北にあり、日蓮宗にして、日基上人の開基たり、天正十年織田信長が、明智光秀の爲に弑せられし處なり。  
**ほんのみよーじ 本妙寺** 肥後國鹿託郡花園村にあり、日蓮宗

にして、天正十三年僧日眞、攝津の大阪に創建す、後加藤清正此地に移す、寺に清正の廟あり、里人の参詣者多し。  
**ほんもくみさき 本牧岬** 武蔵國久良岐郡横濱市の南方に突出したる處を云ふ、此處に十二天社あり、元眞言宗多門院の鎮守神と稱せらる、本社は廢上に危座し老樹蒼鬱として、境内幽邃閑雅、鎮夏の好適地たり、横濱停車場を距る約一里。

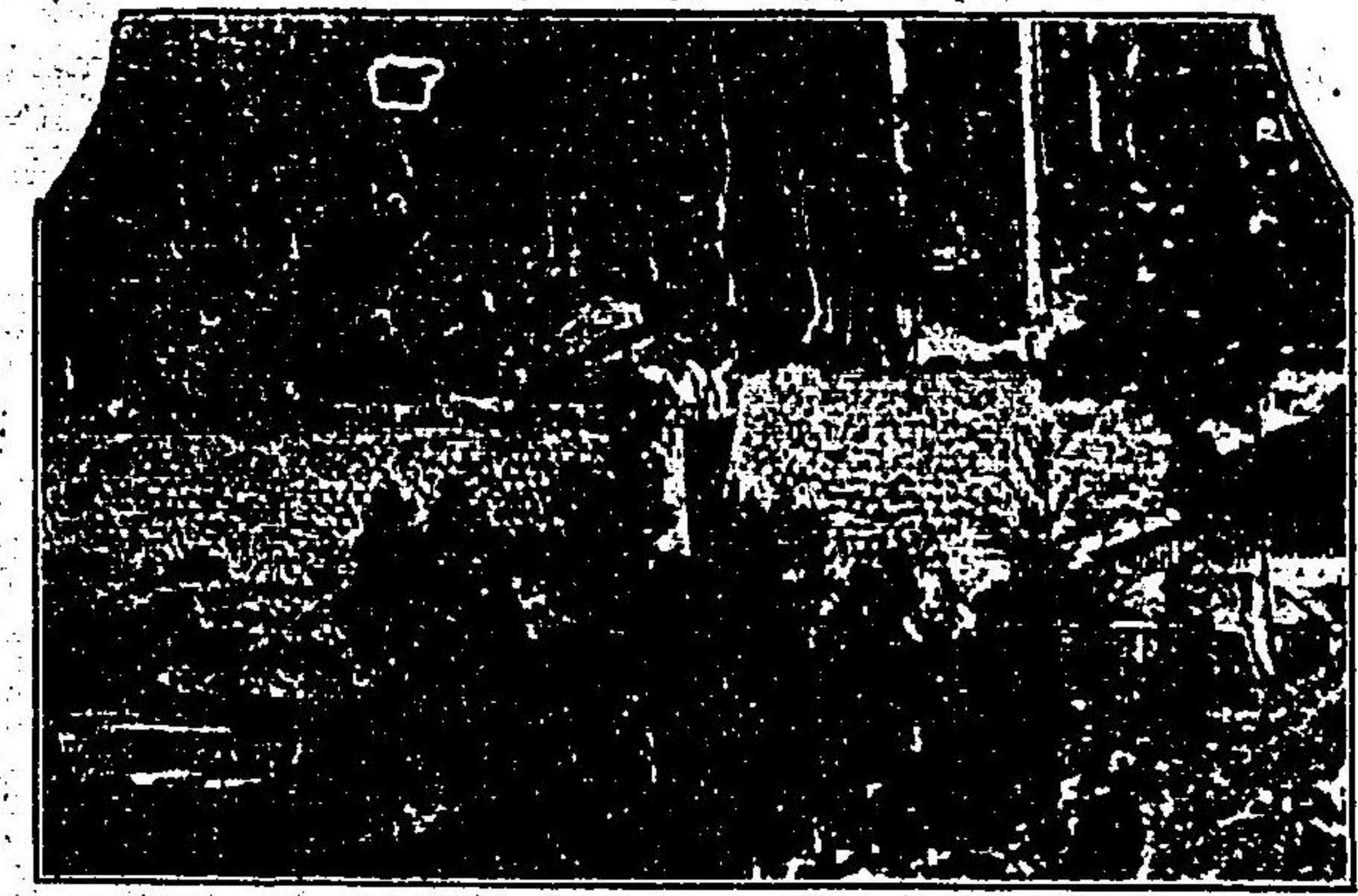


(寺 妙 本)

**ほんもんじ 本門寺** 武蔵國荏原郡池上村にあり、東京より三里、蒲田驛を距る約十町餘、日蓮宗の巨刹にして長榮山と號す、日蓮宗の開祖日蓮上

人終焉の地にして、寺は弘安四年池山宗仲の建立する處、日明上人が開基たり、毎年十月十二、十三、十四日の三日間はお會式と稱して、遠近の参拜者互に團扇太鼓を打ち、題目を唱へ行く狀、他に見る能はざるの壯觀なり、境内に日蓮上人の廟及び眞骨堂あり、又星亨及工學博士松本莊一郎氏の墓あり。

**ほーらーじ 鳳來寺** 三河國南設樂郡の東北鳳來寺山の半腹にあり、煙巖山と號す、推古帝の勅願所と稱せられ、三河第一の靈場たり、僧利修の開創せる處にして、天台眞言二宗を兼ね、徳川時代に千三百六十石を供せらる。



(宮 照 東 の 山 來 鳳)

**ほーらーじさん 鳳來寺山** 三河國南設樂郡の東部にあり、高さ一千八百餘尺、一に煙巖山とも云ふ、山腹に鳳來寺あり、此山は一帶に火山岩にして、石橋、胎内濬等の奇蹟あり、三紀層の高原地に迸發したる地なりと。

**ほーらーじのしよ 堀越御所** 伊豆國田方郡葦山村に其處

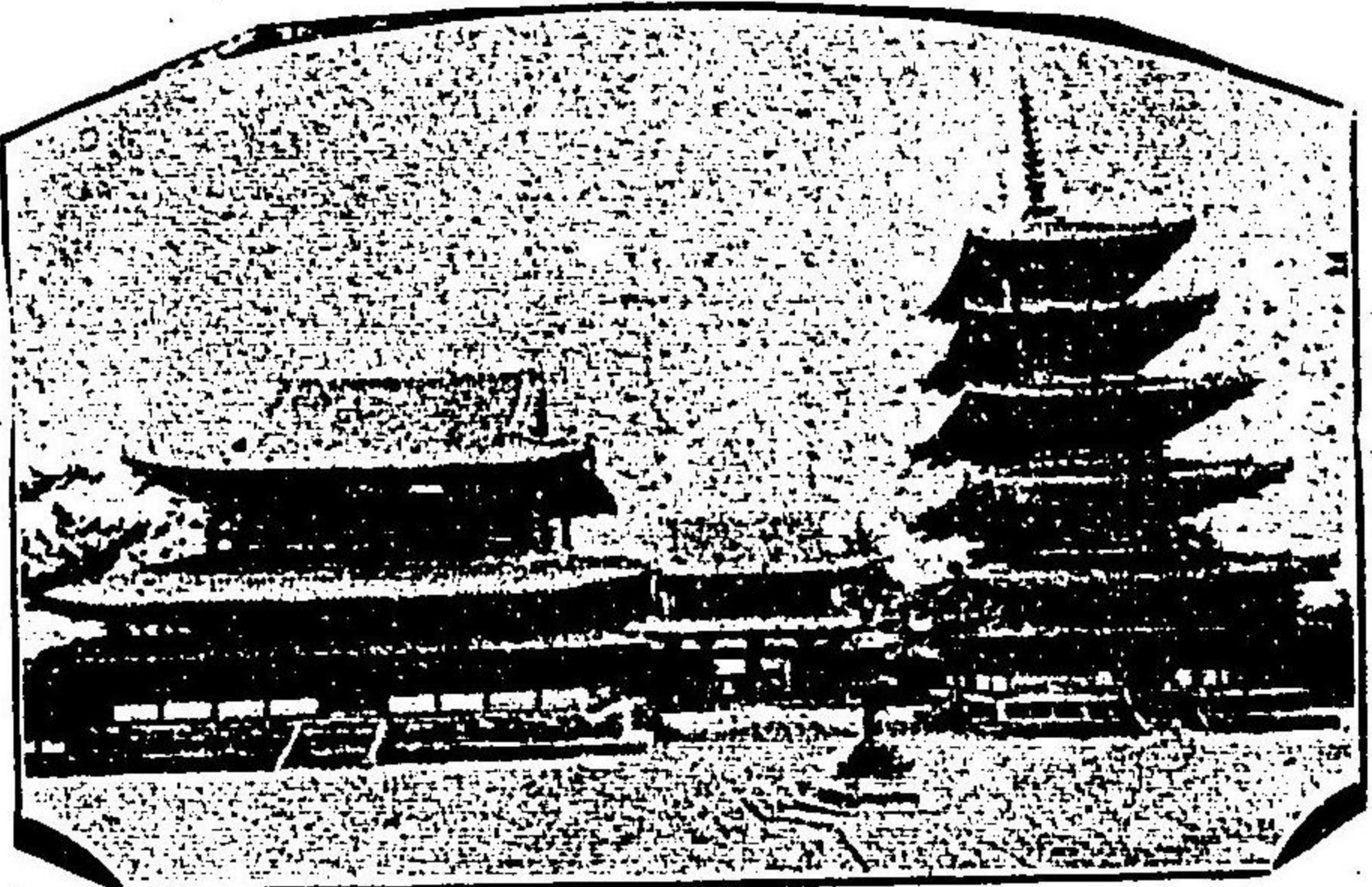
址あり、俗に御所の内と稱す、足利幕府の時將軍義政の弟政知の居りて以て東國を治せし處、伊勢長氏、政知の子茶々丸を亡ぼして當國を領するに及びて、遂に廢絶す。

**ほーりや 埔里社** 臺灣の臺中府を距る十五里、人口一千六百餘、警察署、憲兵屯營、郵便電信局等あり、臺北に五十三里。

**ほーりのうち 堀内** 武蔵國豐多摩郡中野町の四方にあり、村に日蓮宗妙法寺(俗云御祖師樓)あるを以て名高し。

**ほーりーじ 法隆寺** 南都七大寺の一にして、大和國生駒郡法隆寺村にあり、法相宗の大本山にして推古天皇の御代の創建と稱せらる、古くは斑鳩寺と稱す、本邦最古の佛寺にして(現存中の)建築上、將た美術上、最も重視せらるるものとす、寺内に藏むる佛像及び其他の寶物も亦比類なき貴重品多し、金堂、五重塔、中門等の諸建物は今特別保護建造物に屬し、寺寶の多くは國寶に列せらる、當寺の創立に

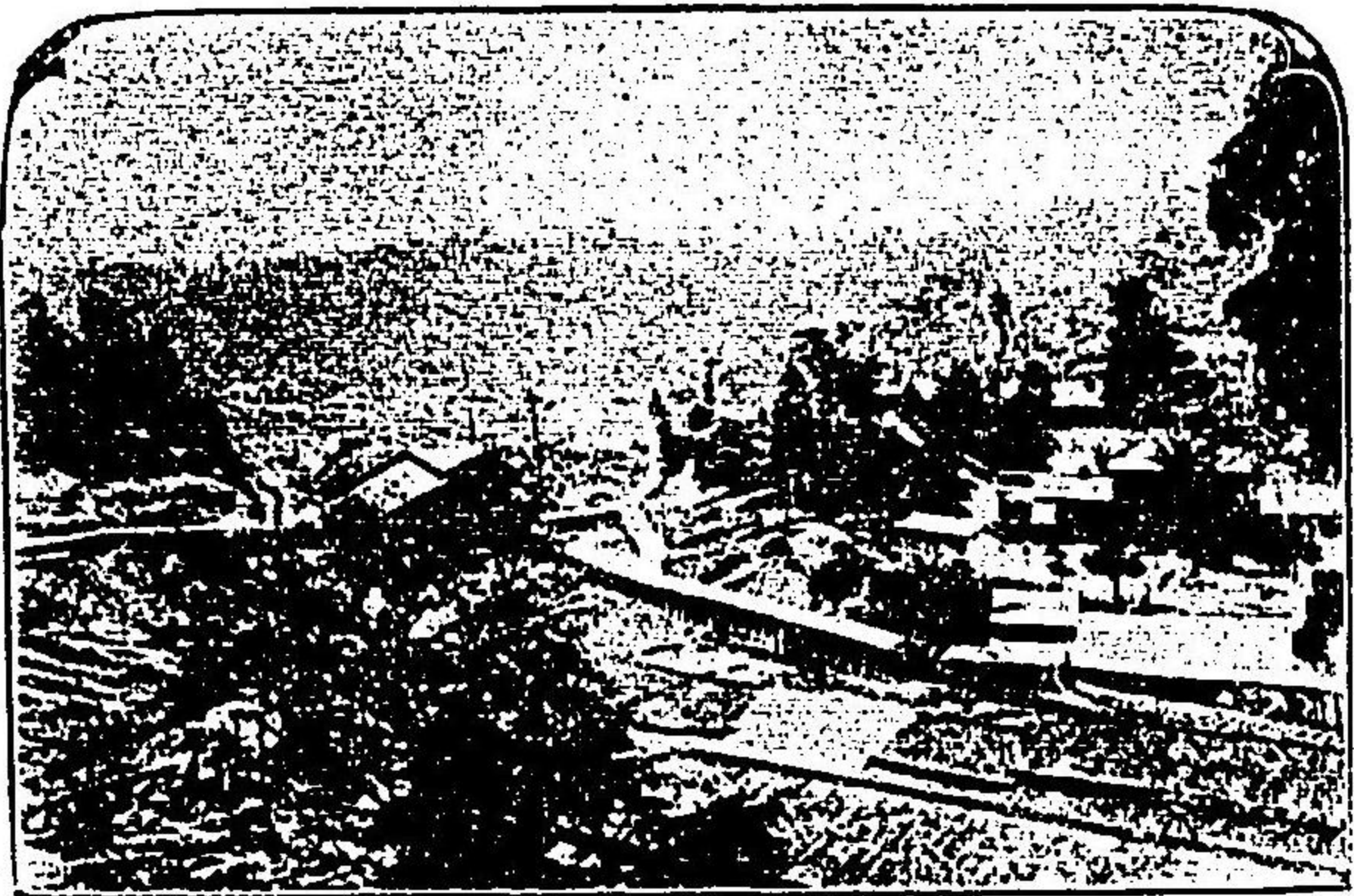
つきては再建、非再建論極めて盛にして今に至る迄解決せられず、此れ建築上の鑑識を有する藝術史家は實地踏査の結果當寺の建築の確かに推古時代に創立せられたるものなるを唱へ、史學を修むる専門の士は日本書紀天智紀九年の條に「夏四月癸卯朔壬申夜半之後に法隆寺に災あり一屋餘無し」とあるより、其罹災論を唱へ、此處に再建、非再建論の沸騰を見、確實なる資料の現出する迄は其問題の解決を見る能はざるに至れり、金堂内に收むる玉蟲厨子及橘夫人の厨子は建築學上又工藝史上貴重



(寺 隆 法)

なる参考品にして、五重塔内の壁面は和銅年間のもつと稱せられ本邦最古の壁面たり。

ほろないたんざん 幌内炭山 石狩國空知郡市來知村の東南一里三十町、有名な石炭坑ありて、毎年の産額二十萬噸以上に及ぶと云ふ、北海道炭鐵道市來知より此地に通ず。



(山 炭 内 幌)

まごのぼま 舞子濱 播磨國明石郡舞子停車場附近海濱の總稱にして、東四七八町、北は松山を負ひ、南は明石海峡を隔てて淡路島に對し、東は須磨浦に連り、西は明石浦に接す、此間一帯の砂濱にして、古松數千、千態萬狀、風光極めて佳なり。

まごのぼま 舞坂町 遠江國濱名郡濱名湖畔にあり、淡松の西方三里五町、



(濱 の 子 舞)

東海道五十三驛の一にして、又東海道鐵道の一驛たり、人口約四千、郵便局、郡役所、水産學校、總節製造所、養蠶所等あり、當町字辨天島に海水浴場あり、新に停車場を設けたり、當地の名物に鮎佃煮あり。

まいづるまち 舞鶴町 丹後國加佐郡の中央、舞鶴灣頭にあり、牧野氏三萬五千石の藩城下にして、古くは田邊町と稱す、人口八千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署あり、阪鶴鐵道攝津神崎より來りて新舞鶴町に至る、交通運輸の便多し、天の橋立遊覽は此地より汽船にて宮津町に至るを便とす、兩者の間僅かに一時間半にて達す。

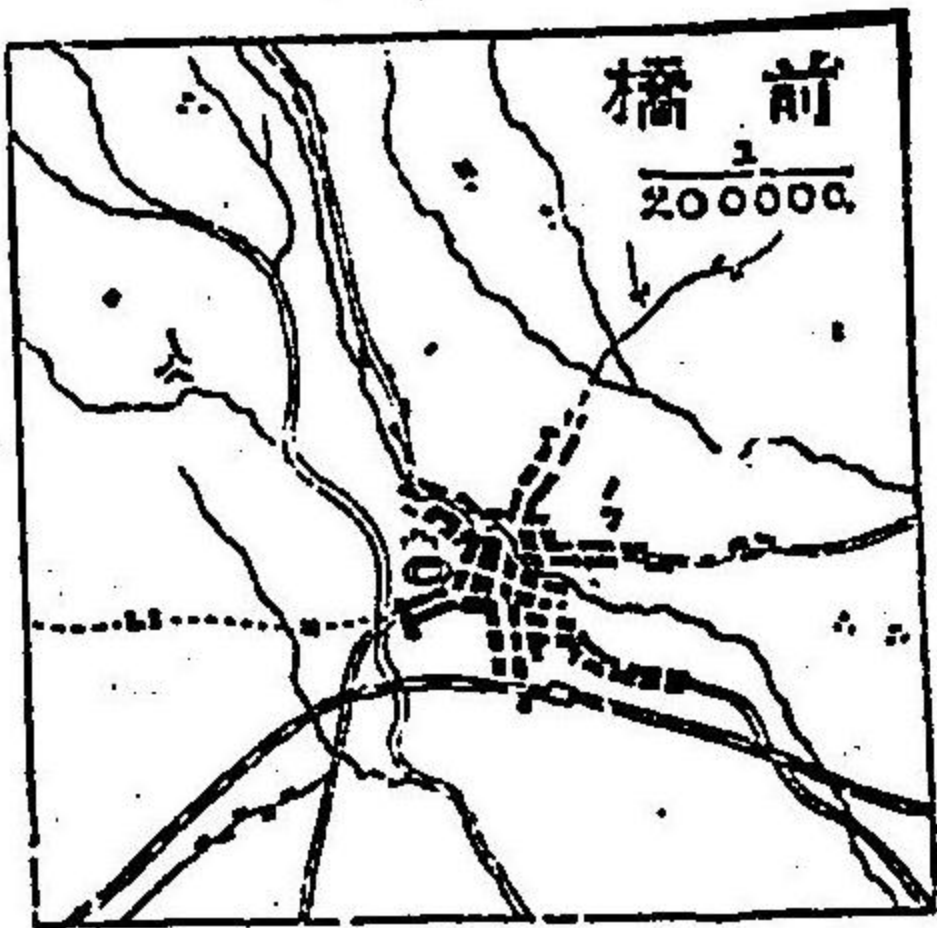
まいづるみなと 舞鶴港 丹後國加佐郡舞鶴灣頭舞鶴町の北海岸にあり、第四海軍鎮守府の軍港にして、東西一里南北二里、水深八仞二尺、北海中の良港たり、近時其市街を新舞鶴と命名し、阪鶴鐵道の最終點たり。

まいばらむら 米原村 近江國坂田郡八江村にあり、琵琶湖の東岸に位す、東海道鐵道は此地より北陸鐵道と聯絡す、此地も極めて微々たる一寒村なりしが、鐵道敷設せられ北陸線の分岐點となりてより俄かに勃興し、戶數五百、人口二千餘の小都會となるに至れり。

まえがだけ 前岳 信濃國上伊那郡の東隅にあり、甲斐國に跨る、高さ九千八百餘尺。

まきばし 前橋市

元厩橋と稱す、上野國高崎市の東北二里二十五町にあり、東京を距ること二十八里、中仙道兩毛鐵道線此地に連絡す、西に利根川を帯び、廣瀬川市街を貫流す、松平氏十七萬石の菑城下にして、群馬縣廳、市役所、地方裁判所、區裁判所、監獄署、警察署、郵便電信局、測候所、小林區署、稅務署、師範學校、中學校、其他病院、銀行、諸會社等あり、蠶業の盛地にして生糸の産出亦多し、前橋城址は市街の西にあり、もと長野氏の據る所にして、後上杉氏の有となり、東國の鎮城と爲ししより其名漸く著はる、徳川氏の世酒井忠重封を此地に受け三萬石を食む、子孫相つぎ、屢々増封あり、合せて二十一萬石となる、寛延二年姫路に移り松平直賢代り十六萬石を食みしが、明和四年利根川大洪水ありて城破壊し川越に移る、文久三年再興、舊封に復して明治維新に至る、今舊城内に群馬縣廳あり。



まかへまち 眞壁町

常陸國眞壁郡にあり、水戸市の西南

あり、一乗谷の北西にあたる、天正年間長谷川秀一の築く所にして其役後丹羽長秀の次子長昌代つて五萬石を領せしが、關ヶ原役四軍に與みして國除かれ、城亦廢す。

まぐさがはら 眞葛原

京郡圓山公園の古名。相模國鎌倉假粧坂、鎌倉扇谷より、西、深澤、梶原に出づる坂路にて源氏山の西北佐介谷の北なる小岳とす、新田駿貞鎌倉攻の時、此の所より押寄せ、上杉禪秀の亂にも亦此地に戦あり。

まはらまち 幕張町

下總國千葉郡にあり、人口五千餘、總武鐵道本所、銚子間の停車場あり、大字馬加には、馬加原胤の古城址存す。

ましくん 媽宮

(Ma-kung) 臺灣澎湖島の南西部にありて、澎湖列島の首府なり、人口二千餘、澎湖廳の所在地にして、警察署、憲兵屯署、測候所、病院、國語傳習所、稅關等あり、本地は軍事上交通上頗ぶる重要なる所にして、本島第一の良港なり、現今は要塞砲兵駐屯し、臺灣海峡を守備す、城の中央に澎湖廳あり、もと支那政府の建築せる所にして、結構壯麗なり、明治二十八年我國臺灣占領の際、此處に民政廳を開き、臺灣受領後臺南縣に屬して支廳を置き、次で澎湖島廳を置かる。

ましきこり 益城郡

肥後國にあり、今上下二郡に分る、明治十年四郷隆盛の軍敗れて入吉に走れる際、道を益城郡

十二里廿町、下館町の東南約三里、人口六千餘、一 署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり。

まがりのさこ 鈎里

近江國栗太郡治田村にあり、草津驛の東北一里、長享元年足利義尚、佐々木、六角の族徒を討伐せんがため此地に至り病に罹り陣中に歿す。

まきのおさん 槇尾山

山城國葛野郡にあり、榑尾、高尾と共に三尾山と稱せらる、楓樹は二山に比して、やや少なけれども、幽雅深遠の佳景は遙に勝れり、山腹に西明寺あり、平等心王院と號す、律宗にして眞言宗を兼ね。

まきのしま 槇島

山城國久世郡槇島村にあり、巨塚池と宇治川との間にして今は全く一洲となる、承久の役官軍の將足立源三左衛門此に向ふ、正親町天皇の天正三年足利義昭織田信長を討たんとして此地に據る。

まきのほら 牧野原

遠江國榛原郡金谷町の東、牧野原トシネルの上にある高原なり、古名を諏訪の原と稱す、武田勝頼の城址あり、明治維新の際、幕臣、ここに移りて、開拓に従事し、江戸紅葉山の東照公の木像をここに移して奉祀す。

まきむくやま 纏向山

大和國磯城郡三輪山の東北にあり、山上に若御魂神社を祀る、山麓に垂仁天皇纏向珠城宮及景行天皇纏向日代宮の菑址あり。

まきやまじょう 牧山城址

越前國足羽郡安原町の南に

に取る、今の下益城郡とす。

ましけまち 増毛町

天鹽國増毛郡の海岸にあり、増毛支廳の所在地にして、人口三千餘、警察署、郵便電信局、區裁判所稅務署あり、増毛港は其前面にありて、東西十二町、南北七町、水深二何乃至四何、其海岸は有名なる漁業區にして、漁船多く輻湊す。

まきだじんしゃ 眞清田神社

尾張國中島郡一宮町にあり、停車場を距る約六町、國幣小社にして、國幣立尊を祀る、當國の一の宮たり、毎年菫三月二日、三日の祭日には山車二輛を出し、市中を練

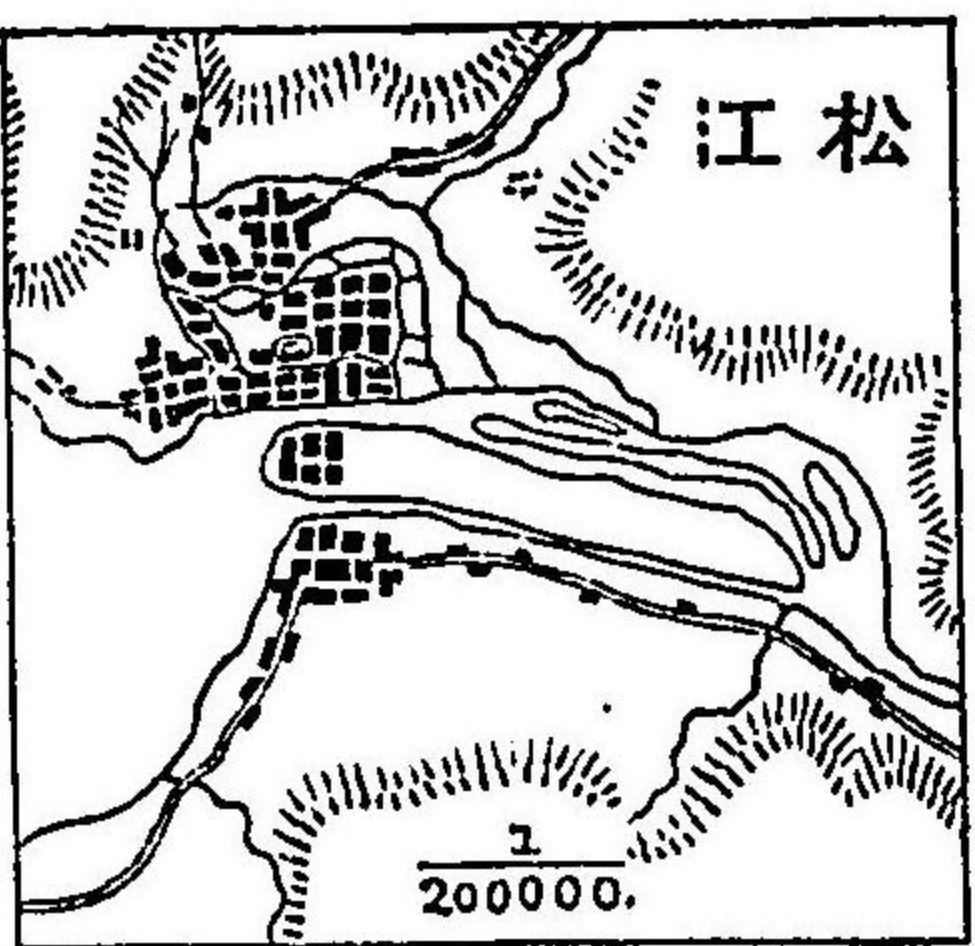
(社 神 山 清 眞)



行く、人形等の模様頗る奇観なり。

まつえし 松江市

島根縣廳の所在地にして、東京を距る二百二十一里(津山を経て)出雲國八束郡共道湖の東岸にあり、人口三萬五千餘、縣廳、市役所、警察署、郵便電信局、地方裁判所、税務署、小林區署、師範學校、中學校、女學校、商業學校等あり、此地は松平氏十八萬石の舊城下にして、城址は市の西北部にあり、慶長五年堀尾吉晴の築く所にして、千鳥城と稱す、寛永十二年京極氏封ぜられ、同十四年松平直政封ぜられ、世襲して維新に及ぶ、廢藩後廢城となり、天主閣のみ存し、今公園地たり。



200000.

まつおさき 松尾崎

淡路國津名郡岩屋町の西方にあり、淡路島の北端にして明石海峡の南角をなす、燈臺あり、不動白色光にして、其光りよく八溷に達すと云ふ。

まつおでら 松尾寺

大和國生駒郡にあり、郡山停車場を距る三十町、養老二年舎人親王の御願にして僧永業の開基と稱せらる、本尊觀世音菩薩は浴に厄除觀音と稱し、參詣者頗

隔れ、後上杉謙信亦當城を攻略せしこと史に見ゆ、天正年間柴田勝家、前田利家とともに此城を攻めしが本能寺の變あり軍を收む。

まつおかまち 松坂町

伊勢國飯南郡にあり、津市の南方四里二十二町、參宮鐵道は此地を過ぎて山田に達す、人口一萬三千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、税務署等あり、古來木綿の産地として知らる、又町の北二十町許に大口港あり、海運の便あり、城址は町の西方にあり、天正十六年蒲生氏郷の築く處、慶長五年關ヶ原役後、近傍十八萬石を紀伊家に賜ひ、紀州の所領として維新に及ぶ、有名なる本居宣長の故地にして、今本居神社あり、富家三井家亦此地より興る、殿町に公園あり、附近松坂十景の勝地あり。

まつしま 松島

日本三景の一にして、陸前國宮城郡松島灣内にあり、日本鐵道松島驛を距る東南一里許、灣中大小の島嶼數百あり、悉く松樹を生ず、桂島、野々島、寒風澤島、宮戸島等尤も大なり、島は悉く風波の爲に奇形を呈す、其奇觀眺望名狀すべからず、富山、大鷹嶽、多門山、扇溪の四所は之を松島四大觀と稱し、一眸の下に松島の全景を瞰下し、眺望雄偉を以て知らる、灣頭に瑞嚴寺あり、承和年間の創立にして伊達政宗の再興たり、政宗の像を祭る、瑞嚴寺の門前より少しく左方の水濱に一の離島あり、梯子橋を架して陸との連

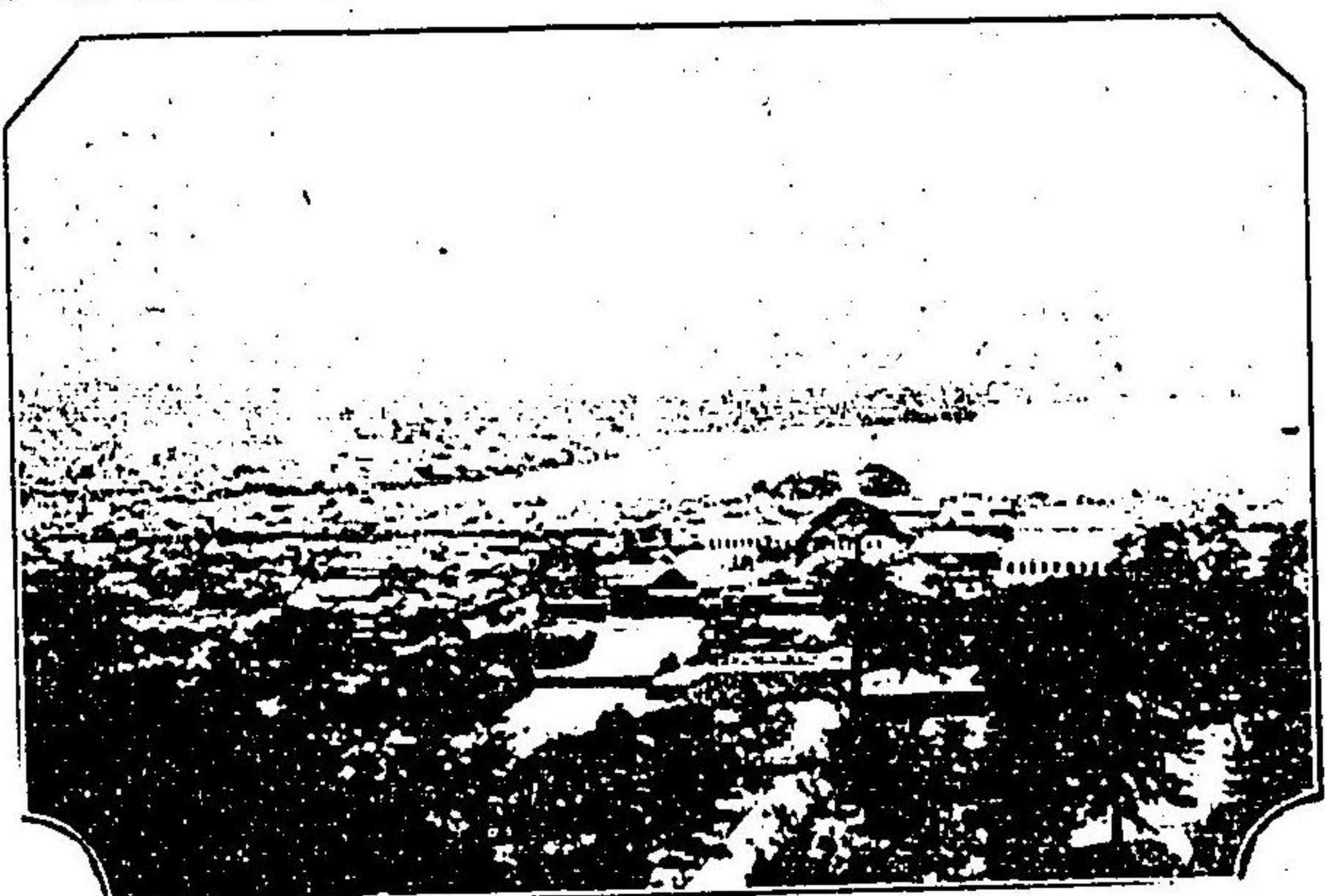
る多し。

まつかわつら 松川浦

磐城國相馬郡中村町の東北一里半相馬灣内にあり、長汀曲浦二里に渡つて白沙青松遠く連なり、東奥屈指の勝地たり、附近に原釜海水浴場あり、浦に十二景の勝あり、鶴の尾岬の眺望尤も雄大なり。

まつくら 松倉村

越中國下新川郡にあり、早月川の東邊なる山中にして魚津町の南二里餘、字鹿熊に松倉城址あり、椎名氏累世の居城地にして、天文年間長尾爲景其臣宇佐美定行とともに此地を攻めて城を



(街市江松)

(堂大五島松)



緒をつく、島上五大堂あり、五大尊を祭る、眺望尤も佳なり、寺門の右方海濱に觀瀾亭あり、もと月見の御殿と稱し、仙臺大守遊觀の處たり、傳へ云ふ蒲祖政宗、豊太閣より受領せる所にして菖桃山御殿の

一亭なりと。

まつしまわん 松島灣

陸前國宮城郡仙臺市の東北海岸にあり、南千賀浦より北磯崎に至る、東西百八町、南北九十町、灣中無數の小島ありて、松島の勝景をなす。

まつしんまち 松代町

信濃國埴科郡にあり、長野市の南

まつだ

方三里、人口七千餘、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、弘治年間武田晴信の城下となり、城を津城と云ふ、天正の頃松平忠輝の領となり、元和八年眞田氏の所領となり、世襲して維新に及ぶ。

**まつだいらむら 松平村** 三河國東加茂郡にあり、岡崎町の東北に位す、徳川家康の祖先代々居住せし地として有名なり、此地の高月院に松平親氏父子の廟あり。

**まつちやま 待乳山** (眞土山) 東京市淺草區淺草公園の東北方、聖天町隅田川畔にあり、東都雪見の名所にして、風光絶佳、丘上に聖天宮あり、大同年間の草創なりと云ふ。

**まつごまち 松戸町** 下總國東葛飾郡の西隅にあり、江戸川の東岸に位す、日本鐵道常磐線此地を通ず、千葉町を距る八里五町、市川驛へ一里十五町、人口五千餘、郡役所、郵便電信局、警察署、區裁判所、稅務署等あり、足利氏の末年北條氏綱、小弓義明を攻めんとして松戸の堤に軍議を凝らせること鴻臺戰記に見ゆ。

**まつごーまち 松任町** 加賀國石川郡金澤市の西南三里十町にあり、北陸鐵道の停車場にして、金澤市との間に鐵道馬車の設あり、人口六千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、稅務署等あり、停車場より約二町に城址あり、城は林光範の築く所、後備木、若林、丹羽等の諸氏を経て

字に分る、大字上山田に官幣大社松尾神社あり。

**まつのおやま 松尾山** 美濃國不破郡關ヶ原村にあり、永祿年間織田信長、不破先治をして此地を守らしめ、淺井、六角二氏に備へ、慶長五年關ヶ原役に小早川秀秋此處に陣し、徳川氏に内應し、其麓なる大谷吉隆の陣を撃ち大に西軍を敗る。

**まつみねまち 松峰町** 羽後國飽海郡最上川沿岸にあり、酒田町を距る四里六町、鶴岡町へ六里八町、酒井氏の支藩二萬五千石の菑藩地にして、もと松山と稱す、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり。

**まつもとだいら 松本平** 信濃國東筑摩郡松本町附近、即ち犀川の峽谷中にある平野を云ふ。

**まつもとまち 松本町** 信濃國東筑摩郡にあり、長野市の南方十六里三十三町、もと戸田氏六萬石の菑城下にして、人口三萬三千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、測候所、稅務署、中學校、高等女學校等あり、官鐵篠井線長野より

まつ



(城 本 松)

近江より來住す、寛永十一年久松定行十五萬石に封ぜられ、世襲して維新に及ぶ、廢藩後一時公園たりしが、後陸軍省の

まつ

四一

まつ

慶長年間前田氏の領となり、爾來金澤藩に屬して維新に及ぶ。

**まつのおじんじ**

**松尾神社**

山城國葛野郡松尾村大字上山田の南、松尾山下にあり、官幣大社にして大山咋神及市杵島姫神を祀る、二十二社の一にして、社記によれば大寶年間の創立にして、元明天皇の和銅年間賀茂より遷し奉つれるものなりと、末社に三宮、四大神社等あり。



(社 神 尾 松)

**まつのおむら 松尾村** 山城國葛野郡にあり、松尾山あるを以て此名起れりと、上山田、下山田、松尾谷、松室御陵の五大

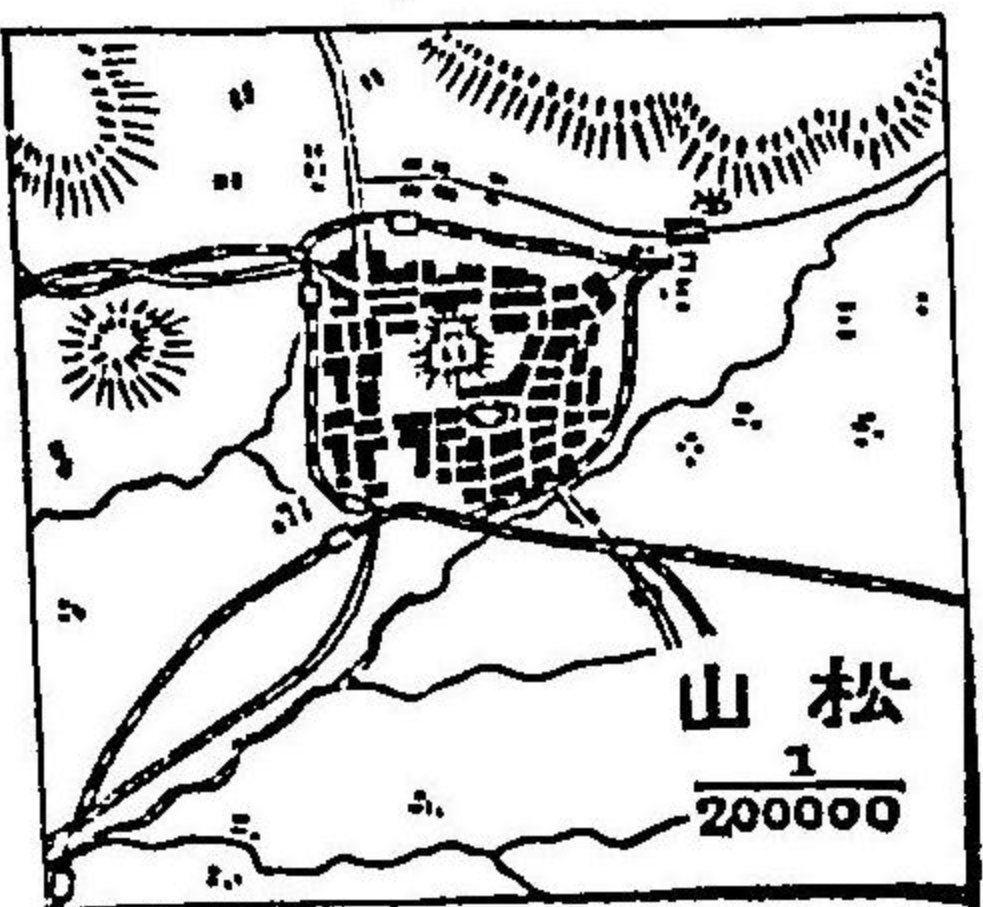
來り、鹽尻に至り中央東線に合し諏訪及甲府を経て東京に通ず、此地はもと信濃國府のありし處にして、一に信府と稱す、又深志及庄内とも云ふ、戰國の頃、ここに深志城あり、小笠氏の居城たり、其後戸田氏の有となり、世襲して維新に及べり。

**まつやまし 松山市** 愛媛縣瀧の所在にして、東京を距る二百三十七里、伊豫國温泉郡にあり、伊豫鐵道此地より起る、中央に城址あり、其西北を古街と云ひ、東南を外側と云ふ、人口三萬七千餘、縣廳、市役所、警察署、郵便電信局、地方區裁判所、稅務署、大小林區署、師範學校、中學校、女學校及少兵第十旅團司令部、歩兵第二十二聯隊等あり、此地久松氏十五石の菑城下にして、城址は市の中央にあり、慶長八年加藤嘉明此地二十萬石に封ぜられ、當城を築きて居住す、後加藤氏會津に移るに及び、蒲生氏

所管となり今松山分營の營所たり。

まつやままち 松山町

●武蔵國比企郡にあり、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、税務署等あり、市野川を隔て松山城址あり、米廩の跡と稱する所あり、今猶ほ焦米



を出す、應永年間上杉氏の將上田某の築く所にして、後上杉北條の有に歸せしが、豊臣秀吉小田原攻の時、攻略せられ、慶長年間廢城となる。●大和國宇陀郡の西南隅、高倉山の東麓にあり、人口二千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、税務署等あり、町の東に城址あり、天正中多賀氏築く所にして元和中織田氏の有となりしが、元祿年間丹波に移るに及び廢城に歸す。

まつらがた 松浦潟

肥前國東松浦郡唐津町前面の海を云ふ。

まつらがわ 松浦川

肥前國にあり、源を杵島郡後島山の西麓に發し、北流松浦郡に入り、諸水を合して西北流、唐津町を経て海に入る、流域十里、一に唐津川とも云ふ。

正八年豊臣秀吉征西の際兵火に罹り、堂塔悉く燒失せり、後再築せられたるものは、即ち現今の堂にして境内百六十坪、伽藍略は備はる、毎年陰曆六月廿六日より三日間會式ありて賽客群集す。

まののいりえ 眞野入江

佐渡國眞野灣の別稱。

まのわん 眞野灣

佐渡國の西南、相川町の東南にあり、城ヶ鼻突出して、田切須岬と相對し、以て眞野灣口をなす、一に眞野入江とも云ふ、灣頭、眞野宮あり、順徳天皇を奉祀す。

まへがわ 馬淵川

(馬部地川) 陸奥にあり、源を陸奥國二戸郡の西北隅山中に發し、東北流して、陸中九戸郡より東流せる川と合し、屈曲北流して三戸郡に入り、鹿原、相内の二川を合せ、東北流して八戸港に入る、流域二十五里。

まま 眞間

下總國東葛飾郡市川の東北にあり、萬葉集に見えたる眞間の入江、又眞間織橋の古蹟なり、此處に日蓮宗に屬する弘法寺あり、今は紅葉の名所として、秋日杖を曳く者多し、慈圓法師の「勝鹿や昔のままの織橋を、わすれずわたる春霞かな」加藤千陸の「今も猶忍びぞ渡るなとめ子が、通ひ馴れけん眞間の織橋」等皆此地につきて詠めるなり。

まんか 船舁

(Banka or Munga) 臺灣臺北府の一部にし

まつらごう 松浦五島

肥前國の西方海中にあり、南松浦郡を爲す、大小四十餘の群島より成る、其中福江、中通、若松、奈留、久賀の五島尤も大なり、依て五島列島、又只に五島とも稱す。

まにでら 摩尼

肥前國「ひれふるやま」の別稱。

美郡中の郷村大字覺寺村にあり、摩尼山麓に位す、島取市を距る東北五十町、天台宗にして帝釋天を本尊とす、寺傳によれば仁明天皇の御宇慈覺大師の創立にして中世頗る盛なりしが、天



(寺 尼 摩)

て、臺北城の西門外に連る、市街清潔商業繁盛なり、一に西街と稱す、人口二萬三千餘、郵便電信局あり、龍山寺の名、世に顯る。

まんせいばし 万世橋

東京市神田區須田町より外神田への出口にして神田川に架する石橋なり、もと筋違橋と稱せしが、石橋に改造以來萬世と改む、又眼鏡橋とも云ふ、近時電車鐵道の敷設以來、新に改築して萬世橋と稱す、筋違は其ままに存す、(不日撤去せらるべし)、此地各電車の交叉點にして四通八達人馬の絡繹織るが如く又近き將來に於て甲武鐵道停車場を設くるの設備成れりと。

まんたいばし 万代橋

越後國中蒲原郡新潟市より、沼垂町に至る要路、信濃川に架したる長橋にして、其長さ四百三十間あり、明治十九年架設せるものとす。

まんだのいけし 茨田池址

河内國北河内郡九個莊村池田と友呂岐村平池石津の間にある低田は其遺址なりと稱せらる、皇極天皇の二年池水異變多かりしこと、日本書紀に見ゆ。

まんのーのいけ 萬農池

(滿濃の池) 讃岐國仲多度郡の南部、琴平町の東南方一里眞野村にあり、周囲二里三町、金藏寺川の水源たり、弘法大師村民の旱魃に苦しむを憐みて此池を修理せしこと今昔物語に見ゆ、池堤に滿農神社あり、池



神を奉祀す。

**まんぶくじ 萬福寺** 山城國宇治郡宇治村にあり、黃藤宗の總本山にして、明の僧隆元和尙開基たり、寺は寛文元年の建立にして、精舎の經營多く唐風に摸す、寺域七萬七千餘坪城南第一の巨刹たり、寺寶多く、境内黃藤山十二景の勝あり。

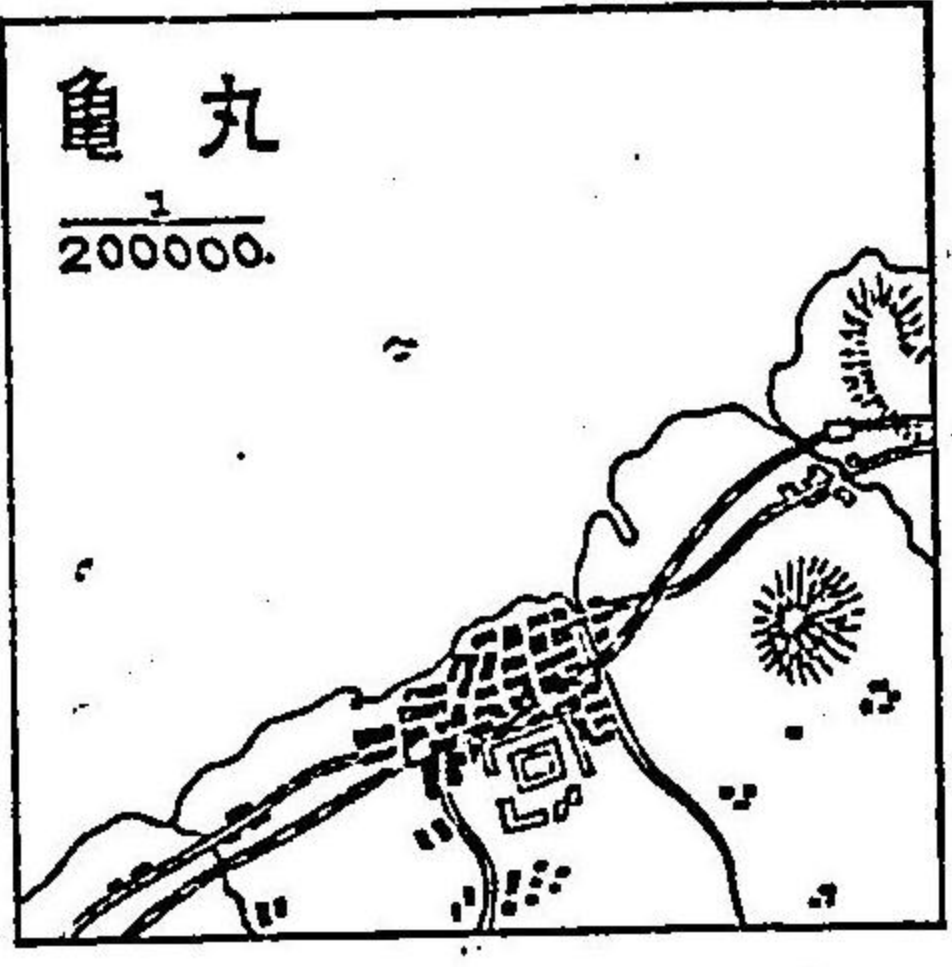
**まめだまぢ 豆田町** 豊後國日田郡にあり、大分町を距る二十里許、人口約五千、郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局等あり、有名なる儒者廣瀬淡窓の生地として知らる。

**まささん 摩耶山** 攝津國武庫郡再度山の東方にあり、高さ二千百尺、都賀濱村大字上野より登り十八丁にして、山頂に達す、山に眞言宗天上寺あり、大化元年法道上人の開基と稱せらる、山上の風景雄大にして夏時避暑登山の客多し。

**まるおかまち 丸岡町** 越前國坂井郡にあり、福井市の北三里餘、人口約四千、有馬氏五萬石の舊城下にして、北陸鐵道の停車場あり、町の東隅に舊城址あり、一に霞ヶ城といふ、天正年間織田信長、柴田勝豐をして築城せしめたる所なりと云ふ、關ヶ原役後越前家の有となり、老臣今村、木多の兩氏相尋で領有せしが、元祿年間除封せられ、有馬氏之れに代

り五萬石を食み、子孫世襲して王政維新に至る、廢藩後廢城となりしが、今尙天主閣を存す。

**まるがめし 丸龜市** 讃岐國仲多度郡の北岸にあり、山陽鐵道讃岐支線此地を経て琴平町に通ず、人口二萬八千餘、市役所、郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局、稅務署、中學校、女學校、及歩兵第十二聯隊あり、花籃、籠細工、團扇、圓座等の産あり、此地京極氏五萬石の舊城下にして、城址市の中央にあり、寛永十八年山崎家治の修築する處、萬治元年京極高知



此地六萬三千石に封ぜられ、世襲して維新に及ぶ、廢藩後陸軍省の所管となり、歩兵第十二聯隊の營所たり、今城樓城門城濠を存す、丸龜港は市の北面にあり、水深一仞乃至二仞、もとは讃岐風指の碇泊地にして船舶の出入極めて多かりしが、近時年々水淺くなり、汽船と雖も一里餘の沖に碇泊せざるべからざるに至り、其繁榮悉く多度津港に移る。

まるやまがわ 圓山川 但馬國「あまがわ」の別稱。

み

**みいけまち 三池町** 筑後國三池郡大牟田の北方にあり、人口六千餘、郡役所、警察署、稅務署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、此地もと柳川藩に屬し、肥後街道の要路たり、古くは三毛と稱す、此地の南、三池山の西に有名なる三池炭山あり、石炭の産多く、其額日に千噸以上ありと云ふ、明治六年政府初めて此れが採掘に着手せしが、近時三井家の所有となる。

**みいでら 三井寺** 天台宗寺門派の本山にして、近江國大津市の西北長等山の麓にあり、圓城寺と稱す、大友興多王の開基にして、智證大師の再興と稱せらる、初は天台眞言の二宗を奉じたりしが、後天台宗のみ存したり、中世延暦寺と相疾惡し、屢々火災破毀に遇ふ、治承四年以仁王に與みして平氏の爲めに伽藍は焼かれ山僧は殺戮せられ、大慘害を破れること史に見ゆ、延元元年足利、新田の兩軍此地に戦ひ寺塔兵火に罹れること太平記に見ゆ、其他火災破毀に遇ふこと殆んど十回、蓋し稀有の一例たり。

**みのくわんのん 三井觀音** 近江國大津市宇神出村にあり、三井寺の後方二町許の高丘の上にあり、西國巡禮第十四

ん 圓山公園

京都市東山の麓、東大谷の邊にあり、古への眞葛ヶ原にして、樹木蒼鬱其間に茶店あり、正面石階を登れば圓山礦泉湧あり、樓上の眺望極めてよし、殊に雪且月夕を第一の眺めとなす、此地に有名なる祇園の夜櫻あり春時遊覽の客多し。



(圖 公 山 圓)

番の札所にして、後三條天皇の延久年間の創建と稱す、もと中院にありしが、文明年中今の所に移せるなりと。

みまやこー三厩港 陸奥國津輕

半島の北端、三厩灣頭にあり、東西一里二町、南北十五町、水深十仞、北海道へ渡航する要津たり、此地三厩石の奇景あり。

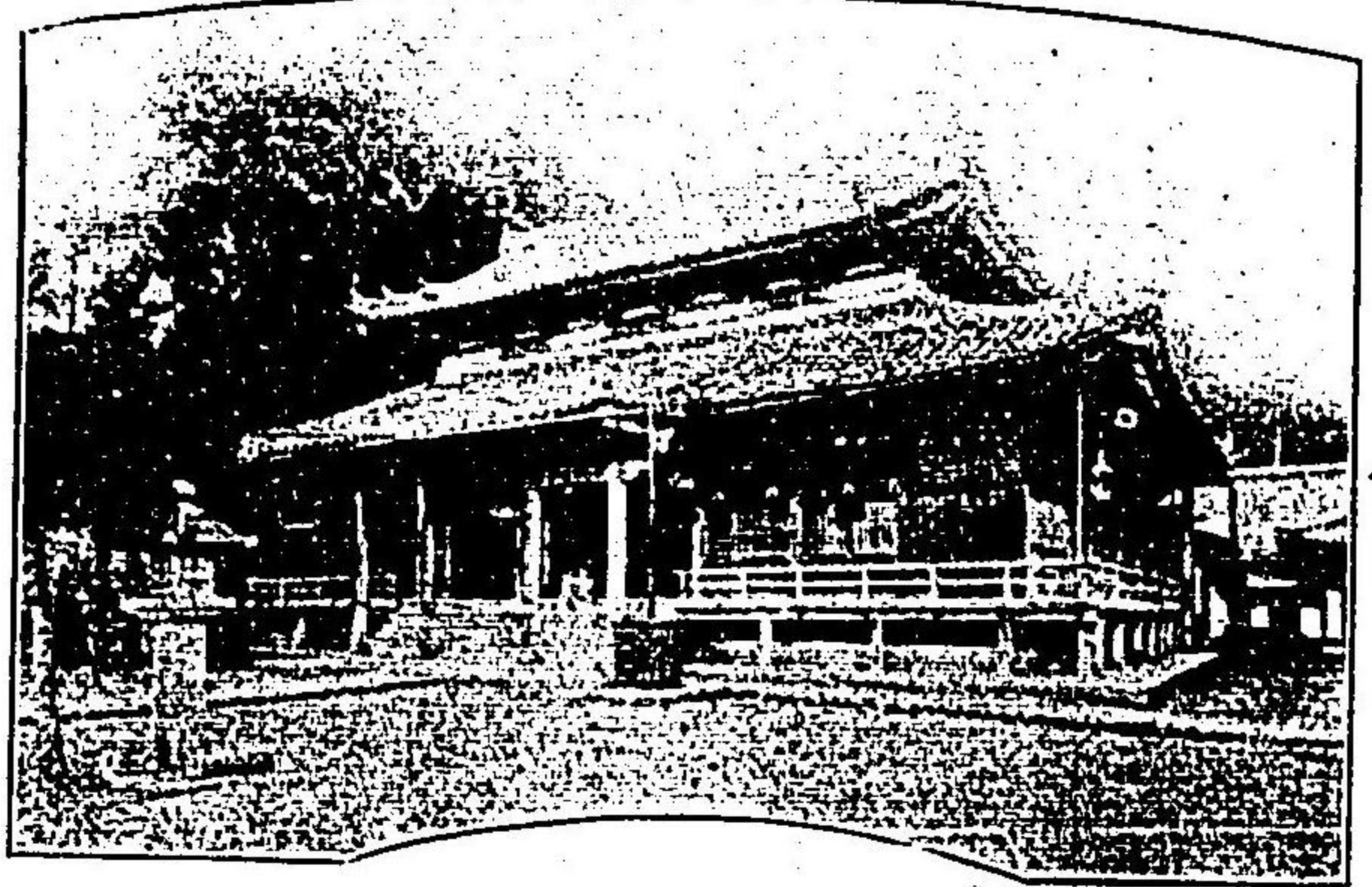
みえけん三重縣 縣廳は津市にあり、伊賀、伊勢、志摩一圓及紀伊の内

南牟婁、西牟婁二郡を管す、面積三百六十八方里五五、二市十五郡十七町三百二十七村より成る。

みえーどー御影堂 京都市下京區

五條橋の四方にあり、眞言宗にして、新善光寺とも云ふ、天長年間檀林皇后的祈願により建立せられ、もと東洞院三本木にありしを、天正年中今の地に移せり、當寺の僧侶扇を折りて樂となす、今に御影堂扇と稱して京都名産の一なり。

みおもてがわ三面川 越後國にあり、源を岩船郡三面村の山中朝日嶽に發し、西流して瀨波港に入る、長さ約十里、



(寺 井 三)

は引間野と稱す、元龜三年武田信玄、徳川家康の古戰場として有名なり。

みかたのこ三方湖 若狹國三方郡の北部にあり、東西二十

流れ小なれども、鮭の産多く、上流なる三面村は平家の落人の籠りし處なりと云ふ。

みかさやま三笠山 大和國奈良市

の東方、春日神社の後方に聳つ、春日五峰中最も低く、海面上僅かに九百餘尺にすぎず、滿山樹林鬱蒼として、山容、笠の如くなるを以て「御蓋、又御笠」と名け、遂に三笠となれるならんか、有名なる阿部仲麻呂の「あまの原ふりさけ見ればかすがなる、三笠の山に出でし月かも」の詠は尤も人口に膾々たる所とす、近時其隣嫩草山の山姿雄麗なるより俗に三笠山と稱す。

みかたがはら三方原 (三形ヶ原)

遠江國の西南、濱名湖の西方にあり、引佐、濱名二郡に亘る、東西三里、南北二里面積九千三百三十町餘、古く

みかみじんじや 御上神社 近江國野洲郡三上村にあり、三

上山の麓に位す、野洲町を距ること約二十八町、郷社にして天之御影命を祀る、養老年間の創建にして、延喜式内の一社たり、文明年間兵燹に罹り、本社、拜殿、樓門を除くの外悉く焼失せしが、天文中六角氏之を再興せりと、前記の本社、拜殿、樓門は今特別保護建造物に編入せらる。

みがみやま三上山 三河國南設樂郡にあり、天正三年五

月織田、武田兩氏長篠に戦ふや、信長此山に布陣せり。駿河國富士山の別稱。近江國野洲郡の西南部にあり、東鏡山に接し、南岩根山に續き平野の中に屹立す、高さ一千二百尺、近江富士の別稱あり、昔時藤原秀郷が百足退治の俗傳存す、古來詠歌多く、拾遺集に「千早ふる三上の山の榊葉は、さかえぞまさる末の世まで」と、千載集に「ときはなる御神の山の杉村や、八百よりづ世のしるしなるらん」、夫木集に「萬代の三上のやまのひびきには、野洲の川水すみぞあひける」等其他多し。

みかわ三河國 東海道十五國の一にして東遠江に西尾

張に、北信濃美濃に、南海洋に瀕す、地勢山嶺多く高低不同國を分て瀨美、八名、寶飯、額田、碧海、南設樂、北設樂、幡豆、東加茂、西加茂の十郡となし、愛知縣下に屬す、上古は遠

江と一國にして遠淡海國と稱せしが、後兩國を割て此國を置く、三河の名は豊川、矢作川、大平川あるを以てなりと云ふも詳かならず、鎌倉幕府の初、源範賴暫く國守に任ぜられしが、後安達盛長當國の守護となる、足利氏の世、吉良、一色、今川、仁木、細川の諸氏此に起る、天文年間今川義元駿河より來りて當國を征服せしが織田信長の滅す所となる、徳川家康次で起り全國を平定し、豊臣秀吉東征の後關東に移り、池田氏吉田に、田中氏岡崎に封ぜられしが、關ヶ原役後復徳川氏の有となり、親藩及譜代の臣に各地を分與し、岡崎、四端、刈谷、吉田、西尾、豊母、西大平、田原の入藩を置く、廢藩後岡崎に額田縣を置きて全國を治めしが、明治五年廢して愛知縣に合す。

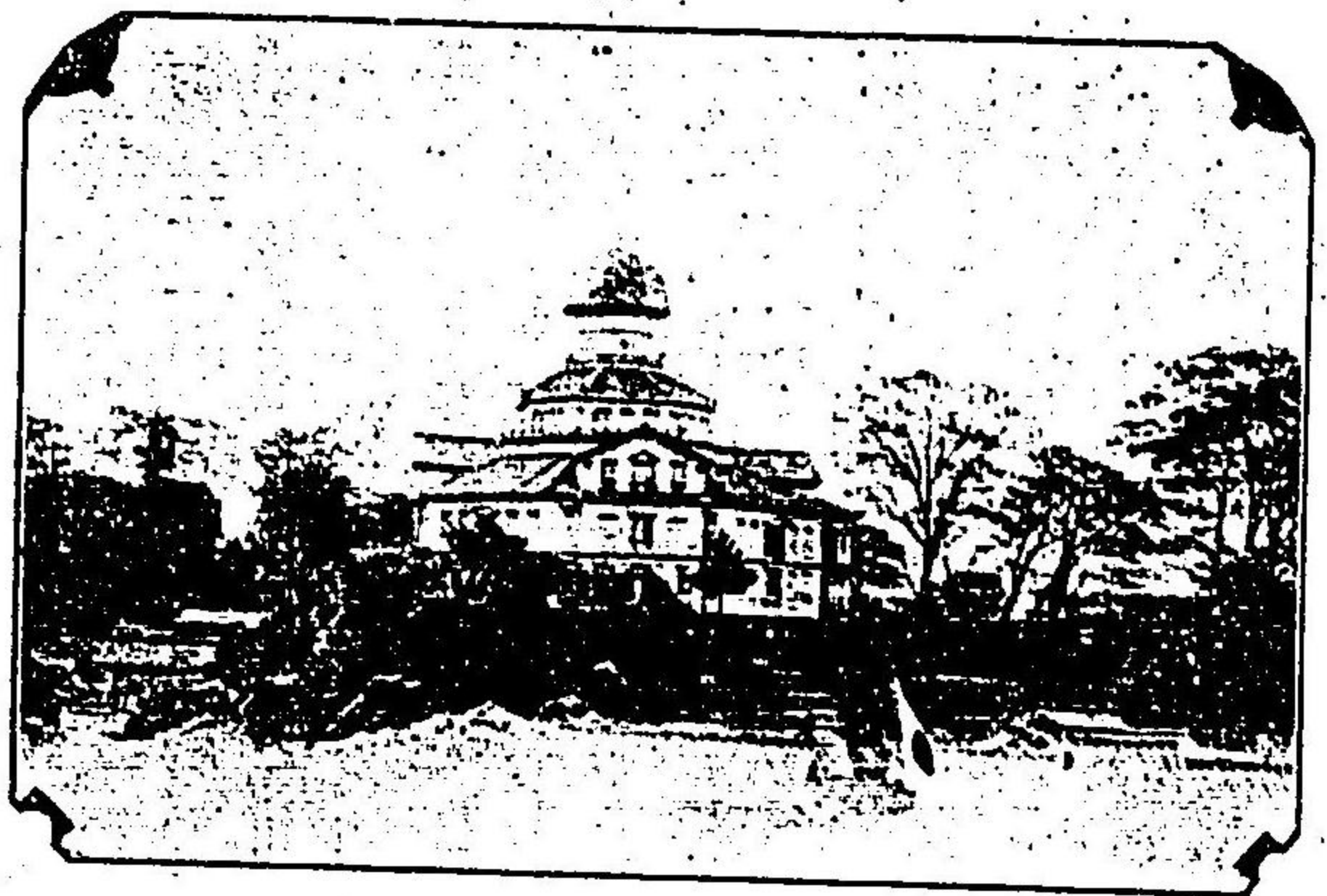
みきまち三木町 播磨國美郷郡にあり、三木川其北を流

れ、明石町を距る四里半、人口五千餘、當郡第一の名邑にして郡役所、警察署、郵便電信局等あり、又物の産地として名あり、此地に三木城址あり、一に釜山の城といふ、應仁年間赤松氏の將別所長則の居城たり、天正年間其子長治毛利氏に通じ、織田氏の將羽柴秀吉の攻略する所となる。

みくにさんみやく三國山脈 樺太山系に屬する山脈にし

て、岩代尾瀨峠の西より西南に向ひ、淺間山の北西、吾妻山の邊に至る、其主なる山岳は、入岩嶽、苗場山、吾妻山等にし

(三 國 小 學 校)



電信局、區裁判所、稅務署等あり、此地は當國中の名邑にして、繼體天皇を祀れる三國神社あり、川によりて運輸の便よく、市街稍繁盛なり。

**みくにみま** 三國港 越前國坂井港の別稱。

**みくらじま** 御藏島 伊豆七島の一にして、下田港の東南三

て、此を越ゆる山道には清水越、三國峠、澁峠等あり。

**みくにま** 三國町 越後國坂井郡安居川口にあり、もと坂井と稱せり、人口一萬餘、福井市を距る五里三十町、敦賀町へ二十里三十町、郡役所、警察署、郵便

十里、三宅島の南方四里十八町の海上にあり、島中中里の一村落あり、戸數七十二戸、人口三百餘あり。

**みくりにし** 御厨庄 駿河國御厨町の舊稱。

**みくりやまち** 御厨町 駿河國駿東郡にあり、古くは御厨庄と云ふ、東海道鐵道は相模より來りて御厨場に停車す、人口六千餘、警察分署及區裁判所出張所、郵便電信局等あり、御來屋町 伯耆國西伯郡にあり、美保灣の東角に當る、人口一千餘、郵便電信局、區裁判所出張所あり、此地は元弘三年後醍醐天皇、隱岐國より逃れて、來着し給ひし處として知らるるも詳かならず。

**みさかど** 御坂峠 甲斐國東八代郡黒駒村より、南都留郡川口村に至る要路にあり、高さ五千三百餘尺、河口湖の北に聳え、坂上富士山を望み、風景宜し。

**みさきまち** 三崎町 相模國三浦郡三浦半島の南端にあり、西相模灘に臨み、前面に城ヶ島横はり、其間港灣をなす、人口九千餘、郵便局、區裁判所出張所あり、漁業の盛地にして、東京との間に日々汽船の往復あり、小田原の盛時、里見北條兩氏の古戰場たり、文化五年幕府此地に砲臺を設く、沿岸風景太佳、近年避暑客來遊するもの頗る多し、此地古くより知られ、東鑑に三崎山莊、三崎御所などあり、賴朝及實朝屢々來遊せしこと見ゆ、三崎城址は町の北方にあり、今城山と云

ふ、何時頃の築城なるや知れざるも、永正の頃三浦道寸の居城たり。

**みまおんせん** 三朝温泉 伯耆國東伯郡三朝村にあり、泉質炭酸泉にして浴客常に群集す。

**みしまえ** 三島江 攝津國三島郡澁川沿岸の地、今の三個牧村の邊にして今三島江の大字を存す、此邊中世に御料の牧

なりしと云ふ、古へ、真珠、青等に名高く、古歌多し、萬葉集に「三島江の入江のこもかりにこそ、われをば君は思ひたりけれ」公任卿集に「思ひしるうみみしま江の水なれば、ゆけさもゆかぬ心地こそすれ」。

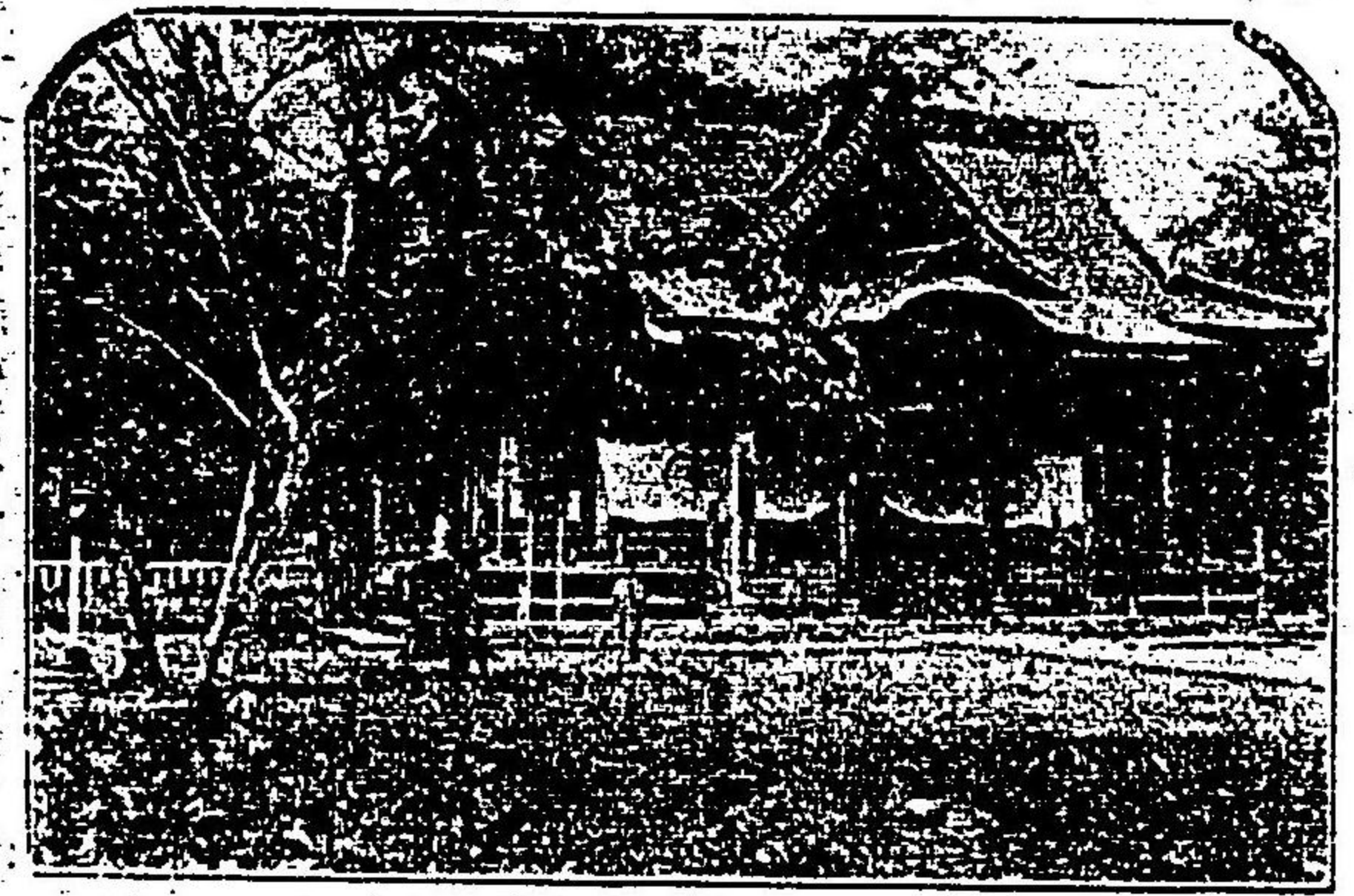
**みしまじんじ** 三島神社 伊豆國三島郡三島町にあり、官幣大社にして、大山祇命を祀る、古來風雨の神として尊崇せ

らる、社殿壯麗にして東海中熱田神宮に亞ぐの大社と稱せらる、毎年八月十六日大祭を行ひ勅使の參向あり、又一月六日には御田打祭を執行す。

**みしまち** 三島町 伊豆國田方郡の西北、箱根山下、駿河國境附近にあり、元國府のありし處、東海道五十三次の一驛にして今は東海道鐵道の一驛たり、又互相鐵道此地より分れて大仁に至る、人口九千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所あり、官幣大社三島神社の所在地として知らる、近郊に鹽竈あり。

**みすみせん** 三角線 九州鐵道の支線にして、肥後國宇土郡より起り、三角港に通ず、延長十五哩二十六鎮あり。

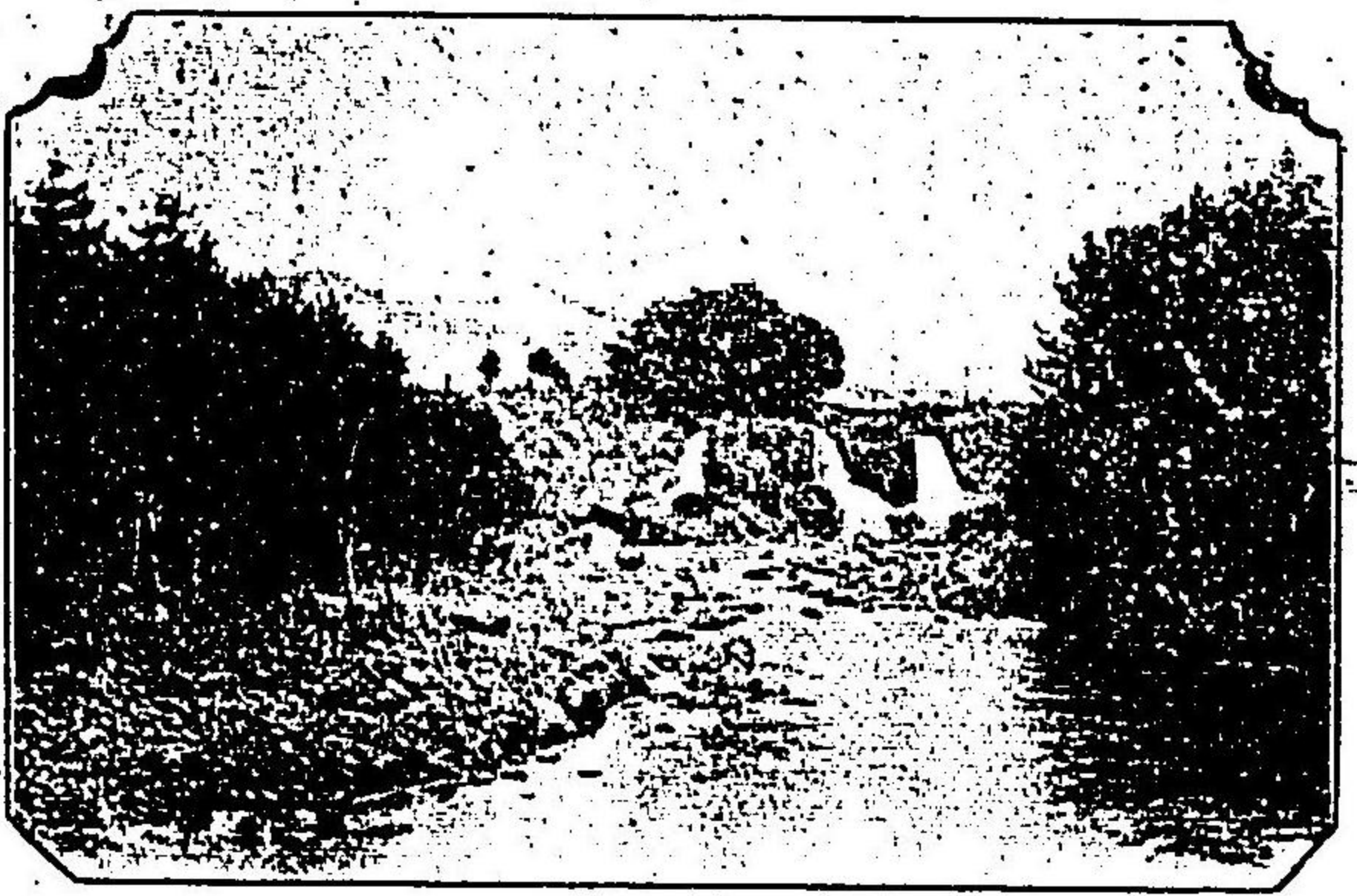
**みすみな** 三角港 我國開港場の一にして、肥後國宇土郡宇土半島の岬端三角村にあり、鐵道は宇土より此地に通ず、村に警察署、郵便電信局、區裁判所、稅關支所あり、港は其西面にありて、港域廣く水深く自然の良港たり、此地もと荒涼たる漁村にすぎざりしが、近年港を開きて開港場となし、九州鐵道此地に開通せし以來、海陸運輸の便多く市街俄かに隆盛となれり、此地又北に筑



(三 島 神 社)

みせん

(三島近傍藍の瀧)



紫海を隔てて島原半島を望み、南天草津を隔てては天草島と相對し、風景頗る佳なり。

みせん 彌山

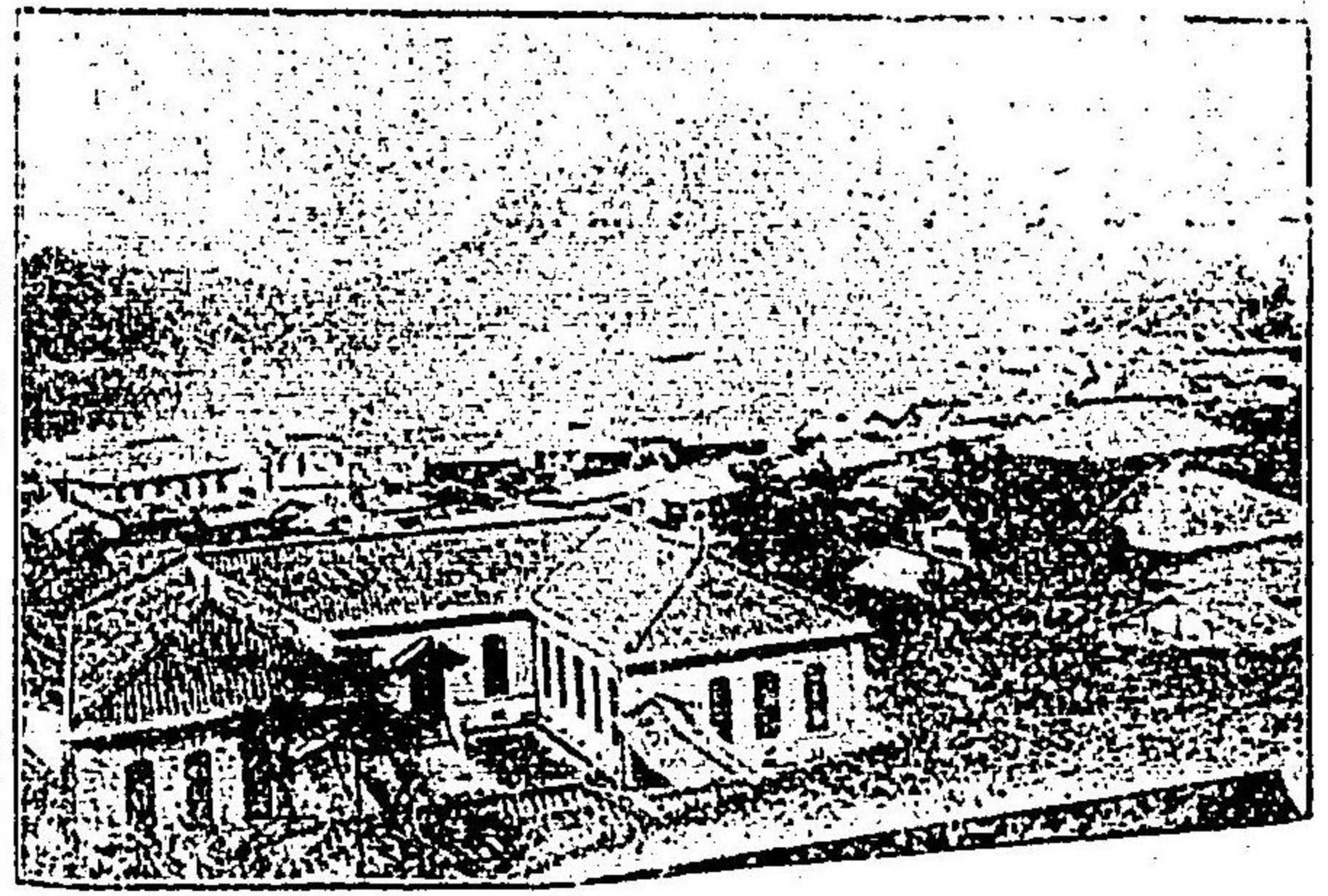
●紀伊山脈に屬す、大和國吉野郡の中央にあり、櫻迦岳北方に聳ゆ、高さ六千三百餘尺、吉野村大字吉野

山より十二里。●安藝國佐伯郡嚴島の北東に聳ゆ、一に御山と呼ぶ、高さ一千三百餘尺、登路十八町にして頂上に達す、山上の眺望廣潤にして、嚴島の全景一眸の中に入り風景極めて佳なり。  
みたけまち 御嵩町 美濃國可兒郡にあり、もと御嶽に作

みたじ

四五〇

(三 角 港)



る、中仙道の一驛にして岐阜市の東十二里、人口二千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、中學校等あり。  
みたじりむら 三田尻村 周防國佐波郡の南端、三田尻町、三田尻、新田、野島の總稱、山陽鐵道此地を通す、人口一萬餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所等あり、此地は昔時毛利氏の船廠を置きし處、今は鹽田ありて、良鹽の産多し、三田尻港は其東面にあり、東四二十一町、南北二十八町、水深五仞、向島南面に散在して風波を遮る、瀬戸内海航行の要津たり。

みたらしかわ 御手洗川

山城國愛宕郡下賀茂にあり、賀茂社頭より流れ、糺河原を通過して賀茂川に會す、其水清く、夏日避暑の好適地となす。

みつがはままち 三津濱町

伊豫國温泉郡松山市の四方一里十七町にあり、伊豫鐵道此地に通す、人口約八千、警察署、郵便電信局あり、竹細工の産多し、又毎朝魚市を開く、其繁昌四國第一と稱せら。

みつがはまなご 三津濱港

伊豫國温泉郡三津ヶ濱町の前面にあり、奥古島其前に横はりて由良灣をなす、港は此灣中にあり、水深からざれども瀬戸内海航行の要路に當り、特に松山市の埠頭たるを以て船舶の出入多し。

みつぎむら 水城村

筑前國筑紫郡にあり、古鎮西府の遺址にして大野村の南、御笠川の兩岸に跨る、同村大字水城に水城址あり、天智天皇の三年外寇に備へん爲に築かれたるものにして、天平神護年中太宰少貳淨庭をして修



(太宰府水城)

みつさわまち 水澤町

陸中國膽澤郡にあり、北上川の西岸に位す、國道の要衝に當り、日本鐵道の一驛たり、人口約八千、郡役所、警察署、郵便電信局及び其他の諸官衙會社等あり、此地もと仙臺藩の家老伊達將監の居館の地たり、町の南端に公園あり、風景頗る佳にして高野長英の碑あり。

みつしまなだ 水島灘

備中國淺口郡の南海を去ふ、東方に兒島半島斗山し、南方には鹽飽七島散在し、北方には北白石、北木島ありて之を限る、昔時源平海戦の古戰場として有名なり。

みたら

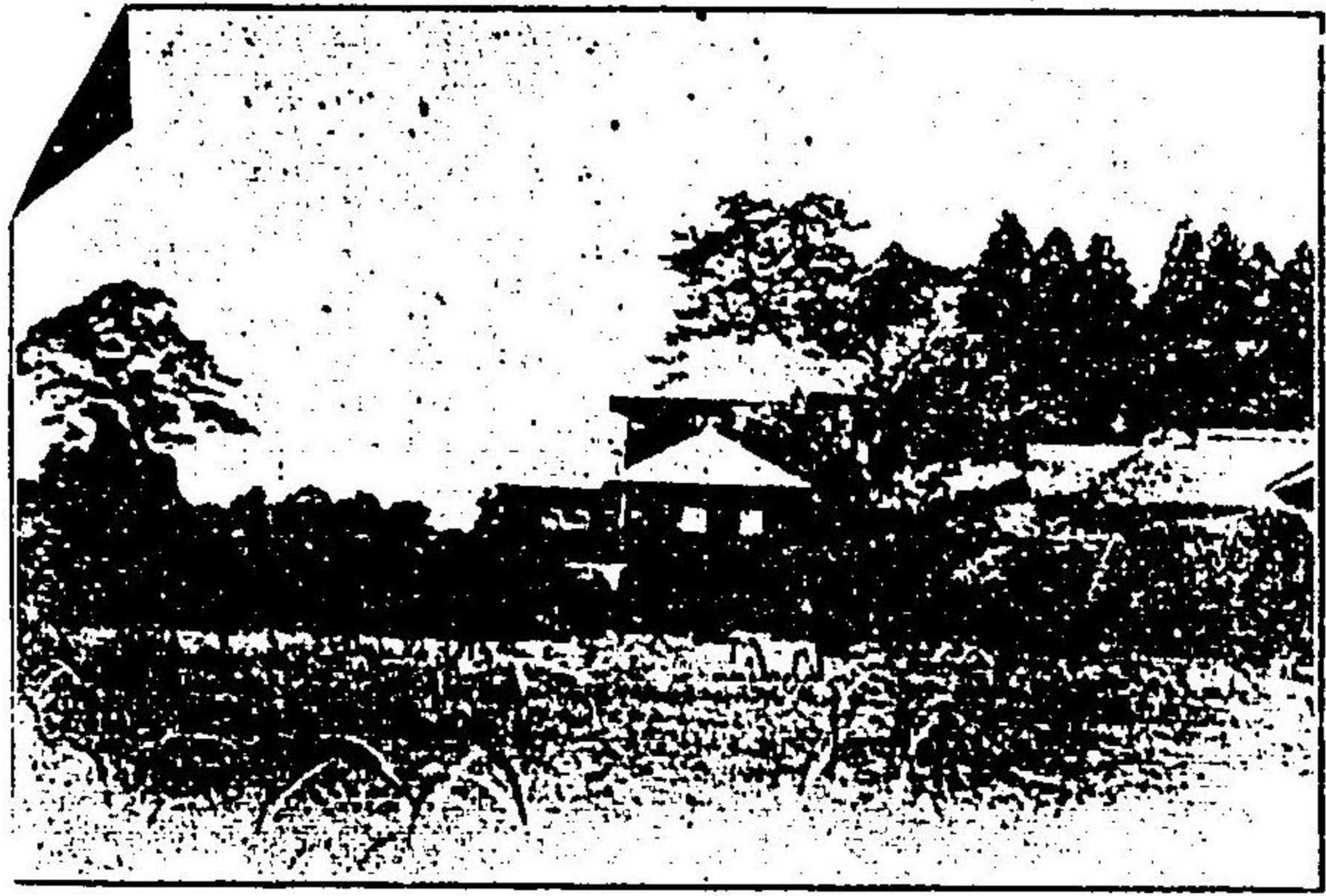
みたじ

四五〇

**みまごきん 美徳山** 伯耆國東伯郡にあり、三國山の西北に屹立す、山上に天台宗三佛寺あり、役小角の開基と稱せられ、山頂に藏王権現を鎮し、山麓に堂坊百餘あり、山中途嶮にして岩石嵯峨たり、鐵鎖を攀ちて、辛く登山す、殊に藏王権現は大巖窟の中にありて、投入堂の奇觀あり。

**みまごえん**

**水戸公園** 常陸國水戸市上市常磐神社の西隣にあり、もと藩主遊息の地にして、天保年間水戸烈公の開闢する所たり、古くは借樂園と云ふ、明治六年公園地となし、第一公園或は常磐公園とい

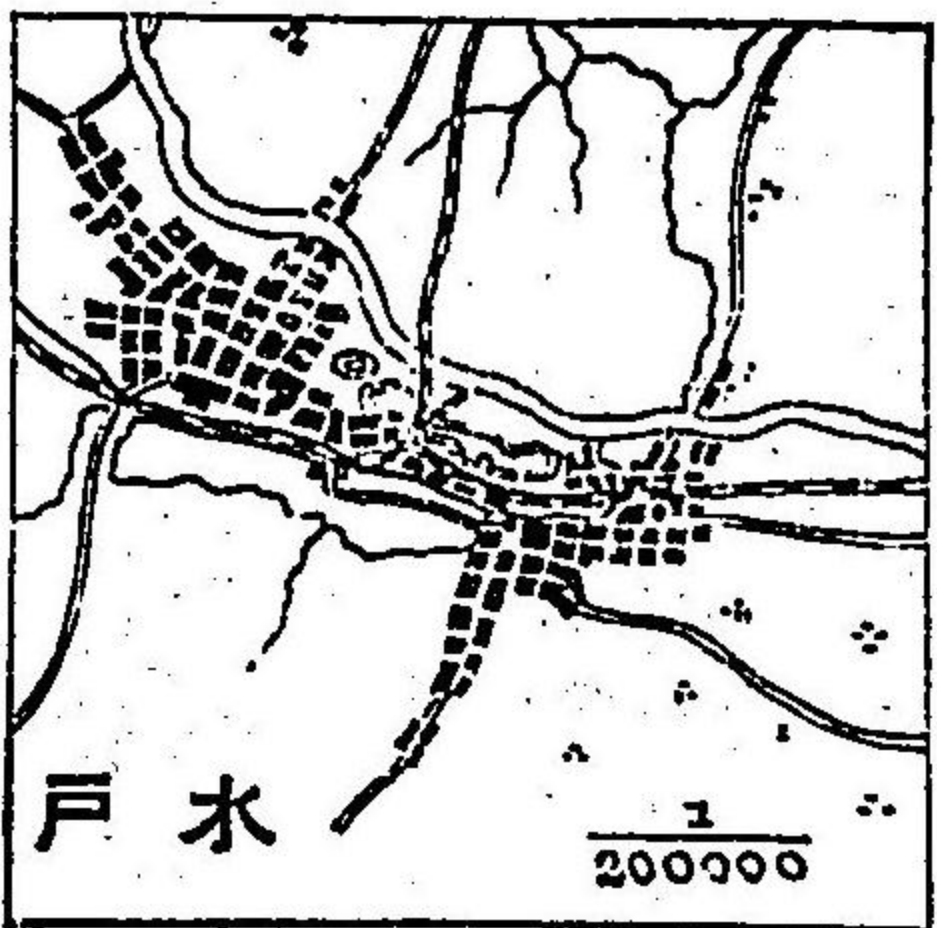


(園 公 戸 水)

ふ、北に千波湖を控え、筑波茶穂の翠樹一眸の中に入り、風景極めて佳なり、園内一面の芝生地にして、梅樹数千、幹枝椹栲として蘇苔をつけ、春時梅花の候遊覽の客頗る多く、日本鐵道會社は特に臨時汽車を出して、其便に供す、園内の風致亦一も舊觀を改むることなく、古色白から掬すべきものあり。

**みまごし 水戸市**

茨城縣廳の所在地にして、東京を距ること二十九里、常陸國那珂川河畔にあり、日本鐵道水戸線は此地に至り、更に常磐線及太田鐵道を分岐す、徳川氏三十五萬石の蕨城下にして、人口三萬六千餘、縣廳、市役所、地方裁判所、警察署、監獄署、郵便電信局、測候所、稅務署、小林區署、師範學校、中學校、農學校、高等女學校等あり、物産は煙草を第一とし、銅鐵器等之に次ぐ、城址は市の中央千波湖那珂川の中間にあり、古へ常陸大掾氏の初て築く處、次で江戸氏の有となり、天正文祿の頃佐竹氏代りて之に居る、關ヶ原役後、水戸家祖賴房封せられてより、世襲



して維新に及ぶ、廢藩後廢城となり、城址に縣廳、中學校、師範學校、博物館の諸建物あり。

**みまごけい 水戸八景**

常陸國水戸市附近にあり、水戸烈公の蕨湖八景にならひて定めたる處にして、仙湖暮雪、黃浦秋月、岩船夕照、水内歸帆、村松晴嵐、大田落雁、青柳夜雨、山寺晚鐘、即ちこれなり。

**みなぐちまち 水口町**

近江國甲賀郡にあり、人口七千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所等あり、加藤氏一萬五千石の蕨城下にして、東海道の一驛たり、水口細工の産出を以て名あり。

**みなせのみや 水無瀬宮**

官幣中社、攝津國三島郡島本村大字廣瀬にあり、後鳥羽、土御門、順徳の三天皇を奉祀す、三天皇承久の亂に遠島に遷幸せられ後遂に遷らせ給はず、御土門天皇の明應三年特詔を以て御鳥羽天皇の靈を隱岐より迎へ御影堂に置く、明治六年、土御門、順徳兩天皇の靈を迎へて此處に合祀し、殿堂を造進せらる。

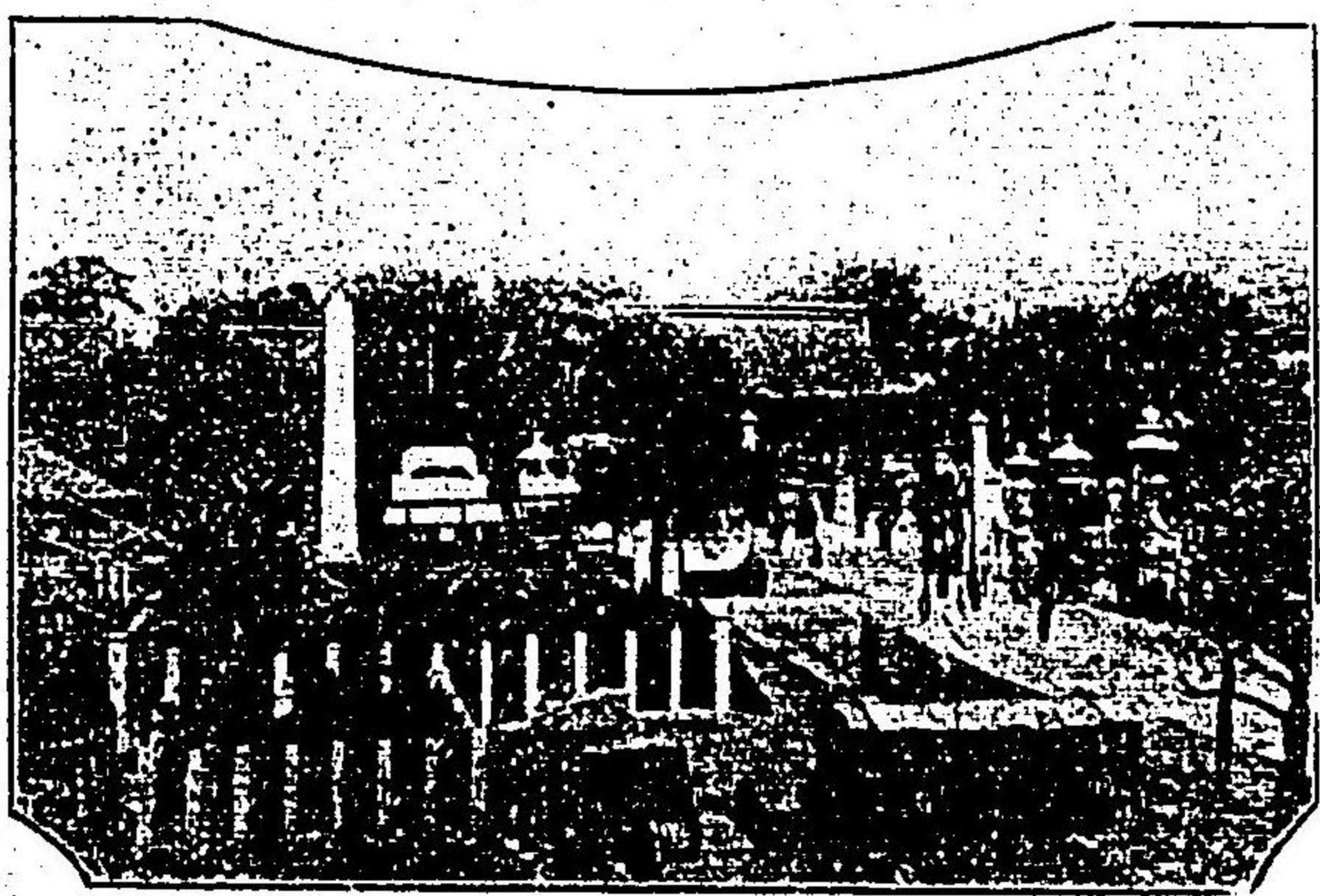
**みなとがわ 湊川**

攝津國神戸兵庫の中間にあり、建武三年楠木正成の戦歿せし地として有名なる處にして、源を再度山中に發し、東南流して神戸市に入り、海に注ぐ、流域二里餘、平素は水涸るれども出水の時往々附近に溢る、依て堤防を高く築きたりしが、年を経ると共に砂石堆積して河床

高くなり、山陽鐵道の如きは其下を通ず、川の東北五町許に楠公の靈を祀れる湊川神社及楠氏の一族七十三人の白刃せりと稱せらるる廣嚴寺あり、一に楠寺と稱す。

**みなとがわじんじや 湊川神社**

攝津國神戸市兵庫多門通にあり、別格官幣社にして、楠正成を祀る、明治四年の創建にして翌五年五月今の社格に列せらる、此地もと坂本村に屬し荒蕪たる原野なりしが、神戸の開港以來府縣軒を並べ、今は同市第一の繁華の卷となる、社地は方二町許、社殿宏壯ならざるも莊嚴にして、神威自か



(社 神 川 湊)

ら人にせまる、有名なる嗚呼忠臣楠氏之墓と刻せる水戸光  
園卿の建碑は、社地の右方松林の中にあり。

**みなとせん 港線** 日本鐵道東北線の支線にして、陸奥の尻  
内より八戸を経て港に至る、延長五哩四十鎮あり。

**みなとまち 湊町** 常陸國水戸市の東方三里、那珂川の河口  
にあり、川を隔てて磯濱町に對す、水戸より日々汽船の往復  
あり、商業の盛地にして、商業會議所の設けあり、人口一萬  
二千餘、東方御殿山の勝地あり、俗に湊公園と稱す、往時水  
戸烈公別墅を此地に設けられたるより此名ありと、眺望絶  
佳を以て知らる。

**みなまたむら 水俣村** 肥後國葦北郡の西海岸水俣川畔に  
あり、警察署、郵便電信局、小林區署、區裁判所出張所等あ  
り、水俣港は其前面にあり、東西十町、南北九町、水深六仞、  
水俣城は一に陣内城と稱し、天正年間相良家の老臣深水氏  
此地に據り、島津氏の軍を防ぎて降らず、近くは明治十年の  
役川路少將の率ゐる警視隊此に占據して米之津、大口兩道  
の進撃を試みし所なり。

**みなみせんじゅまち 南千住町** 武藏國北豊島郡にあり、南  
は東京市淺草區に連り、北は隅田川を隔てて北千住町に對  
す、陸羽街道の首程にして、日本鐵道常磐線日暮里より分  
れ、常陸方面に至らんとする第二の鐵道停車場あり、人口一

萬二千餘、警察署、郵便電信局等あり、鮎のスズメ焼を名物  
となす、此地もと塚地にして芋蕪繁茂せるを後人拓きて原  
となせしを以て小塚原と稱せりと、停車場の傍に日本鐵道  
會社の隅田川貨物取扱所あり。

**みなみほん 南日本** 富士火山脈以南の地學上の總稱に  
して、平野少く河流極小なり、氣候温暖にして雨量多く、  
有名なる黒瀬川黒瀬は其南岸を洗ふ。

**みぬまよすい 見沼用水** 武藏國南埼玉郡久喜町の四方  
にあり、利根川の水を引き、田圃に灌漑せるものにして、長  
さ十七里、其恩惠二萬町餘に及ぶ、今を去る百八十餘年前、  
享保年間幕府の吟味役井澤彌惣兵衛の穿ちし所と云ふ。

**みねやままち 峰山町** 丹後國中郡にあり、京極氏の舊藩地  
にして、人口二千八百餘、京都市を距る三十七里十二町、宮  
津町へ五里八町、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、税  
務署等あり、縮緬及襪糸の産多く、殊に丹後縮緬の名は全國  
に知らる。

**みの美濃國** 東山道十三國の一にして、東信濃に、西南近  
江、伊勢、尾張、三河に隣り、北は山嶽を以て飛騨、越前に界  
す、地勢東西北の三面山嶽起伏せるも、南方は平原地にし  
て、木曾、飛騨、長良、揖斐等の流域地にして、所謂濃尾大平  
原の一部をなす、美濃米の産地として知らる、國を稻葉、惠

**みのおさん 水尾山** 山城國葛野郡愛宕山麓にあり、清和  
天皇の山陵のある處にして、山に水尾山寺あり、清和天皇崩  
御の後、大法會を行ひし處なりと云ふ。

**みのぶさん 身延山** 甲斐國南巨摩郡にあり、甲府市の東北  
方、早川、富士川の合流點の西南にあり、老樹蒼鬱として風  
景頗る幽邃、高さ三千七百  
餘尺、山の南麓に日蓮宗の  
總本山久遠寺あり、信徒の  
登山する者多し。

**みのもさん 箕面山** 攝津  
國豊能郡吹田停車場の北方  
三里にあり、山頂の三尾山  
に次げる紅葉の名所にし  
て、山に瀧安寺あり、辨財天  
を奉祀す、寺より十七八町  
箕面瀧あり、高さ十一丈餘、

市三間餘、箕面川の水源をなす。

**みはらまち 三原町** 備後國御調郡にあり、沼田川の河口  
に位す、山陽鐵道の一驛にして人口八千餘、警察分署、郵便  
電信局等あり、町の東に三原城址あり、天正年間小早川隆景  
の築く所にして、後福島正則の有となり、其將福島丹波此に



(箕面の瀧)

那、土岐、可兒、加茂、羽島、武儀、養老、海津、不破、揖斐、安  
八、郡上、山縣、木巢の十五郡となし、岐阜縣之を管す、古く  
は三野に作り、國中各務野、背野、加茂野の三野ありしを以  
て其名ありと云ふも詳かならず、古へ國府を不破郡に置、  
鎌倉幕府の時土岐光衡當國の守護に任ぜられ、子孫世襲し  
て天文年間に至り其臣齋藤  
秀龍の篡奪する所となる、  
永祿年間織田信長全國を平  
定し、城を岐阜に修めて其  
地に居る、後安土城に移り  
其子信忠をして岐阜に鎮せ  
しむ、本能寺の變後信忠の  
弟信孝岐阜に居る、其歿後  
池田氏代り治めしが、間も  
なく三河に移り信忠の子秀  
信入つて治む、關ヶ原役後  
織田氏滅び、岐阜廢城となり、石川氏大垣に封ぜられ、後戸  
田氏之に代り子孫相つき王政維新に至る、其他高須に尾張  
の支流松平氏あり、高富に木所氏あり、岩村に松平氏あり、  
郡上に青山氏あり、加納に永井氏あり、苗木に遠山氏あり、  
各地を分領して全國を治めたり。

居る、淺野氏安藝及備後の一部を領するに及び城代を置き三千石を給す。

**みはらやま 三原山** 伊豆國大島にあり、海拔二千四百餘尺、富士火山脈に属する活火山にして、盛に噴煙を吐く、其狀、相模、伊豆、安房等の海岸より望見し得べし。

**みはるまち 三春町** 磐城國田村郡の北隣にあり、秋田氏五萬石の舊城下にして郡山町へ三里十一町、馬車鐵道の便あり、人口七千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、税務署、小林區署等あり、此地に有名なる牧場あり、世に三春駒の産地として知らる。

**みぶでら 壬生寺** 山城國葛野郡壬生村にあり、京都市朱雀大路綾小路の南に連なる、眞言律宗にして、三昧寺地藏院と稱す、大和唐招提寺に属す、一條天皇の正暦二年快堅僧都の創建にして、圓覺上人の中興たり、毎年四月壬生狂言を演ず、こは無言劇にして専ら滑稽を主としたるものなり。

**みぶまち 壬生町** 下野國下都賀郡にあり、人口六千餘、島居氏三萬石の舊城下にして、宇都宮市を距る四里十七町、栃木町へ二里十四町、此地に壬生城址あり、寛正年間壬生胤業の築く所にして五世の孫義雄に至り嗣絶え、後日根野氏を経て正徳年間島居氏の有となり世襲して王政維新に至る。  
**みほのせきみなと 美保關港** 出雲國島根半島の東端、美

保關村にあり、東西三町南北五町、水深五仞乃至十三仞、伯耆の境港と對して、北海の良港たり、船舶の出入頗る多し。

**みほのせきむら 美保關村** 出雲國八束郡島根半島の東端にあり、一村落なれども、國幣中社美保神社のあるを以て頗る賑へり、元弘三年三月後醍醐天皇隠岐遷幸の際三尾の浦に着き給ひ、古き御堂を一夜の皇居とせられたること梅松論に見ゆ。

**みほのまつばら 三保松原** 駿河國安倍郡三保村にあり、江尻驛を距る一里餘、其地海中に突出すること一里十町、一に三保崎と云ふ、此間白砂青松相連り、景色宜しく、羽衣の松、御穂神社その中にあり、後鳥羽帝の御製に「清見鴻ふじの烟や宿るらん、月影みがく三保の浦波」とあり。

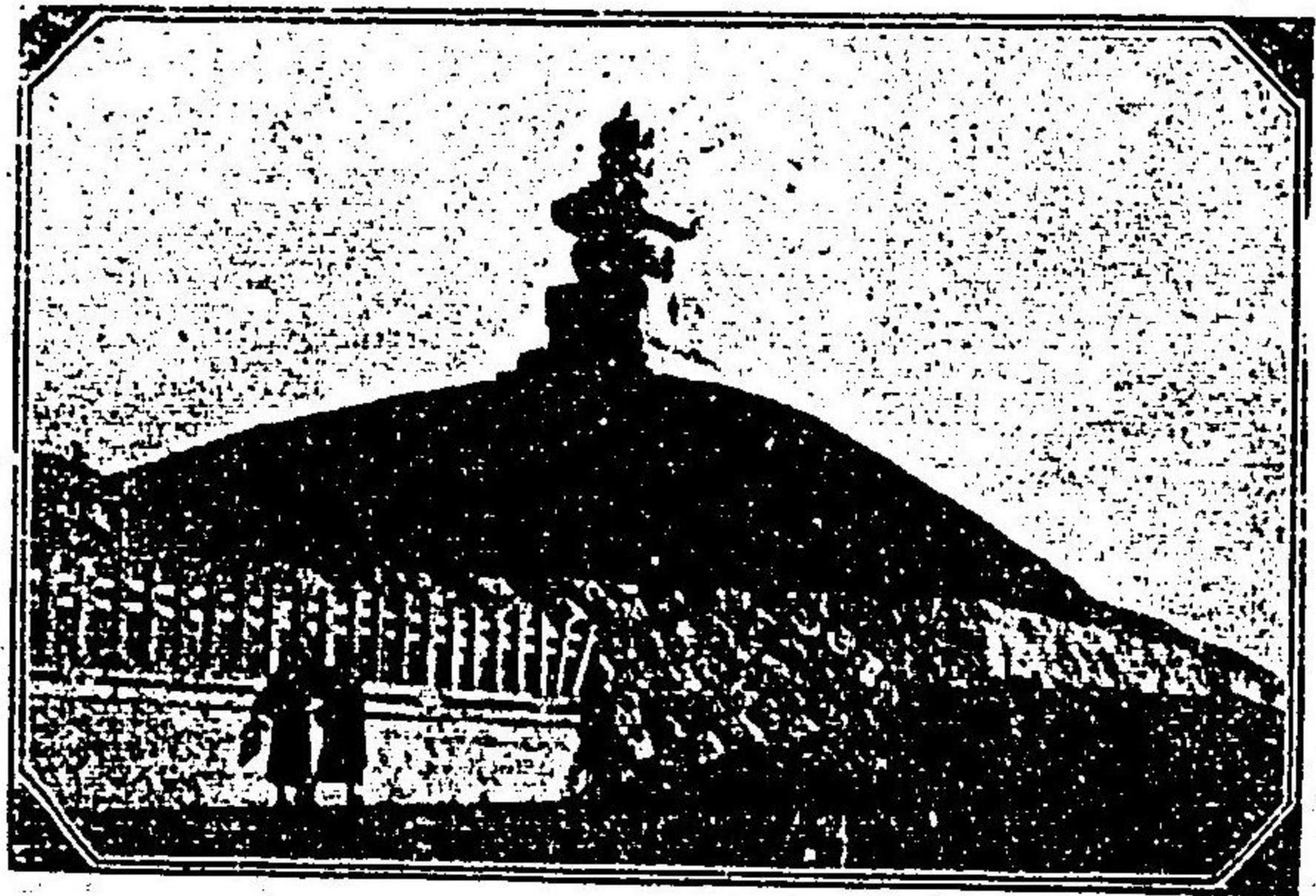
**みまさか 美作國** 山陽道八國の一にして、東播磨因幡に、西備中伯耆に、南備前に、北因幡伯耆に接す、地勢東西に長く南北に短かく、四方山岳を以て圍まれ、平地少なし、國を別つて眞庭、苦田、久米、勝田、英田の五郡となし、岡山縣に属す、元明天皇の和銅六年備前六郡を割て此國を置く、國の中央に三坂山あるを以て美作の名ありと云ふも如何にや、足利氏の代、赤松、山名の兩氏相尋で當國の守護となる、天正年間宇喜多氏起り全國を平ひしが關ヶ原役後國除かれ、小早川秀秋代り治む、後秀秋歿して森忠政代り封ぜられ津

山に治せしが、元祿年間國除かれ松平氏代り治む、寶曆年間三浦氏勝山に封ぜられ、慶應年間石見國濱田の松平氏龜田に移り一國三藩となる、維新後廢藩置縣の際、北條縣を置きしが後廢して岡山縣に合す。

**みづつか 耳塚** 京都市下京區豊岡神社の門前にあり、昔時豊臣秀吉朝鮮征伐の時、敵の首級幾萬を獲、耳を切り或は鼻を刺り鹽漬となして、日本に送りしを埋めたる處なりと云ふ。

**みづつがわ 美々津川** 日向國にあり、源を西臼杵郡那須椎葉山に發し、東流諸小流を合して南轉兒湯郡に入り、美々津町を経て海に入る、流域二十八里。

**みづつまち 美々津町** 日向國兒湯郡美々津河口にあり、明治の初年美々津縣を置かれし所にして、人口三千餘、郵便電信局あり、天正六年大友島津兩氏の古戰場たり、美々津港は川口より上流三町にあり、東西三町、南北二町、水深二仞三尺。



(塚 耳)

**みみぢしやま 耳成山** 大和國磯城郡にあり、耳成村大字木原の東方に聳つ、天香山、敵傍山と共に大和三山と稱す、山中椴樹多きを以て椴子山とも云ふ、高さ十餘丈、土俗天神山と稱す、山上に耳成山神社あり、式内神社たり。

**みもそがわ 御裳溜川** 伊勢國五十鈴川の別稱。

**みもろやま 三諸山** 大和國「みわやま」を見よ。

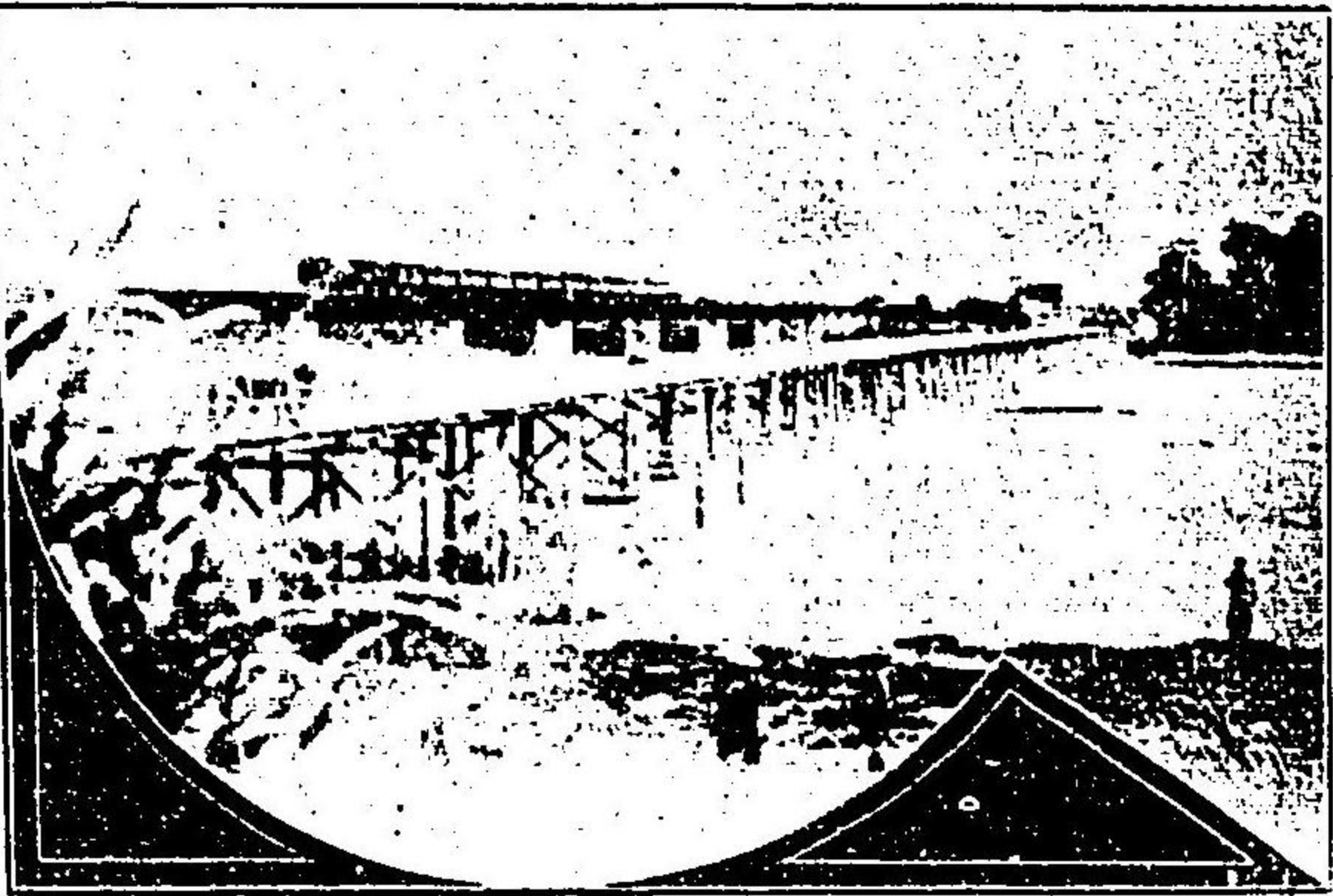
**みやがわ 宮川** 伊勢國にあり、源を多氣郡大窪原山の巴淵に發し、濁川、大内山川、藤川を合せ、東流して度會郡に入り、横輪川を合せて北轉伊勢海に入る、流域三十二里、一度會川、又豊宮川と云ふ。飛騨國にあり、源を大野郡川上嶽に發し、數派の小流を合して北方に流れ、高山町を貫流して越中に入り、神通川となる其國界に至る流域二十二里十八

町あり。

**みやぎけん 宮城縣**

縣廳は仙臺市にあり、陸前の内柴田、

(宮川)



**城野** 陸前國宮城郡の西方にあり、渺茫たる原野にして古來萩の名所として名あり、和歌などに數多詠まる。干載集に「みやまのまに心で留る宮城野の、花のいろいりる此のこゑ」云々「新古今集に「哀いかに草葉の露の、ぼるらん、秋風たちぬ宮城野の原」及「打はへていやはれらるる宮木野の、小萩なりとす。

名取、宮城、黒川、加美、志田、玉造、遠田、栗原、登米、桃生、牡鹿、本吉の十三郡及磐城の内刈田、伊具、巨理三郡を管す、面積五百四十方里七九、一市十六郡二十七町百七十六村より成る。

が下菜色に出しより」等其他多し。  
**みやけじま 二宅島** 伊豆七島の一にして、伊豆下田港より二十五里、御藏島の北方四里十八町の處にあり、周囲七里廿八町、人口三千餘、中央に雄山屹立す、沿岸に大久保、大船戸等の村落あり、住民は主に漁業に従事す、古へ囚徒の配流地として有名なり。  
**みやけむら 三宅村** 筑前國筑紫郡那珂川の中流にあり、昔時屯倉を置きたる地にして、其南方には警固所の遺址なる警固村あり。  
**みやこがわ 宮古川** 陸前國にあり、一に閉伊川と稱す、源を上閉伊郡兜神嶽に發し、山間の諸流を合して東流し、下閉伊郡に入りて、宮古町より海に注ぐ、流域十二里二十町餘あり。  
**みやこぐん 宮古群島** 琉球諸島の一にして、宮古島、大神、池間、伊良部、下地、來間等の諸島より成る、中にも宮古島最も大なり、宮古島廳ありて之を管す、尙ほ「みやこじま」を見よ。  
**みやこじま 宮古島** 琉球國宮古群島中の最大なるものにして、沖繩島の西南六十六里の海上にあり、周囲十一里二十三町、島内丘陵希れにして沃野多く、農産物甚だ多し、海岸は崎嶇多くして寄航に便ならず、甘蔗、紺飛白は此島の特産

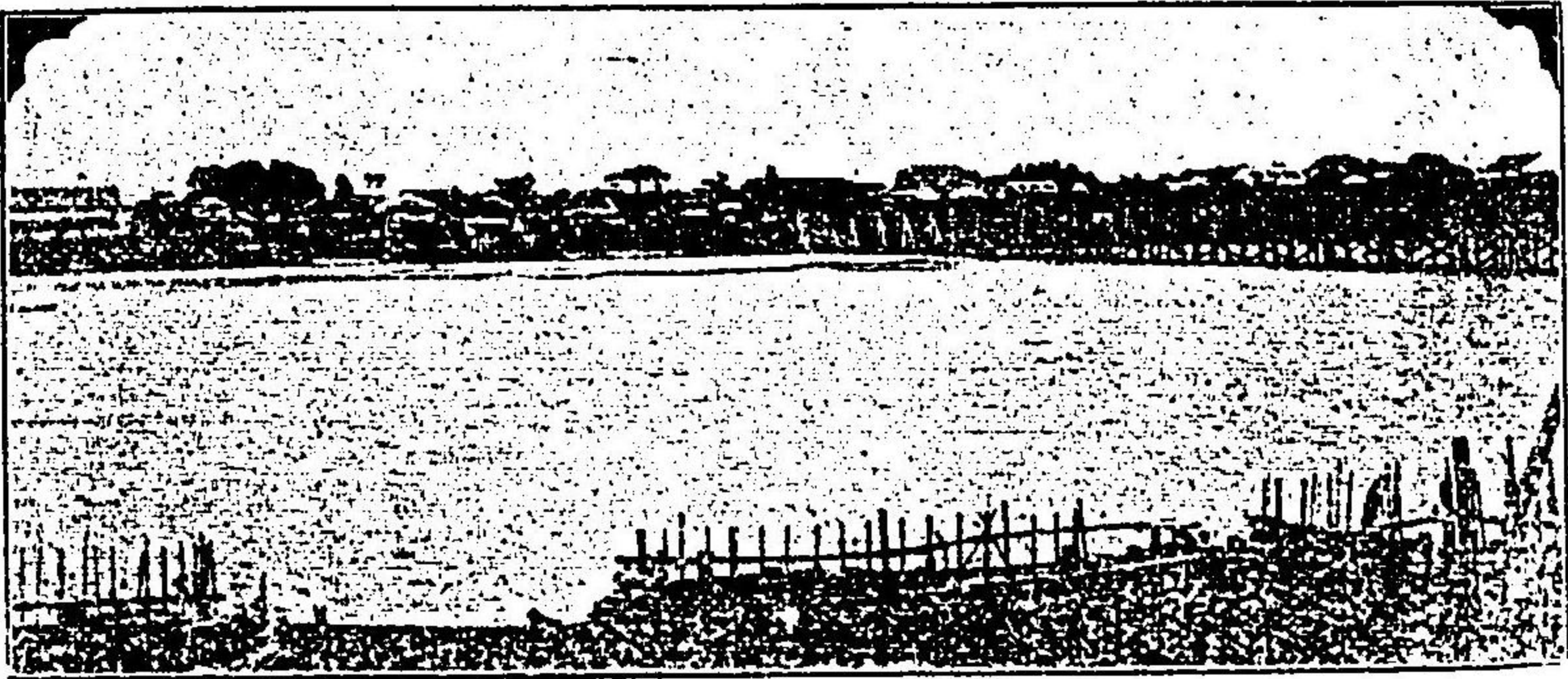
**みやこのじま 都城町**

日向國北諸方郡の西南部にあり、廢藩後一時都城縣を置かれたる所にして、宮崎町を距る十三里、鹿兒島へ十六里、人口一萬四千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、中學校等あり、素麴、茶、砂糖、干柿、木綿飛白、陶器等の産出を以て名あり。

**みやこまち 宮古町**

陸前國下閉伊郡の東隅、宮古灣頭にあり、陸前濱街道の衝に當り、宮古川其中央を流る、人口五千餘、盛岡市を距る廿七里十五町、釜石町へ十四里六町、警察署、郵便電信局、郡役所、區裁判所、稅務署、測候所、小林區署等あり、宮古港は町の東方宮古川の河口にあり、東西一里十四町、南北二十一町、水深二仞三尺、當國の良港たり。

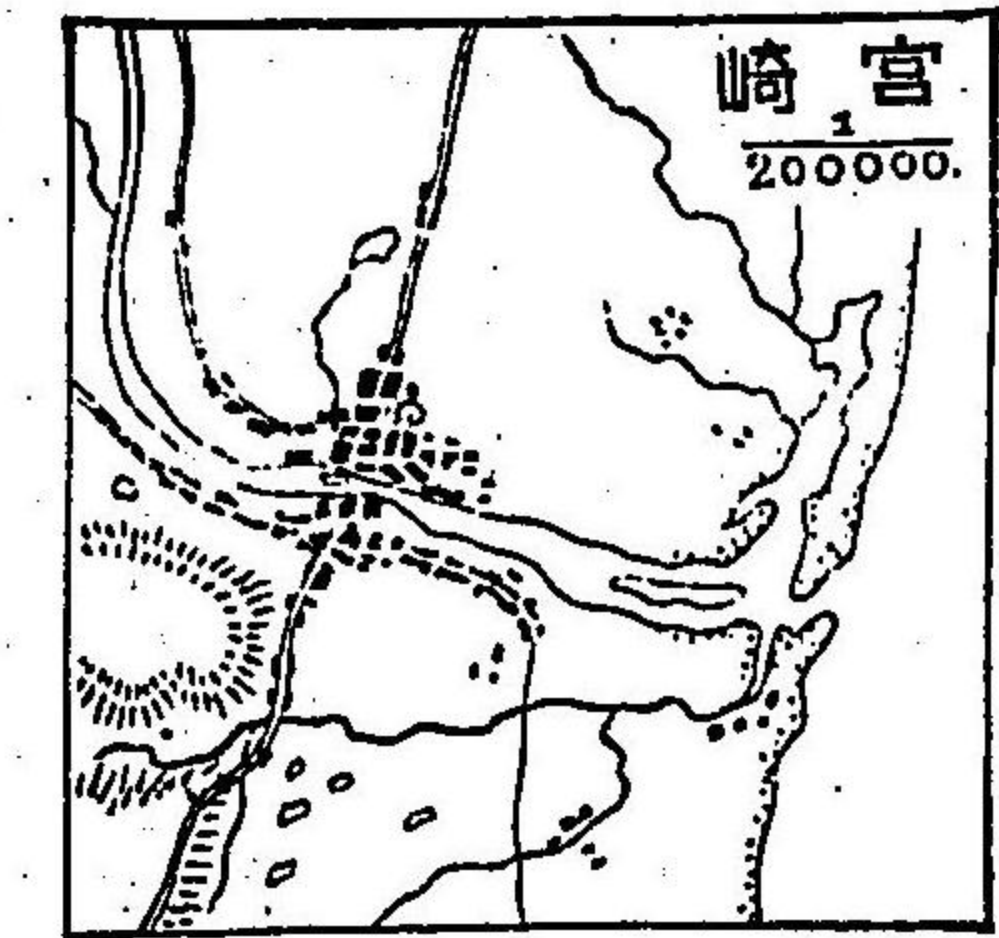
(宮崎町の橋)



**みやさきけん 宮崎縣** 縣廳は宮崎町にあり、日向一圓を管す、面積四百八十七方里、八郡六町九十四村より成る。

**みやまのみや 宮崎宮** 官幣大社、日向國宮崎郡大宮村字下北方船塚にあり、宮崎町を距る三十町、神武天皇を祀る、阿蘇君と云はれたる天健磐龍命の建立にかかると云ふ、もと神武宮と唱へしが、明治六年改修して宮崎神社と稱し、次で宮崎と改む。

**みやこまち 宮崎町** 宮崎縣廳の所在地にして、東京を距る三百六十八里、日向國宮崎郡大淀川畔にあり、人口一萬一千餘、縣、郡役所、警察署、郵便電信局、地方區裁判所、測候所、稅務署、小林區署、師範學校、中學校、獸醫學校、

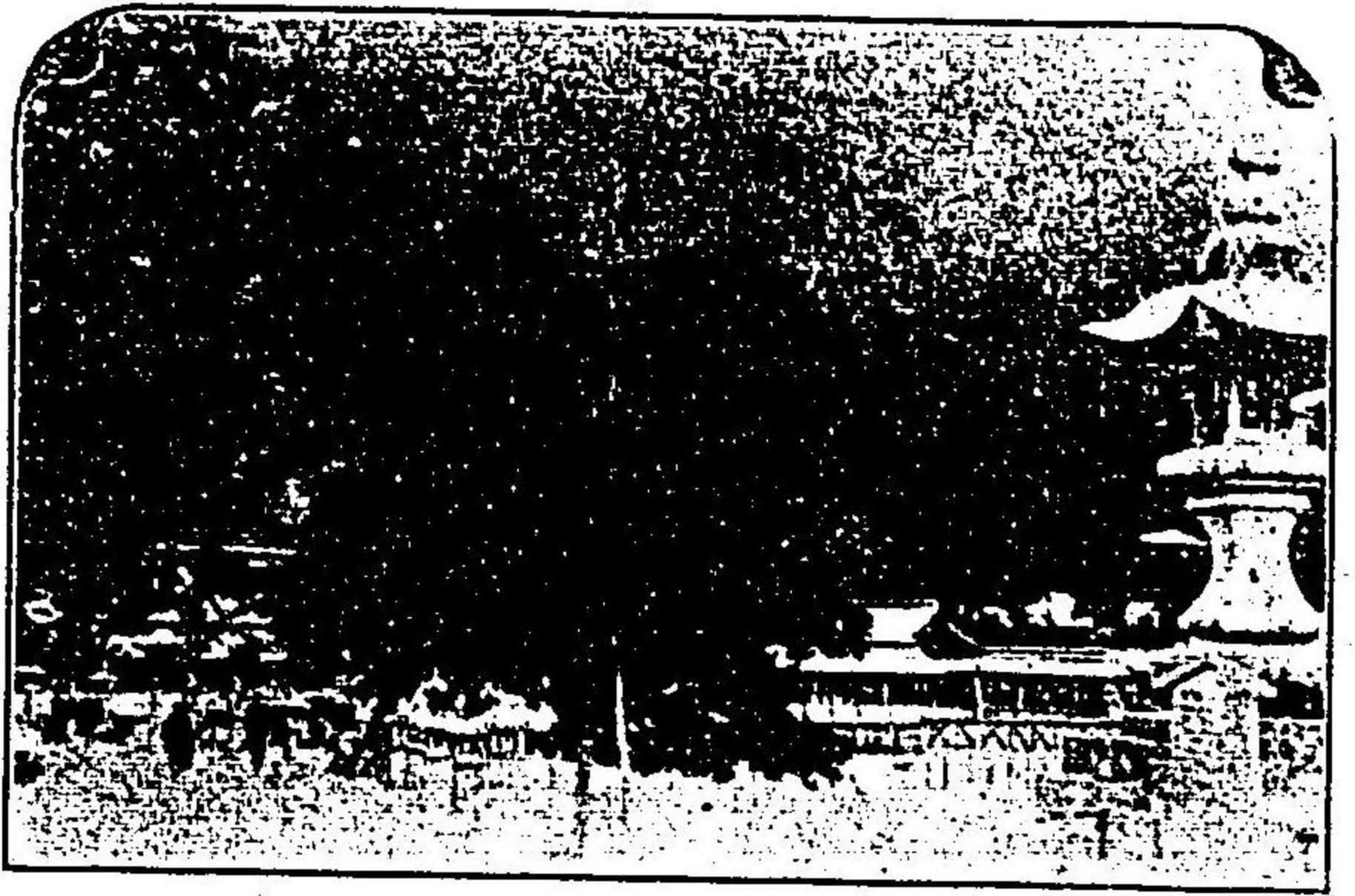




高等女學校等あり。

**みやじま宮島** 安藝國嚴島の別稱。

**みやぢま宮路山** 三河國寶飯郡赤坂町より御津村に跨れる郡中第一の高山にして、紅葉の名所として著はる、山中獄ヶ城と稱する所に登れば、隣國を見渡し、風景頗る佳なり、御油停車場よりは約二里あり。



(島宮藝安)

**みやつまち宮津町** 丹後國興謝郡にあり、本莊氏七萬石の舊城下にして、人口九千餘、京都市を距る三十五里八町、舞鶴町へ六里、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、税關支

山は高さ三千餘尺、山上には妙義神社あり、金洞山は一に中獄とも云ふ、山中有名なる四大石門あり、金鷄山亦奇岩多し。

**みやこくじ 妙國寺** 和泉國泉北郡堺停車場の東六町、材木町にあり、永祿五年の創建にして、日蓮宗の僧日玩を開基となす、寺内に有名なる蘇鐵あり、幹の高さ三間餘、大枝二十三本、小枝七十八本、四方に繁茂す。

**みやこーさん 妙高山** 富士火山脈に屬す、越後國中頸城郡の南部にあり、信濃國境に亘る、高さ七千餘尺、名香山村赤倉温泉より登り三里にして山頂に達す。

**みやこーのつら 明光浦** 紀伊國和歌の浦の別稱。

**みやしがわ 三次川** 備後國神石郡なる田房川と甲奴郡なる本郷川との合流にして雙三郡に入り木村、和知の兩川を合せ三次町の傍をすぎ南流して安藝の吉田川を合せ、西流安藝の國境を繞りて北流石見に入り江川となる。



(山 義 妙)

**みやこーさん 妙心寺** 山城國葛野郡花園村にあり、臨濟宗にして、妙心寺派の本山たり、もと花園上皇の離宮たりしが後改めて寺となし、關山國師を請じて開基とし、正法山妙心禪寺と號せり、寺域方五町、伽藍の宏壯洛西第一と稱せらる。

**みやこーがたけ 明星嶽** 相模國足柄下郡の北方にあり、高さ三千餘尺、同郡宮城野村より登り十八町にして山頂に達す。

部等あり、絹布、生糸等の産多し、城址は町の東部にあり、天正中細川忠興の築く處、其後京極氏の有となり、次で永井、阿部、奥平、青山氏を経て、寶曆八年本庄資昌封せられ、子孫世襲して維新に及ぶ。

**みやつみなと 宮津港** 我國開港場の一にして、丹後國興謝郡宮津町の前面、宮津灣内にあり、波見崎、黒崎相對して灣口をなす、天の橋立に因て興佐海に界す、灣勢西南に深入すること五洲、四方高山圍繞してよく風波を凌ぎ、水深八仞乃至十仞、大船巨船の碇泊に便なり。

**みやのしたおんせん 宮下温泉** 箱根七湯の一にして、相模國足柄下郡底倉村字宮の下にあり、湯本温泉を距る一里二十町、西南北の三面群山圍繞し、東遙かに相模灘を望み、七湯中尤も風景に富む、温泉五ヶ所より湧出し、弱性鹽類泉にして無色透明、旅館多く、外國人の投宿に對する設備亦よく備はる。

**みやこくじ 妙覺寺** 京都市上京區新町にあり、日蓮宗にして、日實上人を開基となす、祖師堂には日蓮、日期、日像の像を安置す。

**みやこーさん 妙義山** 上野三山の一にして、上野國高崎市の南方六里餘、北甘樂郡にあり、有名なる火山性の山岳にして、山中奇岩多し、山上、白雲、金洞、金鷄の三条に分る、白雲

**みやこーさん 三次川** 備後國雙三郡三次川畔にあり、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、税務署、小林区署、中學校等あり、三次川河北を五日市と云ひ、河南を十日市と云ふ、城址は比熊山にあり、天正中三次氏の據りし處たり、近世廣島藩の支封五萬石の領土たりしが、享保年間廢城となる。

**みやこーさん 明神嶽** 相模國足柄上、足柄下の兩郡境に聳ゆ、高さ三千八百餘尺、一に狩野山、又塚原山と稱す。

**みよほーいん 妙法院** 京都市三十三間堂の東方にあり、元叡山三千坊の一にして、叡山にありしが法親王在住となるに及びて入阪の地に移り、小阪殿又綾小路宮と稱せり、木堂にに普賢菩薩を安置す、庫裏は院内第一の建物にて、梁行十三間餘、桁行十二間餘あり。

**みよほんじ 妙本寺** 相模國鎌倉の比企ヶ谷にあり、日蓮宗の巨刹にして、長興山と號す、もと比企能良の邸址にして、日蓮說法始の寺なりと云ふ、塔頭十六坊、院家二個院ありて、昔時一貫五百文の御朱印ありたり。

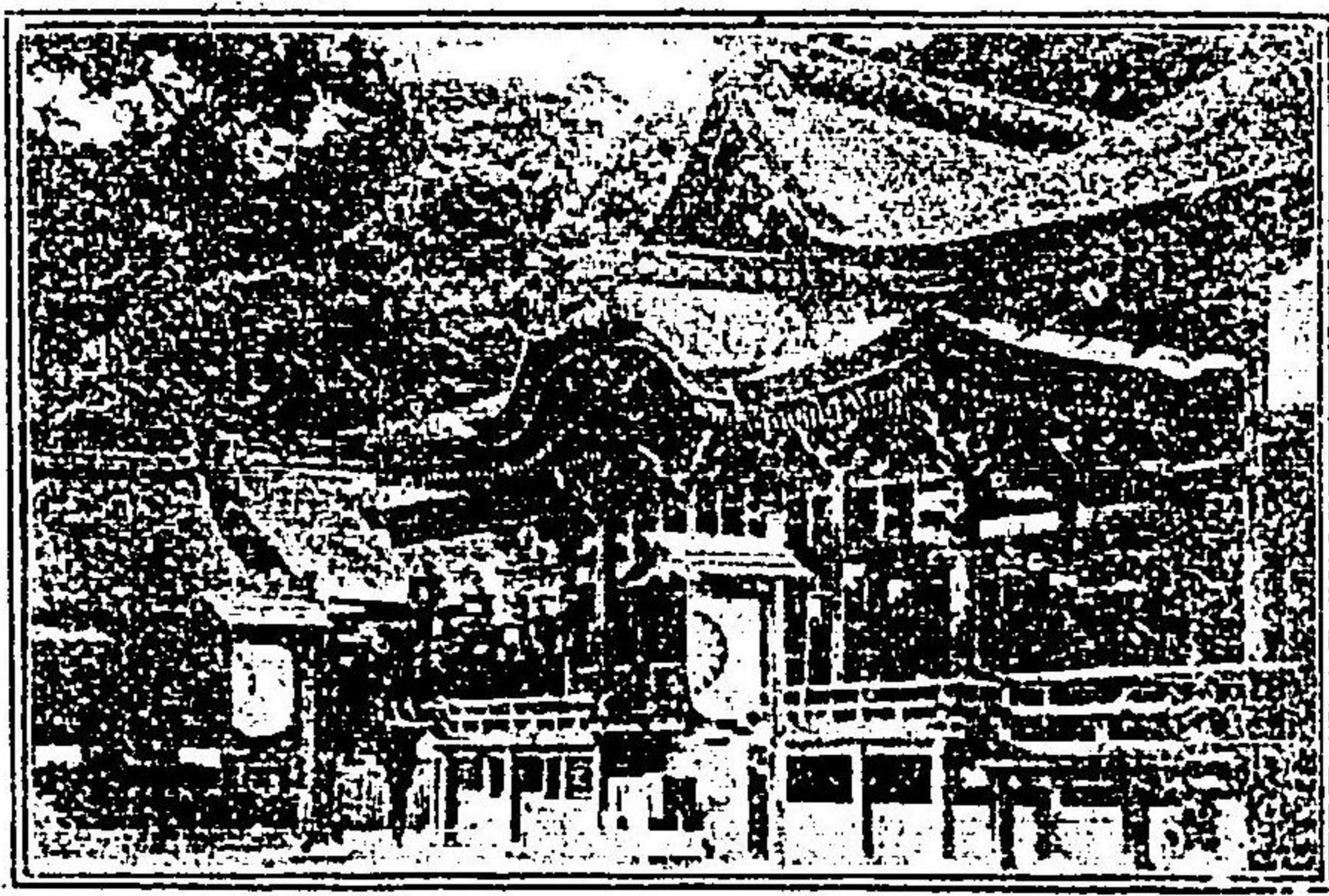
**みよまんじ 妙満寺** 京都市上京區寺町にあり、日蓮宗にして、顯本法華宗の本山たり、永徳三年の草創にして、日什上人を開基となす、寺内に古鐘あり、正平年間の鑄造にして、もと紀州日高道成寺にありたるものなりと云ふ。

**みわじんじ 大神神社** 官幣大社、二十二社の一にして、大和國磯城郡三輪町の東三輪山の西麓に位す、倭大物主神、櫛御玉神を祀る、崇神天皇八年の創建にして、一に三輪明神とも云ふ、社内に夫婦石、双木杉等あり、縁結びの神として信仰せらる、有名なる印の杉は雷火に焼かれて、今は其古幹を存するのみ。

**みわまち 三輪町** 大和國磯城郡櫻井町の北十町餘にあり、人口三千餘、郵便所、警察署、郵便電信局、區裁判所等あり、

酒、素麴の産多し。

**みわやま 三輪山** 大和國磯城郡三輪町の東方にあり、一に三輪山、又神並山とも云ふ、満山樹林蒼鬱として山容頗る森嚴なり、山頂に不動藥師地蔵三石の偉あり、奥の不動と云ふ、當山は古來有名なるものにして、萬葉集に「三輪つく三輪山見ればこりくの、はつ瀬の檜原おもほゆるかも」などあり、其他詠歌多し。



(社 神 神 大)

む

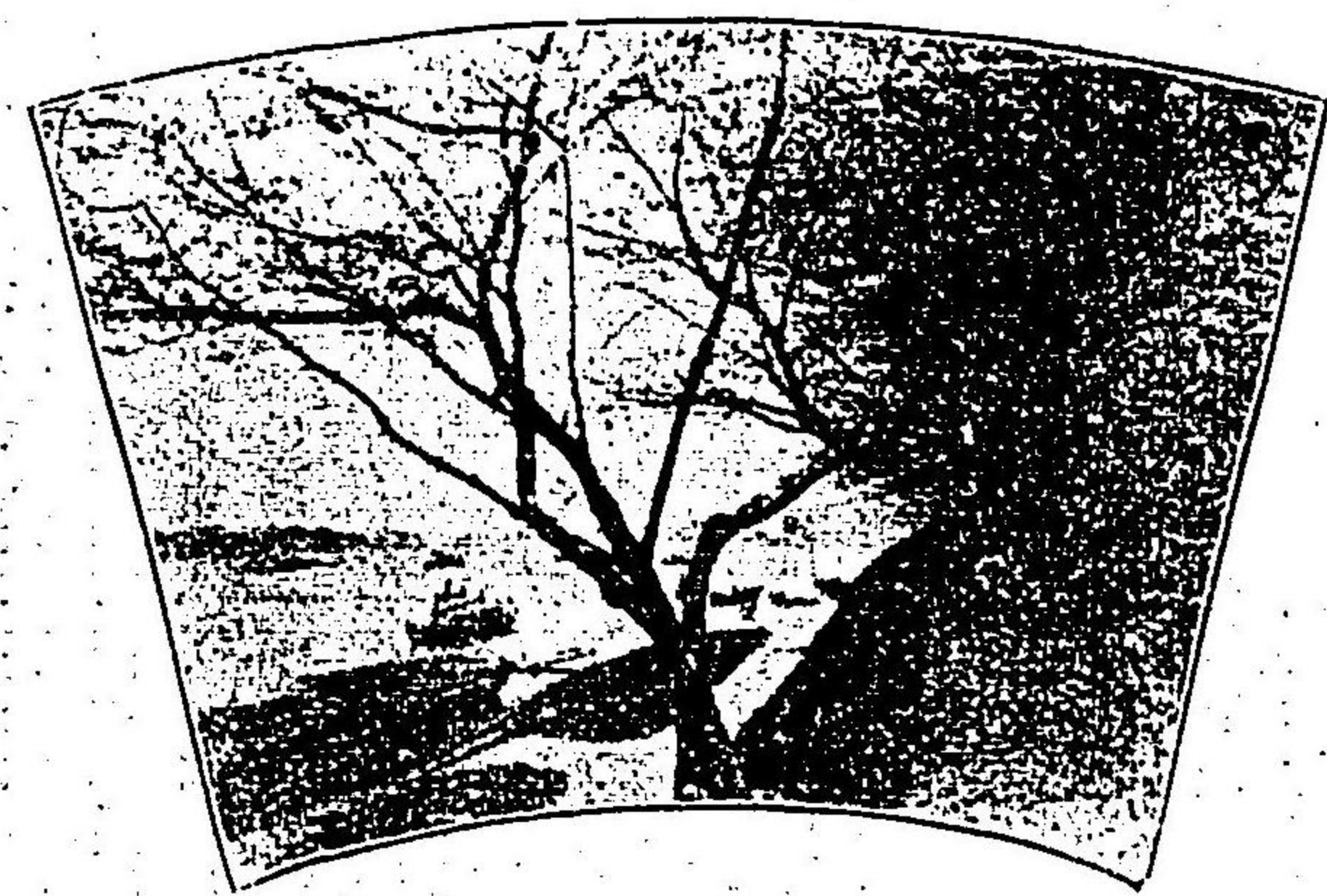
**むごがわか 向岡** 東京市本郷區の北部、不忍池畔西茅町附近より、東京帝國大學及高等學校等の裏手の高丘を云ふ、上野を忍ヶ岡と云ふに對したる名なりと云ふも、歌名所に出でし名なとりて此地形に命じたるものか、詳ならず、丘上の眺望よく、觀月觀雪の好地と稱せらる。

**むごがわ 武庫川** 攝津國にあり、有馬郡の西北隅日出坂嶺に發し、諸小流を合して三田町を過ぎ、東南流波豆川有馬川を合し、生瀬より南流鳴屋に至りて海に入る、流域十三里餘。

**むごん 武庫山** 攝津國武庫郡にあり、有馬郡に亘る、高さ二千八百餘尺、一に六甲山とも稱す、山中に寺あり、摩尼山神呪寺と云ふ、又山腹に九想瀧、大井瀧、乾瀧、鳴瀧等あり、當山は古くより知られ詠歌多し、夫木集の「秋の夜の務古の高根にゆきふりて、津守の油によする白波」家隆卿の「あしの葉に夕霧立ちぬ波波湯、武庫の山へも色づきぬらむ」慈圓法師の「木の葉吹く武庫の山風立ちぬらし、あしやの沖にあまの釣舟」等尤も名あり。

**むごんま 向島** 東京隅田川の東岸の長堤を云ふ、享保年

間幕府命じて、堤上三國社邊より木母寺に至る迄、數千の櫻樹を植ゑしむ、爾來東都櫻花の名所として全國に著はる、此地は古くより東國中の名所に數へられたる處にして、神社佛閣さては名所舊跡の古くより傳はれる者多し、今其有名なる物を擧ぐれば左の如し。



(品 向)

「木母寺」舊名は梅若寺、綾瀬橋の南十町にあり、貞元年間の創建。「梅若塚」吉田少將の男婦若丸の塚なりと云ふ。「水神の森」木母寺の南一町許、頗る靜幽の地なり。「小松島」遊園あり、もと八州園と稱す。「白髭廟」猿田彦神を祀る、境内古碑多し。

「百花園」向島花屋敷とも云ふ、名の如く四時百花爛漫たり。「蓮花寺」弘安三年鎌倉より移す、寺に聖徳太子の像あり。「言問ヶ岡」白髭祠の南方八町、堤下に業平社あり。「長命寺」古くは常泉寺と云ふ、言問ヶ岡の東堤下にある。境内古碑多し、「牛の御前」長命寺の南隣にあり、一に牛島神社とも云ふ。「弘福寺」牛御前の東隣にあり、唐佛の釋迦如來を本尊となす。「秋葉社」弘福寺の東三町にあり、古へは楓の名所、今は荒廢す。「三國神社」古くは田中稻荷と云ふ、倉稻魂神を祀る。

**むつらの 武庫浦** 攝津國武庫川の河口鳴尾岬より兵庫港和田岬に至る迄の海濱の總稱にして武庫海とも云ふ、水清からざるも、海濱遊遊にして遊泳に適す、古歌あり、萬葉集に「武庫の浦入江の清鳥羽くぐる、君に離れて戀に死ぬべし」玉葉集に「夕づく日和田のみさきをこぐ舟の、片帆にひくや武庫の浦風」待賢門院の「旅れして秋去り衣さむけきに、いたくな吹きそむこの浦風」。

**むさしの 武藏國** 東海道十五國の一、東下總に、西信濃、甲斐に、北上野、下野に、南東京灣に臨む、地形東西に延び、南北に屈す、西部は山岳起伏するも三面は沃野相連り、所謂武藏野の平野をなす、國を分つて二十郡となし、東京市及北豊島、荏原、豊多摩、南葛飾、西多摩、南多摩、北多摩、南足立八

あまたある武藏野の原「關東古戦録に「露置かぬ方もありけり夕立の、空より廣き武藏野の原」。

**むたまがわ 六玉川** 諸國にある六つの玉川の總稱にして古歌によりて有名となれり、其所在地は左の如し。

- 井手の玉川 (山城) 三島の玉川 (攝津)
- 野路の玉川 (近江) 調布の玉川 (武蔵)
- 野田の玉川 (陸奥) 高野の玉川 (紀伊)

**むつ 陸奥** 東山道の北部、奥羽の一州なり、古くは「みちのく」と訓じ、今の磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥五ヶ國の地を云へり、もと蝦夷の根據地にして、叛亂常なく頗る統御に苦みしが、平安朝の初期に坂上田村麿の東征ありてより漸く王化に服するに至れり、養老二年石城石背の二國を置きしが、間もなく廢止せり、是より先き國府を宮城郡に置き、次で鎮守府を膽澤郡に設く、永承年間阿倍頼時衣川に據りて叛す、寛治年間清原家衡及武衡亦叛く、源頼義、義家父子相尋で征討の任に當りて之を平ぐ、其後藤原清衡陸奥六郡を領し、鎮守府將軍に任じ出羽の押領使を兼ね、子孫三代の榮華を極めたりしが、曾孫泰衡の時に至り源頼朝の討滅する所となる、是より葛西清重陸奥の鎮撫に任せられ其將南部、中村、佐原、相馬、結城等の諸氏を各地に分封せり、建武中興の際北畠顯家陸奥國守に任じ鎮守府大將軍を兼ね義長親王を奉

郡は東京府に屬し、秩父、北足立、入間、比企、兒玉、大里、南埼玉、北埼玉、北葛飾九郡は埼玉縣に屬し、久良岐、檜樹、都筑三郡は神奈川縣に屬す、古くは身刺(ムサシ)无邪志等に作る、此國は中世に至る迄、渺茫たる草原にしてさまで顯著なる歴史を有せざりしが、慶長年間徳川氏江戸城に入り次で豊臣氏の後を承け、幕府を此地に創くに及び俄かに勃興して大都會となり、隨つて當國も亦重要なる地位を占むるに至れり、王政復古するに及び、江戸を改めて東京とし皇居を此處に移され新政を布かるるに及び、形勢亦一變して更に重要な地位を占むるに至る、徳川時代には江戸城の外に川越、忍、岡部、岩槻、金澤の五藩あり、廢藩後小菅、品川、神奈川、浦和の四縣を置きしが後悉く廢して現今の如く一府二縣に分轄するに至れり。

**むさしの 武藏野** 武藏國の大部分を占むる大平野にして、南相模野に隣り北利根川に至り、西は秩父の連山に連なる、今や開墾殆んどなり、耕地稍整へるも、近世の初めに至る迄は茫々たる草原にして古歌多し、櫻古今集に「逢ふ人に問へどかはらぬ同じ名の、いくかになりぬ武藏野の原」同書に「武藏野は月の入るべき峰もなし、尾花が末にかかる白雲」玉葉集に「出づるにも入るにも同じむさし野の、尾花を分くる秋の夜の月」同書に「旅人の行くかたかたにふみ分て、道

じて陸羽の兩國を兼治す、足利氏の勢盛なるや、伊達、南部、田村、結城の諸氏官軍に屬したりしも其勢極めて振はず、足利氏の末年伊達氏の勢漸く強く米澤、會津を中心として漸次四隣を蠶食せり、かかる中に菅名、相馬、南部、大崎、田村、結城、岩城、石川等の諸氏相尋で起り、互に呑噬止まざりしが、豐臣秀吉勢力を得るに及び、伊達氏の會津領を收めて蒲生氏郷に賜ひ、岩城、相馬、南部、津輕諸氏の封を定め、伊達氏に葛西、大崎の故地を給す、伊達氏遂に居を仙臺に定む、後蒲生氏宇都宮に移り上杉景勝代り治む、かくて徳川氏の世となり、幾多の變遷ありしが幕末には黒石、白川、湯長谷、棚倉、弘前、二本松、下手渡、泉、八戸、守山、會津、仙臺、一の關、盛岡、磐城平、中村、福島、三春の諸藩ありて各地を分領せり、明治元年五月陸奥を別つて磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥の五國とし、福島、宮城、岩手、青森の諸縣を置きて之を分治す。

**むつのに 陸奥國** 東山道最北の一國にして東太平洋に臨み、四日本海に瀕し、北は津輕海峡を隔てて北海道渡島國と相對し、東南陸中に連り、西南羽後に境す、地勢西南及東南に山脈連亘し、一脈は中央より起りて南北に達す、沿海地方及岩木河の流域地方を除くの外平野少く土地一般に豊饒ならず、特に東部は廣漠たる原野にして牧畜に適し、古來長

馬の産出を以て名あり、二市九郡より成り、青森、弘前の二市及東津輕、西津輕、中津輕、南津輕、北津輕、上北、下北、三戸の八郡は青森縣に屬し、二戸郡は巖手縣下に隸す、此國古くは磐城、岩代、陸前、陸中とともに陸奥と稱し、徳川時代には弘前に津輕氏あり、黒石に其支藩あり、八戸に南部氏の支藩ありて各地を分領せり、明治元年陸奥を分つて五國とし新に陸奥國を置かる。

**むつらむら 六浦村** 武藏國久良岐郡にあり、相模國三浦、鎌倉の兩郡と境し、東に港灣あり、六浦灣又金澤の入江と云ぶ、此地今六浦、金澤の兩村に分てども、もと廣く之を六浦庄と云へるが如し、徳川時代には米倉氏一萬二千石の舊領地にして、其陣屋址今六浦村字引越にあり。

**むつれじま 六連島** 長門國西南海中、馬關の四方、彦島の西北一漚半にあり、周囲三十二町、豊浦郡に屬す、島の東北に燈臺あり、其色不動白色、光輝よく十二漚に達す、仲哀紀に「没利島」とある之れなりと。

**むつわん 陸奥灣** 陸奥國の北方にあり、東に斗南半島、西に津輕半島の斗出するありて、其灣をなす、灣口を平館海峡と稱す、灣内、夏泊崎によりて、野邊地、青森の兩灣に分る。野邊地、青森の良港あり、船舶常に往來す、海中、鱈の漁獲多し。

海岸にあり、徳島市の北方四里十三町に位す、溝渠を以て青野川に通じ、運輸の便多し、人口一萬八千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署等あり、阿波足袋、齋田鹽の産地として知らる、撫養港は其東面にあり、深さ四仞餘、船舶の碇繋極めて便なり。

**むらかみまち 村上町** 越後國岩船郡瀬波港の東にあり、羽前街道の要衝に當り、新潟市の東北十八里十八町にあり、内藤氏五萬石の舊城下にして人口七千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、小林區署、中學校等あり、茶、桐油及村上平の産出を以て名あり、此地もと本庄と稱せしが、元和年間今の名に改めたるなりと、城址今町の東字城山にあり、周圍一里八町、要害無双の堅城と稱せらる、もと本庄氏の居城たりしを元和年間堀直寄之を修築せり、直寄の孫直定歿して嗣なく國除かれ、爾後本多、松平、榊原、間部等の諸氏を経て享保年間内藤氏の有となり、世襲して王政維新に及ぶ、戊辰の亂内藤氏東軍に應じしが間もなく官軍に降る。

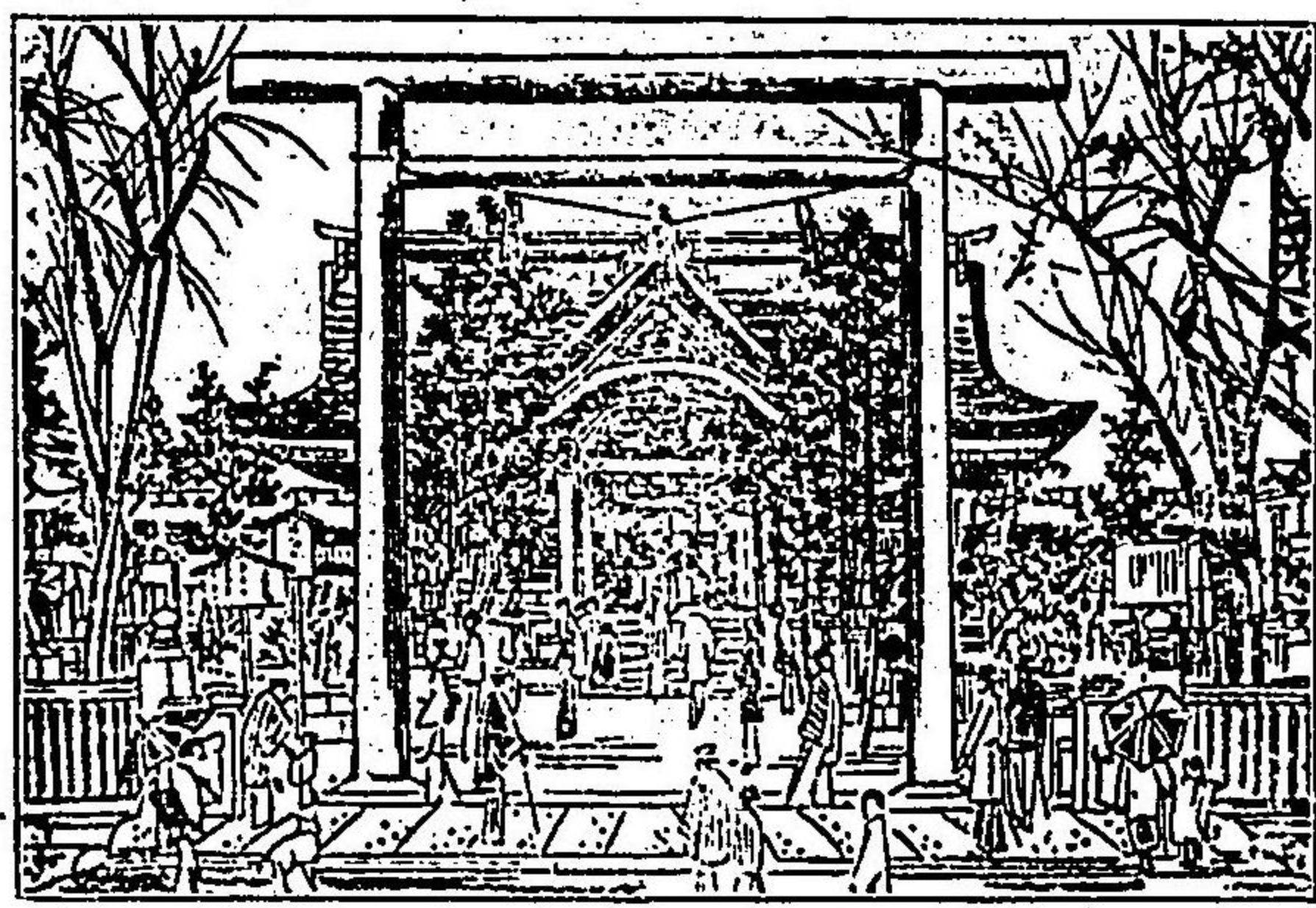
**むらさきの 紫野** 山城國京都市の西北方、四陣の後方にあり、有名なる大徳寺のある處にして、比叡山眺望の好景地たり、四方舟岡山には織田信長を祀れる建勳神社あり。

**むらまつまち 村松町** 越後國中蒲原郡にあり、新潟市の南方九里二十七町、奥田氏三萬石の舊城下にして、人口七千

むらか

**むなかたじんじや 宗像神社** 官幣大社、筑前國宗像郡田島、大島、沖の島の三所にあり、多祀理姫命、多岐津姫命、市杵島姫命を祀る、古くは宗像明神と云ひ、宗像氏の奉仕せし神社なり、社の起りは、遠く神代にありて海内風指の名祀なり。

**むねたじんじや 宗忠神社** 備前國御野郡今村にあり、岡山停車場を距る十二三町、神道黒住教派の本社にして、教祖黒住左京宗忠を奉祀す、毎年六月十一月に大祭を行ひ、遠近の信徒群集す。



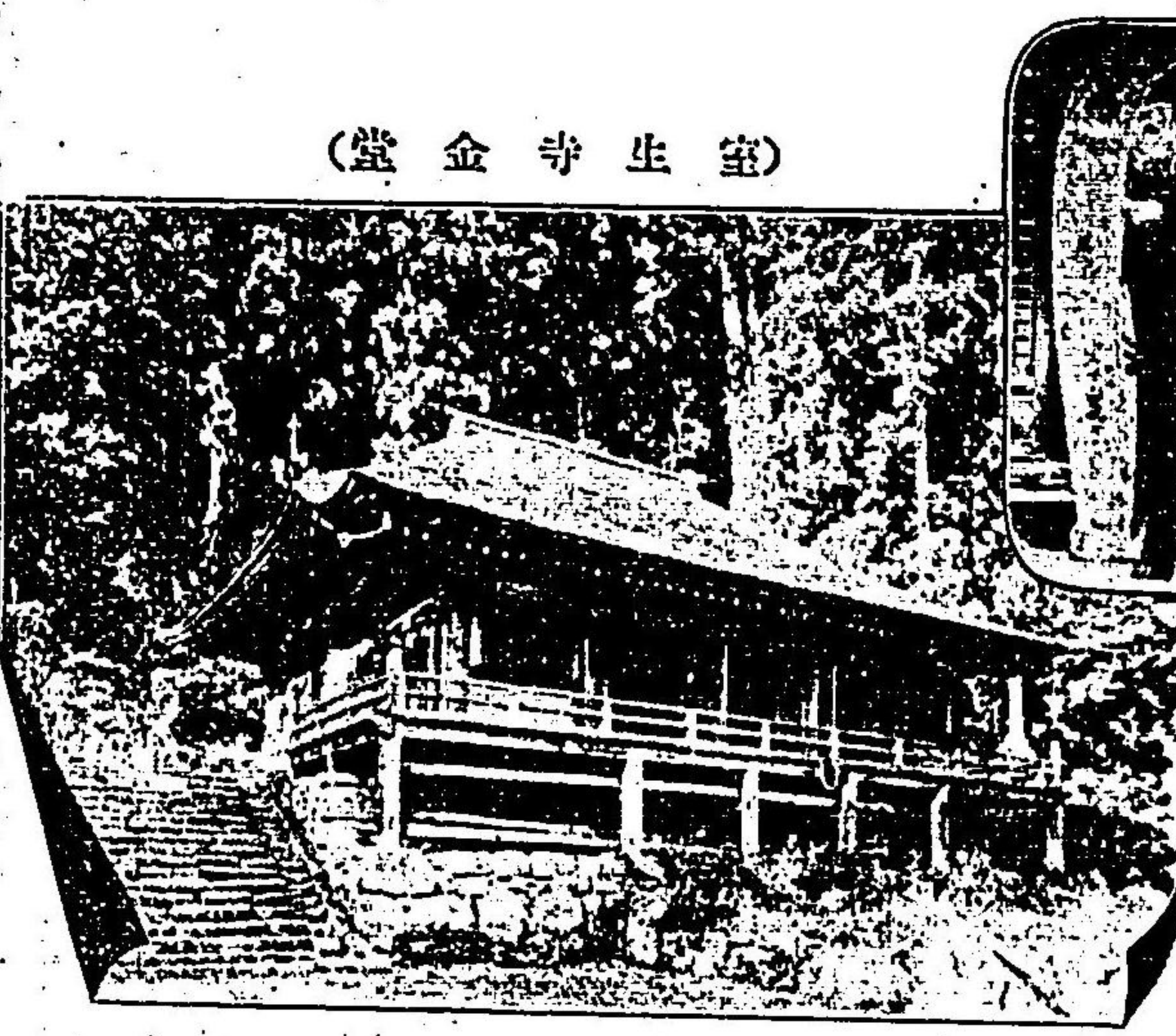
(社 神 忠 宗)

**むやまち 撫養町** 阿波國板野郡の東方、小嶋門航道の西

餘、郵便電信局、警察分署、區裁判所出張所、工業學校及び歩兵第三十聯隊等あり。



(金堂本尊)



(室 生 寺 金 堂)

**むろーじ 室生寺** 大和國宇陀郡室生村大字室生にあり、

むろーじ

四六七

眞言宗に属し、天長年間僧空海の創設と稱せらる、本堂は灌頂堂と稱し、空海作と傳ふる如意輪觀音坐像を安置す、金堂は創立當時の建築物にして本尊釋迦如來亦弘仁初期時代の傑作と稱せらる(寺傳空海の作)、五重塔亦傳へて創立當時のものとして稱せらる、以上の三者は今特別保護建造物たり。

**むろつはんごー 室津半島** 周防國熊毛郡の東南方に突出し、上の關島と相對す、西岸に室津、尾國、佐賀等の名邑あり。

**むろつみこー 室積港** 周防國熊毛郡の南海岸室積村にあり、東西十二町、南北八町、水深九仞、瀬戸内海の要津たり、町に郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署等あり、人口九千、山口町を距る十七里。

**むろつみなご 室津港** 播磨國揖保郡室津村にあり、五泊の隨一にして、一に室の泊、又室の浦といふ、水深四仞乃至六仞、東西五町、南北十町、西國航行の要津にして國內第一の要港たり、



(室 關 港)

昔時四國九州及中國の諸侯、江戸往來の際に必ず此に寄港せしが維新後其事全く止み、大に衰微せり。土佐國安藝郡の南部室戸岬の東面にあり、東西五十間、南北二町餘、水深一仞一尺、紀貫之が土佐日記に「奈半よりあかつきに船を出してむろつを逐ふ」と見えたるは則ち此地なりと、併し古への室津はこれより稍東南なりとも云ふ。

**むろつさき 室戸岬** 土佐國安藝郡の南端、太平洋中に斗出したる處を云ふ、一に東寺崎とも云ひ又最御崎とも云ふ、四方懸崖崎と遙かに相對して、土佐灣口をなす、崎頭峻絶壁高き約四百餘尺。

**むろつ 牟婁津** 紀伊國四牟婁郡田邊の古稱、「たなべまち」を見よ。

**むろらんまち 室蘭町** 贈振國室蘭郡室蘭岬の海岸にあり、室蘭支廳の所在地にして、人口四千餘、海陸交通の要衝に當り市街稍殷盛なり、警察署、郵便電信局、稅關支部、稅務署、區裁判所出張所等あり、鐵道は此地より起りて

石狩に入る、近海鱈の好漁場あり。

**むろらんみなご 室蘭港** 我國開港場の一にして、贈振國室蘭郡給振岬の海岸、室蘭町にあり、東西一里十町、南北一里、水深五仞、四季風浪の患なく、大船巨船の好碇場たり、近時我邦第五軍港と定められ、現今其設計準備中たり。

め

**めあかんだけ 雌阿寒岳** (女阿寒岳) 釧路國阿寒郡の北部にあり、足寄郡に跨る、千島火山帯に屬する有名なる噴火山にして、高さ四千八百餘尺、山頂に火口壁及熱湯池あり、四時滅煙を噴く。

**めいのほまぢ 姪濱町** 筑前國早良郡にあり、福岡市の四方一里二十二町、人口四千餘、其前面の海濱を姪の濱と稱し、風景極めて佳にして魚鹽の利多し、同町宇鷺尾山に姪濱城址あり、鎮西探題の館址たり。

**めぐろふごー 目黒不動** 武藏國荏原郡目黒村下目黒にあり、目黒停車場を距る四南八町許、寺は瀧泉寺と號し天台宗に屬し、寺の創立詳かならざるも寺傳によれば大同年間慈覺大師の草創にして、後慈覺僧正の再興せるものなりと云ふ、不動尊は都下三不動の一にして、靈驗いと顯たかなりと傳へられ參詣者常に絶えず、境内に比翼塚及獨鈷の瀧等あり。

**めじろだい 目白臺** 東京市小石川區の西北關口台より、北豊島郡高田村の高地を込めたる丘陵の汎稱にして、高田村の西に日本鐵道目白停車場あり、關口臺の字目白坂に日

白不動堂あり、東豊山新長谷寺と稱し、眞言新義派に屬す、都下三不動の一たり。

めらみさき布

良岬 安房國の南隅宮崎村大字布良の岬角にして嶮巖突元として海中に突出すること三町餘、附近に暗礁多く舟行極めて危険なり、近時此處に水難救濟所を設けて、難船の救濟に備ふ。



(動不黒目)

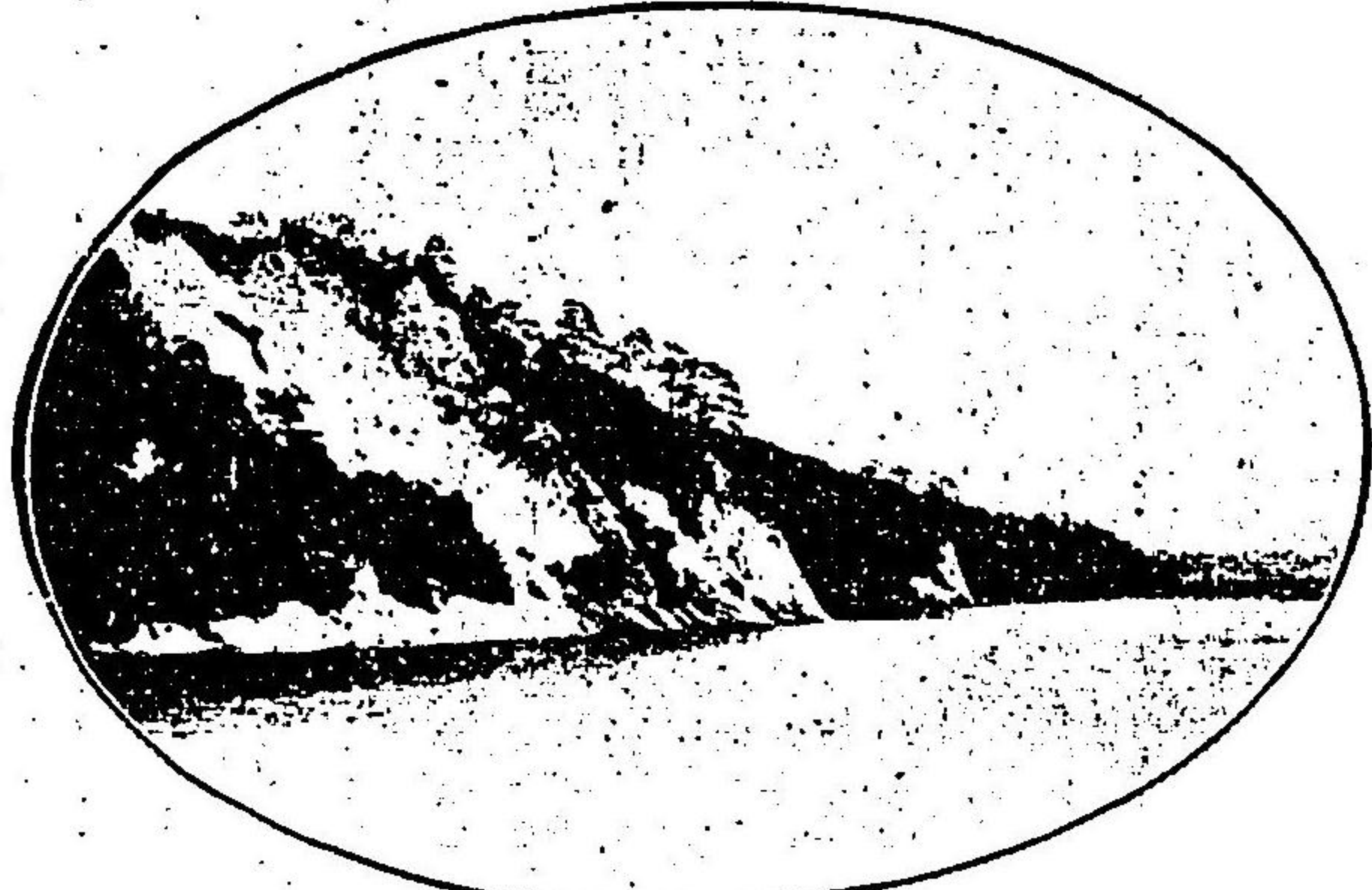
も

もつじ 毛越寺 陸中國西磐井郡平泉村大字平泉にあり、平泉停車場を距る西南十町餘、金剛王院醫王山と號す、平泉館址の西南に當り圓隆寺、嘉祥寺等を合せて、總稱したる寺號とす、仁明天皇の嘉祥年間の草創にして、慈覺大師の開基と稱せらる、堀河天皇の長治年間七堂伽藍の修築成り、堂宇宏壯にして輪奐の美を極めたりしも、中世戦亂相つき元龜天正の頃遂に兵燹に罹り頗る頽廢し、伊達政宗受封の後厚く保護を加へ、稍々舊觀に復せしも、僅かに、ありし昔の面影を偲ばしむるのみ。

もかまち 眞岡町 下野國芳賀郡にあり、宇都宮市の東南四里二十六町、人口六千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、中學校、稅務署、銀行、諸會社等あり、木綿の名産地にして、眞岡木綿の名殊に高し、町内字眞岡臺町に古城址あり、芳賀高親の築く所、もと五行川の東岸にありしを、天正年間今の地に移し、後遂に廢城となる。

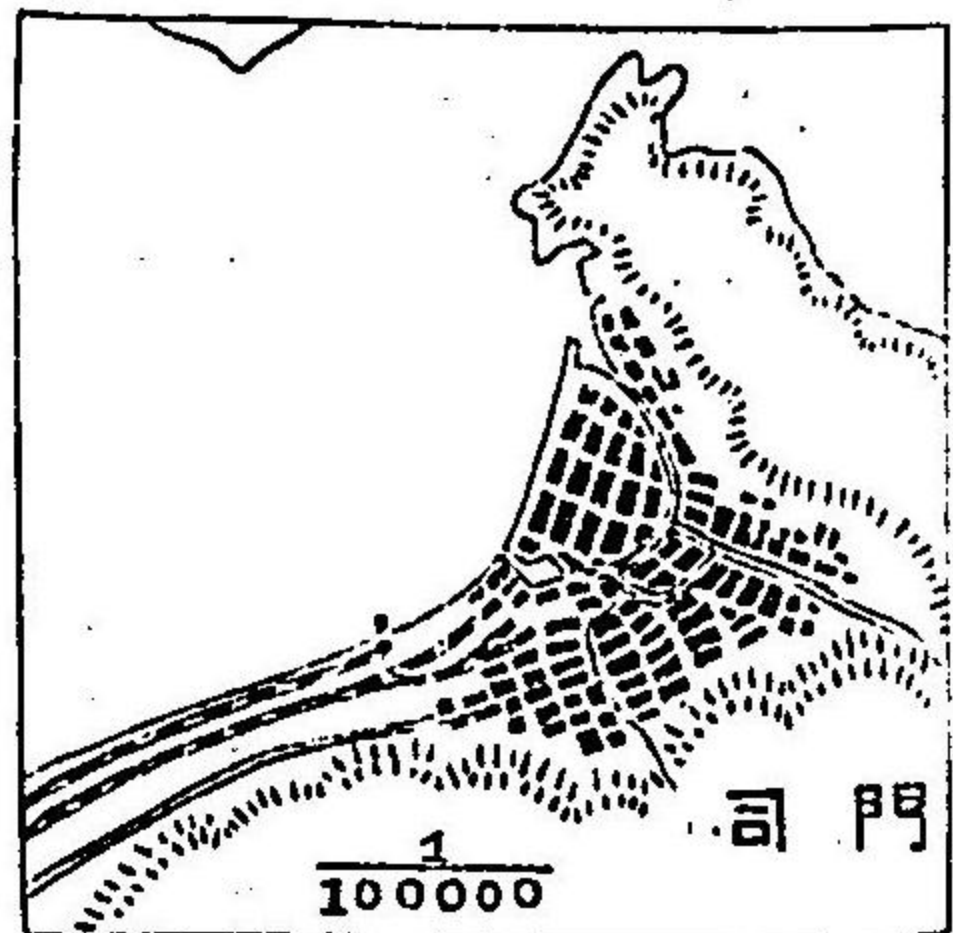
もがみかわ 最上川 日本三急流の一にして、源を南置賜郡吾妻山に發し、北流諸小流を合せ、西村山郡に入り、左澤町を經、東に折れ東村山郡豊田村に至り、二派に分れ、最上村

に至り、合して一となり、北轉寒川江川を合せ、北村山郡に入り、臘氣川を容れ四流最上郡に入り、羽後、羽前の國堺を劃し赤川を合せ酒田港に注ぐ、延長凡六十二里、河幅廣き所十三町二十間、河口より五十四里舟楫の便あり、近時北村山郡大石田より飽海郡酒田港に至る小蒸汽船の往復あり、頗る交通の便ありしが、今は中止せりと、鮭、鱒、鮎、鰻等を産す、下流の流域は所謂庄内平野にして、米穀の産多し。



(川上最)

萬八千餘、稅關支署、警察署、區裁判所出張所、郵便電信局、海港檢疫所等あり、九州鐵道は此地より起りて筑前に入る、當地は馬關と共に瀬戸内海の要口にして、要塞砲兵ありて之を守衛す、此地古くは楠原と稱し、明治の初年に至る迄、寂寞たる一寒村なりしが、馬關の開港以來筑豊炭の供給を得んとする船舶群集し形勢俄かに一變して一大市街を爲すに至れり、市街の北字城山に門司城址あり、元暦年間平氏の一隊此地に據り、應永年間大内氏之を攻界せること史に見ゆ。



もがみなご 門司港 我國開港場の一にして、豊前國企救郡門司市の前面にあり、瀬戸内海の咽喉に位し、船舶の出入極めて多し、東西四町、南北十一町、水深滿潮五仞三尺、海濱一帯に堤防相連なり、前面に門司洲横はり、其間大船の航行自由なり、九州産石炭の輸出は多く此地よりす、神戸港へ二百四十浬、長崎港へ百四十二浬。

にあり、富士山の西麓に位す、周囲三里、北に城山、烏帽子嶽を貫ひ、南に金山、龍ヶ嶽を望み、湖上の風景極めて佳なり。  
**ものべじんじや** **物部神社** 國幣小社、石見國安濃郡川合村にあり、宇麻志摩運命を祀る、其創立年代詳かならず。石見國の一の宮にして俗に之を石見の大社と稱す。

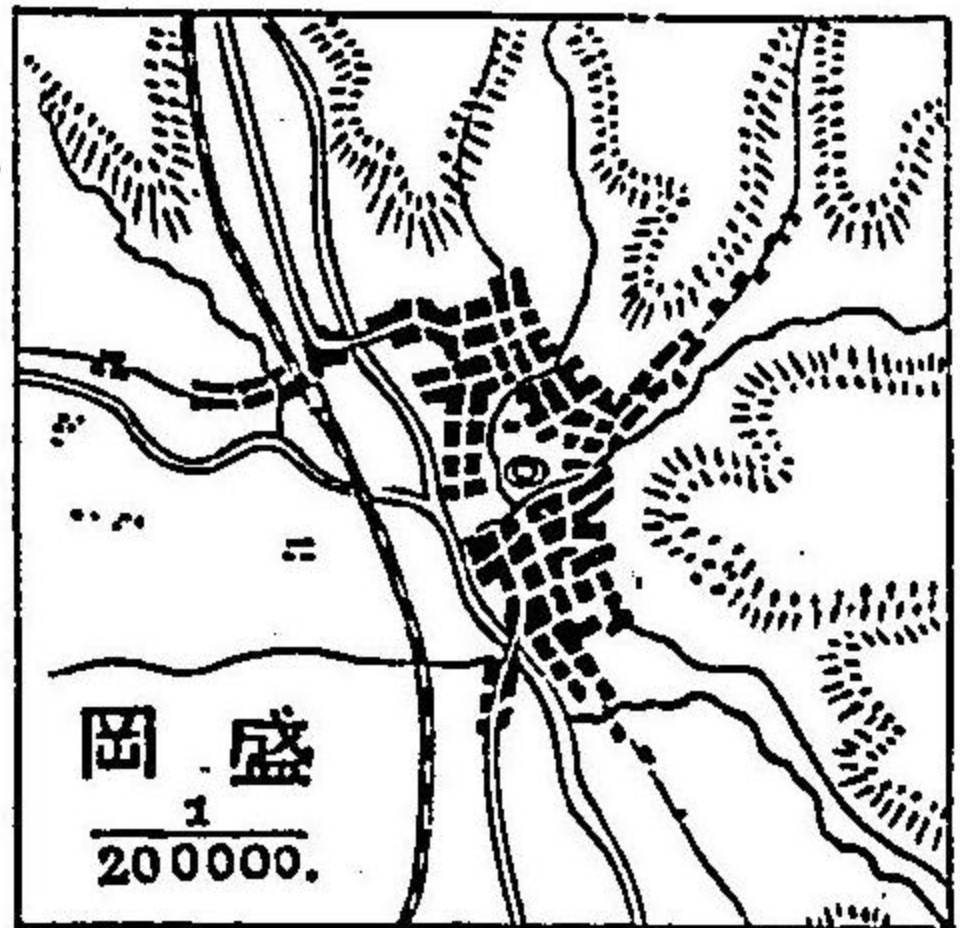
**ものべがわ 物部川** 土佐國にあり、源を香美郡の東北隅白髮山に發し、西南流して久保川、川口川、山田川を合し、物部、吉川二村の間に至りて海に入る、流域二十五里。

**もんべつむら 紋別村** 北見國紋別郡の中央海岸にある名邑にして人口約一千、郵便電信局、區裁判所出張所あり、紋別灣は廣さ僅かに四町、灣内沙濱にして水深からざるも北に辨天崎の突角ありて北風を凌ぐを以て、船舶の碇繋頗る便なり。

**ももやま 桃山** 山城國紀伊郡、伏見町の東方なる、伏見山の別稱、昔時桃山御殿のありし處、今は桃林を以て有名な里、「ふしみまち」の條参照。○大阪市南區生國魂神社の東方五六町にあり、此邊一面の桃園にして、花時群客雜沓す、關西鐵道城東線桃山停車場あり。

**もりおかし 盛岡市** 陸中關東手郡の中央にあり、北上川の東岸に位す、東京を距ること百四十里、上野青森間の鐵道停車場あり、此地は元南部と稱して、南部氏累代の城下たり。

り、巖手縣廳の所在地にして、人口三萬餘、縣廳、市役所、警察署、郵便電信局、地方裁判所、區裁判所、稅務署、大小林區署、御料局事務所、聯隊司令部、高等農林學校、師範學校、中學校、農學校、實業學校、女學校等あり、鐵器、生糸、桐等を産す、殊に南部縮緬、南部紬等有名なり、西方に厨川柵址あり、安倍貞任の據りし處として



名高し、盛岡城址は市の殆んど中央にあり、停車場より約十町、不來方城と云ふ、清原武則の甥古志方貞頼の據りし所と稱す、南部氏の有となり、慶長年間初めて築城せり、其後兩度の移轉を経て、寛永年間全城の經

營竣功して累世不易の居城となれり、廢藩後廢城となる、其内丸には縣廳を初め諸種の官衙、學校等多し。  
**もりそん (Morison)** 臺灣の新高山の舊名なり、「にいたかやま」を見よ。

**もりんじ 茂林寺** 上野國邑樂郡館林在六郷村にあり、曹洞宗に屬す、應永三十年の創建にして、大林正通和尚を以て開祖となす、御伽話に言ふ文福茶釜の本元にして、其茶釜は

や

今に寺寶として傳來すと云ふ。  
**もりやまち 守谷町** 下總國北相馬郡にあり、茨城縣に屬す、人口二千餘、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、此處に城山と稱するあり、昔時平將門偕都の地として、相馬内裏の俗稱あるも、採るに足らぬ俗説なりと、此地相馬氏累世の居館にして、天正年間徳川氏の有となり、菅沼氏の居城となりしが、寛永年間出羽上山に移り城遂に廢す。  
**もりよしさん 森吉山** 羽後國南秋田郡にあり、高さ四千餘尺、一に杜吉山とも傳す、休火山にして阿仁銀山の東に登ゆ、山上の眺望絶佳と稱せらる。

**やいたまち 矢板町** 下野國鹽谷郡にあり、陸羽街道の要驛にして、上野青森間の鐵道通過す、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、稅務署、小林區署等あり。  
**やいつまち 焼津町** 駿河國志太郡の海濱にあり、静岡市の西南に位す、戸數約千八百、東海道鐵道の一驛たり、郵便局、農事試驗所、町役場、會社、銀行等あり、景行天皇の朝、日本武尊が草を薙いて賊火を免れ給ひし處なりと云ふ、焼津神社は當町字焼津北にあり、縣社にして、日本武尊を祀る。  
**やえがだけ 八重岳** 大隅國屋久島にあり、數峯より成る、依て此名ありと、其最高峰を官浦嶽とも稱す、高さ六千三百餘尺、山中、杉の良材を産す。

**やえやまれとー 八重山列島** 沖縄群島の西南海中に散布せる先島群島中の一列島にして、石垣島、入表島、與那國島及十餘の小島より成る、八重山島役場ありて之を管す、尙ほ「いしがきじま、いりおもてじま、よなくにじま」を見よ。

**やおまち 八尾町** 河内國中河内郡にあり、當郡内の大邑にして、關西鐵道の一驛たり、中河内郡役所及八尾中學校あり、人口五千餘、元和元年大阪役の古戰場にして、同地大字

四郷の常光寺内に藤堂氏の軍士七十人の墓あり、慶長年間僧光壽の開く所と稱す、真宗大谷派の名刹なり。

**やぐしがたけ 薬師岳** 越中国上新川郡の東南、信濃國との國境にあり、立山の南方に聳ゆ、高さ九千餘尺、山上に舊噴火口あり。上野國吾妻郡の東部にあり、岩砥山と并立す。羽後國仙北郡の東境にあり、陸中國和賀郡に跨る。

**やぐし 薬師寺** 南都七大寺の一にして、法相宗に屬す、大和國生駒郡跡村にあり、天武天皇白鳳年間の草創にして、もと高市郡にありしを元正天皇養老年間今の地に移せり、本尊は薬師如来にして本邦唯一の妙作なり、境内の三重塔は毎層裳階ありて六層の如く、高さ十一丈五尺、古建造物の標本として、尤も重視せらる、其創立年代につきては或は天智時代と稱し、或は天平年代と稱し、詳かならず、又同境内に佛足堂あり、有名なる佛足石、及佛足石碑を藏す。

**やぐしむら 薬師寺村** 下野國宇都宮市の南方小金井驛の東北にあり、此地に本朝三戒壇の一なる薬師寺の舊蹟あり、奈良朝の末、僧道鏡此地に貶せらる、其墓と稱する者今尙ほ存す、又足利尊氏が國分寺にならひて諸國に建立したる安國寺あり。

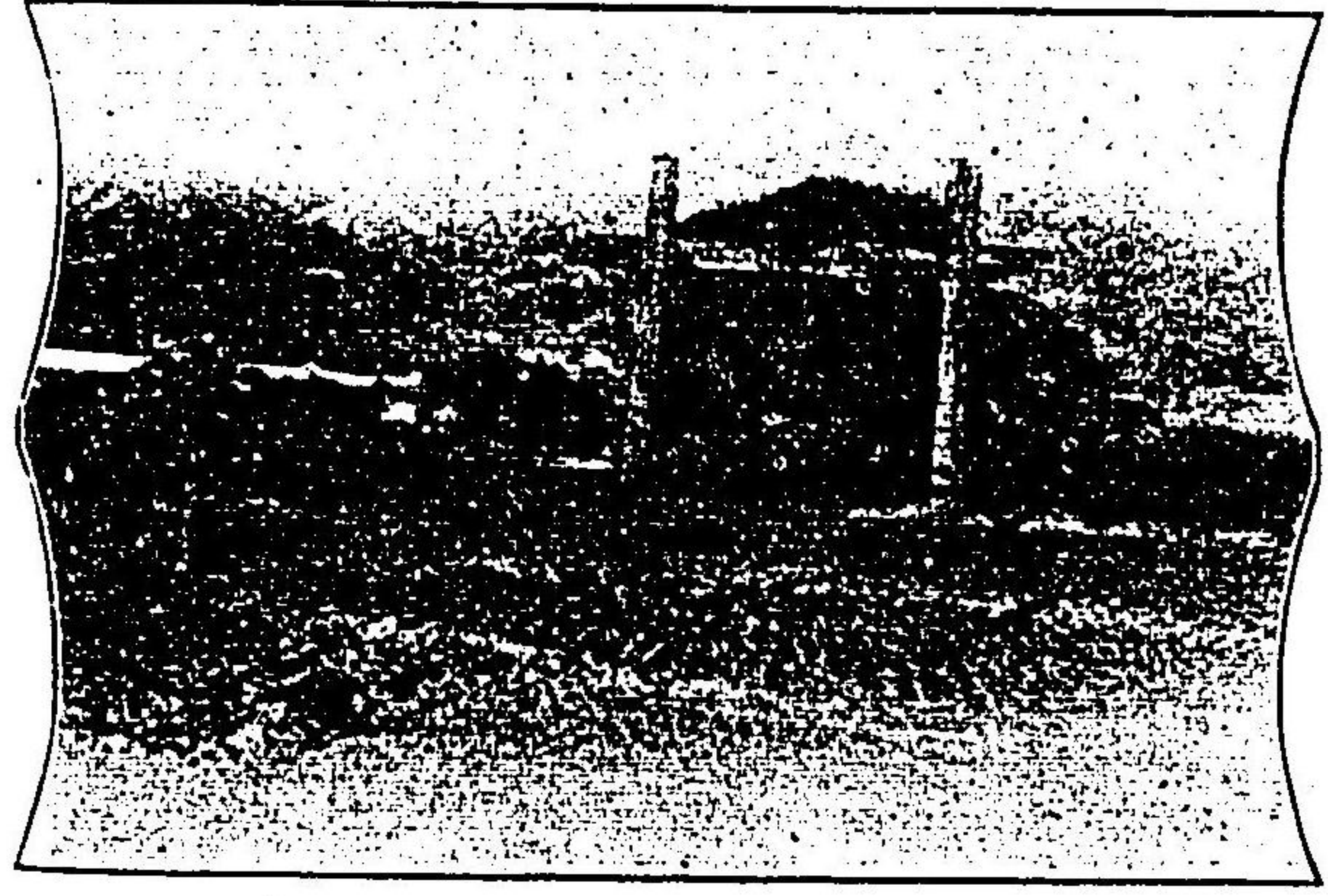
**やぐしま 屋久島** 種子ケ島の西南にあり、大隅國熊本郡に屬す、周回十六里、島に入重岳あり、高さ六千三百尺、山中

長材の産多し、此島は古史には益救又は玻玖に作り、或は南島の總稱たりしことあり。

**やぐちのわたし 矢口渡** 武藏國六郷川の下流、荏原郡矢口村より神奈川縣下橋樹郡平間村にかかる渡船場にして、蒲田停車場より約十四町あり、正平十三年新田義興、足利基氏の將、竹澤良衡、江戸高重等の爲に誘殺せられし處とす、古への渡場は今の新田神社のある處なりと云ふ。

**やぐりさん 八栗山** 讚岐國木田郡屋島

の東方にあり、火山岩質の山にして、絶頂五峰あり。

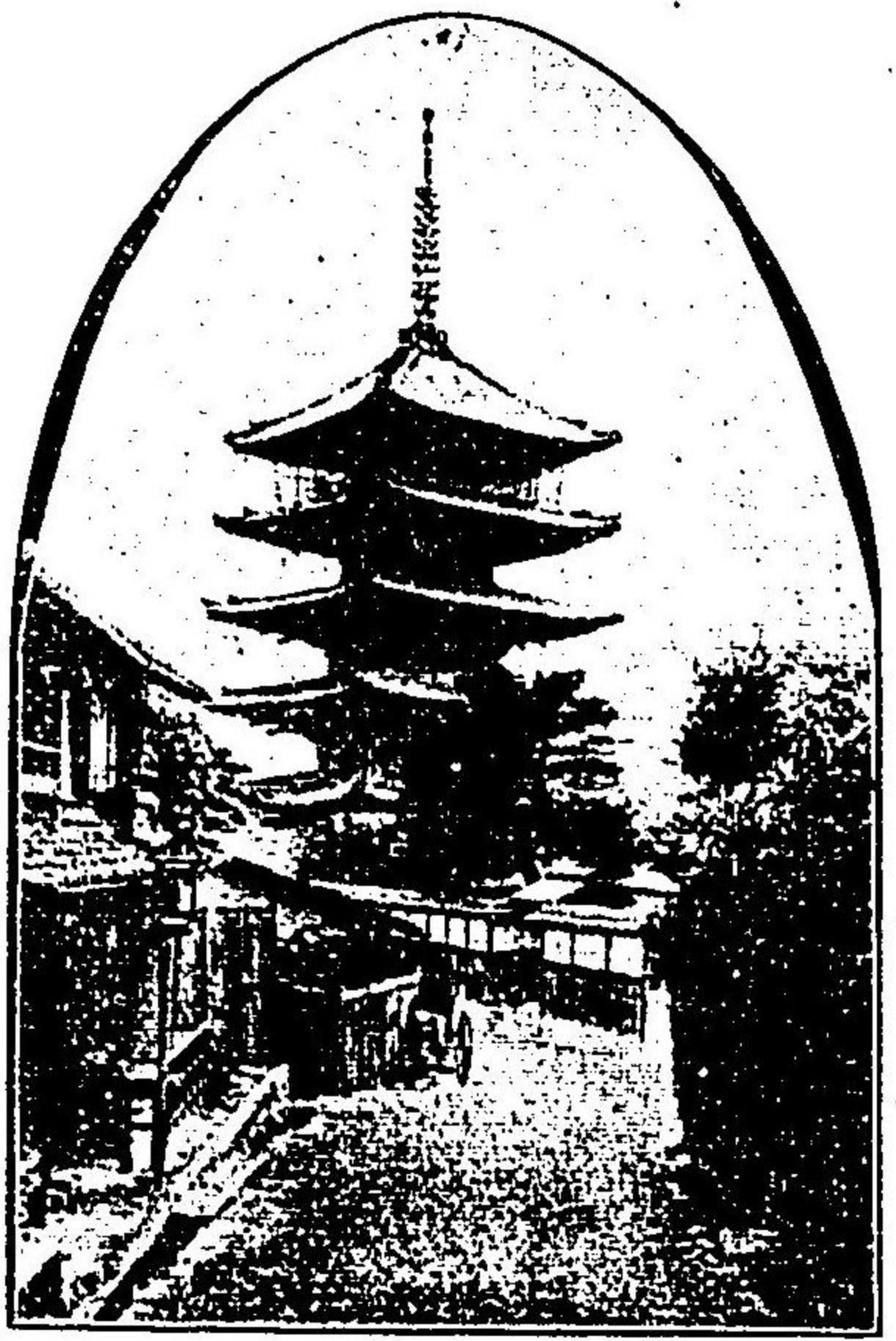


(八 栗 山)

り、依て五穀山とも云ふ、寶永年中その一峰折壞して、今は四峯となれり、山腹に城址あり天正年間中村恒頼の築く所にして、後長曾我部元親の爲めに陥れらる、山下に入栗寺あり、眞言宗に屬す、境内の望峯極めて佳なり、四國八十八靈場の一とす。

**やぐりま 焼山** 越後國中頸城郡の南部にあり、四頸城郡に跨る、妙高山と對立す、噴火山にして高さ七千二百餘尺。信濃國南安曇郡と飛騨國吉城郡との境界にあり、立山火山脈に屬す、山頂附近に硫氣噴火孔あり、常に硫氣を噴く。

**やぐりかじんじや 八坂神社** 二十二社の一にして、京都府市祇園町の東端にあり、官幣中社たり、もと祇園と稱す、明治に至りて今名に改め、素盞鳴尊、稻田姫、八柱の御子を祭る、境内攝社、末社多し、有名なる祇園會は毎年七月十七日より廿四日に行はれ、神輿は四條の御旅所に渡御し、山車及び鉦を曳き出し、其儀の盛なる海内無双たり。



八 坂 五 重 塔

**やぐりかじんじや 八坂塔** 京都市下京區祇園町八坂神社の境内にあり、古くは八坂寺ありしが、今は殿堂頽廢して、只此塔を残すのみ、塔は五重にして、洛東に美觀を添ふ、足利時代の建築物と稱せられ、特別保護建造物たり。

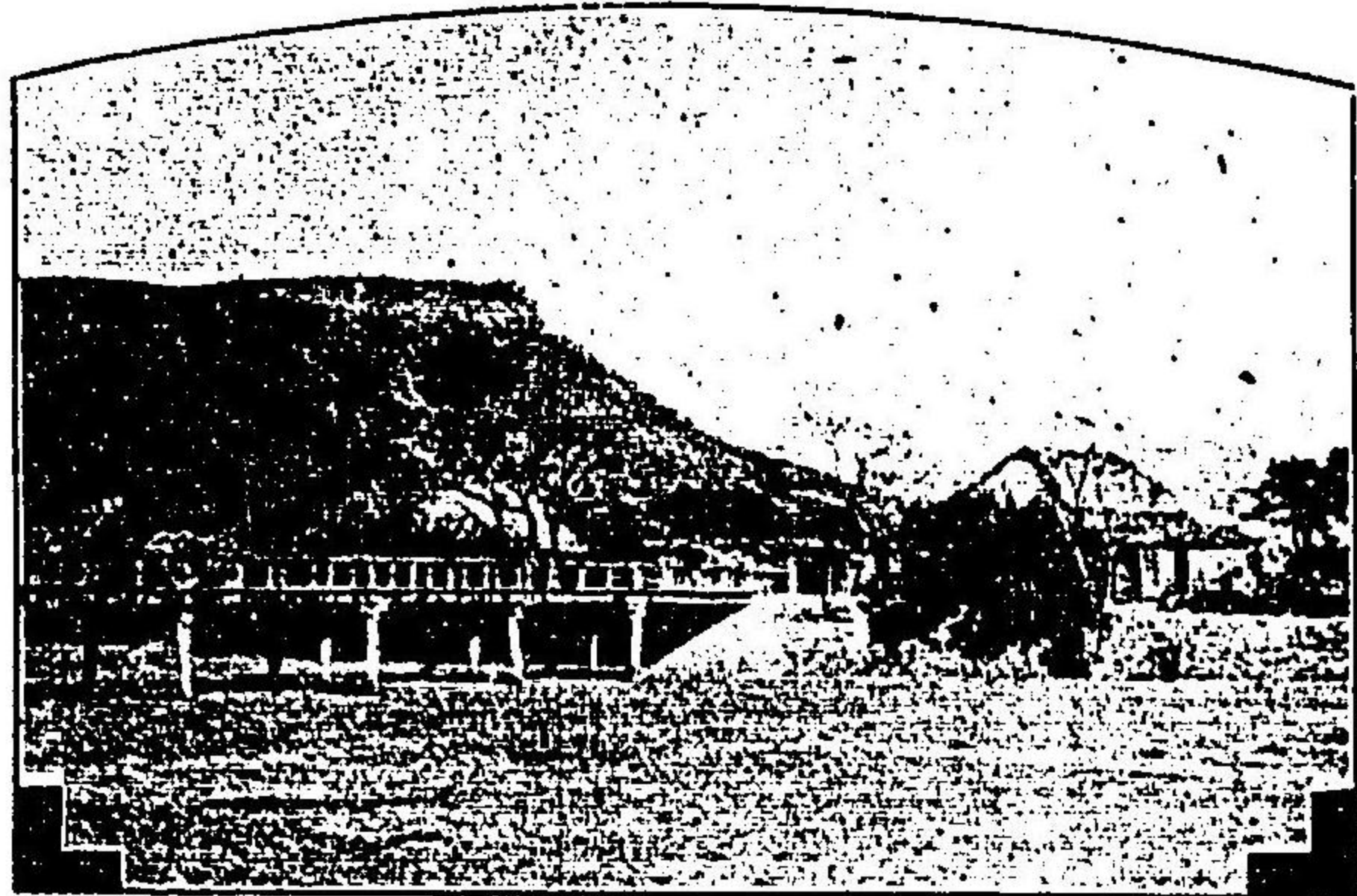
**やぐりさん 屋島山** (八島山) 讚岐國木田郡湯元村にあり、高松市の東方二里餘に在り、昔時は一の離れ島なりしも、今は僅かに溝渠を以て陸繋きとなれり、壽永二年平宗盛、安徳天皇を奉じてこの麓に行在を設けしが、翌年源義經の爲めに之を陥らる、山上に入島寺あり、其四方一町許に獅子靈巖あり、眺望甚だ佳なり、山麓東湯本村に屋島神社あり、縣社にして東照宮及菫高島瀨祖松平頼重を合祀す。

**やぐりさん 屋島寺** 讚岐國屋島山上にあり、寺は眞言宗にして京都仁和寺の末寺たり、もと律宗に屬せしが弘仁年間弘法大師伽藍を再興し今の宗に改めたるなりと、今の堂は萬治年間の再建にして頗る荒廢の傾あり。



やしまのうら

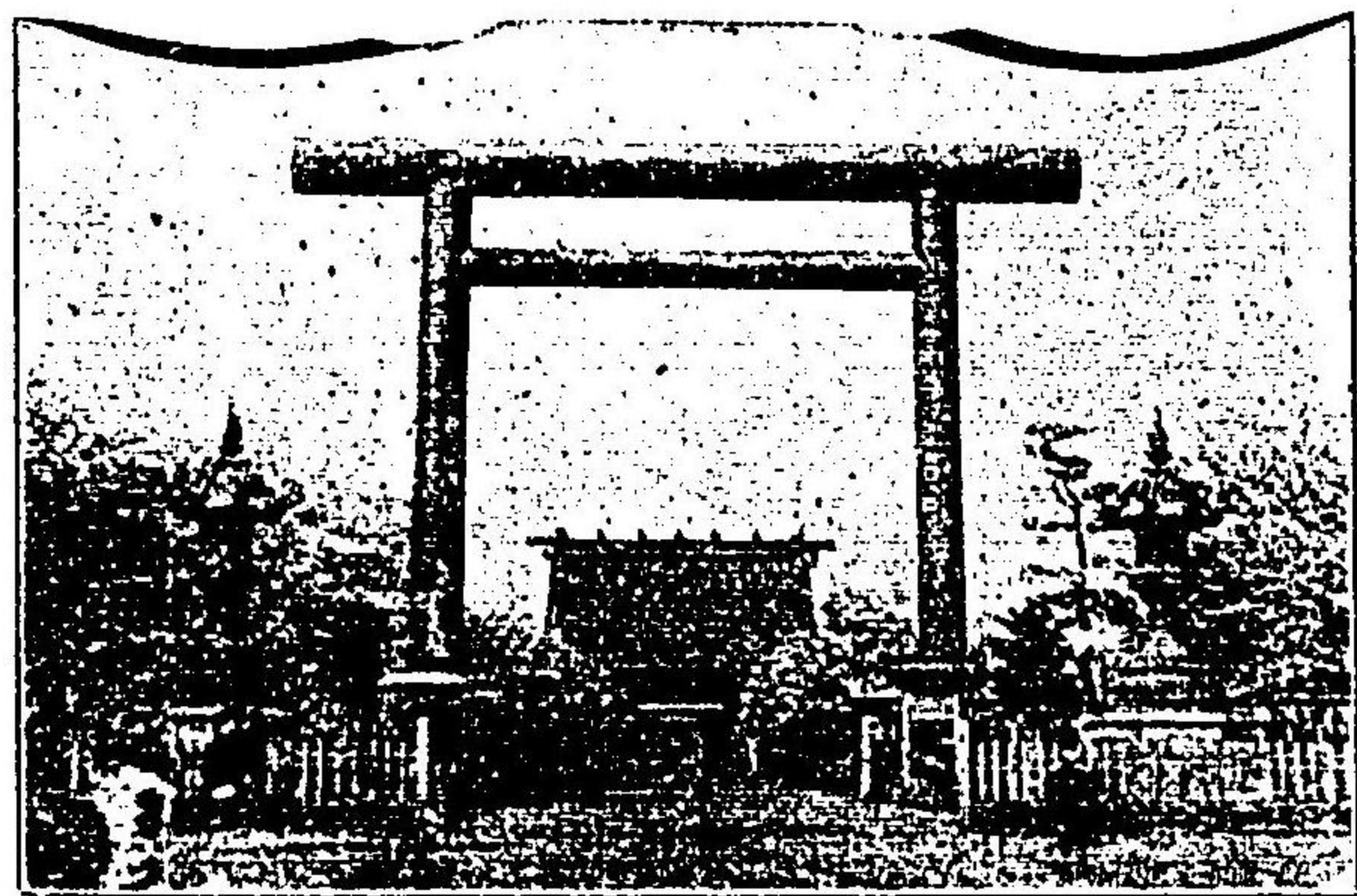
屋島浦 讃岐國木田郡屋島山の東麓を云ふ、壽永年間平軍の逃れ來りし處にして、史上尤も名あり。



(山 島 屋)

やすがわ野洲 川 (矢洲川) 近江國野洲郡にあり、上流を横田川と云ひ、源を國の東南鈴鹿山中に發し甲賀郡を西流して、石部附近より二派に別れ、共に琵琶湖に注ぐ、河畔は元龜元年柴田勝家と六角義賢との古戰場とす、詠歌多し、安嘉門院の「旅人もみな諸共にあき立ちて、こまうちわたすやすの川霧」慈圓法師の「早苗とるやすの渡りのかたあらし、こぞの刈田はさびしかりけり」。

やすくにじんじや 靖國神社 東京市麹町區九段坂上にあり、俗に招魂社と云ふ、維新以後國難に殉せし志士を合祀せる處にして、明治十二年六月別格官幣社に列せられ、海陸軍省より之を奉祀す、毎年五月、十一月の五、六、七日を大祭日とす、境内遊就館、大村益次郎、川上大将の銅像及び遊園あり、數多の櫻梅樹境内に基植せられ、花時殊に雜沓を極む。



(社 神 國 靖)

やすむら野洲 村 近江國野洲郡野洲河畔にありて、東海道鐵道の一驛とす、郡役所、郵便局等あり、野洲酒布の産地として有名なり、この附近篠原

村に平宗盛の墓あり、三上山、御上神社、錦織寺に赴くには此驛に下車するを便とす。

やせむら 八瀬村 山城國愛宕郡高野河畔、比叡山の西麓にあり、昔時は村民世々禁裡に出入して、行幸の時、駕輿丁を務めたり、此村以北、大原に至るまで、女子常に京に出て薪を賣る、昔紺地の服に脚半、手甲を着け、頭上に物を戴き、「くろ木召せ」など呼び往く様おかし、世に之を小原女(ヲハラメ)と云ふ。

やだいじんやま 矢大神山 磐城國双葉、田村兩郡に亘る、高さ三千餘尺、一に矢大臣山と稱す。

やたがわ 矢田川 (一名射添川) 但馬國にあり、源を美方郡水山に發し、西流城崎郡に至りて海に入る、長さ十里。

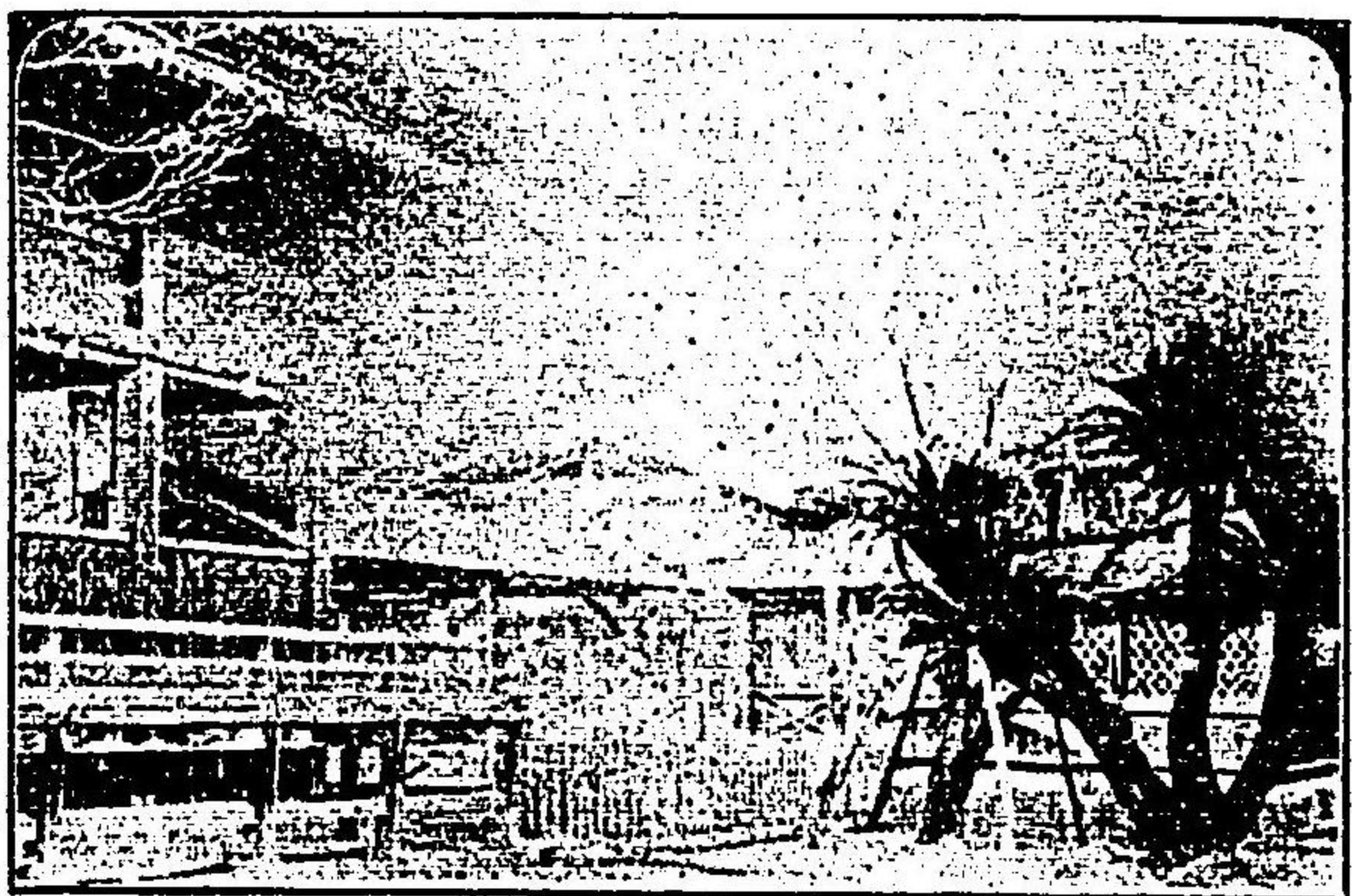
やたごぞ 矢田地藏 京都市上京區三條寺町の北にあり、淨土宗にして金剛寺と稱す、本尊地藏は滿米上人の作りと云ふ。

やつおまち 八尾町 越中國婦負郡にあり、人口七千餘、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所あり、物産は生糸、蠶種、紙等有名なり。

やつがたけ 八嶽 富士火山脈に屬す、甲斐、信濃の國境にあり、高さ八千九百餘尺、八峯屏立して頗る峻秀を極む。

やつかんがわ 驛館川 豊前國にあり、豊後より流出せる津

(宮 代 八)



房川、惠良川の合流にして、宇佐郡の中央を北流して、長州町を経て海に入る、流域八里餘、一に宇佐川と稱す。

やつしろのみや

八代宮 官幣中社、肥後國八代郡八代町舊城址内にあり、征西將軍懷良親王を祀り、成良親王を合祀す、明治十三年の創建とす。

やつしろまち

八代町 肥後國八代郡球磨河口にあり、人口一萬餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林区署、中學校等あり、八代焼、紙、疊表、セメント等の産多し、八代城址は町の中央より少しく北方にあり、球磨川其南を

流れ、四海に臨む、元和年間加藤氏の築く所、寛文年間雷火にかかり天主樓楯多く焼失せり。

やまがたけ

柳井津町 周防國玖珂郡の西南海岸にあり、室津半島に接す、人口四千餘、警察署、區裁判所、郵便電信局等あり、綿織物及甘味醬油等の産あり、陸に山陽鐵道の停車場あり、海に柳井津港を控え、水陸の便最も多く、當國屈指の商業地たり。

やながせ

柳瀬 近江國伊香郡賤ヶ岳の北方片岡村にあり、米原高岡間の鐵道通過す、山間の一小邑なるも古來北陸街道の要路に當り、殊に近江、越前の國境にあるを以て其名古くより知らる、停車場より約十六町許にある柳ヶ瀬山は、賤ヶ岳の役北軍の總大將柴田勝家が壘を築きたる所にし、今尙其遺跡を存す、又天正元年朝倉義景此處に陣し織田信長の爲めに破られ大敗して越前に逃る、徳川幕府の時、關所を置き彦根藩をして守らしむ。

やながわ

柳河町 筑後國山門郡久留米河畔にあり、立花氏十一萬九千餘石の舊城下にして、久留米市の西南五里に位す、人口七千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、中學校、女學校等あり、町の南に舊城址あり、永祿年間菊池氏の築く所、天正年間立花氏の有となり、關ヶ原役西軍に與みして奥州に移されしが、大坂役に功あり、舊領を復し、子

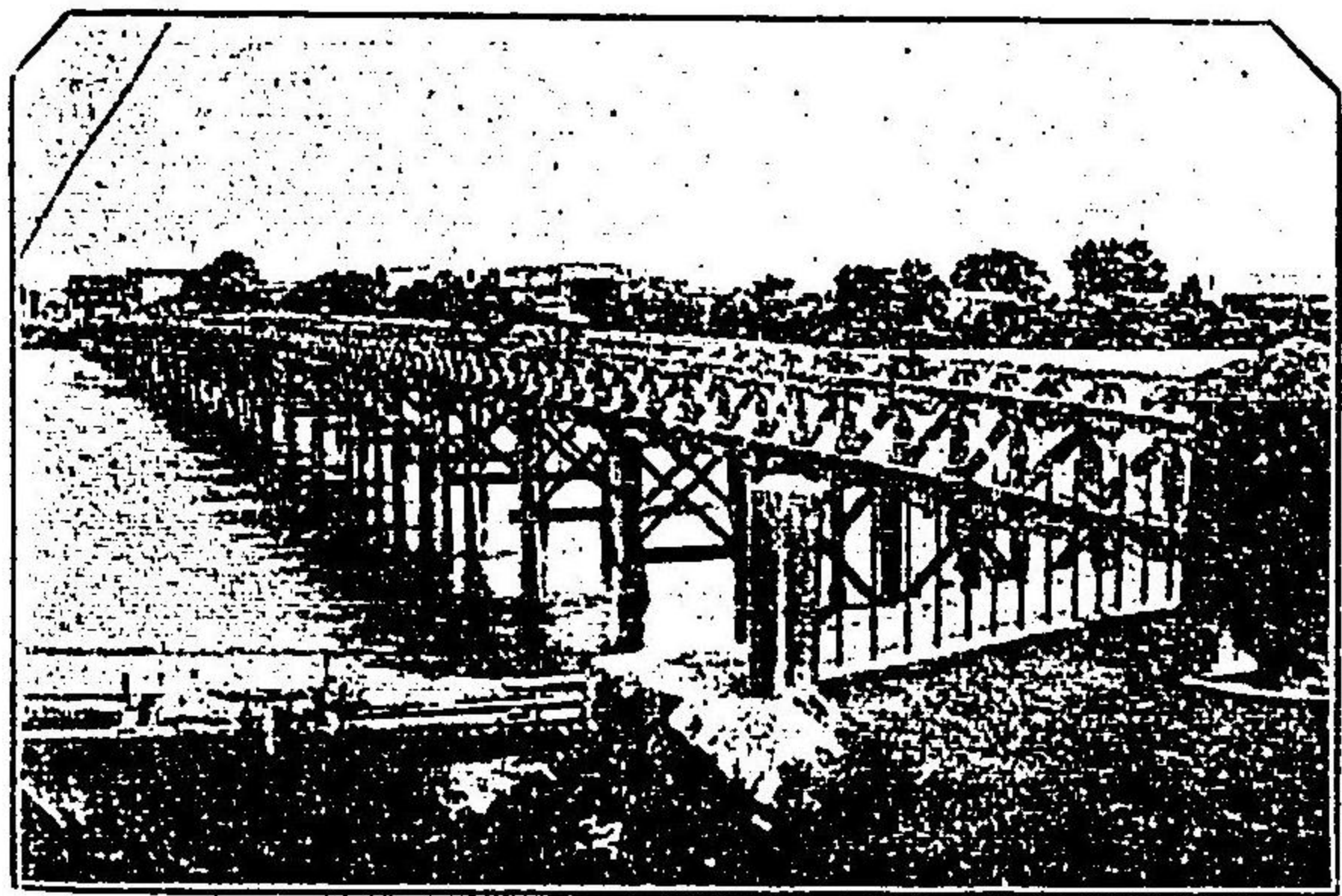
孫世襲して王政維新に至る、城は明治五年火災にかかり、次で廢城となる。

やまがたけ

柳渡 大和國吉野郡上市町の四方、六田の里なる吉野川渡舟場を云ふ、吉野に至る樞要の渡し場なり、此上に梅の渡、櫻の渡あり、一は瀬上渡と云ひ、一は上市渡とも云ふ、共に奈良より吉野に至るの津渡たり。

やまがたけ

矢作川 (矢矧川) 三河國にあり、當國第一の大河にして源を美濃國惡那郡阿賀瀬山に發し、西南流して美三兩國の境を流れ學母町の東



(橋作矢)

を過ぎ足助川を谷れ、南流して、岡崎町の西を過ぎ大平川と合し和多海に入る、流域約二十八里。

やまがたけ

耶馬溪 豊前國下毛郡山國川の上流にあり、中津町の南方四里に位す、此地山間にして奇石溪水相噴み、奇松嶺巖の間に點綴し、其形態名状すべからざるものあり、賴山陽嘗て此地に遊び、流内第一の勝景と稱せしより其名漸く天下に知らる。

やまがたけ

彌彦神社 越後國四浦原郡彌彦山の東麓彌彦村にあり、國幣中社にして、天香兒山命を奉祀す、もと當國一の宮たり。

やまがたけ

彌彦山 越後國にあり、四浦原、三島の兩郡に跨る、高さ二千餘尺、新潟市の西南に聳え、四浦原郡彌彦村大字彌彦より約一里にして山頂に達す、半腹以上禿山にして樹木無し、山上の眺望極めて佳なり、山麓に彌彦神社あり。

やまがたけ

八方嶽 肥後國にあり、菊池、鹿本の兩郡に跨る、高さ三千四百餘尺、一に管嶽とも稱す、山勢峻峻にして八面一様の觀あり、菊池郡龍門村字上虎口より登り二十六町にして山頂に達す。

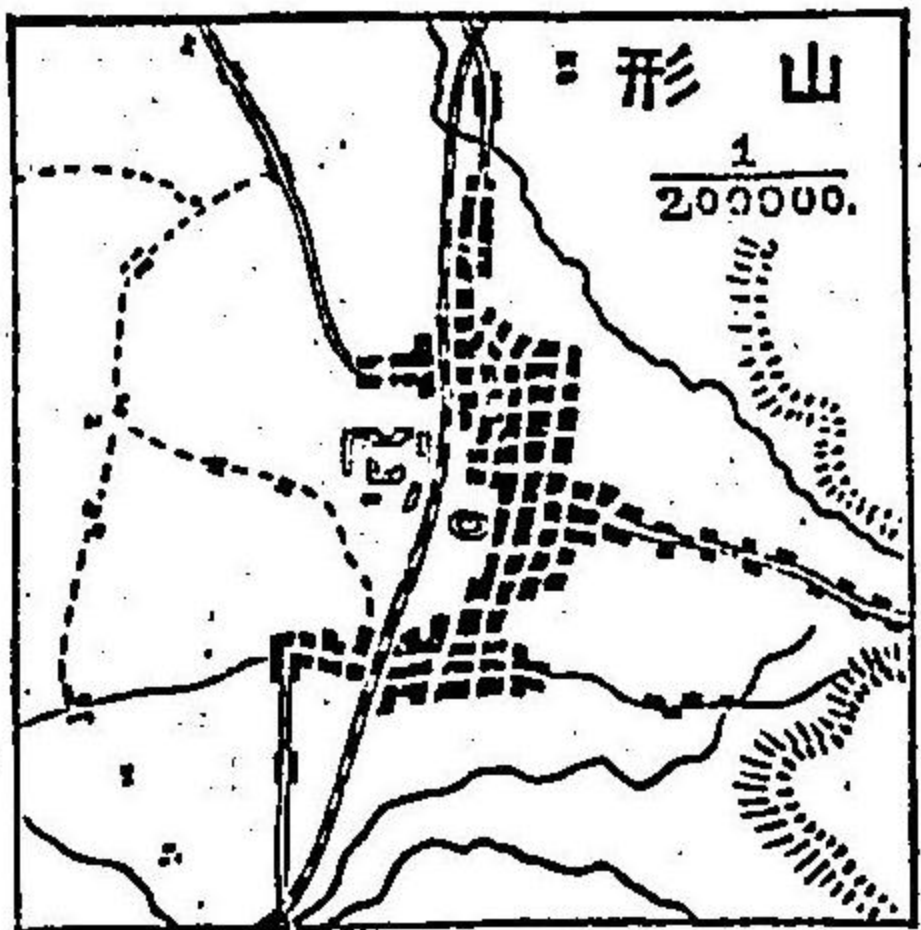
やまがたけ

山形縣 縣廳は山形市にあり、羽前一國及羽後

町二百六村より成る。

やまがたけ

山形市 羽前國南村山郡の北隅にあり、馬見ヶ崎川の沿岸に位す、東京を距る九十五里、水野氏五萬石の舊城下にして、官鐵奥羽線の停車場あり、山形縣廳の所在地にして、人口四萬餘、地方裁判所、警察署、郵便電信局、測候所、監獄署、稅務署、小林區署、師範學校、中學校、農學校、高等女學校、諸會社、病院等あり、銅鐵器、黒柿細工、熨斗梅等の産多し、此地は元最上と稱す、足利幕府の時、斯波氏羽州探題として來り治め、子孫世襲して最上氏を稱す、徳川時代最上氏滅びて鳥居、保科氏相次で封を受け、爾後數回領主の移轉あり、最後に水野氏來り領して遂に維新に及ぶ、舊城一に霞城と稱し、最上氏の築く所、廢藩後廢城となりしが、今陸軍省の所管となり、歩兵第三十二聯隊の營所たり。



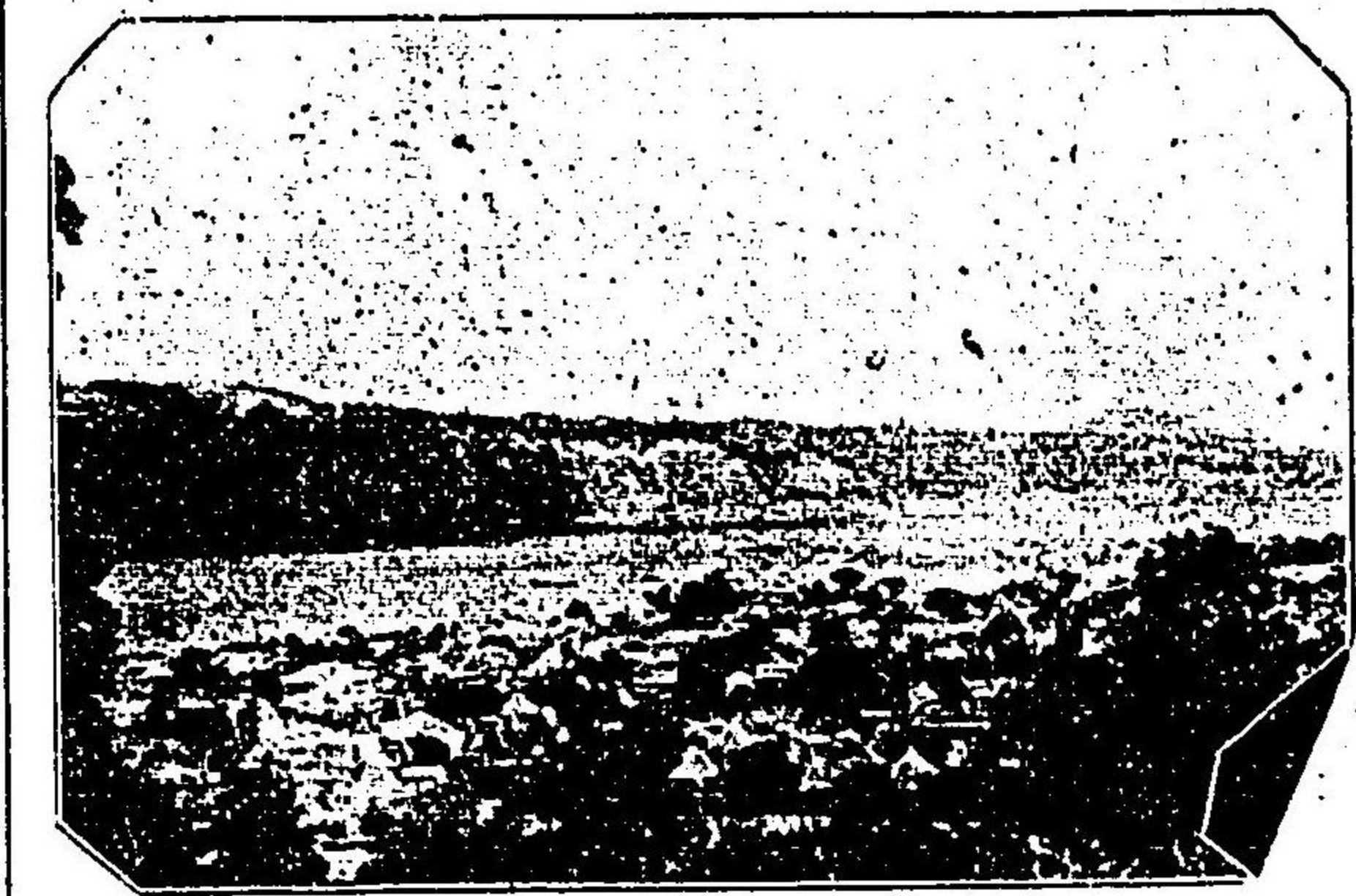
やまがたけ

山鹿町 肥後國鹿本郡の中央にあり、郡中第一の都邑にして、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局等あり。

り、熊本市を距る七里、山鹿温泉あり、禰黄泉にして其浴場の廣き九州第一と稱せらる、浴客常に群衆す、町の東南大道村大字中村に山鹿神社あり、大宮大明神と稱し、又阿蘇明神とも云ふ、結構頗る壯麗なり。

やまかわみなと 山川港 薩摩國掛宿郡山川村大字福元と

成川とに亘る、港灣の周囲三十六町、灣口東に開き、船舶の碇繋に便なり、島津家久の琉球を征するや、舟師此處より發せり、又藤原愷高の明に渡航せんとして、ここに風波を避けしことあり。



(港 川 山)

やまきた 山北

に發し、諸水を合して東北流、樋田邊より北折して、下毛、築上兩郡境を流れ、中津町を経て海に入る、一に高瀬川、府津川、中津川とも云ふ。

やまき 山崎 山城國乙訓郡の南方大山崎村にあり、南に

淀川を控え、北に天王山を負ひ極めて形勝の地たり、此地は天正十年明智光秀豊臣秀吉と戦ひ大敗せし處にして、天王山は實に其決勝地點たりき、慶應四年幕府の軍官軍と此地に戦ひ敗る。

やましなのこぼし 山科御坊 山城國宇治郡山科にあり、

兩本願寺の別院にして、二ヶ所あり、一は本願寺派の別院にして舞樂寺と云ひ、一は大谷派の別院にして長福寺と云ふ、樂舞寺は文明年間蓮如上人の創建する所にして、創立當時頗る壯大なる大伽藍なりしが、後屢々兵燹にかかり頽廢し、今の堂宇は安永年間に再建せるものなりと。

やましなむら 山科村 山城國宇治郡にあり、伏見大津間の

の要路にして、東海道鐵道通過す、天智天皇の山科御陵ある處にして、近傍に毘沙門堂、山科御坊の舊蹟、大石良雄の舊宅、深草少將の宅址、及小町塚等の名蹟多し。

やましる 山城國 畿内五國の一にして、東は近江、伊賀に

違り、西北河内、攝津、丹後に、南大和に接す、國を分つて、乙訓、葛野、紀伊、愛宕、宇治、久世、綴喜、相樂の八郡となし、京

相模國足柄上郡にあり、足柄山脈の東に位し、東海道鐵道の一驛あり、名物鮎鮎を製ぐ、當驛より小山驛に至る間に七個の大隧道あり、此地より約十五町北足柄村字平山に瀧水の淵あり、本郡第一の大瀑布にして、避暑の好適地たり。

やまぐちけん 山口縣 縣廳は山口町にあり、周防、長門一

圓を管す、面積三百八十九方里、一市十一郡四町二百二十四村より成る。

やまぐちまち 山口町 周防國吉敷郡の西北部にありて、東

京を去る二百六十九里、人口一萬九千餘、山口縣廳を始め地方、區裁判所、警察署、郵便電信局、稅務署、小林區署、第二十一旅團司令部、歩兵第四十二聯隊、高等商業學校、師範學校、中學校、高等女學校、病院等あり、此地は維新前毛利氏の舊藩地にして、其城址は町の北方にあり、正平年間大内氏守護となりてより、世々其職を襲きて隆盛に至り、防、長、石、鹽、備、豐、筑七州の守護を兼ね、此地を根據として威を近國に振ひ榮華を極む、當町の盛なる益し此時を極とす、天文二十年義隆亡びて、町も亦衰頽せしが、文久三年毛利氏殺より此地に移るに及び、漸く面目を復せり、城は維新後廢せられ城址に縣廳を置く、町の北に龜山公園ありて毛利氏の銅像を建つ、町の西には湯田温泉あり、浴客常に多し。

やまくにがわ 山國川 豐前國にあり、源を下毛郡英彦山

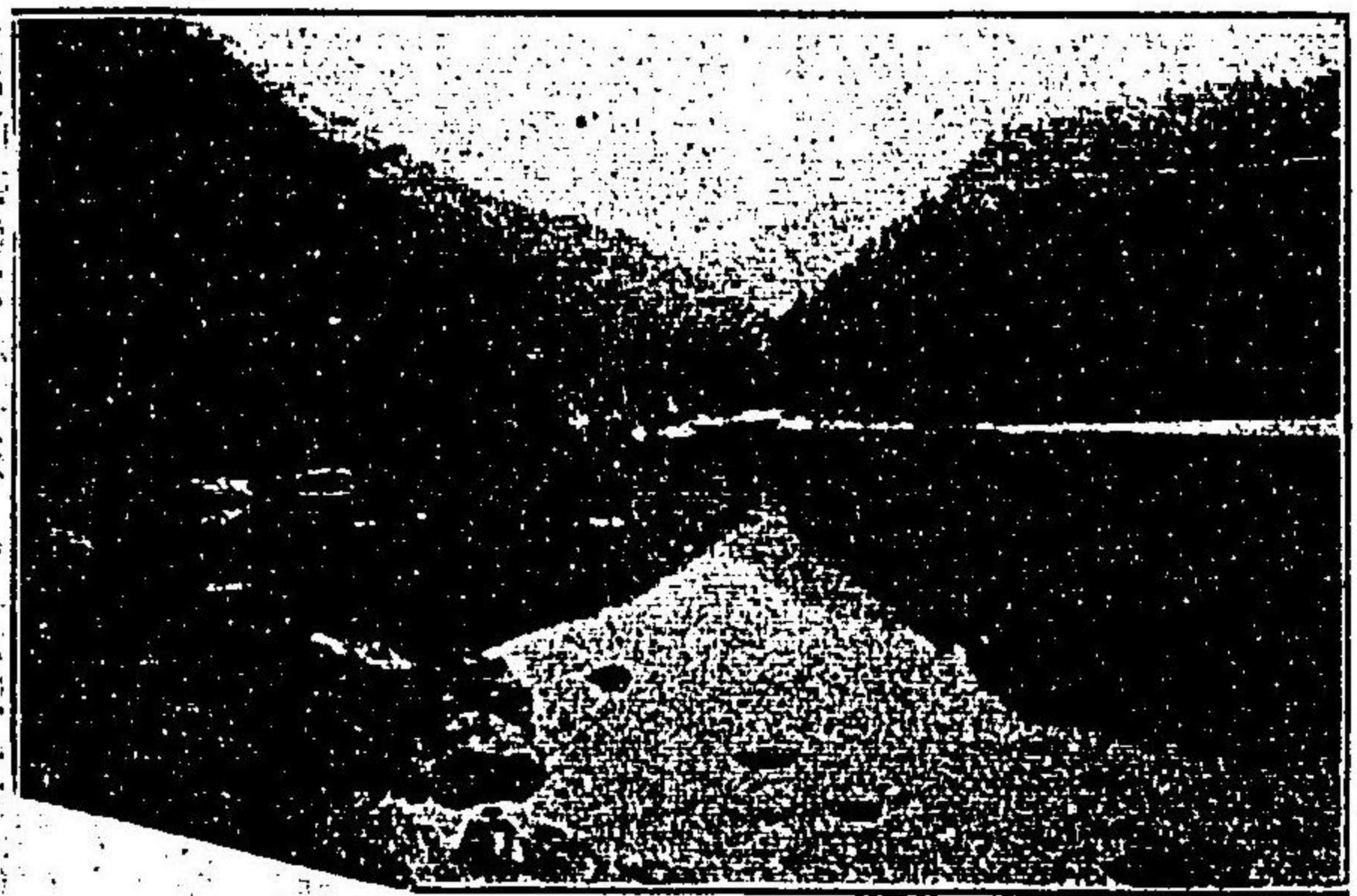
都府の管下に屬す、地勢三方は山を以て限られ、一方は川を以て限らる、其狀天然の城廓に似たり、因て國名となす、産物は西陣織物、友禪染、清水焼、宇治茶、松茸等世に名高し、此地古くは山背又は山代と書す、桓武天皇京都以來山城と改め、爾來維新に至る迄帝都のありし處にして、國內名所舊蹟至る處に多し。

やましるのした いが 山城

四大河 宇治河、木津川、大井川、賀茂川を云ふ、各條を見よ。

やましるむら 山代村 加

賀國江沼郡の西隅、大聖寺町の附近にあり、此地九谷焼製産地の一



(川 井 大)

として有名なり、又温泉あり、浴客多し。

**やまたまち 山田町** 「うぢやまたを」見よ。

**やまでら 山寺** 羽前國東村山郡の東境にあり、山形市を距る三里餘、山中奇石怪岩累々として頗る奇秀を極む、中腹に寺あり、寶珠山立石寺と號し、國內屈指の靈刹にして貞觀年間の草創と稱せらる、中世兵亂の爲め頗る廢頽せしを、徳川家光之を復興し改めて千四百二十石の朱印地を給はれりと、境内五萬八千餘坪、秋時紅葉の候眺望極めて佳にして附近探勝の士頗る多し。

**やまと 大和國** 畿内五國の二にして、東は伊賀伊勢に、西河内、南紀伊に、北山城に接す、地勢東西に短かく南北に長し、東西南の三方は山嶺重疊、中央以北は一帯の平野にして奈良郡山の如き市街あり、國を分つて添上、生駒、山邊、北葛城、南葛城、宇陀、宇治、高市、吉野、磯城の十郡となし、奈良縣の管下に屬す、産物は奈良晒、奈良漬、吉野紙、吉野葛、木材等多し、此國古くは山趾と稱し、又大倭、大養徳と云ふ、聖武天皇の十九年改めて大和となす、神武天皇都を橿原に奠め給ひしより桓武天皇の平安奠都に至る迄、二三の遷都を除きて歴代帝都を置かれたる地にして、前後殆ん二千年四百年帝國の中心地たりしを以て、歴史上將た又美術工藝史上注意すべきもの頗る多し、奈良朝七世七十餘年間の帝都

の遺址は奈良市の西方生駒郡内に残り、南北朝の際、南朝の根據地たりし吉野山は花とともにも其名千古に傳はり、足利氏の末年戰亂の餘響は此地にもひびき渡り、有名なる大佛殿は松永簡非等の徒の焼き拂ふ所となる、豐臣氏の代秀吉の弟秀長郡山に封ぜられ、次で増田氏之に代はりしが、關ヶ原の役後、徳川氏國を分ちて郡山、高取、小泉、櫛羅、芝村、柳木、柳生の七藩とし、且奈良に奉行職を置きて之を治めしむ、廢藩後、奈良縣を置きしが、後之を廢して堺縣、又次で大坂府の管下に屬せしが、後又奈良縣の管下となる。

**やまどがわ 大和川** 攝津、和泉の兩國界にあり、大和國初瀬川の下流にして、大和より河内を貫き、西南流和泉を堺して海に入る、流域十三里十四町。

**やまどじんじや 大和神社** 官幣大社、大和國山邊郡朝和村大字新泉にあり、倭大國魂神、八千矛神、御年神を祀る、垂仁天皇二十五年の創建と稱せらる、毎年四月一日例祭を行ふ、俗に「ちやんちゃん」祭と稱す。

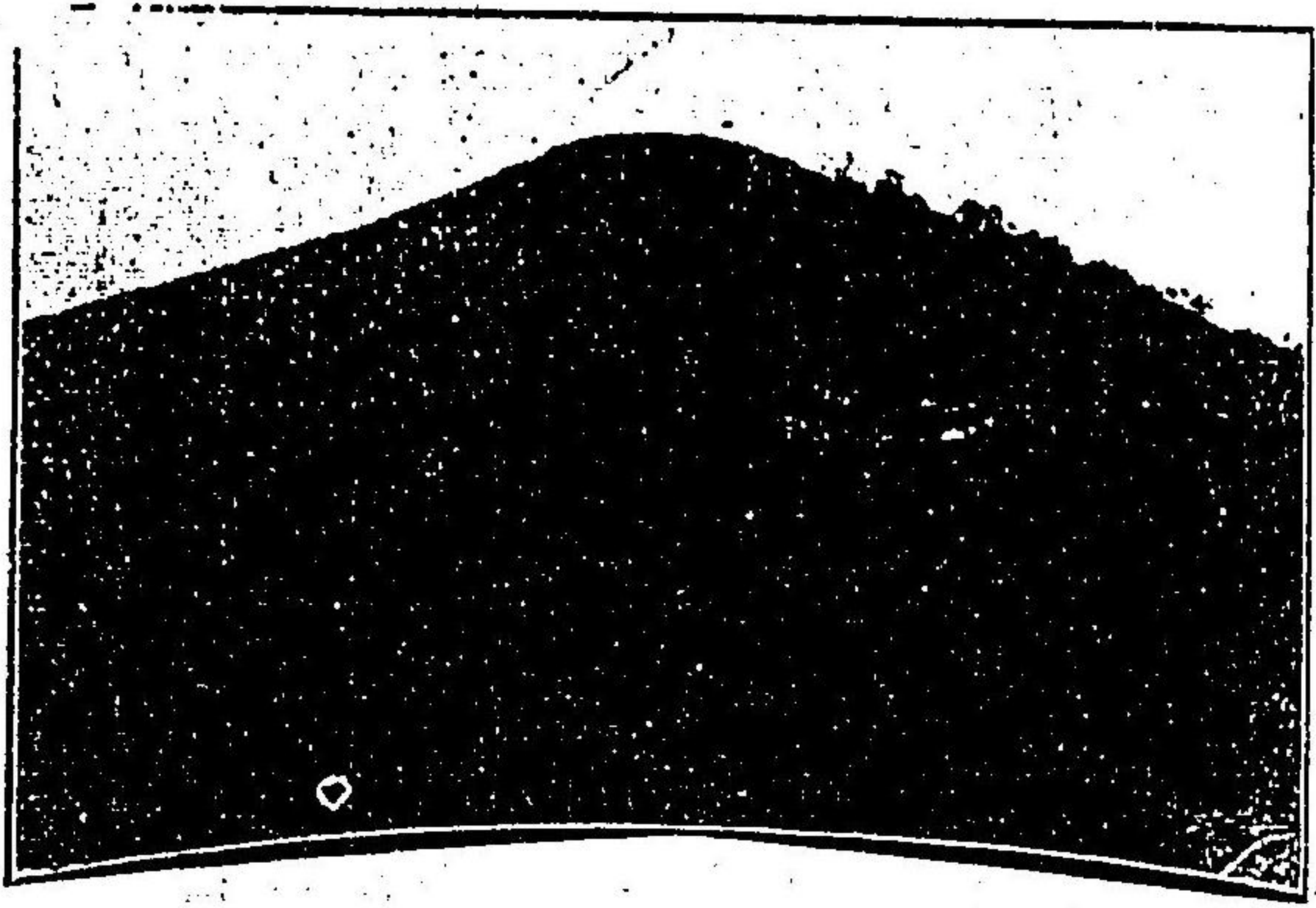
**やまどのさんざん 大和三山** 大和國高市郡の畝傍山及び磯城郡の天之香具山、耳成山を云ふ、平野の間に各々十數町づつ隔りて鼎足の如く屹立す、尙各條を見よ。

**やまなかこ 山中湖** 富士入湖の一にして、甲斐國南都留郡河口湖の東南にあり、周圍三里十八町、桂川此に發源す、一

に臥牛湖とも稱す。

**やまなかむら**

**山中村** 加賀國江沼郡の西北山中にあり、警察分署、區裁判所出張所、郵便局あり、九谷焼製造地の二にして、又漆器の産多し、此地に有名なる山中温泉あり、一に白鷺温泉



(山 成 耳)

と云ふ、風景の幽邃を以て名高く、北陸道中屈指の温泉場たり。

**やまのてせん 山手線** 日本鐵道の支線にして、一は田端より池袋に至り(線路延長十九哩三十四鎖)、一は新橋より赤羽に至り(延長十六哩十四鎖)。

**やまなしけん 山梨縣** 縣廳は甲府市にあり、甲斐一隅を管す、面積二百八十九方里八五、一市九郡五町二百四十一村より成る。

**やまのうえのひ 山上碑** 上野三古碑の一にして、多野郡八幡村大字山名村にあり、高さ三尺餘、字畫磨滅して、其建設年代を知る能はざるも、學者の説には碑面に辛巳歲とあるより白鳳十年辛巳年ならんと云ふ、碑側に石櫛あり、觀音の石像を安置す。

**やみぞさん 入溝山** 阿武隈山脈に屬し、磐城、下野、常陸三國の境にあり、高さ三千六百餘尺、一に「はつこーさん」とも云ふ、満山樹林蒼鬱として巨材多く、山頂に入溝神社あり、四望廣闊風景極めて佳なり。

**やんげじりしま 焼尻島** 天鹽國昔前港の西北十二裡にあり、昔前郡に屬す、周圍二里十七町、沿岸漁利多し。

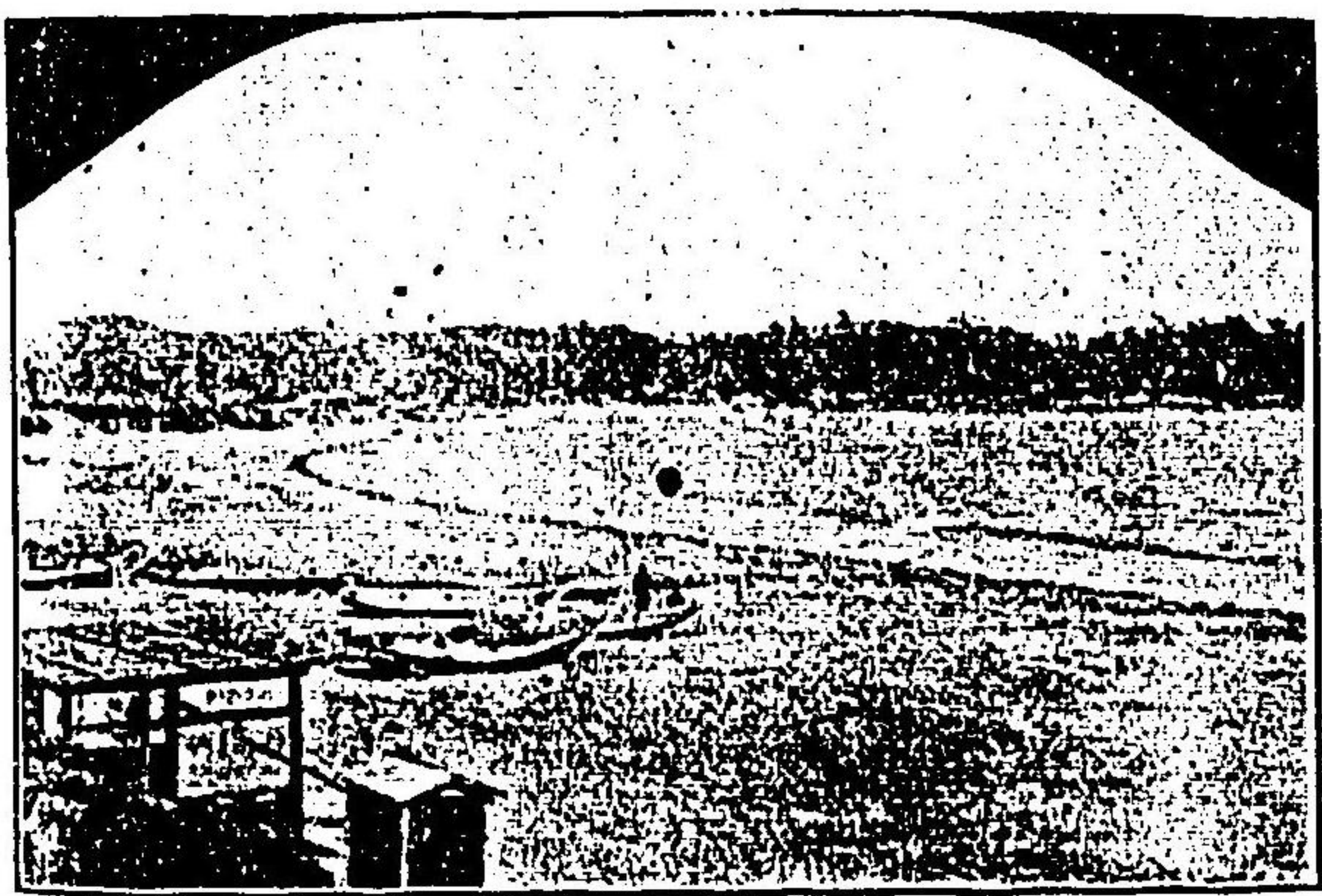
**やりがたけ 鎗嶽** (槍ヶ嶽) 飛騨國吉城郡の東隅にあり、信濃國南安曇郡に跨る、錫杖ヶ岳と并立す、高さ九千餘尺。

**やわたはままち 八幡濱町** 伊豫國西宇和郡の西海岸にあり、人口五千餘、大洲町を距る四里、松山市へ十八里十五町、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署等あり、此地商業の盛地にして、緋の産出多し、八幡港は町の前面にあり、商船多く輻湊す。

**やわたまち 八幡町** 山城國綴喜郡男山の東麓にあり、京都市の南方四里二十八町に位す、人口五千餘、警察分署、郵便電信局あり、元和元年上杉景勝此地に據りて、京都を守護す。美濃國郡上郡にあり、岐阜市の東北十五里九町、人口五千餘、青山氏四萬八千石の舊城下にして、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署等あり、慶長の初年遠藤慶隆二萬七千石に封ぜられしが、其後青山氏の領地となり、遂に維新に及ぶ、古くは郡上町と云へり。下總國東葛飾郡船橋町の西一里十八町にあり、人口二千餘、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、昔時八幡の數知らずと云ひ傳へたるは、此地にありしものなりと云ふ。

**ゆあさまち 湯淺町** 紀伊國有田郡の西海岸にあり、人口一萬餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、稅務署等あり、醬油の産多く、湯淺醬油の名高し、此地に湯淺氏の城址あり、湯淺氏は古へ有田郡の豪族にして、治承以來源家に仕へ、貞剛を以て名あり。

**ゆいがはま 由井濱** 相模國鎌倉郡の海濱七里ヶ濱の



(濱ヶ井由)

東部に連なる海濱にして、稻村ヶ崎より滑川河口に至る、鎌倉時代の史上に名ある處なり、今は海水浴場の設けありて、夏時浴客頗る多し。

**ゆいつみむら 温泉村** 陸前國玉造郡にあり、村内頗る鑛泉に富み、至る所に湧出す、川渡、田中、赤梅、菫車、新車、鳴子、河原、中山の八泉尤も有名にして、之を温泉村の八湯といふ、何れも縣道に沿ひ、其距離近きは一町、遠きは一里半にすぎず、何れも人車の便あり、其中川渡、鳴子の兩湯尤も名高く、浴客常に群集す。

**ゆいまち 由比町** (山井町、油井町)、駿河國庵原郡の東南、蒲原興津兩町の間に入り、静岡市を距る東北六里十七町、東海道五十三次の一驛たり、人口七千餘、紙の産出地として知らる。

**ゆがしまおんせん 湯島温泉** 伊豆國田方郡上狩野村に屬し、修善寺温泉の南方三里、天城山麓にあり。

**ゆがはらおんせん 湯河原温泉** 相模國足柄下郡土肥村大字宮上にあり、吉濱村を距る一里餘、小田原より吉濱までは人車鐵道の便あり、温泉は弱アルカリ性單鹽泉にして、僕麻質斯、脚氣、痔疾等に効あり。

**ゆいさまち 結城町** 下總國結城郡にあり、茨城縣管下に屬す、鐵道は小山驛を経て、茨州線及び兩毛線に連絡す、水野

氏一萬八千石の舊城下にして、人口三千餘、警察署、郵便電信局、農學校、蠶業學校等あり、町中稱名寺には結城朝光以下四世の墳墓あり、結城袖、及結城水綿の産地として有名な里、結城城址は同町大字大谷瀬にあり、下野國下都賀郡粗村大字築の地に跨る、平野の間に起れる城郭にして鎌倉幕府の初小山朝光の修築する所と稱せらる、爾後累世此に居城し結城を氏とす、天正年間結城晴朝、徳川家康の庶子秀康を養うて嗣子となす、慶長六年秀康越前に移り城一時廢墟となりしが、元祿年間水野氏封ぜられ子孫世襲して王政維新に至る、今は廢城となり僅かに濠渠の形を存するのみ。

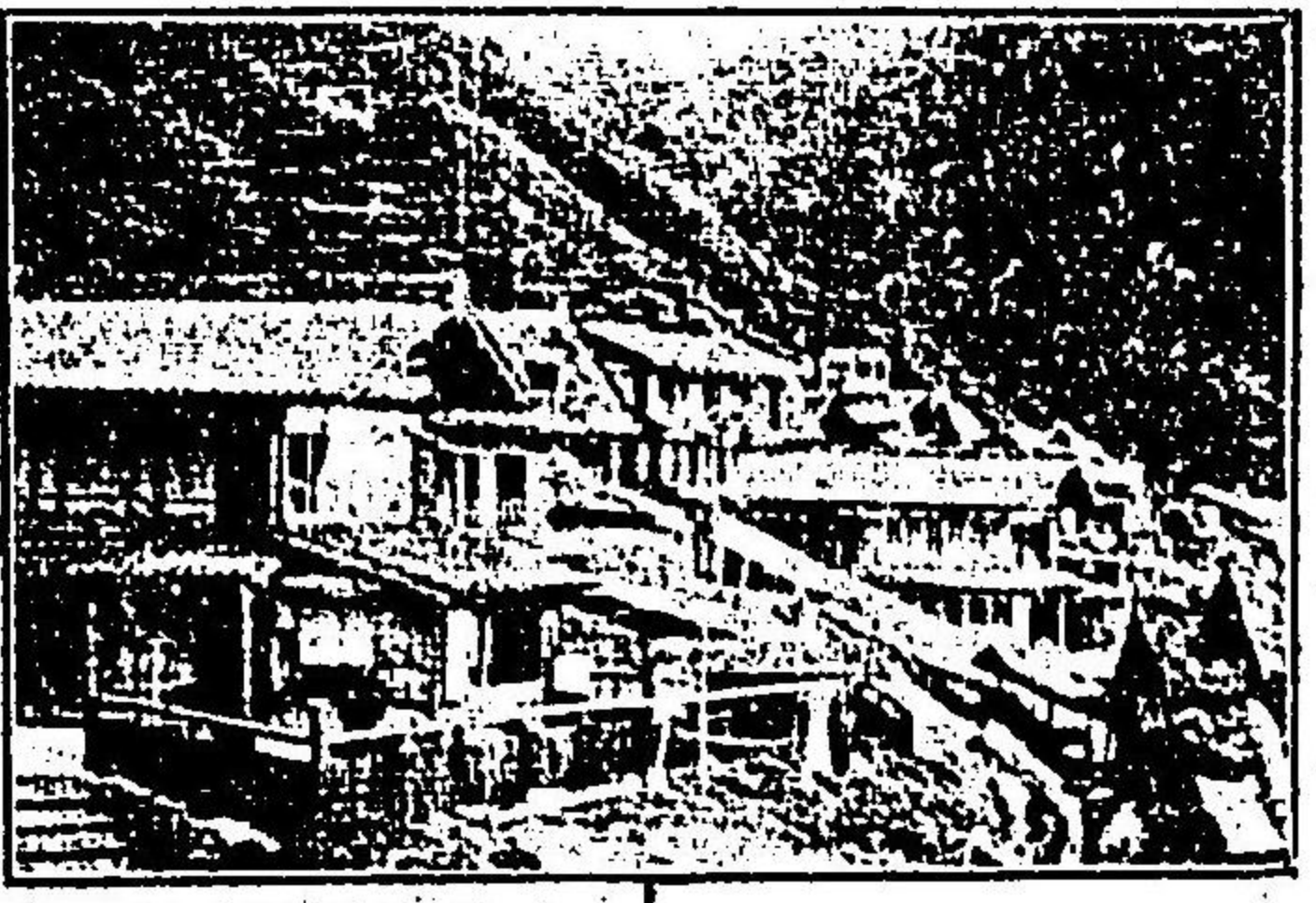
**ゆきよし 遊行寺** 藤澤の條下を見よ。

**ゆさきのおんせん 湯崎温泉** 紀伊國四牟郡田邊町の西南鉛山岬の近くにあり、古へは牟婁の温泉と稱し、齊明天皇以下數天皇の行幸ありし地なりと云ひ傳ふ。

**ゆしまむら 湯島村** 但馬國城崎郡にあり、城崎川に臨む、警察分署、郵便電信局等あり、此地に有名なる湯島温泉あり、山陰道風指の温泉にして、其開湯遠く養老年間にありと、泉質鹽類泉にして無色透則、泉源六ヶ所、宏壯なる浴場を設けて浴客に備ふ。

**ゆいてんじ 祐天寺** 武藏國往原郡目黒村字中目黒にあり、淨土宗の名刹にして、享保年間僧祐海の草創たり、此地はも

と昔より人が念道に開きたる霊地にして、伽藍極めて



(湯瀨温泉)

宏壯なるものありしが、数年前火災に罹り、今は空しく假堂

を存するのみ。

**ゆのさん 湯殿山** 出羽三山の一にして羽前東山郡の南隅にあり、西村山郡に跨る、一に懸山とも云ふ、羽黒山、月山と共に修験道の靈地にして、夏時登山の客頗る多し、東田川郡大綱村より五里にして山頂に達す、山上に國幣小社、湯殿山神社あり、大己貴命、少彦名命、大山祇命を祀る。

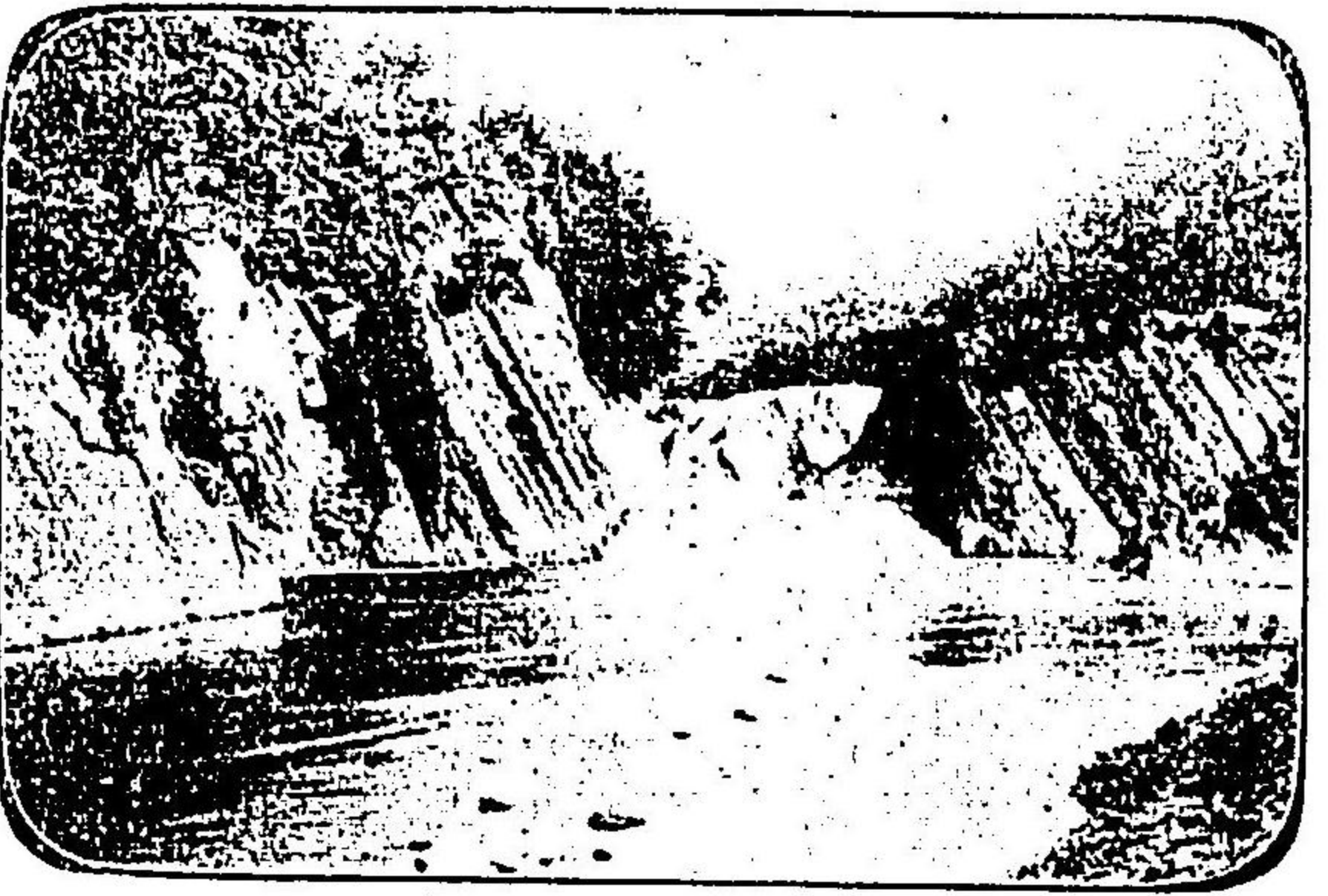
**ゆのまおんせん 湯瀨温泉** 羽前國西田川郡加茂町の北十数町の海岸に位す、後に小丘を負ひ、前面渺茫たる太平洋に面し、北遙かに島海山を望み風景頗る佳なり、温泉は海濱にあり、硫黄泉にして皮膚病等に効あり、一に龜の湯と稱し、上下雨湯あり、此地海岸にあるを以て夏期は海水浴場を設け、温泉、海水雨浴場として、浴客頗る多し。

**ゆのむらおんせん 湯野村温泉** 岩代國伊達郡にあり、長岡停車場を距る約三十町、摺上川を隔てて信夫郡飯坂温泉と相對す、氣候穏和にして四時の眺望極めて佳なり、此地より摺上川に沿うて登ること約半里、穴原温泉あり、幽邃閑雅の地にして避暑の好適地なり。

**ゆいばり 夕張** 有名なる夕張炭山のある處にして、石狩國夕張郡にあり、炭鑛鐵道は道分より分れて此地に通ず。

**ゆいばりがわ**

**夕張川** 石狩國夕張嶽に發し、西流して千歳川を合せ、北轉して江別に至り石狩川に入る、流域約三十五里。



(夕張川)

**ゆいばりせん**

**夕張線** 北海道炭鑛鐵道の支線にして、本線追分驛より起り、

東行夕張炭坑に通ず、延長二十七哩十二釐あり。

**ゆいばりだけ 夕張岳** (雄張岳) 石狩國夕張郡の東隅にあり、十勝、日高三國に跨る、高さ五千八百餘尺、其脈連綿として敷原に亘り、空知郡に入つてアシュツベ山となる、其北麓に夕張炭山あり。

を存するのみ。

**ゆのさん 湯殿山** 出羽三山の一にして羽前東山郡の南隅にあり、西村山郡に跨る、一に懸山とも云ふ、羽黒山、月山と共に修験道の靈地にして、夏時登山の客頗る多し、東田川郡大綱村より五里にして山頂に達す、山上に國幣小社、湯殿山神社あり、大己貴命、少彦名命、大山祇命を祀る。

**ゆのまおんせん 湯瀨温泉** 羽前國西田川郡加茂町の北十数町の海岸に位す、後に小丘を負ひ、前面渺茫たる太平洋に面し、北遙かに島海山を望み風景頗る佳なり、温泉は海濱にあり、硫黄泉にして皮膚病等に効あり、一に龜の湯と稱し、上下雨湯あり、此地海岸にあるを以て夏期は海水浴場を設け、温泉、海水雨浴場として、浴客頗る多し。

**ゆのむらおんせん 湯野村温泉** 岩代國伊達郡にあり、長岡停車場を距る約三十町、摺上川を隔てて信夫郡飯坂温泉と相對す、氣候穏和にして四時の眺望極めて佳なり、此地より摺上川に沿うて登ること約半里、穴原温泉あり、幽邃閑雅の地にして避暑の好適地なり。

**ゆいばり 夕張** 有名なる夕張炭山のある處にして、石狩國夕張郡にあり、炭鑛鐵道は道分より分れて此地に通ず。

**ゆいひのおか 夕日岡**

大坂市南區天王寺の西、一心寺の北、高津に至る間の總名なり、源空應日觀の故事、又藤原家隆卿夕陽庵の跡あるを以て此名ありと、此處に家隆卿の墓、及陸奥宗光の墓あり。

**ゆふだけ 由布岳** (湯布嶽) 豊後國速見郡の西南部にあり、龜見嶽と對峙す、熄火山にして高さ五千餘尺、山勢峨々として其狀芙蓉峯に似たるより一に豊後富士(筑紫富士)と稱す。

**ゆもとおんせん 湯本温泉** 相模國箱根七湯の一、足柄下郡湯本村にあり、小田原を距る一里



(箱根湯本)

半、電車の便あり、泉質単純泉、無色透明、旅館の設備よく整ひ浴客常に多し。◎下野國上都賀郡中禰寺湖の北方にあり、地は海拔四千餘尺、後に山を負ひ前に湖水を望み、風色頗る幽邃、泉質硫黄。◎長門國大津郡深川村にあり、單純泉にして少しく硫黄あり。◎渡島國松前郡福島村にあり、泉質酸性鐵。◎磐城國石城郡湯本村にあり、湯本停車場を距る七町許、鹽類泉にして疥癬、瘡疾、癩癧、皮膚斯等の諸病に効ありと。

**ゆわん** 湯山町 攝津國有馬町の古稱、「ありまき」を  
見よ。

**ゆわん** 由良海峡 紀伊國海草郡友ヶ島と淡路國津名郡由良との間を云ふ、此間二十四町餘、一に紀淡海峡とも云ふ、要塞を設けて南海の警備に備ふ。

**ゆわん** 由良川 丹後國にあり、丹波國福知川の下流にして、加佐郡日藤より東北流し、更に北流して由良港に注ぐ、流域國界より七里餘、福知山迄は舟楫の便あり。

**ゆわん** 由良海 丹波國加佐、與謝兩郡の前面、與謝の海の東方にあり、由良川は南方より流れて此海に注ぐ、川口に由良町あり、由良港其河口にあり。

**ゆわん** 由良町 淡路國津名郡洲本町の南方二里十七町にあり、由良海峡に面す、人口八千餘、郵便電信局、要塞砲兵

隊あり、眞珠貝、板利布等の産出を以て名あり、此地に由良要塞あり、砲兵隊ありて大阪灣の入口を守備す。

**ゆわん** 由良港 淡路國津名郡由良町の前面にあり、由良海峡に面す、東西六町南北二十町、水深一仞三尺あり、港内水浅く碇繫に便ならざるを以て、汽船は多く低島の北方なる天川浦に碇泊す。◎丹後國加佐郡由良川河口にあり、水浅くして大船の碇泊に便ならず。◎紀伊國日高郡山真村にあり、日の御崎の北方約四里、俗に由良内と稱す、港内廣く深さ六仞、大船巨船の碇繫に便なり。

**ゆわん** 油利島 (由利島) 伊豫國の北方海中、與古島の西南にあり、周囲一里十四町、温泉郡に屬す。

**ゆわん** 湯灣嶽 大隅國大島郡大島の北端にあり、古くは阿麻美岳と云ふ、太古、志仁禮古、阿麻美姑の男女、此山に天降り天帝を生む、天帝の子孫、始めて琉球に下り、王統を以たりと云ふ。

よ

**よ** 八日市町 近江國神崎郡にあり、近江鐵道此地を通過す、人口四千餘、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等

あり、魚介、野菜等の市場あり。

**よ** 横倉寺 美濃國掛斐郡横倉村にあり、天台宗の別院たり、建築頗る古風を帯び、寺中の佛像皆な古銘ありと。



(寺 倉 横)

**よ** 横須賀線 東海道鐵道の支線にして、相模の大船驛より東南行、鎌倉、

逗子を経て横須賀港に至る、延長三十七哩六鎮あり。

**よ** 横須賀町 相模國三浦郡三浦半島の北海岸にあり、東海道鐵道は大船驛より支線を派して此地に通ず、海軍第一鎮守府の所在地たり、人口三萬六千餘、近時市政を敷かんとする計畫ありと、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、鎮守府、要塞砲兵聯隊、海軍機關學校、造船所、病院、銀行諸會社等あり、此地もと一寒村なりしが、慶應年間造船所設置せられ維新後海軍鎮守府を設けらるるに及び俄に繁盛に趣き一大市街を爲すに至れり。

**よ** 横須賀港 相模國三浦郡の北部横須賀にあり、横濱港を距る十二哩、帝國五軍港の一にして、海軍第一鎮守府あり、港は東西六町、南北一里、港口十町、西方に小連河あり、長浦灣に通ず、横須賀軍港は半島の西長浦、放波島の間なる港灣にして灣入一哩餘。

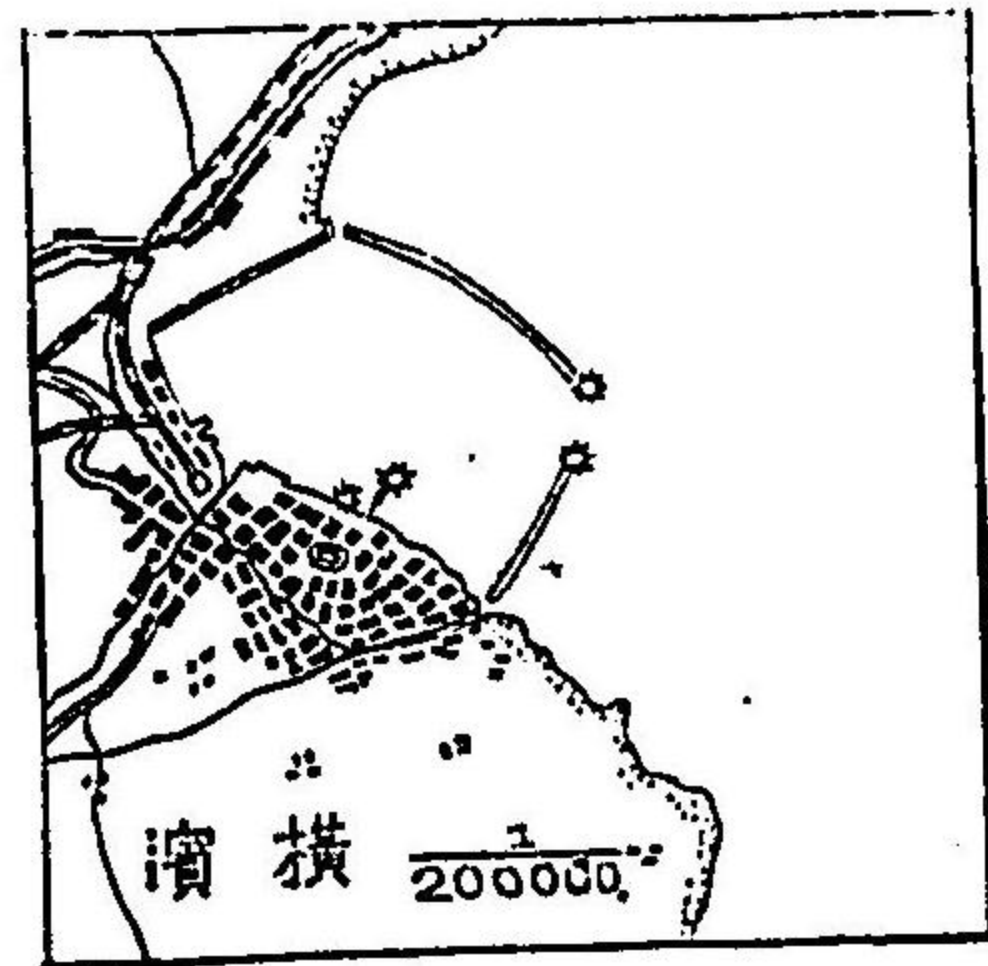
**よ** 横手町 羽後國平鹿郡にあり、秋田市を距ること十九里二十五町、横手川町の中央を流る、官鐵奥羽線の一驛にして、人口一萬三千餘、郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局、病院、中學校等あり、城址あり、一に朝倉城と云ふ、小野景道の築く所、其子義道、關ヶ原の役西軍に與みして國除かれ、次で佐竹氏の領となり、其臣、伊達、須田、戸村の諸氏相率て之を守る、戊辰の亂庄内藩兵の陷る所となり、

今廢城となる。

**よこてやま 横手山** 信濃國下高井郡の東南にあり、信濃國に跨る、高さ七千五百餘尺。

**よこのうみ 餘吾湖** (餘吳湖、與胡湖) 近江國伊香郡餘吾村にあり、東西十二町、南北十八町、周圍一里十七町、湖上の風景絶佳、餘吾川の上流をなす、古詠歌多し、夫木集に「呀えまさる伊吹が岳の山風に、氷はてたる餘吾の内海」(俊賴)及び「衣手によこの浦風さえさえて、こたかみ山に雪ふりにけり」(賴綱)等殊に名あり。

**よこほまし 横濱市** 武蔵國久良岐郡の東北にあり、東京灣に臨む、神奈川県廳の所在地にして、東京を距る八里、汽車及電車の便あり、古へは一寒村なりしが、安政六年開港以來、外國人の居留者多く、日に繁盛に赴き、今大阪に次げる商業地たり、人口三十二萬六千餘、縣廳、市役所、警察署、郵便電信局、地方裁判所、區裁判所、税關、稅務所、港務署、測候所、港務局、檢疫所、各國領事館、其他銀行諸



て、灣曲港をなす、此地はもと極めて寂寥たる寒村なりしが、安政六年六月開港以來日々繁昌し、今は本邦輸出港の第一位を占むるに至れり、港は水深八仞乃至十仞、防波堤及棧橋の備ありて、大船巨舶の碇繋白山なり。

**よしいがわ 吉井川** 一に東大川と云ふ、美作國津山川の下流にして、備前國に入りて吉井川となり、御津、赤磐兩郡境を東南流して、西大寺町に入りて海に注ぐ、流域國界より十里、下流を西大寺川と云ふ。

**よしいまち 吉井町** 上野國多野郡にあり、高崎市の南方に位す、舊吉井氏一萬石の藩城下にして、人口五千餘、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、燧石の産多し、附近に有名なる上野三古碑あり。

**よしおかまち 吉岡町** 陸前國黒川郡にあり、陸羽街道の要驛にして、仙臺市を距る六里餘、人口三千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり。

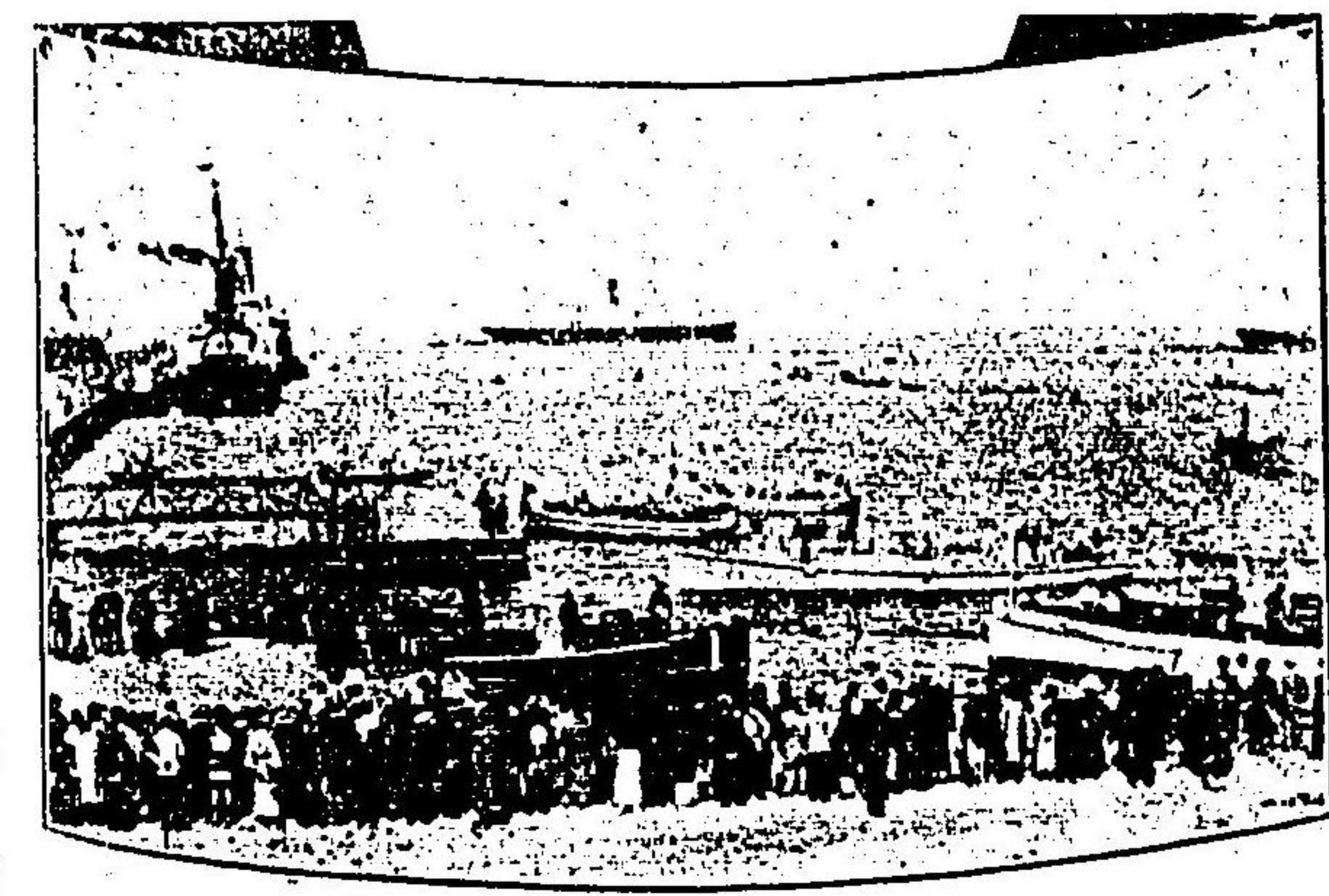
**よしおかむら 吉岡村** 因幡國鳥取市の西方二里、氣高郡にあり、温泉地たるを以て旅宿軒を并べ、挽物細工及び麥搗細工を爾ふ家多し、郡役所、警察署、區裁判所、郵便局等あり、温泉は硫黄泉にして、疥癬、微毒、疝癩、金創等に宜しく、浴客常に群集す。

**よしおきむら 吉崎村** 越前國坂井郡北潟入江の江口に位

會社、學校等多し、諸外國人の居留地は海岸より南方に及び、市は其西北にあり、公園は居留地の北端にあり、周圍九町二十八間、明治九年の開園なり。

**よこほまのすいどー 横濱水道** 相模國津久井郡三澤村字三井より、相模川の水を鐵管もて野毛山の貯水池に引き、以て市内に供給す、明治二十年の竣工にして、水源よりは其距離十二里ありと云ふ。

**よこほまみなど 横濱港** 日本五港の一にして、武蔵國久良岐郡横濱市にあり、東方に本牧岬突出し、西方に神奈川県あり



(港 濱 横)



(堂 御 崎 吉)

**よしだ 吉田** 山城國京都市の東北比叡山の麓神樂丘の西にあり、一乗寺村に續ける小村落なりしが、今京都市に編入して、吉田町と稱す、京都帝國大學及第三高等學校等あり、又官幣中社吉田神社あり、三河國豊橋町の舊稱。



**よしのじんじや 吉田神社** 官幣中社、二十二社の一にして、京都市吉田町にあり、建御雷神、齋主神、天兒根命、比賣神を祀る、藤原氏の氏神にして貞觀年中の創建と稱せらる。

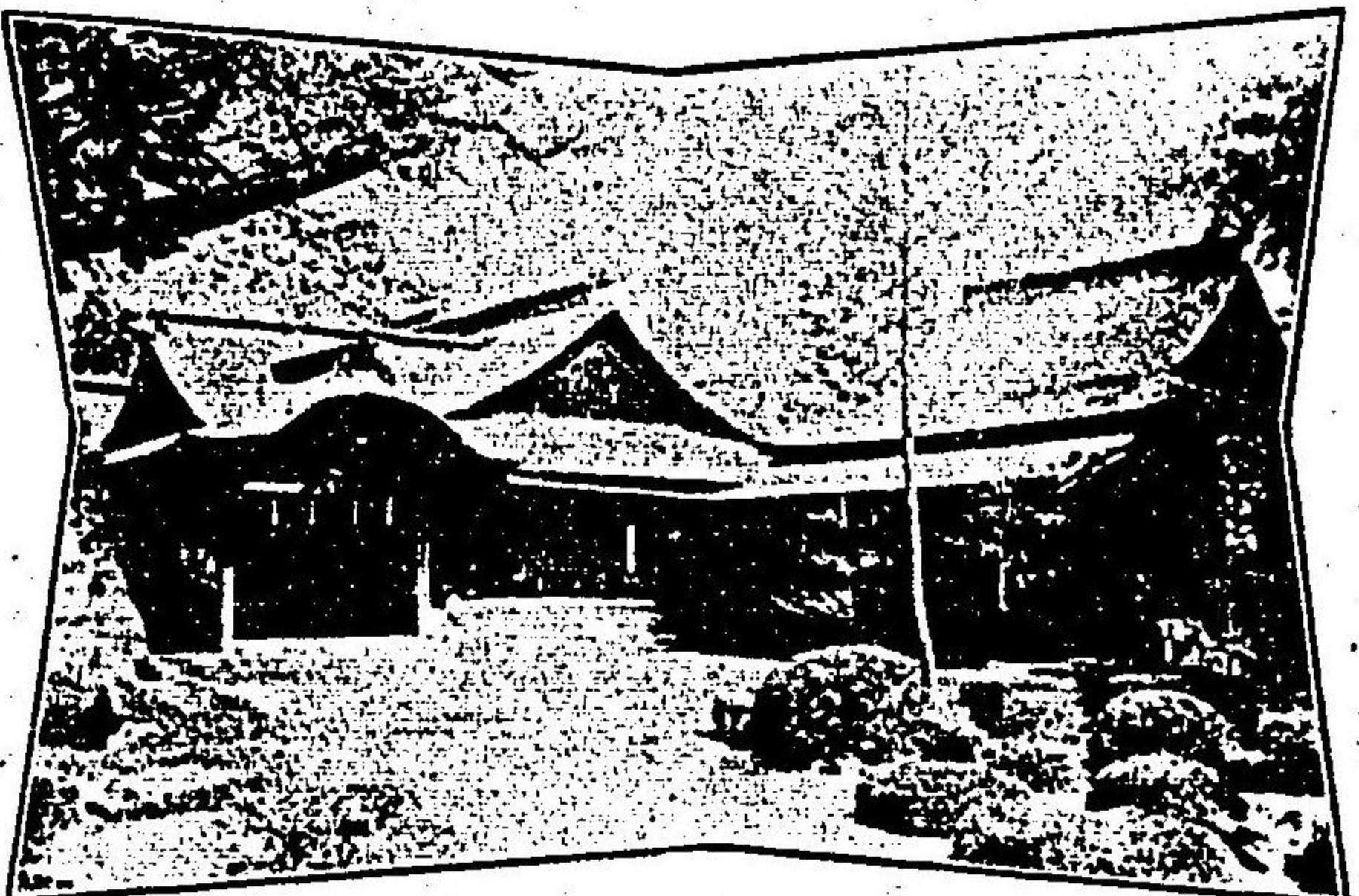
**よしのだまち 吉田町** 安藝國高田郡多治比川の北岸にあり、廣島を距る十一里八町、三次町へ六里、人口四千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所等あり、此地は元、毛利元就の勃興せし故邑にして、今尙ほ城址遺廟を存す、城は一に郡山城と稱し町の北方にあり、建武中毛利時親の築く所、子孫相襲きて此處に居る、大永年間元就に至り頗る強大となり、四隣を征服して覇業を開く、其孫輝元天正年間廣島に移り城遂に廢す。

**よしのびから 義仲寺** 近江國滋賀郡大津町宇馬場にあり、木曾義仲の爲に建てたる寺にして、境内に芭蕉塚あり、「木曾殿と背中合せの寒き哉」の句を刻せる石碑あり。

**よしのがわ 吉野川** 大和國にあり、源を吉野郡大森原山に發し、西北流して水津川と合し、西轉して宇智郡に入り、五條町の南方を経て丹生川を入れ、紀伊國に入りて紀の川となる、流域國境迄約十七里。④四國第一の大河にして、一に四國三郎と稱す、源を土佐國土佐郡龜ヶ森山の南麓に發し、東南流大森川以下の小流を合せて、阿波國に入り、銅山川、松尾川等を容れ、國の北部を東流して、徳島市の北方を

て此地に來り賊のせまる所となり其臣村上義光親王に代はりて歿し、虎口を逃れ給ふ、義光の墓今吉野山町の入口にあり、後醍醐天皇延元元年此地に落ち給ふや、足利氏の兵屢々來攻せり、後花園天皇の寛正四年島山義就高野より逃れて此地に入る、吉野神社は山の北麓にあり、吉野町を距る二十五六町、官幣大社にして、後醍醐天皇を奉祀す、天皇の御陵は藏王堂の東北にあり、今塔尾陵と呼ぶ、其麓に如意輪堂あり、楠正行の過去帳記入を以て名高し。

**よしみづじんじや 吉水神社** 大和國吉野郡吉野山にあり、古くは吉水院と稱し金峯山寺の支院たりしが、明治七年今名に改め、後醍醐天皇及楠正成を奉祀す、此地は延元年間後醍醐天皇行宮の址にして、「花にれてよしやよしののよし水の、枕の下に石はしる音」の御詠ありき、又古くは源平時代に源義經京師を逃れて吉野山に入るや先づ當院に宿れること史に見え、近くは豐臣秀吉吉野山花見の時此院



(社 神 水 吉)

しがたきも、要するに古代風俗を知る好材料たるべし。

**よしののみや 吉野宮** 官幣大社、大和國吉野郡吉野山にあり、後醍醐天皇を祀り、藤原資朝、同俊基、兒島範長、同高範、櫻山並俊、土居通時、得能通綱等を祀祀す、明治二十五年の創設にして三十二年官幣大社に列せらる。

過ぎ、豊久新田に至りて海に入る、延長四十一里餘、沿岸藍、煙草、甘蔗等の産多し。⑤土佐國にあり、源を伊豫國北宇和、東宇和兩郡界の山間より發し、南流して土佐國に入り、隱多郡井崎邊にて渡川に會す、流域八里餘、上流を宮下川、溝川とも云ふ。

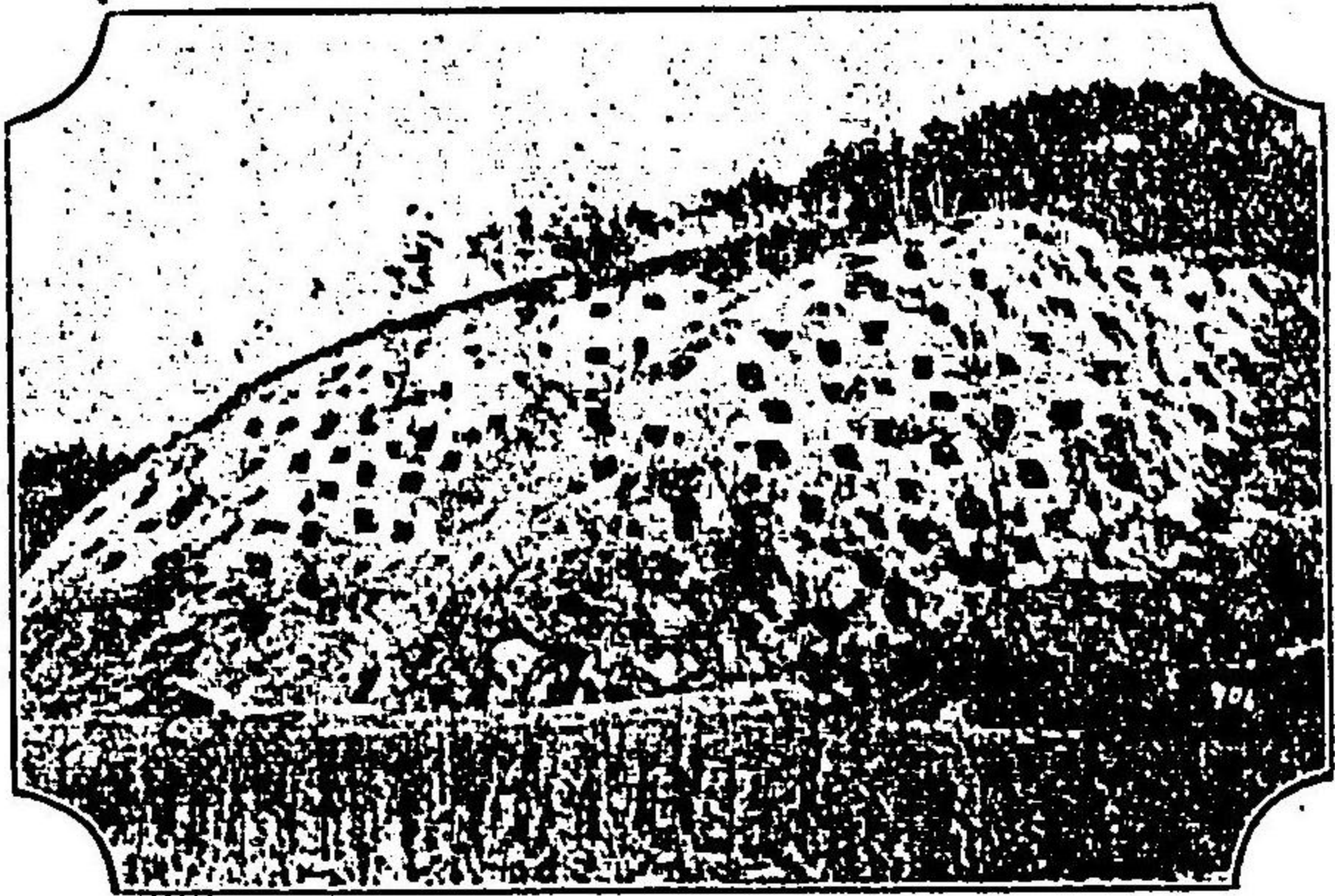
**よしののきーせき 吉野舊址** 大和國吉野郡吉野山附近にあり、南朝三代皇居の地にして、應神天皇を初め、雄略、齊明、天智、天武、持統、文武、元正、聖武諸天皇の行幸せられし吉野宮址は國村大字宮瀧にあり、此他大海人皇子の退隱せられし國村大字國棟、後醍醐天皇の行在所たりし吉野山實城院は、今廢墟となる。

**よしののやま 吉野山** 大和國吉野郡にあり、金峯山の北方に位す有名なる櫻花の名所にして、満山皆櫻樹、花季の景色絶佳、一と目千本の勝なご人口に膾炙せり、歴史上の古蹟に富み、大海人皇子は此地に起りて大津朝廷を覆し給ひ、元正天皇は吉野監を置きて離宮を守らしめ、文治年中源義經没落して此地に匿れ、建武中興の初、護良親王義兵を擧げ、逃れ

に入る、其社殿は南北朝時代に建設せられたるものと稱せらる、今特別保護建造物たり。

**よしみのひやくあな 吉見百穴** 武藏國北足立郡鴻巣町を距る四方二里許の所にあり、二百餘の横穴、山腹に並列し、頗ぶる奇觀を呈す、此地字を百穴と稱するより考ふれば、古來多數の穴ありて、しか名けしならん、然れども何時の頃よりか廢りて、草木繁茂し、全く埋没せしを、明治二十年の頃、今の理學博士坪井正五郎氏によりて發掘せられ、再び世に知られ學者研究の好題目となれり、此種類の穴、此山横き北方數町の所にも數多あり、蓋し古代の葬穴の址なるべく、發掘の際既に屍體と共に古代の遺物を發見せりと云へば、其説信なるが如きも、又之を以て古代穴居の跡となすものあり、其の何れが是なるか俄かに決定

今宮津海と稱す、黒崎、鷺崎東西に斗出して灣口をなす、日本三景の一なる天之橋立の跡は此内にあり、能宣集に「誰がために渡しそめけん與佐の海の、浦に世をふる天の橋立」の歌あり、又赤染衛門の「思ふことな

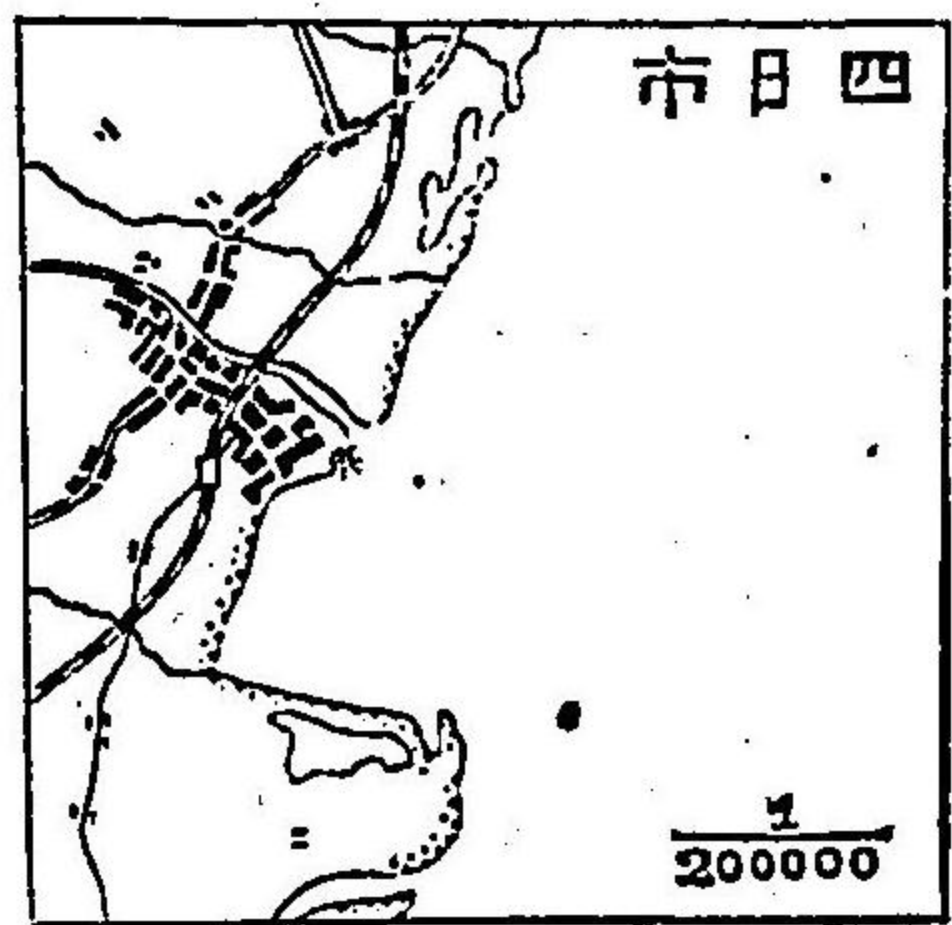


(穴百の見吉)

くてや見まじよきの海の天の、橋立都なりせば、教燈法師の「よきの海入海かけて見渡せば、松原遠きあまの橋立」等何れも名あるものとす。

**よつかいちし 四日市市** 伊勢國三重郡三瀧川口にあり、津市の東北八里二十三町に位す、東海道五十三次の一驛にし

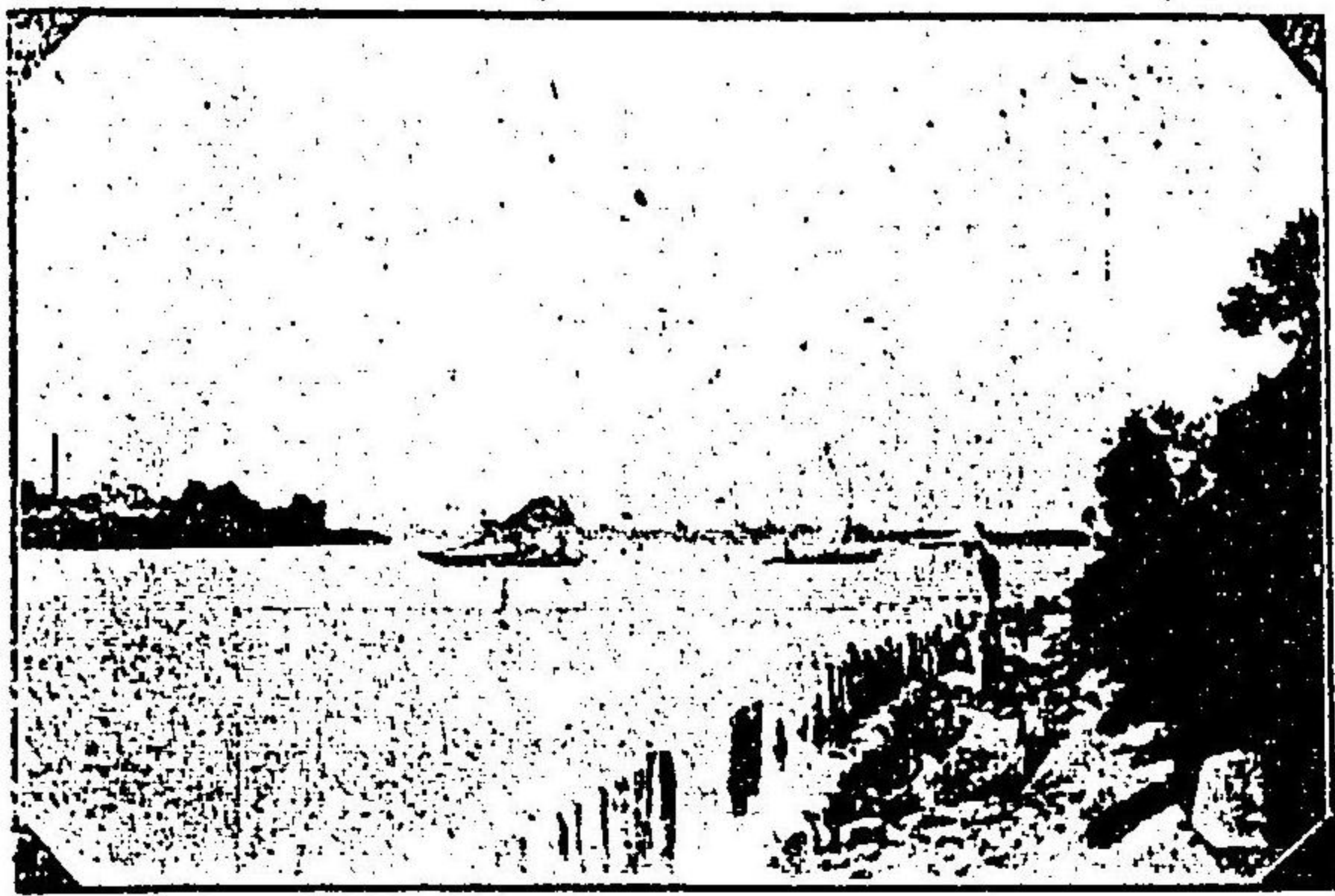
て、今は關西鐵道の一要驛たり、市役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、稅關支部、銀行、諸會社等あり、綿糸、生糸及萬古燒の産あり、此地徳川時代に陣屋を置き、代官を派して治めしむ、明治の初年三重縣廳を置きしが、其後津市に移る。



**よつかいちみなと 四日市港** 我國開港場の一にして、伊勢國三重郡三瀧川の河口にあり、明治六年稻葉三右衛門私財を以て築港す、東西二十町、南北三十四町、水深四仞乃至五仞、此地幕政の頃より伊勢海灣の一埠頭たりしが、明治六年築港竣工以來俄かに盛大となり、殊に横濱、神戸間にあるを以て漁船の往復繁く、又熱田、賢崎、神社等の諸港へ小漁船の定時航海あり、東海風指の要港たり。

**よつえまち 淀江町** 伯耆國四伯郡米子町の東方二里十六町にあり、人口三千餘、警察分署、區裁判所出張所、郵便電信局等あり、港は其前面にあり、東西一町三十間、南北五町、水深一仞二尺。

(川 淀)



**よどがわ 淀川** 山城國宇治、桂、兩川の合流にして、淀町の北方にて相合し、南流八幡町に至りて木津川を合せ、攝津河内の國境を流れて大阪に入り、安治川、木津川の二派に別れて大阪灣に注ぐ、流域淀町より八里三十三町、水源より十九里二十五町あり。

織す、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所及び水道事務所あり、又玉川上水の蓄水所あり、鐵管を以て東京市に給水す。

**よどまち 淀町** 山城國久世郡の西北隅、京都市の南方三里三十町、淀川畔にあり、人口二千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、此地は稻葉氏十萬二千石の舊城下にして、城址は町の西北にあり、元龜年間岩佐佐通の築く處、天正の末秀吉之を取りて安淺井氏を置く、元和九年徳川氏伏見城を築きて之を増築し、松平定綱を封す、其後永井、石川、松平等の諸氏を経て、享保八年稻葉正知に及び、世襲して王政維新に及ぶ、明治七年廢城となる。

**よどくにしま 與那國島** 琉球諸島中の最西端に位する小島にして、周回八里十二町、昔時は我邦西南方の最端島として有名なりしが、臺灣占領後其名も聞えずなりぬ。

**よどごまち 米子町** 伯耆國西伯郡にあり、日野川河畔に位し、中の海に面す、鳥取市へ二十三里三町、鐵道は境より來りて、東方に向ふ、國內第一の都邑にして、人口一萬五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、中學校等あり、米子港は一に深浦といふ、中の海の東南隅に位し、港内水淺きも松江、境の間にあるを以て汽船の來往頗る多し、菑城址は町の北方にあり、一に港山と稱す、もと吉川廣家の經營する所にして、天正年間中村一忠の居城たり、其後加藤貞泰當地四萬石に封ぜられしが、間もなく池田氏の有となり、家老荒尾但馬城代となり、世襲して維新に

及ぶ。

**よねざわし 米澤市**

羽前國山形市の南方十二里六町、南置賜郡の東北にあり、官鐵奥羽線の一驛たり、人口三萬三千餘、市役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、中學校、高等女學校、工業學校、銀行、諸會社等あり、米澤織、漆器、薄荷油、煙草等の産多し、此地上杉氏十五萬石の舊城下にして、城址は市の中央にあり、曆仁年間長木某の築く所と稱せらる、後伊達氏の族遠藤氏の居城となり、天正年間豊臣秀吉之を蒲生氏郷に與へ、慶長以後上杉氏に屬し、世襲して王政維新に及ぶ、廢藩後廢城となり後公園となる、中に上杉神社あり、縣社にして上杉謙信及同治憲の靈を祀る。



**よねやま 米山**

● 瀨彦火山脈に屬する休火山にして、越後國中頸城、刈羽の兩郡に跨る、高さ三千餘尺、天正十六年長尾晴景、同景虎と戦ひし處なり。◎ 筑前國嘉穂郡根子山の西北にあり、一に高塚山と稱す。

**よごむら 呼子村** 肥前國東松浦郡松浦半島の北端にあり、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、呼子港は其前面にありて、東西五町、南北七町、水深五仞乃至八仞、や、真港たり、此地と加部島との間を呼子海峡と稱す。

**よみがはま 夜見濱** 伯耆國四伯郡の西北に斗出し、美保灣と中の海との境界をなす、長さ五里、巾廣き處一里餘其形弓形をなすより弓ヶ濱とも云ふ、一帶の沙濱にして、青松到處所に鬱蒼たり、風色絶佳を以て知らる。

**よしろがわ 養老川** 上總國にあり、源を安房國清澄山に發し、西北市原郡を貫流して内海に注ぐ、流域二十里あり。

**よろよん 養老山** 美濃國養老郡の西部にあり、白石村に屬し、一に多度山と云ふ、山腹に有名なる養老瀧あり。

**よしろのたき 養老瀧** 美濃國養老郡養老山中にあり、高さ十丈五尺、巾二間、元正天皇靈龜三年此地に幸して、此名を下し給へりと云ふ、有名なる養老泉の物器は古今著聞集に見ゆ、今此瀧を込め附近の地八十町ばかりを公園とし衆庶の遊覽地となす、春夏秋冬の眺望極めて佳なり、園内に養老神社及養老寺あり。



(瀧老葉)

**よろんじま 輿論島**

大島諸島の一にして、島の最西南、沖繩島附近にあり、周囲六里七町、大隅國大島郡に屬す。

**らいごじ 來迎寺** 天台宗の一寺にして、近江國滋賀郡唐崎の北方十餘町にあり、什寶に富むを以て有名なり、境内森三左衛門可成の墓あり。

**らかんじ 羅漢寺** 豊前國下

毛郡上津村大字跡田にあり、禪宗に屬す、延元三年の創建にして僧昭覺開基たり。

**らごうい 洛外** 山城國京都市賀茂川以東の地を云ふ、以西を洛



(橋月吐山風)

中と云へるに對したる語にして、古への白川地方の總稱たり。

らんちゅう 洛中 山城國京都市賀茂川以西の總稱なり、こ

れ同川を支那の洛水に比して、かく定めたるなりと云ふ。

らんとー 洛東 山城國京都市の東方、一帯の總稱なり、其

西部を洛西と云ひ、北部を洛北と云ひ、南部を城南と云ふ。

らんとーかい 羅東街 臺灣の宜蘭街を距る南方二里十一町

に位する一名邑にして、警察署、憲兵屯営、郵便電信局等あり、臺北を距る三十一里十八町なり。

らんとん 嵐山 「あらしやま」を見よ。

り

りゅうかいとー 陸羽街道 岩代國福島町より東行し、陸

前國岩沼に於て濱街道に合し、陸奥國青森に至る街道を云ふ「おーしゅうかいとー」を見よ。

りくせん 陸前國 東山道十三國の一にして、東太平洋に

面し、西分水山脈を以て、羽前羽後に界し、北陸中に、南磐

城、岩代に連る、地勢北部偏狭、山岳重疊するも、南部廣濶に

して所謂仙臺平野をなし、土地豐沃頗る農産に富む、國を分

つて十四郡となし、宮城、名取、柴田、黒川、志田、玉造、加美、

栗原、牡鹿、本吉、登米、遠田、桃生の十三郡は宮城縣に屬し、

氣仙郡は岩手縣に屬す、古へは陸奥國の一部たりしが、明治

元年五月初めて此國を置く、聖武天皇の天平の末年此國より

り黄金を献上せること史に見ゆ、同天皇の御代に大野東人

鎮守府將軍として出征し、多賀柵を設け、次で多賀城と改

め、桓武天皇の御宇に坂上田村麿の出征あり、源賴朝藤原氏の

の軍を追うて此國を横ぎり、葛西清重を奥羽の鎮撫として

牡鹿郡に置く、豊臣氏の世伊達政宗當國に封ぜられ、初めて

仙臺城を修めて此に居り、子孫世襲して王政維新に至る。

りくちゅう 陸中國 東山道十三國の一にして、東太平洋に

大岩にあり、禪宗臨濟派に屬す、天文年中今川義元の創建に

して、開山は大休國師、當時後奈良天皇の勅願所たりき、近

傍に義元的首塚あり。

りんしゅういん 麟祥院 東京市本郷區湯島切通にあり、臨

濟宗江戸四ヶ寺の一にして春日局の菩提所たり、當寺もと

報恩山天澤寺

と號せしを、

後今の名に改

めたるなり

と、境内に春

日局の墓あり。

りゅうかいいん

龍海院 前

橋城址の南に

在り、俗に是

の字寺と云

ふ、酒井氏の

菩提所たり。

りゅうかいいん

琉球

四海道大

りんとん 臨濟寺 駿河國安倍郡安東村賤機山の麓、宇

を近時修めて公園とし、以て衆庶の遊覽地とせり。

りんとんいん 栗林公園 讚岐國香川郡栗林村にあ

り、高松市の西南隅に位す、もと高松藩侯の別墅にして紫雲

山其後に築え、池あり、岡あり、樹木鬱蒼として枝を交へ、境

内自から幽仙、實に海内屈指の名園たり、維新後稍頹敗せし

を近時修めて公園とし、以て衆庶の遊覽地とせり。

りんとんいん 栗林公園 讚岐國香川郡栗林村にあ

り、高松市の西南隅に位す、もと高松藩侯の別墅にして紫雲

山其後に築え、池あり、岡あり、樹木鬱蒼として枝を交へ、境

内自から幽仙、實に海内屈指の名園たり、維新後稍頹敗せし

を近時修めて公園とし、以て衆庶の遊覽地とせり。

りんとんいん 栗林公園 讚岐國香川郡栗林村にあ

り、高松市の西南隅に位す、もと高松藩侯の別墅にして紫雲

山其後に築え、池あり、岡あり、樹木鬱蒼として枝を交へ、境

内自から幽仙、實に海内屈指の名園たり、維新後稍頹敗せし

を近時修めて公園とし、以て衆庶の遊覽地とせり。

りんとんいん 栗林公園 讚岐國香川郡栗林村にあ

り、高松市の西南隅に位す、もと高松藩侯の別墅にして紫雲

山其後に築え、池あり、岡あり、樹木鬱蒼として枝を交へ、境

内自から幽仙、實に海内屈指の名園たり、維新後稍頹敗せし

を近時修めて公園とし、以て衆庶の遊覽地とせり。

りんとんいん 栗林公園 讚岐國香川郡栗林村にあ

り、高松市の西南隅に位す、もと高松藩侯の別墅にして紫雲

山其後に築え、池あり、岡あり、樹木鬱蒼として枝を交へ、境

内自から幽仙、實に海内屈指の名園たり、維新後稍頹敗せし

を近時修めて公園とし、以て衆庶の遊覽地とせり。

りんとんいん 栗林公園 讚岐國香川郡栗林村にあ

り、高松市の西南隅に位す、もと高松藩侯の別墅にして紫雲

山其後に築え、池あり、岡あり、樹木鬱蒼として枝を交へ、境

内自から幽仙、實に海内屈指の名園たり、維新後稍頹敗せし

を近時修めて公園とし、以て衆庶の遊覽地とせり。

りんとんいん 栗林公園 讚岐國香川郡栗林村にあ

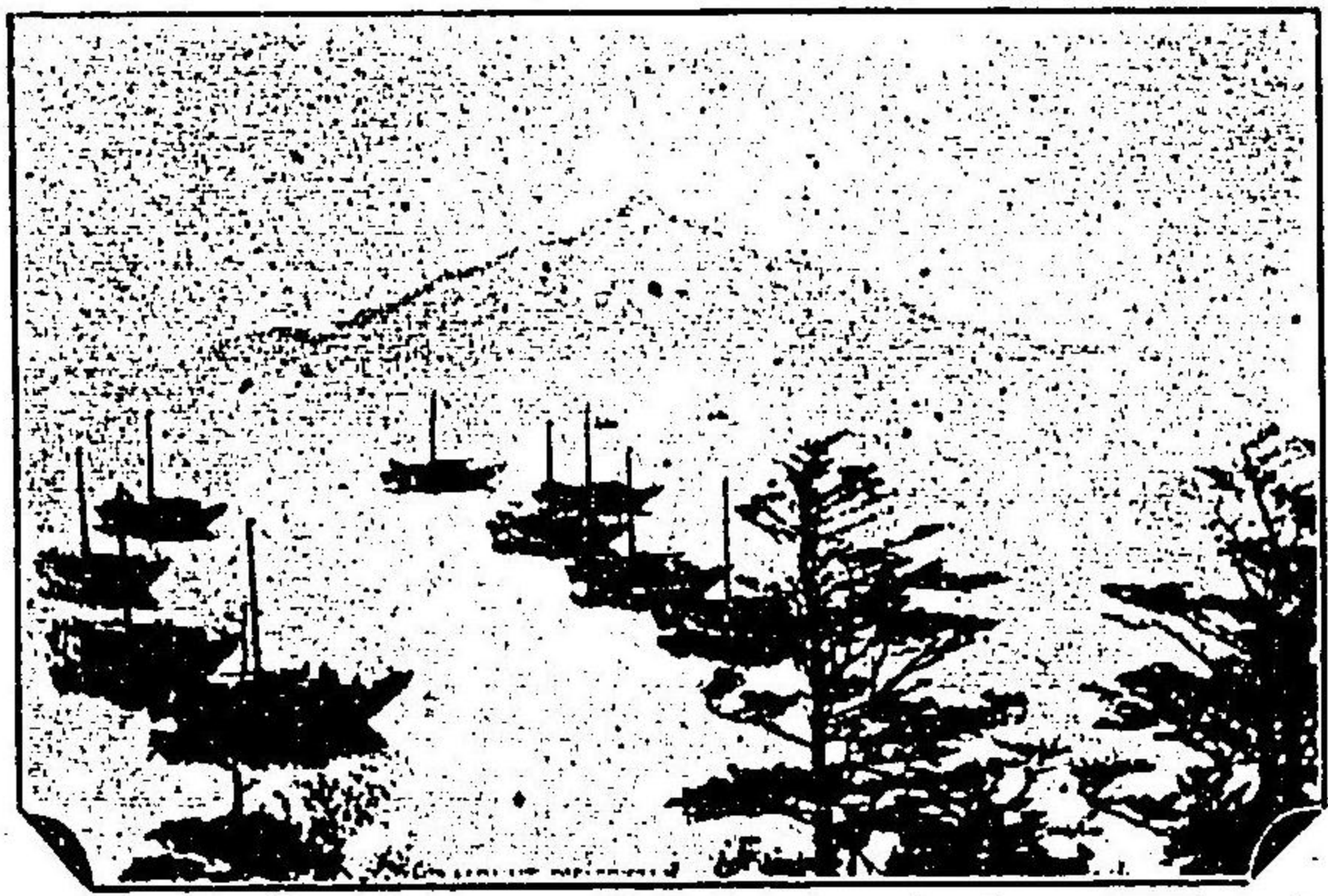
り、高松市の西南隅に位す、もと高松藩侯の別墅にして紫雲

山其後に築え、池あり、岡あり、樹木鬱蒼として枝を交へ、境

内自から幽仙、實に海内屈指の名園たり、維新後稍頹敗せし

を近時修めて公園とし、以て衆庶の遊覽地とせり。

(島 尻 利)

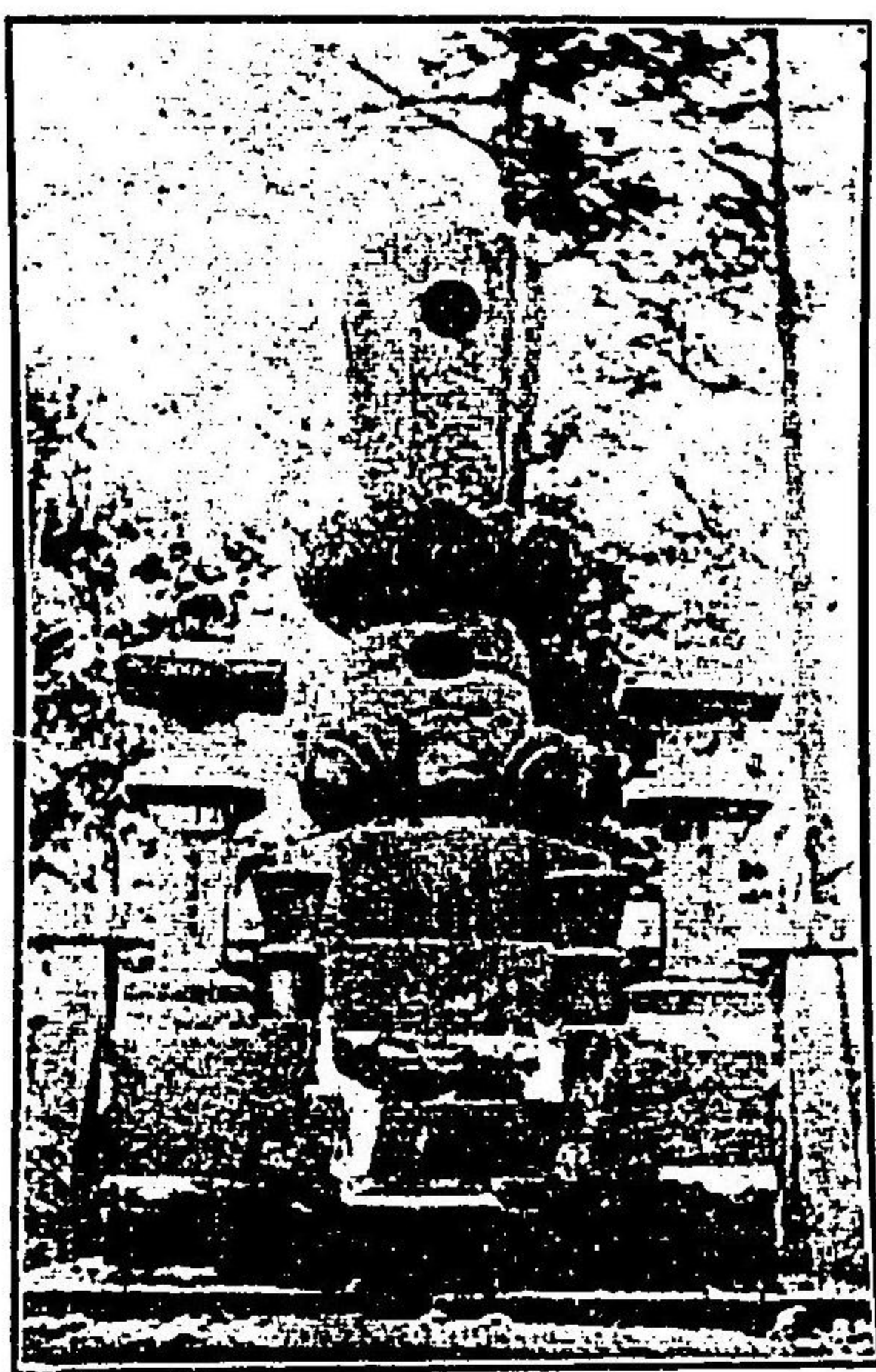


隅群島の西南より、臺灣に至る海中あり、五十五の群島より成る、沖繩、宮古、石垣島尤も大なり、面積百五十七方里、分つて五郡二島廳となし、沖繩縣廳之を管す、各島共山岳起伏して、平地甚だ少なく、加ふるに水利の便悪しくして米作に適せず、僅かに甘蔗、甘藷、粟等を栽培し得るのみ、氣候極めて、温暖にして、嘗て霜雪を見ず、故に草木は冬期にも能く花を開き實を結ぶと云ふ、物産は前記の外、薩摩餅、芭蕉布、袖、砂糖、漆器、泡盛酒等あり、昔時此地は琉球王の統治せし獨立國にして、奈



(寺 濟 臨)

其朝時代には屢々來貢して、全く我邦の屬國たりしが、後王政衰ふるに及び、一時明朝に従ひ其封冊を受く、徳川時代に及び、慶長十五年に島津氏をして之を征服せしめ、其隸屬となし、遂に維新に及び、維新後、王を封じて藩主となし、華族に列し、明治十二年藩を廢して、沖繩縣を置く。

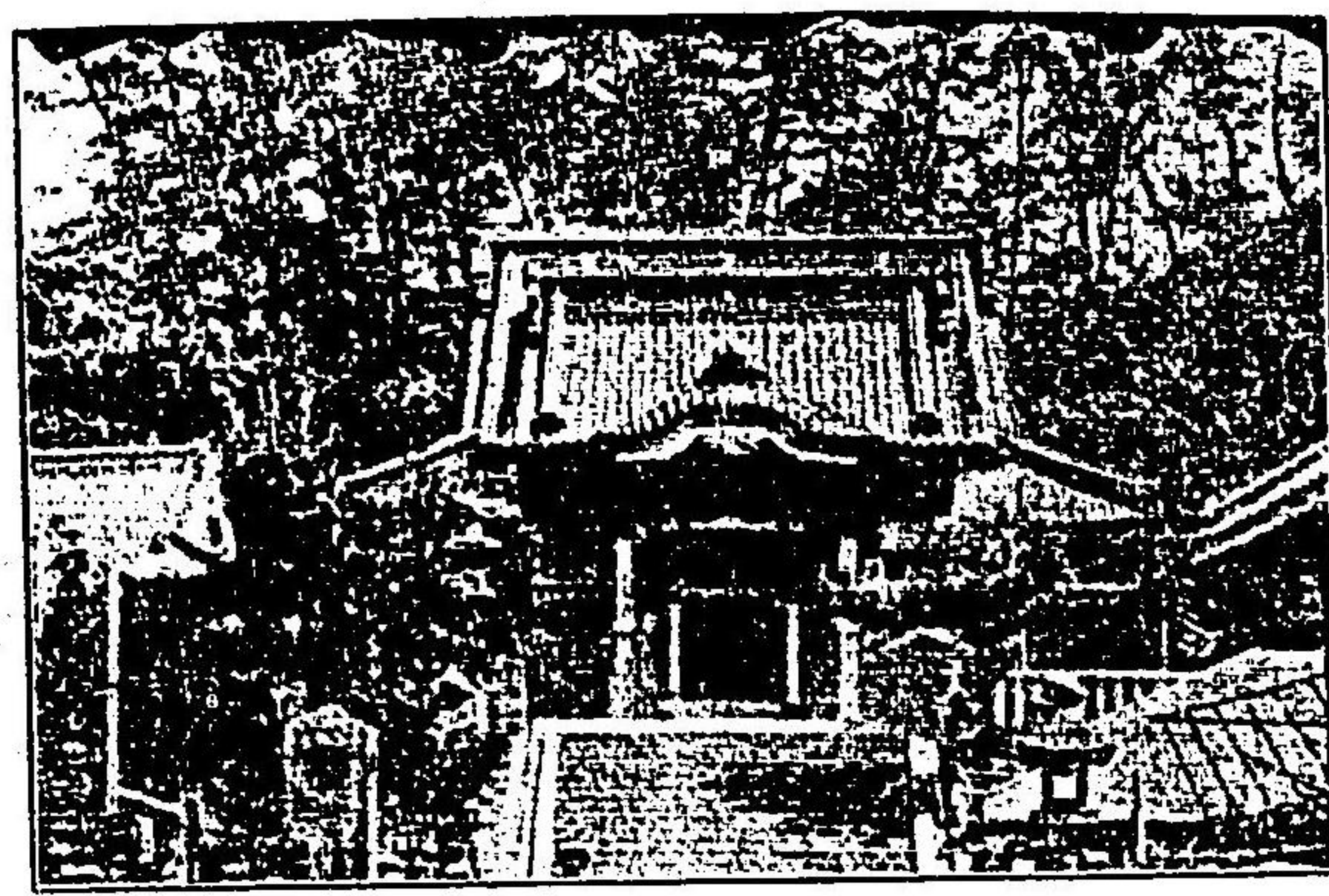


(麒麟院右日局邊)

**りーきーしよどー 琉球諸島** 琉球及び沖繩、宮古、八重山の三群島、「おきなわけん」の條を見よ。  
**りーげじ 龍華寺** 駿河國安倍郡不仁見村字村松にあり、江尻驛を距る約一里、法華宗にして、日近上人の開基なり、庭前に大なる蘇鐵あり、境内の眺望絶佳にして十二景の勝

り。

**りーこーじ 龍口寺** 相模國鎌倉町の西南川口村大字片瀬村の龍の口にあり、日蓮宗の巨刹にして、遊客群集す、傳へ云ふ、弘安年間日蓮上人法に觸れて、此地に斬首せられんとせし時、普門品の功德により、刀折れ其刑を免かれたる處なりと。



(寺 口 瀨 片)

**りーかい 領海** 海岸より三浬以内は其の國の領海なること、國際上の規定なれば、我國の如き海岸線の延長せる國にては、其範圍、陸地の面積二萬七千餘方里より著しく大なり。

**りーごくばし 兩國橋** 東京市日本橋區米澤町より、隅田川を隔てて本所區元町に架す、長さ八十九間、巾六間餘、萬治二年の架設にして、もと大橋と稱したりしが、往古此川を以て武總兩國の境となせしより、かく名けたるなりと云ふ、其後貞享三年國界を利根川に改めしも、橋名は依然たり、橋西を廣小路と稱し、昔時は一の遊觀場たりしが、維新後之を一掃せられ、今は其名残りだに止めずなりぬ、明治三十八年新架橋工事成りて、橋は鐵橋となり、其位置亦少しく北方に移る。

**りーぜん 靈山** 岩代國伊達郡保原町の東、靈山村にあり、桑折停車場を距る五里十町、山腹に靈山城址あり、元弘年間北畠顯家の據守せし處、山上の風景極めて快豁、山麓に靈山神社あり、親房、顯家等父子四人を奉祀す、今別格官幣社たり。

**りーせんじんじや 靈山神社** 岩代國伊達郡靈山村靈山にあり、北畠親房、同顯家、同顯信、同守親の四卿を奉祀す、明治十五年の創建にして、同十八年別格官幣社に列せらる、社地はもと靈山支城の置かれたる地なりと。

**りーもーせん 兩毛線** 日本鐵道の一支線にして、磐城線友部驛より起り、栃木、佐野、足利、桐生、伊勢崎を経て前橋市に至る、延長八十二哩二十三鎖。

る

るりこじ 瑠璃光寺 周防國吉敷郡上宇野令村にあり、禪宗に屬し、文明年間陶弘房の創建にして、僧須益の開基たり。

るもつへむら 留萌村 北海道天鹽國留萌郡にあり、同國風指の郡邑にして附近に有名なる鯨漁場あり、留萌港は其前面にあり、増毛港を距る十裡、漁舟の出入多し。るもつへむら 留萌灣 天鹽國留萌郡留萌村前面の海を云ふ、沿海鯨の産多し。

れ

れいがんじま 靈岸島 東京市京橋區にあり、永代橋の四方豐海橋、湊橋、靈岸橋、新龜島橋、龜橋、高橋等の諸橋梁によりて包まる、方各々五町餘、俗に龜島と稱す、昔時雄略靈巖和尚此島を築き、靈岸寺を建つ、依て此名ありと。

れいへいむら 例幣村 山城國相樂郡木津町の東北にあり、徳川氏より、伊勢及日光例幣使の費用に供する爲め、殊に朝廷へ奉りし地なり、古へ瓶の原離宮のありし處、又聖武天皇の皇居恭仁宮の設けられし地なりと云ふ。

れぶんじま 禮文島 北見國宗谷郡の西方海中、利尻島の西北六裡にあり、禮文郡をなす、四ヶ村より成る、地勢概ね高丘にして平地少く、海岸亦峻峭立所々巖礁あり、沿海は著名の漁場にして、春夏の候船舶の往來極めて盛なり。

れんげおーいん 蓮華王院 「さんじゅーさげんじー」を見よ。れんげさん 蓮花山 越後越中の境にあり、朝日嶽、槍嶽、雪倉嶽、袴腰嶽、乗鞍嶽、源台山、黒倉山等の總稱。

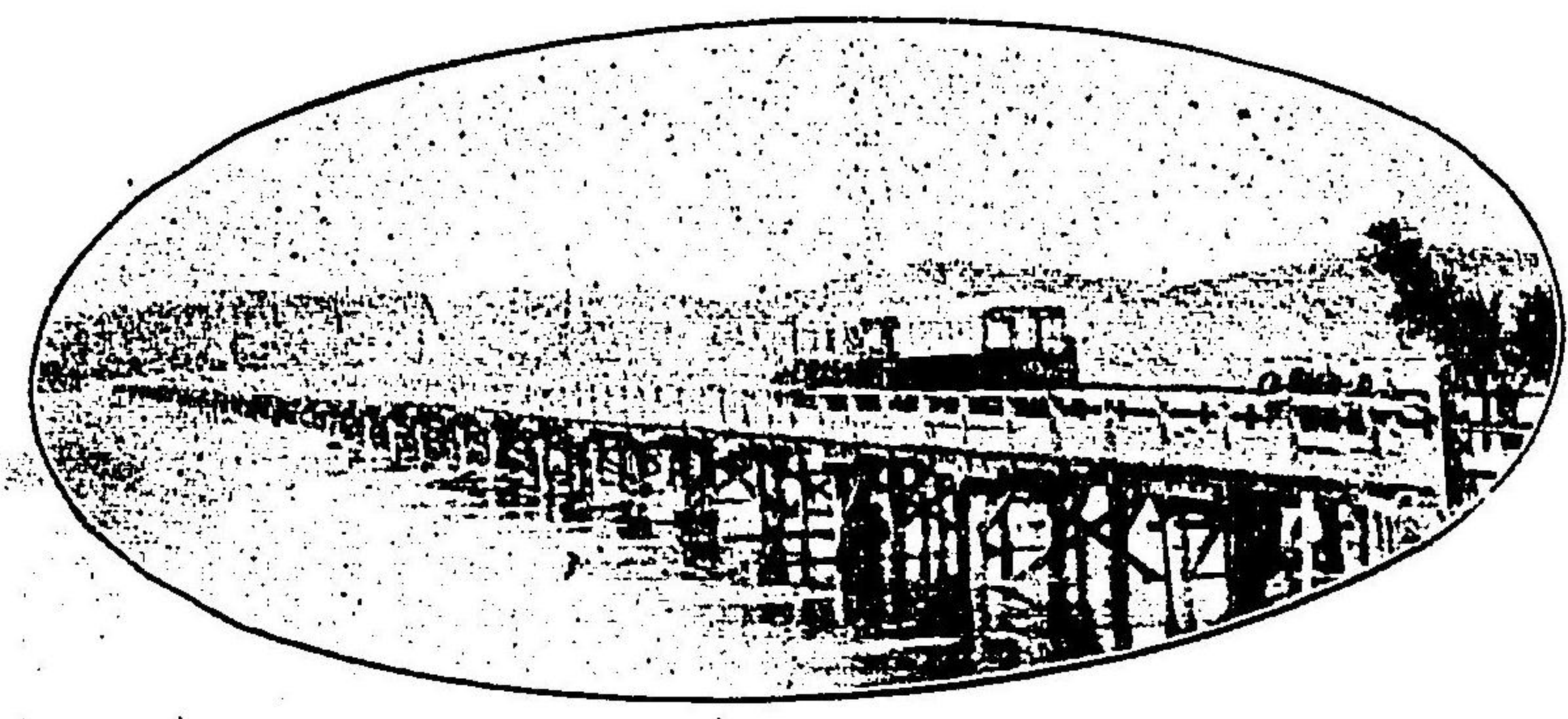
れんしよーじ 蓮昌寺 備前國岡山市東田町にあり、法華宗にして、興國五年松田元賢之を創建し、僧日像を以て開基となす、天正中宇喜多直家再興し、京都妙覺寺の屬寺となす。

ろ

ろくごーがわ六 郷川 武藏國多摩川の下流の別稱。

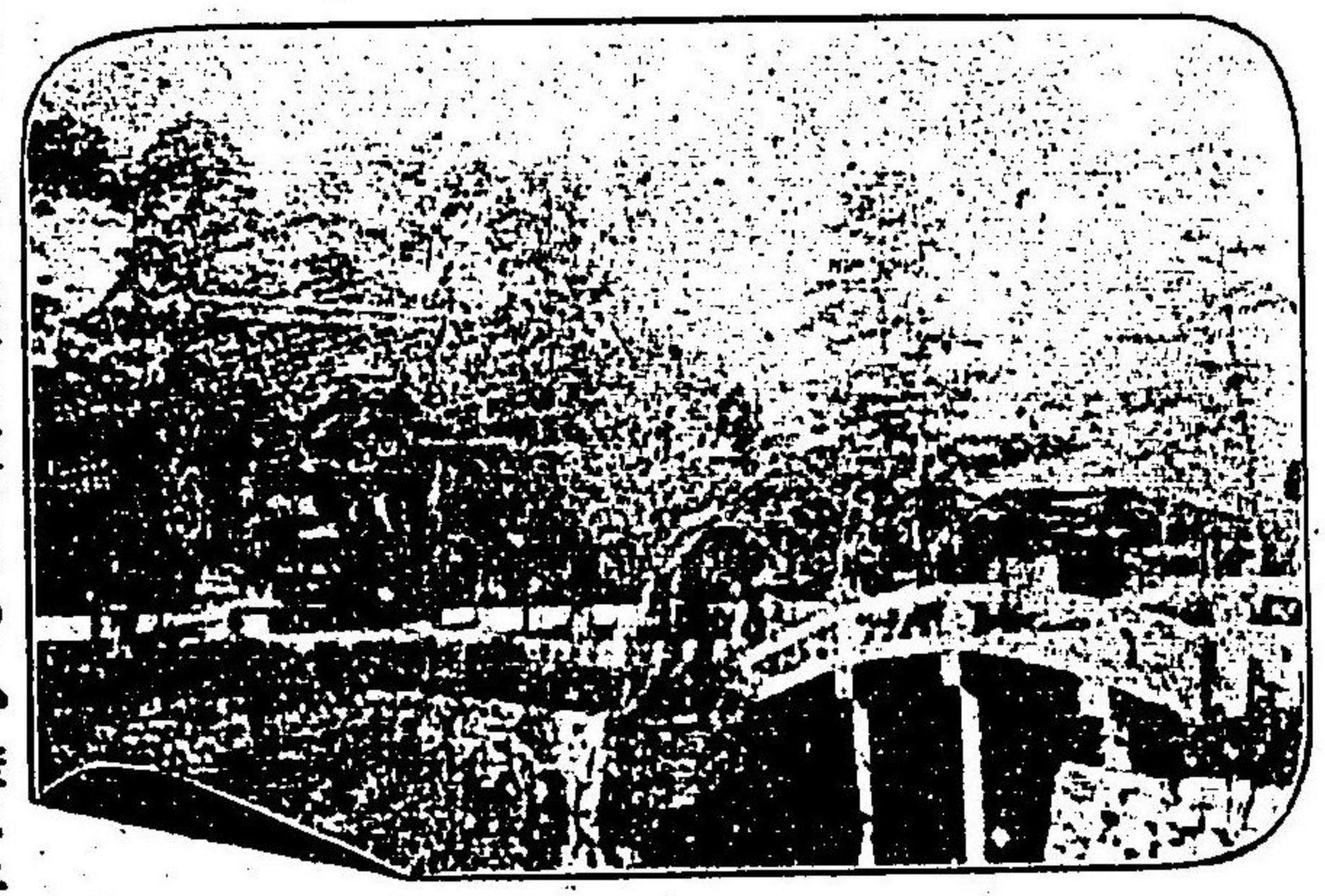
ろくじよーがわら 六條河原 京都市下京區六條附近の賀茂河原を稱す、慶長五年關ヶ原役後、石田三成、小四行長等の首を此處に梟す。

ろくそんのーじん 六孫王 山城國葛野郡大内村字八條にあり、此



(車電川郷六)

地もと六孫王 經基の邸址にして、應和年間其子滿仲初めて、社殿を建立し、元祿年間僧南谷之を再修せり、境内極めて幽靜なり、社前に小池あり、神龍水と稱す。



(社神王孫六)

六波羅密 寺 眞言宗にして、京都市松原通り大和大路の東方にあり、空也上人の開基にして中世天台宗の別院たりしこともあり、西國十七番の札所にして、又洛陽巡行の一なり、本尊は十一面觀音にして空也上人の作なりと云ふ、本寺境内は昔時平氏六波羅殿の舊址にして、本寺を中心とし、北は五條松原通に、南は

七條に、東小松谷を籠め、西鴨川に至る地域は、其畚境内にして平氏一門榮華の址は臚げながらも、推知するを得べし。  
**ろしだけ 良牛岳** 根室北見兩國境にあり、千島火山系に屬する活火山にして、高さ四千五百餘尺。

**ろっかくどー 六角堂**

京都市下京區六角通烏丸の東にあ



(堂 角 六)

り、延暦遷都前の創建と稱せられ頂法寺と云ふ、天台宗にして如意輪觀音を本尊となす。

**ろっこー 鹿港**

臺灣の中部、大肚溪の南方に位し、彰化を距る四四里、特別貿易港にして、清國福建省泉州に對し大陸と

の航程近く、且つ彰化府に接近せるを以て、商賈稍盛なり、人口一萬餘、警察署、郵便電信局、憲兵屯所等あり、此地今は水浅く大船の碇繋に便ならざるも、昔時水深く、早くより支那人の定住するものあり、清の乾隆四十九年已に開港場たりき。

**ろっこーがい 鹿港街**

臺灣臺中縣馬芝寮内にあり、人口一千七百餘、辨務署、郵便電信局、憲兵屯署等あり、此地清國福建省に對し、且彰化府に近きを以て商業稍繁盛なり。

**ろっこーさん 六甲山**

攝津國武庫山の別稱。

**ろていけい 露帝溪**

臺灣の南部にあり、内武定里若西庄より外武定里舊大橋に流る、二十四町舟楫の便あり。

**ろっぼーの 六方野**

下總國千葉野の別稱。

わ

**わいふまち 隈府町**

肥後國菊池郡にあり、菊池、迫間二川の間に位す、熊本市を距る六里、人口五千餘、郡内第一の都邑にして、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、小林區署、區裁判所出張所等あり、此地は菊池氏累代の居城地にして其城址今宇城山に存す、天正年間豊臣氏の將佐々木氏の攻略する所となり、廢城となる、今其址に別格官幣社菊池神社あり。

**わかさやま 嫩草山**

大和國添上郡春日山の北方に連る、一に九折山とも云ひ、俗に三笠山とも云ふ、又古くは鷲の山とも云へり、山上鷲陵及東麓に鷲瀧あるを以てなり、高さ最高點にて千百餘尺、全山樹木稀に、矮草綠滴らんばかりにして、宛然土佐齒を見るが如し、山上近く奈良市の全景を望み、北和の平野を隔てて南に金剛、葛城の諸山、西に生駒、信貴の連山、北に山城の諸峯を眺め風景極めて佳なり。

**わかさ 若狹國**

北陸道七國の一にして、東近江越前に、西南丹波、丹後に、北日本海に瀕す、地勢三面山岳に圍繞せられて平地少なし、沿岸屈曲して、港灣の出入多けれども、小濱を除くの外は良港なし、國を遠敷、大阪、三方の三郡に分

ち、福井縣に屬す、此國古へ越の國の道に當り、殊に漁業の利ありしを以て早くより知られたるが如し、鎌倉幕府の初惟宗氏當國の國守に任ぜられしが、寛喜の初北條經時代り領し、爾來北條氏世々當國を領して、京畿を控制せり、足利尊氏の叛するや族高經を封す、後山名、大高、細川の諸氏相繼で守護となる、永享年間武田氏當國の守護となるに及び、子孫相傳ふること九世、天正年間豊臣秀吉の討滅する所となる、關ヶ原役後京極氏封ぜられしが後出雲に移り酒井氏之れに代り小濱に治す、子孫世襲して王政維新に至る、廢藩後敦賀縣下に屬せしが、後改めて福井縣下に屬す。

**わかさふじ 若狹富士**

若狹國青葉山の別稱。

**わかさむら 若櫻村**

因幡國八頭郡にあり、若櫻河畔に位す、元鳥取新田と稱し、池田氏支族一萬五千石の舊藩地にして、人口二千餘、警察分署、區裁判所出張所等あり、城は慶長年間山崎氏の築く所にして、後池田氏の有となり、世襲して王政維新に至る、城址今尙存す。

**わかさわん 若狹灣**

若狹國の北海を云ふ、大阪郡の北端押

回崎、東方丹生崎と相對して灣口をなす、灣内三の小灣あり、小濱灣尤も有名にして、小濱の良港あり、鯛、鱈、烏賊等の産多し。

**わか のうら 和歌浦**

紀伊國海草郡の西部にあり、和歌山

わかま

市の南方に位す、雑賀崎より毛見崎に至る迄の江灣にして、一に明光浦とも云ふ、和歌町の南端に沙嘴あり、斗出すること二十町、古松其上を被ひて風光太佳、東方近く名草山聳え、和歌川此に注ぎ、風光更に一段の美を加ふ、古來有名なる勝地にして詩歌等に多く詠まる、萬葉集に「若の浦にしほ



(浦の歌和)

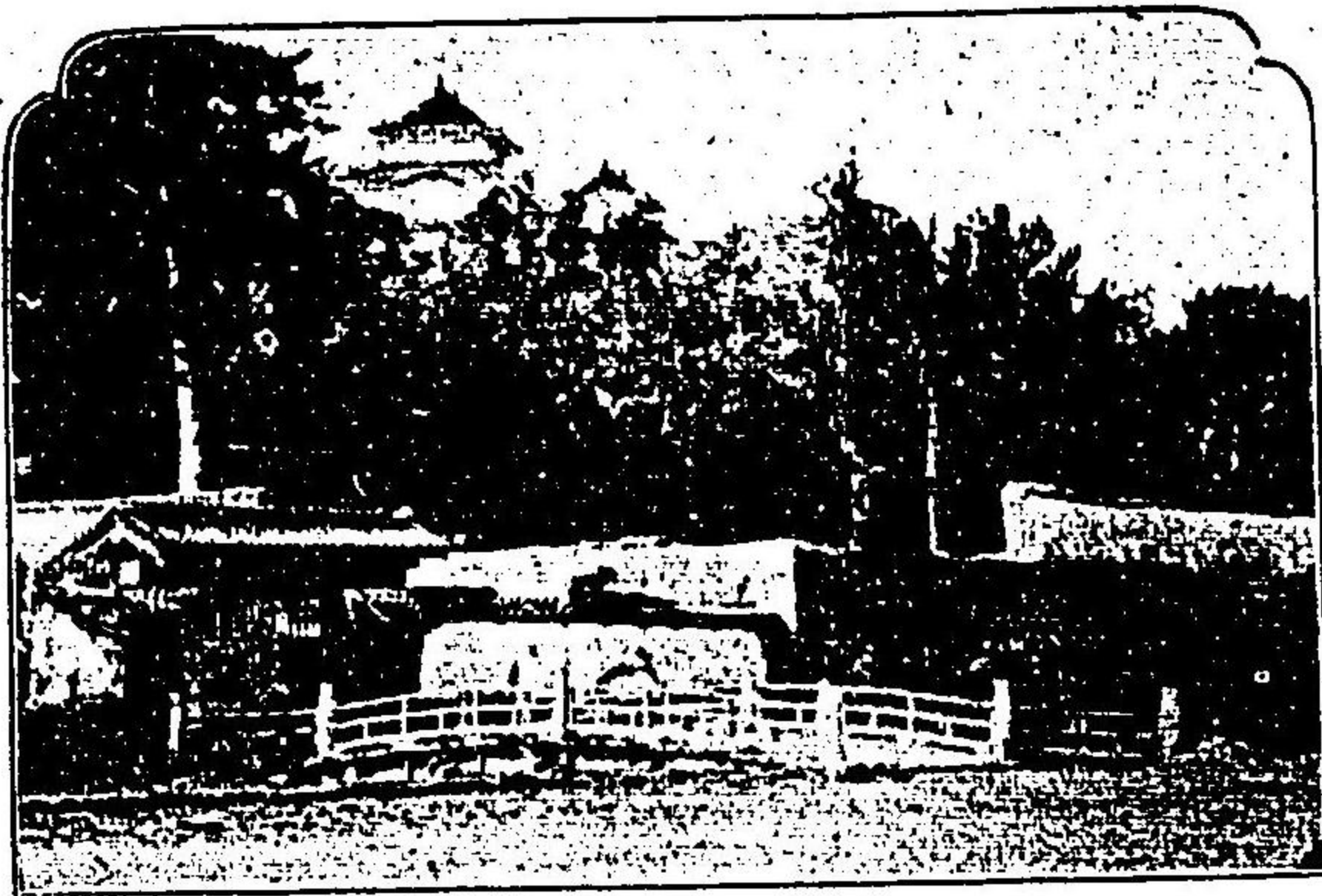
みち來れば浦をなみ、葦邊をさして田鶴鳴き渡る、新古今集に「若の浦を松の葉にしてながむれば、木末によするあまの釣舟」、新千載集に「和歌浦や入江のあしのしもの田鶴、かかる光にあはんとや見し」、夫木集に「和歌の浦あまの鹽屋に烟たて、かすみの間より花ぞにほひし」其他多し。

一小村なりしが、附近炭坑に富み、且つ港灣良好なるを以て、近時俄かに勃興して國內屈指の都邑となる。

**わかまびん 和歌山縣** 縣廳は和歌山市にあり、紀伊國一圓を管す、面積三百一十方里六二、和歌山市及海草、那賀、伊都、有田、日高、東牟婁、西牟婁の一市七郡十町二百二十九村を管す。

わかましし 和歌山市

和歌山縣廳の所在地にして、東京を距る百六十一里(大阪を経て)、紀伊國海草郡紀の川の河口にあり、人口六萬八千餘、縣廳、市役所、地方、區裁判所、警察署、郵便電信局、測候



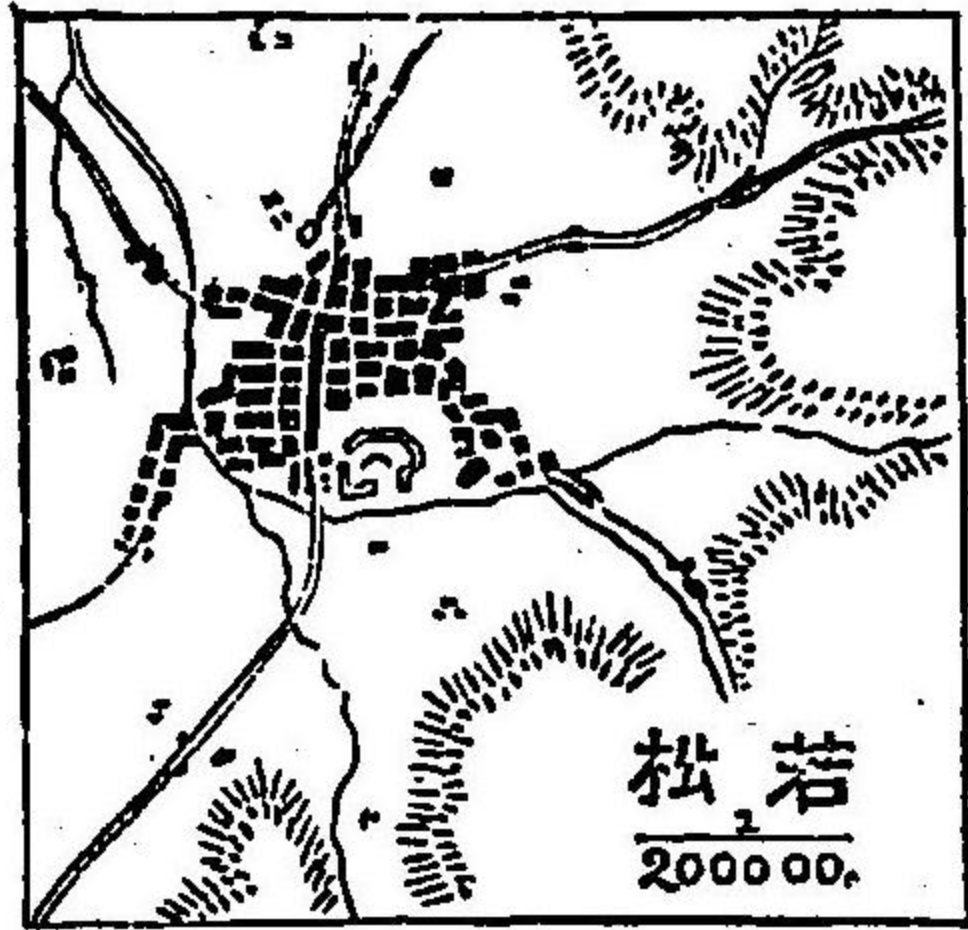
(城山歌和)

わかま

わかま

わかま

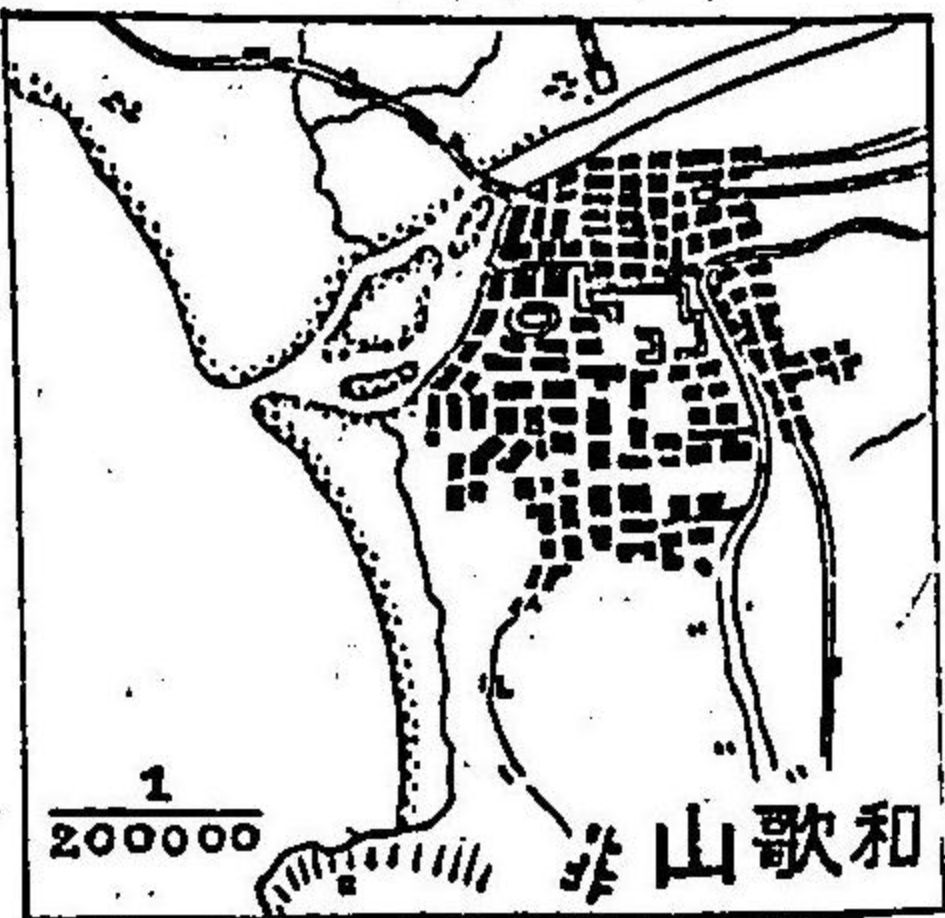
**わかまつし 若松市** 岩代國北會津郡にあり、保科氏二十八萬石の舊城下にして、山に據り河を帯び極めて形勝の地たり、岩越鐵道郡山より喜多方に行き、人口三萬二千餘、市役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、中學校、工業學校、銀行、病院、諸會社等あり、會津燒、會津塗、會津蠟燭、鐵器、曲物等の産出を以て名あり、城はもと會津城と稱し、基名氏の築く所、其亡後伊達氏に屬し、天正十八年蒲生氏郷伊勢より徙りて、若松城と稱す、次で上杉、加藤氏を経て寛永廿年保科正之の有となり、子孫相傳て王政維新に及ぶ、維新の變亂主として官軍に抗し、王師境に臨み市街悉く兵燹にかかり城亦陥り、藩主陸奥斗南に移さる、實に慘憺たる歴史を明治史上の初頁に留む。



若松 200000

**わかまつまち 若松町** 筑前國遠賀郡洞の海の入口にあり、九州鐵道の支線、折尾より此地に通ず、豊前小倉を距る一里十二町、福岡市へ十七里五町、人口八千餘、警察署、郵便電信局、炭礦事務所、物産會社等あり、此地もと修多羅と云へる

所、稅務署、小林區署、師範學校、中學校、女學校等あり、紀州ネル、足袋、雲霧織、紋羽織等の産出を以て名あり、此地は紀州俵五十五萬五千石の舊城下にして、城は雜賀川の西岸にあり、元羽柴氏の築く所、慶長六年淺野氏之に居り、元和五年徳川頼宣之に封せられてより、世襲して維新に及ぶ、今天主閣、木丸及城樓等存す。



和歌山 200000

**わかまぢ 脇町** 阿波國美馬郡吉野川畔にあり、徳島市を距る十里半、徳島鐵道舟戸驛へ四里、人口六千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、中學校等あり、此地もと藤原仲房の據る所なりしが、文明中三好氏の陥る所となる、其居館の廢址今猶存す。

**わかまぢ 和氣町** 備前國和氣郡吉井川の中流河畔にあり、和氣清原山緒の地として有名なり、人口一千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、山陽鐵道は此地を通じて岡山に向ふ。

**わかまぢ 鷲巢山** 越後國岩船郡にあり、北は以東岳

わかま

わかま



に連る、一に越の富士、或は双子山と稱す、高さ四千餘尺、山上に鷲巢権現あり。

**わしづ 鷲津** 遠江國濱名郡吉澤村の大字にして、北方は瀛名湖に面し、東海道鐵道の一驛たり、戸數約七百、村内に本興寺と云ふ日蓮宗の名刹あり。

**わしまの 輪島岬** 能登國鳳至郡輪島港の北端にあり、海中に突出すること六町、一に辰ヶ岬と云ふ、岬頭に燈臺あり。

**わしまち 輪島町** 能登國鳳至郡にあり、河原田川の河口に位す、七尾町を距る十六里、人口一萬餘、郡役所、警察署、郵便電信局、測候所、稅務署、區裁判所出張所等あり、輪島塗、素麺、柚子等の産あり、輪島港は町の北にあり、東四一町四十間、南北五町、水深四一尺、敦賀港へ百二十五淵あり、此地古くは大屋の庄、小屋湊と云ひ、長谷部信連此庄を賜はれること東鑑に見ゆ。

**わせた 早稻田** 東京市牛込區の西地方、早稻田町、鶴巻町より高田馬場に至り、更に東北中里、辨天町等に至る迄の汎稱にして、近年大隈邸及早稻田大學以下諸學校の建設せられしより、其名大に現はる。

**わたつみじんじや 海神社** 播磨國明石郡垂水村にあり、官幣中社にして、底綿津見、中綿津見、上綿津見の三神を奉

男爵を授けらる。

**わたりがわ 渡川** 土佐國高岡郡西津野村の山中より發し、南流して幡多郡に入り、諸水を合して江崎村に至り、伊豫より來れる吉野川を合せ、更に目黒川を容れ、東南流して、海に入る、流域二十一里餘、一に四萬十川と稱す。

**わたみさき 和田岬** 攝津國神戸市の南端にあり、東方に突出す、岬頭に不動白色の燈臺あり、光途十二淵、明治四年の建造とす、延元元年足利尊氏水陸の大軍を率ゐて四海より來り京師を侵さんとす、新田義貞二萬餘の軍兵を率ゐる敵を和田岬に防げること史に見ゆ。

**わたうら 鰐浦** 對馬國の北端にある一村落にして、四北朝

祀す、神功皇后攝政元年の創建と稱せらる、夫木集に「おりのぼる人のためとや此にしも、跡をたるみのあけの玉垣」とあるは此地につき詠めるものとす。○對馬國上縣郡木阪村にあり、國幣中社にして、豊玉姬命を祭る、本島の一の宮にして、其創建年月不詳なるも、承和四年授位の事見え、又延喜式に名神大祀の中に列するを見れば、其古き由緒ある名祀たるを知るべし。

**わたとげ 和田峠** (和田の大峠) 中仙道中の峻坂にして、信濃國諏訪郡より佐久地方に至る要路たり、上下六里餘、高さ五千二百餘尺、山上の眺望極めて雄壯なりと、徳川幕府の末年水戸浪士此地に據り、諏訪藩士と苦戦奮闘せし地として知らる。

**わたらいがわ 度會川** 伊勢國宮川の別稱。

**わたらせがわ 渡良瀬川** 上野國にあり、源を下野の足尾銅山に發し、西南に流れて勢多郡に入り、更に東南山田郡を経て、兩毛の境界をなして利根川に入る、近年の大問題たる足尾銅山鑛毒事件は即ち此川につきて起れるなり。

**わたりのまち 巨理町** 磐城國巨理郡にあり、陸前濱街道の要驛にして今日本鐵道常磐線の停車場あり、人口三千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、養蠶學校等あり、伊達氏の舊領地にして舊領主伊達邦成氏は北海道拓殖の功により、先年

鮮と相對す、古來同國との交通の衝に當り頗る重要地位を占む、日本書紀神功紀にも「皇后船從和珥津發之時」云々とあり、釜山浦へ三十三淵あり。

**わのむら 和納村** 越後國西蒲原郡燕町の西北にあり、今は内地にあれども、古へは海岸にありて、昔時和那美水戸と稱せし處ならんと云ふ。

**わらびまち 蕨町** 武藏國北足立郡浦和町の南方一里許にあり、日本鐵道奥州線の一驛たり、人口五千餘、機業頗る盛なり、此地は長祿年間關東探題澁川義鏡の居館地と稱せられ、今尙其舊址を存す。

附錄

清

韓

地

理

辭

典

# 清韓地理辭典

あ

**あ阿** 今の清國山東省、泰安府東亞縣の地を云ふ、戦國の時代には田齊の地に屬し、威王因齊の時其の大夫を召し治蹟の擧らざるを責めて之を烹る、之れより齊の政大に治まれりといふ。

**あいぐん 愛琿** (Aimūn) 一に黒龍江城と稱す、滿洲黒龍江省の北部、黒龍江の左岸にあり、西紀一八五八年(清の咸豐八年)、露清兩國境界條約を此地に締結し、黒龍江を以て兩國の境とせり、所謂愛琿條約是れなり。

**あいみんけん 愛民縣** 今の内蒙古阿魯科爾沁部の西北境に在り、遼の時烏州に愛民郡を置きたることあり。

**あいりんわん 愛倫灣** (Ailen Bay) 清國山東半島の東方、樹林角と其北東方三洲半なる馬他角との間にあり、其北濱の中央に高さ百呎の一岩頭あり、中央角と名く、二灣に分る、孰れも水深三尋乃至四尋にして、船舶の碇繋に便なり。

**あくす 阿古蘇** 清國天山南路の西北、ムーサル下越の南口

あ

にある城邑にして、漢代溫宿の地なり、西紀一七五七年清兵此地を占領して、溫宿直隸州を置き政を管す。

**あさひがおか 旭ヶ岡** 韓國鎮南浦にあり、市街を下瞰し、大江の眺望絶佳なり。

**あーさん 牙山** 「がさん」を見よ。

**あそか 阿楚喀** 一に「アソチウカ」と云ふ、阿楚喀河畔にあり、清の雍正年間の創設地たり、市街繞らすに正方形の土壁を以てす、約二十町に亘る二大街道其内部を貫通す、此地松花江流域の一部に位し、地味豊饒にして農産多く、商業稍盛なり、人口約三四萬、此地の南約五十町餘に白城の古蹟あり、四百年以前に存在せし大都なりと。

**あそーそん 阿槍村** 「あっちゃんすく」を見よ。

**あだむすこー アダムス港** (Port Adams) 清國遼東半島の西方、金州灣の一支灣にして灣入十八洲。

**あっちゃんすく 阿槍斯科** (Achimsuk) 滿洲黒龍江省に屬し、烏蘇里、黒龍兩江の會する所に在り、今のハバロフスクの地に近し、一六五一年ハバロフ遠征隊を率ゐて此地に據れる阿槍部を攻むるや、清國、阿槍部の請を容れて翌年(順治九年)之と戦ひ、ハバロフ遂に同年四月を以て兵を撤して去る。

**あなぐおんせん 安岳温泉** 韓國平安道安岳郡にあり、鎮

あなぐ

南浦を距る約三里、道路險惡にして、馬背によるか或は徒歩するの外、交通の便なし、温泉諸病に効あり、在韓我國の來遊者多し。

**あわしゅー阿寧州** 清國雲南省臨安府亞迷州の地にして、元の時之を阿寧州と云へり。

**あばかぶ阿巴噶部** もと阿爾技に作る、内蒙古の一部にして直隸省多倫諾爾の北方にあり、拓跋氏、突厥等の據れる所なり、元の時上京路に屬し、明の時蒙古に入る、元の太祖の弟布格博勒格圖より十七傳して巴雅思瑚布爾古特に至り、長子塔爾尼庫同其所部を號して阿巴噶と云へるより阿巴噶部の名起る。

**あはばなるお阿巴哈納爾部** 今は阿巴哈那爾に作る、内蒙古の一部にしてアバカブ(阿巴噶部)の東に接す、其歴史的變遷大要之に同じければ略す。

**あむる 黒龍江 (Amur)** 「アムリヤー」を見よ。

**あんえんけん 安遠縣** 清國江西省、贛州府にあり。

**あんぎけん 安義縣** 清國江西省、南康府の西南、馮水の邊にあり。

**あんくけん 安化縣** 清國湖南省、長沙府にあり。甘肅省、慶陽府及び貴州省、思南府にあり。

**あんけいふ 安慶府** 清國安徽省にあり、一に晋州、江州、舒

**あんじゅー 安城** 韓國京畿道にあり、京城を距る東南十七里、戸數約九百、戶外場巨里に市場あり、開城に次ぐ大市場にして取引盛なり、此地の西方に日清戦役の古戰場たる安城渡あり。

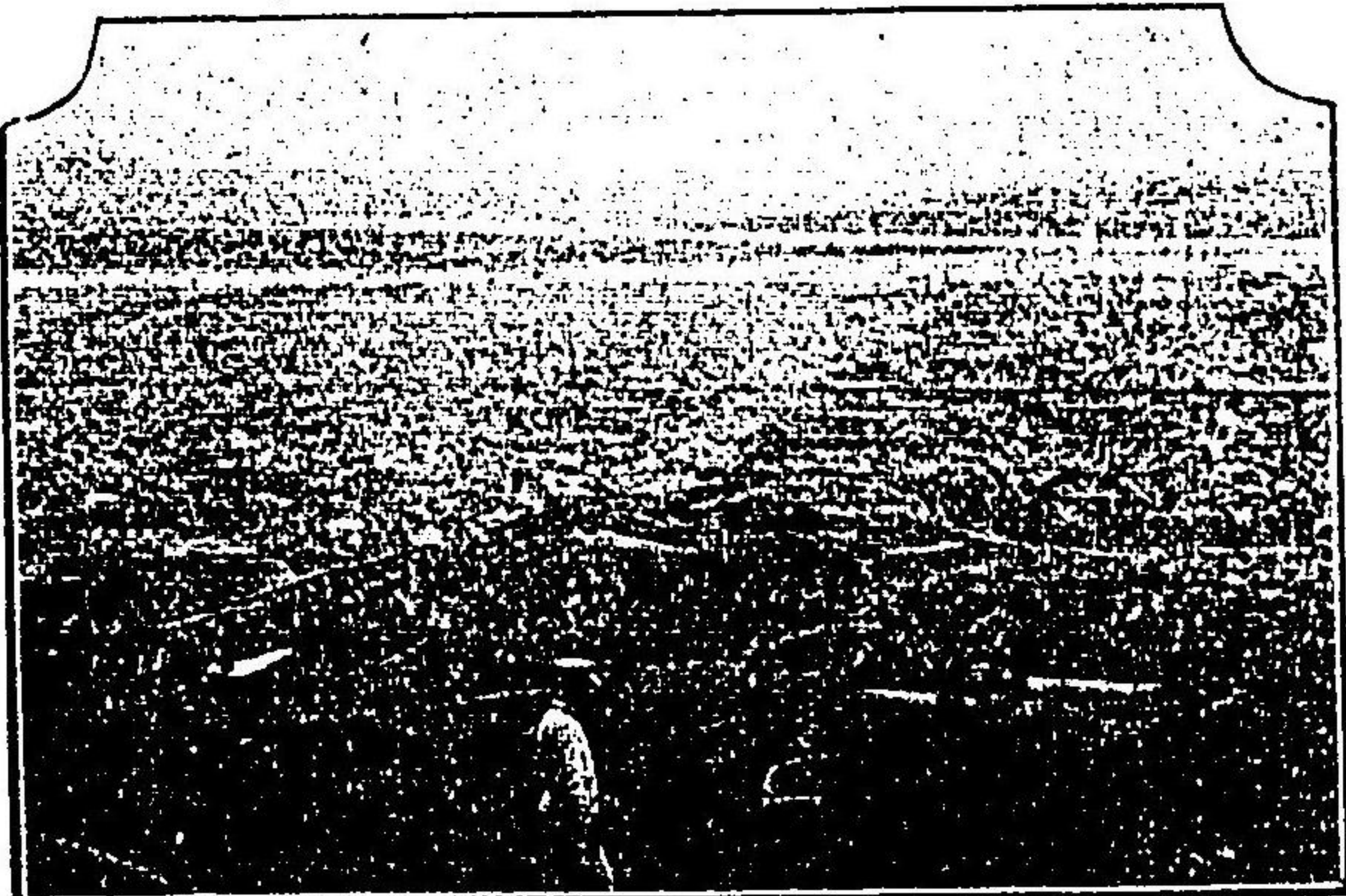
**あんそくけん 安塞縣** 清國陝西省、延安府にある縣治の地なり。

**あんていけん 安定縣** 清國陝西省、延安府、及び甘肅省鞏昌府の内にあり、縣なり。

**あんどう 安東** 韓國慶尙道にあり、一に福州、綾羅、古寧、昌寧とも稱す、三國時代新羅の要鎮にして、新羅時代の古刹等あり、京城を距る四十八里、戸數約千戸、住民兩班多く、常民少し。○清國江蘇省、淮安府にあり。

**あんどうけん 安東縣** 滿洲盛京省、九連城の西南約二里、鴨綠江岸にあり、龍岩浦の上流約十五海里に位す、戸數約二千、韓國より滿洲に至るの要衝に當り、街衢整然として巨商軒を並べ商業頗る盛なり、集散の貨物は多く安東、

あんじ



北に鐵嶺を望む、戸數四百餘、住民多く商業を營む。  
**あんほーつとー 安奉鐵道** 清國盛京省、安東縣奉天間

あんほ

州とも云ふ、本省巡撫駐在の地にして、東西南の三面長江によりて圍まれ、北一面丘陵に據る、人口約四萬、墨の産地として知らる、もと商業の盛地として、市街殷盛なりしが、長髮賊の亂に大半破壊せられ、未だ舊觀に復せず、附近に鳳陽府あり、明太祖發祥の地にして、其南の坡下は楚の項羽の漢の劉邦のために包圍せられたる所とす。

**あんこけん 安康縣** 清國、陝西省、興安府にあり。

**あんしゅー 安市城** 清國盛京省蓋平縣の東北にあり、唐太宗貞觀十八年自ら之を攻めしも拔く能はず、寒に遭ひて軍を班したることあり。

**あんじんけん 安仁縣** 清國江西省、饒州府にあり。○湖南省、衡州府にあり。

**あんしゅー 安州** 韓國平安道にあり、平壤を距る北十八里、清川江の南岸に位す、平壤義州間に於ける屈指の都會にして戸數約二千、本道第一の穀物集散地として知らる、此地日清戦役の際兵火に罹り、市街過半焼失し、爾來稍衰微の傾あり。○清國直隸省、保定府の東南にあり。

**あんしゅくけん 安肅縣** 清國直隸省、保定府の内にある縣治の地なり。

**あんじゅんふ 安順府** 清國貴州省、貴陽の西にあり、廣西方面よりの貨物の集散地なるを以て、商業頗る殷盛なり。

寛甸、懷仁及び通化の四縣下より産するものにして、粟、豆、山藷、人参等なり、日露戦役の初め我軍早く此地を占領し、軍政を布き、病院を設け、鐵道を敷設し、大規模の設備をなし、大に其面目を改めたり、今や邦人の居留者多く、商店櫛比し、諸官衙も亦多く、恰も日本町の如き觀ありと、此地より鳳凰城を経て奉天に至る輕便鐵道の敷設成り、軍事上及運輸交通上大に其利を得たり。

**あんなんけん 安南縣** 清國貴州省、興義府の内にある縣なり。

**あんねーしゅー 安寧州** 清國雲南省、雲南府にあり。

**あんぶくけん 安福縣** 清國江西省、吉安府にあり。

**あんべいしゅー 安平州** 清國廣西省、太平府にあり。

**あんぺん 安邊** 韓國咸鏡南道元山津の南三里にあり、東南狼城江を帯び、

あんほ

に敷設せる輕便鐵道にして、延長八十三哩、日露戦役の際し、我が陸軍の敷設せるものとす、鳳凰城、林家堡、連山關、下馬塘、橋頭、本溪湖等の諸驛あり。

**あんよけん** 安陽縣 清國河南省、彰德府にあり。

**あんりくふ** 安陸府 清國湖北省の中央にありて、漢江の東に位す。

**あめしゅー** 阿迷州 清國雲南省、臨安府の東にありて、西江の上流に位す。

**あもい** 廈門 清國福建省にあり、泉州府同安縣に屬す、清人は之を「ヤーメン」と呼ぶ、臺灣海峡中の廈門島(周圍四十哩)の西南岸にあり、灣内水深く、船舶の碇繋に便なり、同國の開港場にして、一八六二年の開港とす、鴉片(輸入)茶及び砂糖(輸出)の貿易極めて盛なり、人口約十萬、對岸鼓浪嶼に我國領事館を始め其他の建造物多し。

**あらしやんざん** 阿拉善山 清國甘肅省、蘭州府の北にある、其山脈の南を賀蘭山と云ひ、北を阿拉善山と云ふ。

**あるたいざんけい** 阿爾泰山系 蒙古及伊犁と西比利亞との間に存する山系にして、天山北路の北東、サイサン湖の北畔より起り、「エニセー」河方面に向つて走る、「オビ」、「エニセー」等の諸大河の水源をなす、蒙古語にて之を「アルタイ

ナリン」と云ふ、「アルタイ」は金の義にして、「ナリン」は山の意、蓋し山中金銀の産出多きを以て此名ありと、故に之を漢譯して金山と稱す、此邊一帶諸族興亡の遺跡多く、突厥、匈奴及び蒙古の諸部族の根據地となれること多し。

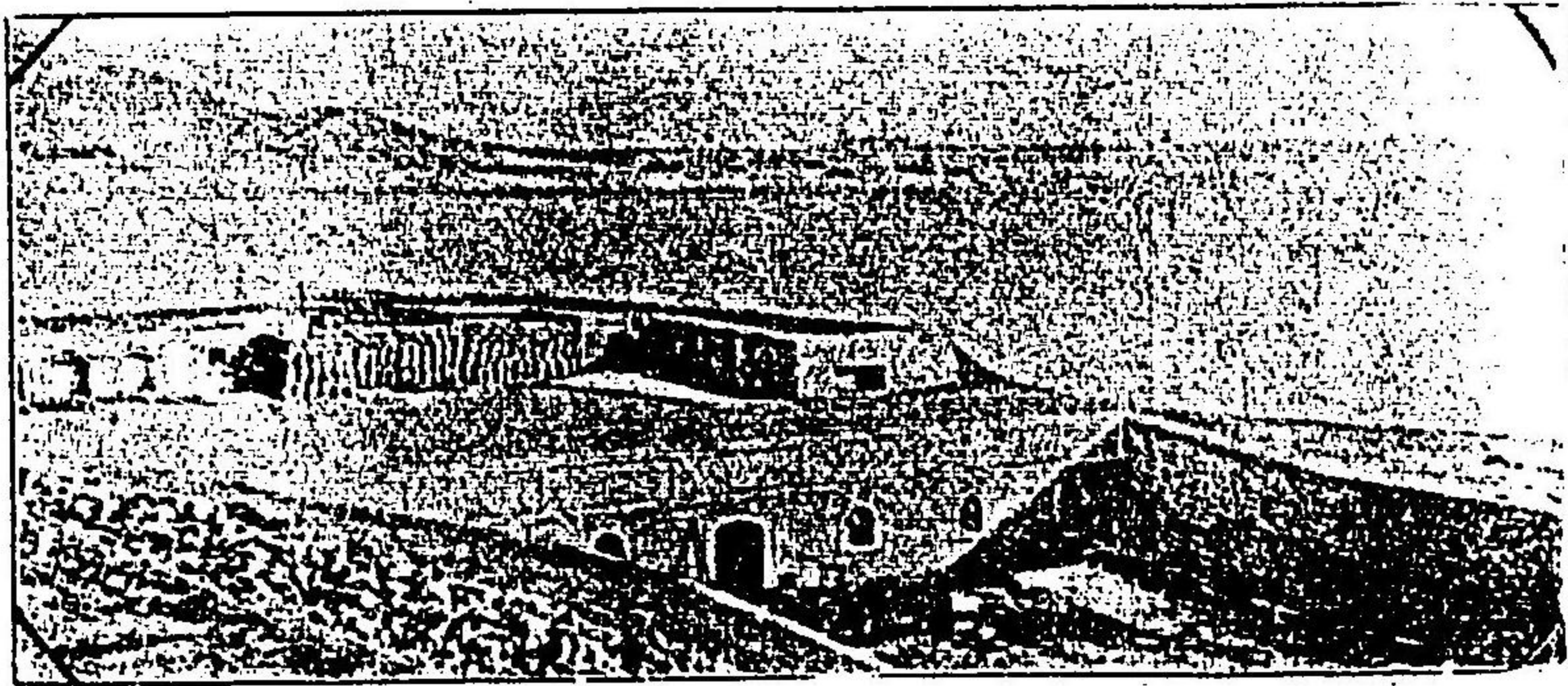
**あろちうか** 阿勒楚喀 滿洲吉林省、哈爾濱の東十里、阿勒楚喀河の左岸にあり、土俗阿什河(あしほ)と云ふ、人口約五萬、附近農産物の集散地たり。

**い威** 清國直隸省、廣平府にある縣名なり。

**いぢぢぢん** 宜昌 (Ichang) 「チヤン」を見よ。

**いかいせい** 威海衛 (Wei-hai-wei) 清國山東岬角にあり、直隸灣の南岸に位す、芝罘を距る東二十里、劉公島前面に横はり、灣口東西に分る、もと清國最要の軍港なりしが、西

(衛 海 威)



紀一八九五年(我明治二十八年)一月三十日、日本海陸軍の

爲めに陥られ、爾來其擔保として日本軍隊此地に駐屯せしが、一八九八年償金皆済せしを以て、日本軍同地を撤退し、同時に英國の租借する所となる。

**いくらんこ** 伊克阿拉克湖 蒙古科布多城の東、奇勒稽思湖の西南にあり、科布多河此處に注ぐ、一に慈母湖と稱す、周圍數里、湖水流れて奇勒稽思湖に入る、附近土地半潤にして沼澤多く、牧場多し。

**いけんけん** 渭源縣 清國甘肅省、蘭州府にある縣治の地なり。

**いしざん** 椅子山 旅順口港の背面にあり、山上には堅固なる砲臺あり、日清戦役及び日露戦役に於て激戦ありたる所として知らる。

**いじぢー** 圍場 清國直隸省、承德府、豊寧縣の北にあたる地方の總稱なり。

**いすい** 渭水 清國甘肅省、蘭州府の西南に發し、陝西省同州府華陰縣の北に至りて黄河に入る。

**いせい** 維西 清國雲南省、麗江府にある廳なり。

**いねー** 威寧 清國貴州省、大定府に屬し、省の西端なる州なり。

**いんごー** 印江 清國貴州省、思南府に屬する縣なり。

**いんざん** 陰山 一に大青山と云ひ、阿拉善山より東に走

リ、内蒙古の境をなし、海刺略(ハイラカ)山となり、興安嶺に連る、連亘五百餘里、支脈支那本部の山西省に入り、更に黄河を越えて河内省に入り伏牛山に連る、西漢の時冒頓單于此に據り、孝武帝之を奪ひ城砦を築けり。○殷山 韓國平安道にあり、同國風指の金鑛にして、雲山とならび稱せられ、鑛脈亦兩者相續く、我明治三十三年英人「モルガン」氏其採掘特許を得、大設備をなして採掘中なりと。

**いんざんおんせん 殷山温泉** 韓國平安南道にあり、平壤を距る十六里、有名なる殷山金鑛を距る里餘、中央に山を包み、山腹なる幽谷より噴出し、其色淡黄色を帯び、透明無臭にして、皮膚病、疥癬等に効あり。

**いんよーふ 鄖陽府** 清國湖北省の西北隅にありて、漢江の上流に臨む。

**いよーけん 伊陽縣** 清國河南省、汝州にあり。

**いり伊犁** 清國新疆省、伊犁河の北岸に位し、露領中央アジアに接し、頗る形勝の地を占め、商工業及牧畜農耕の中心地にして、市街稍盛なり、此地古の烏孫の地にして、唐の世には西突厥の地たり、清の乾隆年間清軍の征服する所となり、同治年間ロシア領となりしが、間もなく伊犁條約によりて再び清領となる、伊犁將軍駐紮して政務を執る。

**いりがわ 伊犁河** 清國新疆省、伊犁にあり、源をウルムチ

の四方に發し、伊犁城側を流れて、下流「バルカシ」湖に注ぐ、全長六五〇哩、沿岸肥沃の地多く、又舟楫の便あり。  
**いりばんち 伊犁盆地** 天山山系北部の地を云ふ、伊犁河流域の地にして、地味肥沃、農耕牧畜に適す。  
**いりよー 夷陵** 清國宜昌の舊稱、「ギンショー」を見よ。

う

**う 禹** 清國河南省、開封府にある州なり。

**ういんざんおんせん (Victoria 島)** 清國廣東省南岸の一島にして、有名なる香港の所在地なり、今は英國の直轄殖民地たり、「キンコン」の部参照。

**うんざんおんせん 温州 (Wen-chun)** 「おんしやう」を見よ。

**うんざんおんせん 右玉縣** 清國山西省、朔平府にあり。

**うんざんおんせん 雨花臺** 清國江寧府、城南門外にあり、一に聚寶山と稱す、台土城中を俯瞰すべく、風景極めて佳なり。

**うんざんおんせん 烏江 (Ou-Kiang)** 清國揚子江の一支流にして、貴州省の西部山中に發源し、上流を三盆河と云ひ、東流し、北折し、更に西に向ひ、芙蓉江と合し、涪陵江となりて揚子江に注ぐ、西曆紀元前二〇二年楚の項羽、漢の劉邦の爲めに垓下に圍まれ、逃れて此地に來り漢兵の逼る所となりて、自勁す。

**うし 烏什** 天山南路、阿克蘇の四七十哩にあり、人口約一萬、地方官の駐在地たり。○無錫 江蘇省常州府にあり、大運河の沿岸に位す、蘇州を距る九里、附近廣茫たる平原にして、水運の便多く、商業盛なり。

**うじ 禹城** 清國山東省、濟南府の北西にある縣なり。  
**うまいえい 右水營** 韓國木浦の附近にあり、海南郡に屬す、往時水軍節度使を置きたる所なり、赤白各種の礮石を産す。

**うすん 吳淞 (Wu-sung)** 「じんしやう」を見よ。

**うすりこー 烏蘇里江 (Ussuri)** 滿洲の大河にして古は胡里改江と稱し、長白山の北麓に發し、北流して黒龍江の本流に合す、長さ三百四十哩、交通運輸の便大にして、漁利亦多し、清の初めは此附近一圍皆其領たりしが、咸豐八年の愛琿條約により露公使イゲナチーフが、英佛二國と清國との媾和に盡力したる報酬として、此河以東の地終に露領に歸するに至れり。

**うーちゃん 武昌** 「ぶしやう」を見よ。

**うちむちんぶ 烏珠穆沁部** 内蒙古の一部にして明の時蒙古に入り、清の崇徳二年來貢して其封を受く。

**うつりよーとー 鬱陵島** 韓國東岸の一島にして、江原道に屬す、面積五百四方里餘、全島平地少きも、地味肥沃にして樹林繁茂し、木材の産多く、又多量の大豆を産す、本島は古來我國との關係尤も深く、倭寇の盛なるや、一時此地を占領せることあり、且原益軒の如き之を我國の屬地と斷せしが、明治十五六年の頃我國之を韓國に讓り其所屬初めて明

かとなれり、本邦人の居住者多く一時三百人以上に達せることあり。

**うぶさこ 烏布薩湖** 蒙古の北西、科布多にあり、其形橢圓形にして、周圍約十里、唐努、烏藍鄂馬等の諸山、其四周に聳え、特斯、和頼、特里、伊爾、博爾、札爾、齊塔齊、納林、蘇瑪等の諸河此處に發して昔湖中に入る、水豊多く舟楫の便多し。

**うんさ 雲貴** 清國雲南貴州の兩省を云ふ、雲貴總督雲南府に駐在して兩省の政務を監す。

**うんく 雲和** 清國浙江省、處州府の西南にある縣なり。

**うんざん 雲山** 韓國平安北道に在る金坑にして、定州の東北に位す、我明治二十八年米人「モールス」其採掘權を得、鑛區域六百二十五平方哩、一ヶ年の産出高五百萬圓内外なりと。

**うんしゅーみかん 温州密柑** (臨柑) 清國浙江省、温州より産する蜜柑なり、其質なるを以て夙に我國に知らる。

**うんちゅうん 雲中郡** 今の清國山西省大同府の西オルトス部にて、故の雲中城は即秦漢時代の雲中郡治なりといふ。

**うんなんしゅー 雲南省** 支那本部最西方の一省にして、東は廣西、貴州の兩省に、西は西藏に接し、南後印度の諸國に隣り、北は四川省に境す、地勢一般に高峻にして平地少く、金、寶玉等の鑛産に富み、河底江、瀾滄江、怒江等の河流あり、地たり、王辰の役加藤清正の籠城せしを以て有名なる所にして、城址今猶存す。

**うるむち 烏魯木齊** (Urumchi) 清國新疆省、天山北路にあり、清人之を紅廟子とも云ひ、又迪化府とも云ふ、新疆省城の所在地にして、市街整齊、塞外の要地として知らる。

り、省内を貫流するも、其流急激にして水運の利なし、雲南府は、其の首府なり。

**うんなんふ 雲南府** (Yunnan) 清國雲南省の首府にして、滇池の北岸に位し、雲貴總督の駐在地なり、雲南麩香の産地として有名なり。

**うんぼー 雲夢** (Yun-meng) 今の清國湖北省、德安府城の南にある洞庭湖の古名なり。

**うんりゅー 雲龍** (Yun-ling) 清國雲南省、大理府の中にある州治の地なり。

**うんれい 雲嶺** (Yun-ling) 崑崙山脈の一支派にして、西藏の東部に連る横断山脈これなり。

**うりあすたい 烏里雅蘇臺** (Uliyasai) 蒙古西北の一大都會にして、喀喇和林(カラコルム)の西方にあり、定邊左副將軍此地に駐し、外蒙古を治む、人口四千餘、附近牧畜業盛なり。

**うるが 庫倫** (Urga) 「くーろん」を見よ。

**うるがべんりだいじん 庫倫辦事大臣** 外蒙古の庫倫に駐在する清國官吏にして、邊境を防禦し、兼て貿易の事務を管理す。

**うるざん 蔚山** (Ulsan) 韓國慶尙道の一市にして、慶州の南にあり、西北に河を帯び、南は海灣に臨み、極めて形勝の地なり、王辰の役加藤清正の籠城せしを以て有名なる所にして、城址今猶存す。

え

**えー 鄂** 春秋戦國の世、楚の文王の都たり、今湖北省荊州府の地、即是れなり。①テ(程)の條を見よ。

**えいあんしゅー 永安州** 清國廣西省、平樂府の西南方にあり。

**えいが 衛河** 源を河南省衛輝府に發し、東北に流れ山東省に入り、東昌府の西、館陶縣を経て、臨清に至り、合通河と合す、漢代の屯氏河これなり。

**えいかげん 永嘉縣** 清國浙江省、温州府にあり。①榮河縣 清國山西省、蒲州府にあり。

**えいきふ 衛輝府** 清國河南省開封府の北にあり、前に河を帯び、後に山を負ひ、極めて險要の地にして、商業稍盛なり、此地古、殷の都の地にして、其南に牧野あり、周武王の殷紂王の大軍を討ち破れる所とす。

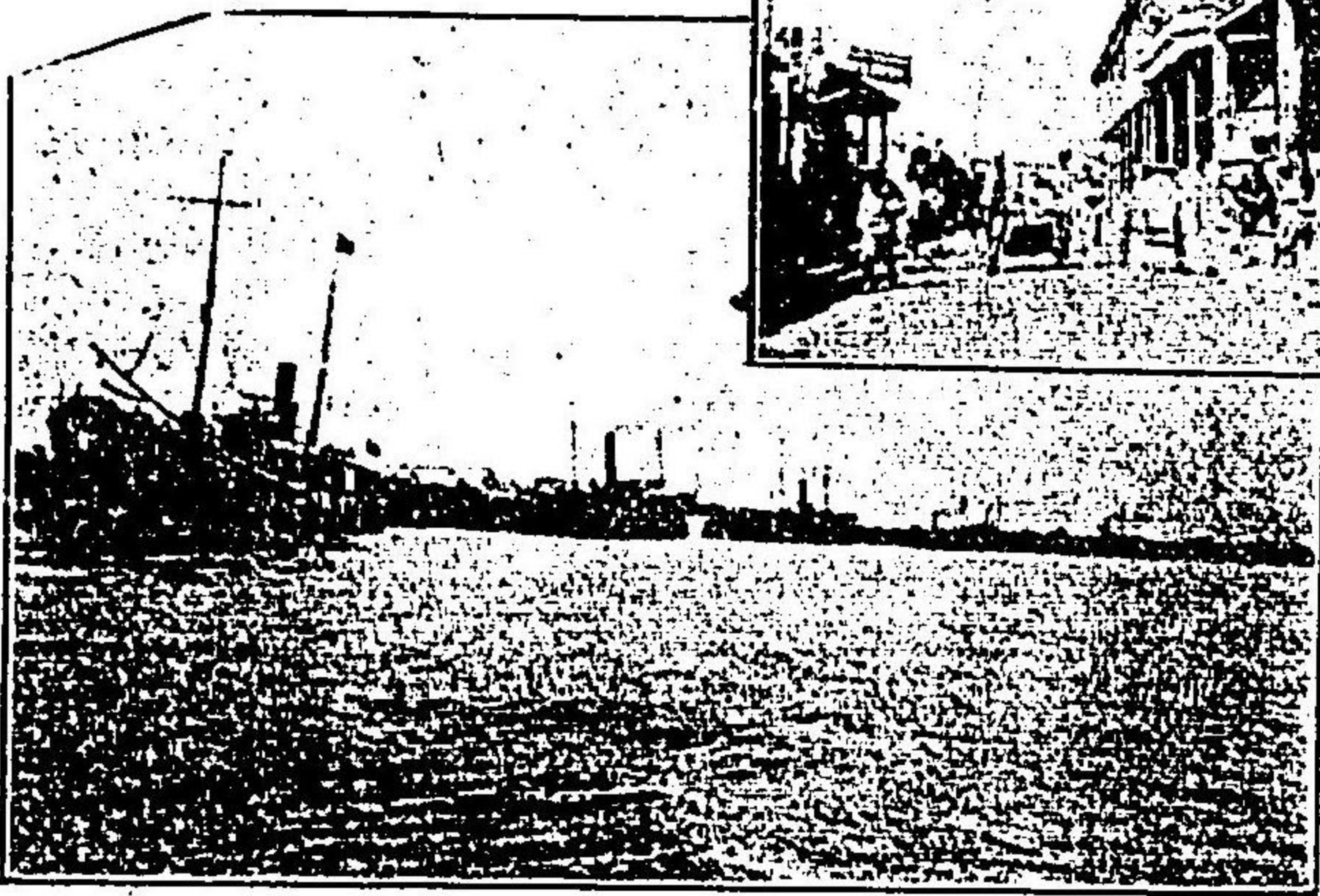
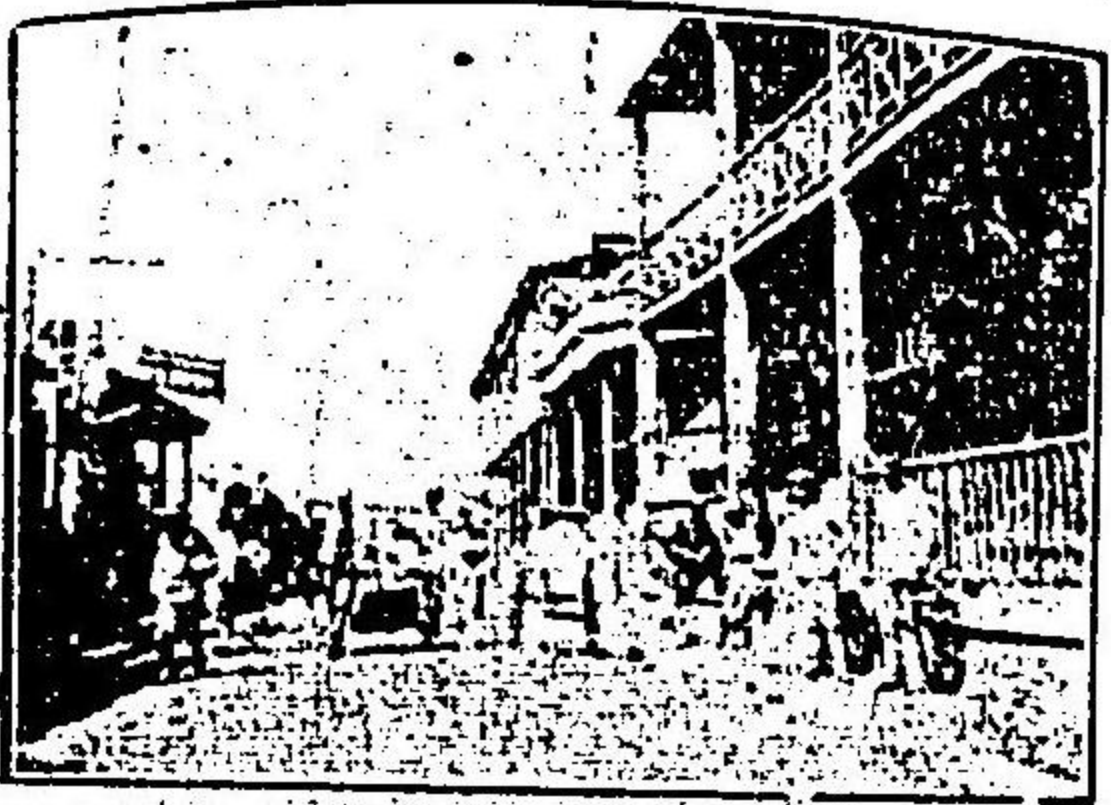
**えいくわげん 永和縣** 清國山西省、隰州にあり。

**えいけいげん 榮經縣** 清國四川省、雅州府にあり。

**えいげん 榮縣** 清國四川省、嘉定府にあり。①瀘縣 清國河南省、衛輝府にあり。

**えんぐー 營口** (Yingkow) 一に牛莊港と稱し、滿洲盛京

省、遼河口の上流一四渚の左岸にあり、牛莊城を距る約一里



(口 營)

中、滿洲鐵道大石橋より分れて此地に至り、更に溝帮子に至

り、新民廳線に合す、滿洲唯一の開港場にして、船舶の出入頗る多く人口約十三萬、近時大に増加の傾あり、我領事館、正金銀行支店、三井物産會社支店等あり、専ら豆類、豆餅を輸出し、紡績糸、砂糖、枕木等を輸入す、當港は冬季結氷して閉塞の大缺點あり。●永康 清國浙江省、金華府にある縣名なり。●廣西省太平府にある州名なり。

●永興縣 清國湖南省、郴州にあり。●永濟縣 清國廣西省、南寧府にあり。

●永興灣 (Yung-Hing) 韓國咸鏡道にあり、東に葛馬半島あり、北に大江半島ありて灣口を扼す、灣内廣き所約六裡、灣入亦此れに等しく、船舶の出入、碇泊に便なり、其南岸に元山津あり。

●永濟縣 清國山西省、蒲州府にあり。

●英山縣 清國安徽省、六安州に屬す。●營山縣 清國四川省、順慶府にあり。

●榮山江 韓國全羅南道にあり、此河口に木浦あり、貿易港として知らる。

●永新 清國江西省、吉安府にある縣なり。

●永壽縣 清國陝西省、乾州にあり。

●永從縣 清國貴州、黎平府にあり。

●穎州府 清國安徽省の西端にある府なり。

●永宗島 韓國仁川港の沖にある小島にして、江華島と月尾島との間にあり。

●永定 清國福建省、汀州府にあり。●清國湖南省、澧州にあり。

●永德 清國廣東省、韶州府に屬する縣なり。

●永登浦 韓國京畿道果川郡にあり、漢江に臨む、京釜鐵道の終點地にして、京仁鐵道との接續點なり、日本郵便局、電話等の設あり。

●永寧 清國山西省汾州府及廣西省桂林府並に貴州府安順府に各永寧州あり、又江西省吉安府、河南省河南府に何れも永寧縣あり。

●永年縣 清國直隸省、廣西府に屬す。

●永福縣 清國福建省、福州府にあり。●清國廣西省、桂林府にあり。

●永平 一は清國直隸省中の一府にして、一は雲南省永昌府に屬する縣なり。

●永平府 清國直隸省の、滌河の流域にあり、北京城を距る東九十餘里、近く山海關を控へ極めて險要の地たり。

●永北 清國雲南省、永昌府に屬する縣名なり。

●永豐縣 清國江西省、吉安府に屬す。

●永州府 清國湖南省にあり、もと荆楚の蠻地にして秦の時長沙郡を置き、漢晉を経て隋唐には永州と稱し、清亦之を襲稱す。  
●永春 清國福建省にある直隸州なり。  
●永順 清國湖南省の府なり、其下に又永順縣あり。  
●永昌 清國雲南省に永昌府あり、又甘肅省、涼州府に永昌縣あり。  
●順上 清國安徽省、穎州府の縣なり。●榮城 清國山東省、登州府に屬する縣なり。  
●榮昌縣 清國四川省、重慶府にあり。  
●永城縣 清國河南省、歸德府にあり。  
●榮城灣 清國山東省成山角の南に在り、水深約五尋、大船數十艘を泊するに足る、日清戰役に我威海衛攻撃軍の上陸せし所なり、灣を距る四里、山東角と半島の高陸との間に榮城縣あり、古へ倭寇の襲來せし地として知らる。  
●永綏 清國湖南省にある縣名なり。  
●永清縣 清國直隸省、順天府南路廳にあり。  
●永川縣 清國四川省、重慶府にあり。  
●永善縣 清國雲南省、昭通府にあり。



えいめいけん 永明縣 清國湖南省、永州府に屬す。

えいよーけん 榮陽縣 清國河南省、開封府に屬す。

えいりょー 永陵 清國盛京省、興京の西方約里許、啓運山上にあり、清朝の祖先四祖の陵墓存す、山上樹林蒼鬱たる中に樓門殿堂巍然として聳ゆ、陵墓は其後にあり、圓形の塚にして、中央に興祖皇帝、東に肇祖、景祖の二皇帝及武功親王、西は顯祖皇帝及び貝勒を葬る、興祖皇帝の塚は高さ四尺、周圍七間許にして、他は之より小なり、塚上各々幣束様のものを樹つ。

えきけん 掖縣 清國山東省、萊州府にあり。

えきすい 易水 清國直隸省、易州に沿うて流る、戦國の時荆軻の歌を以て有名なり。

えきごけん 益都縣 清國山東省、青州府にあり。

えきもんけん 易門縣 清國雲南省、雲南府にあり。

えきよーけん 益陽縣 清國湖南省、長沙府に屬す。

えいこー 粵江 珠江(しゅうこー)を見よ。

えつせんちー 越嶲廳 清國四川省、寧遠府にあり。

えんあん 延安 韓國黃海道海州の東十二里にあり、附近田野開け米穀の産多し、實叢江其西を流れて、水利の便あり。

えんわんけん 遠安縣 清國湖北省、荊門州にあり。

えんきょー 燕京 北京の舊名、「ペキン」を見よ。

えんきょくけん 垣曲縣 清國山西省の絳州にあり。

えんけいしゅー 延慶州 清國直隸省、宣化府にあり。

えんげんけん 鹽源縣 清國四川省、寧遠府にあり。

えんさちー 鹽茶廳 清國甘肅省、平涼府にあり。

えんざんけん 鉛山縣 清國江西省、廣信府に屬する縣なり。

えんしけん 偃師縣 清國河南省、河南府にあり。

えんしんけん 延津縣 清國河南省、衛輝府にあり。

えんじょーけん 鄭上縣 清國山東省、沂州府に屬す。

鹽城縣 清國江蘇省、淮安府にあり。

鹽河の左岸にあり、蘇灣河鎮と相距る僅かに一里、鹽城停車場あり、人口約二萬。

えんせんけん 延川縣 清國陝西省、延安府にあり。

えんたい 煙臺 清國遼陽の北東方にあり、石炭の産出地として有名なりしが、其質の粗悪なるを以て、近時其名大に衰ふ、日露戦役の際、我が第一軍遼陽大會戦の翌日(明治三十七年九月四日)此地を占領せり、炭坑を距る約里許、滿洲鐵道に沿ひ煙臺停車場あり、之より炭坑に支線を敷設す。

こんたいおー 鹽大澳 清國盛京省遼東半島の東方にあり、光祿島西北方の海岸より成り、灣内小嶼礁脈多く、且水淺く漁船の碇繫に便ならず、日露戦役の際、我が第二軍此地より

の時代に發見せられしも、龍脈を斷つとの迷信より、其採掘徴々として振はざりしが、露國の滿洲經營に従事するや、早くも此地の有利なるを看破し、盛に其經營に従へり。

えんちーけん 延長縣 清國陝西省、延安府にあり。

えんていけん 鹽亭縣 清國四川省、潼川府にあり。

えんごー 圓島 清國山東省、膠州灣の西角の南方、約二裡にあり、高さ一七〇呎にして半圓形を成す、故に此名あり。

えんべいけん 宛平縣 清國直隸省、順天府の西路廳に屬す。

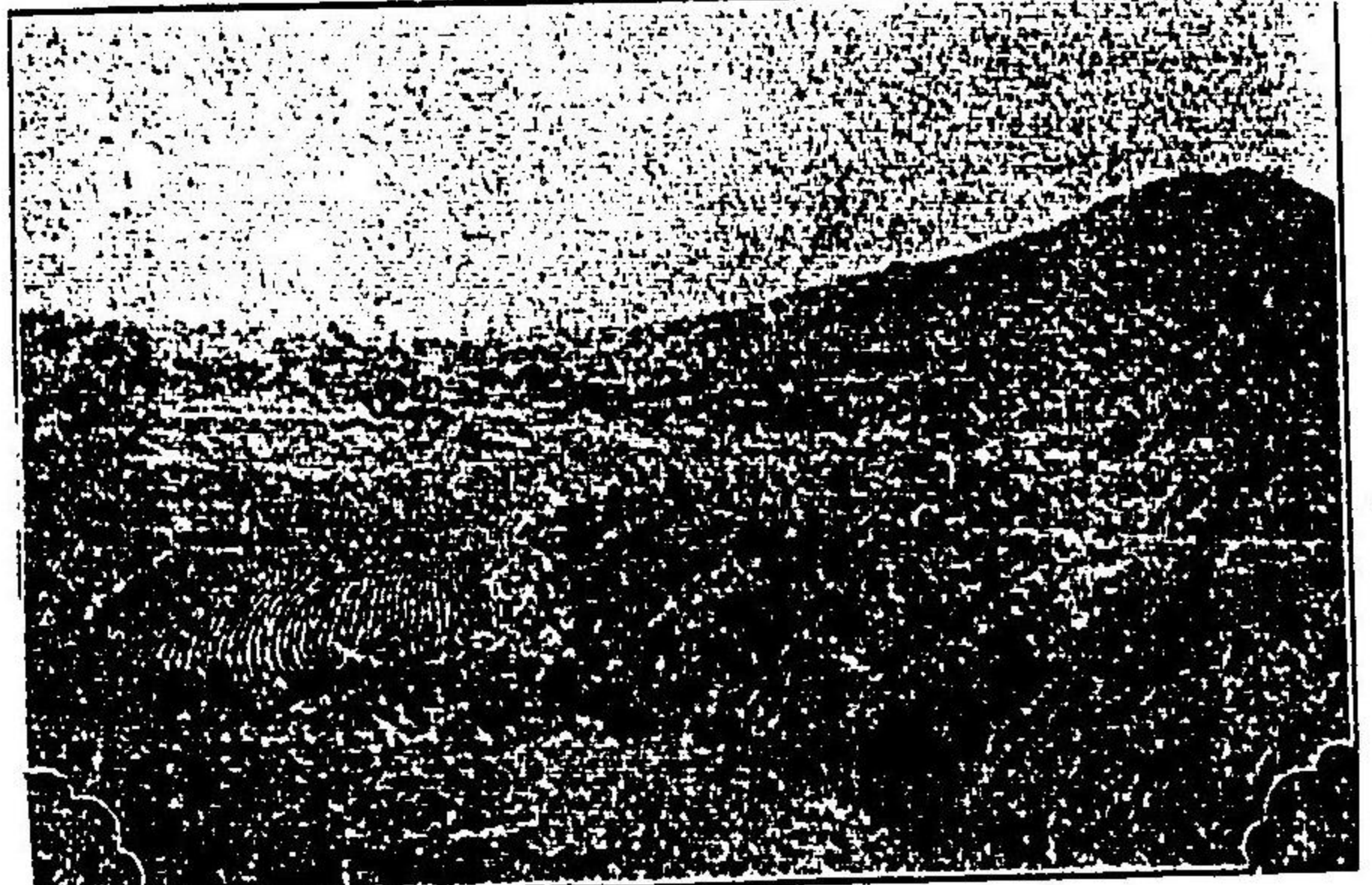
えんべーふ 延平府 清國福建省建寧府の南にあり、閩江上流屈指の都邑にして、福州との間舟楫の便あり、茶、木材等の産出多し。

えんりょーけん 鄆陵縣 清國河南省、開封府にあり。

上陸し、俄かに普蘭店を襲ひ、旅順背面の退路を絶ちて奇功を奏せり。

えんたいこー 煙臺港 芝罘港の別名、「ちいふー」を見よ。

えんたいたんこー 煙臺炭坑 清國盛京省、奉天府の東南部にあり、滿洲鐵道の煙臺停車場を距る約一時間にして達す、礦脈は磨礫山より尖山次兒山を経て尾明山に至る北南一帯の山脈を貫き、延長一哩半乃至三哩に及び、至る所に採掘するを得べく、總炭層十六層より成り其内採掘に値するもの四層あり、炭質軟かく碎け易し、多く粉炭となる、此の炭坑は唐



(坑 炭 臺 煙)

おーあ

お

おーあんけん 瓊安縣 清國貴州府、平越州にあり。

おくえぞ 奥蝦夷 樺太島の舊稱なり、「さばれん」を見よ。

おーけん 王儉 韓國平壤の別稱、「へいじょ」を見よ。

おーげんけん 翁源縣 清國廣東省韶州府に屬す。

おーごんざん 黃金山 旅順港々東岸に在り、其山上に堅固なる砲臺あり。

おーざんけん 應山縣 清國湖北省、德安府にあり。

おーしー 應州 清國山西省、大同府にあり。○清國廣西省、南寧府に屬す。

おーじょーけん 應城縣 清國湖北省、德安府に屬す。

おせんけん 於潛縣 清國浙江省、杭州府にあり。

おーてんふ 應天府 南京の舊稱、「なんきん」を見よ。

おーねーけん 甌寧縣 清國福建省、建寧府にあり。

おのんがわ 敖喇河 (Onon) (幹離河) 北蒙古のケント山に發源し、露清の境に沿って流れ、蒙古の境内に入り、更に露國の境内に入り、シルカ河に會す、西紀一二〇六年蒙古の酋長鐵木真、該河の水源地に於て大汗の位に即く。

おんけん 恩縣 清國山東省、東昌府にあり。

おんら

五二四

おんこーけん 温江縣 清國四川省成都府に屬す。

おんしけん 恩施縣 清國湖北省、施南府に屬す。

おんしー 温州 (Wen-chau) 清國浙江省の開港場にして、温州灣内、甌江河口の上流二十裡にあり、西紀一八七七年、芝罘條約の結果として開かれたる港にして、人口約九萬、市街清潔にして蜜柑の産出を以て名あり。

おんしーわん 温州灣 清國浙江省の東南岸に在り、灣内に温州府あり。

おんじょきんぶつ 恩津彌勒佛 韓國全羅北道群山を距る十二里なる恩津郡竹岩里の彌勒寺にあり、著名なる大石像にして、身長五丈五尺、圍三丈、口長三尺五寸、耳長九尺、眉間六尺、冠高八尺、「高麗光宗十九年己巳の歲、沙梯の村女、巖を盤樂山に採り、紫雲の懸るを認め、靈石を發見し丙午三十七年に竣功す云々」の碑文あり。

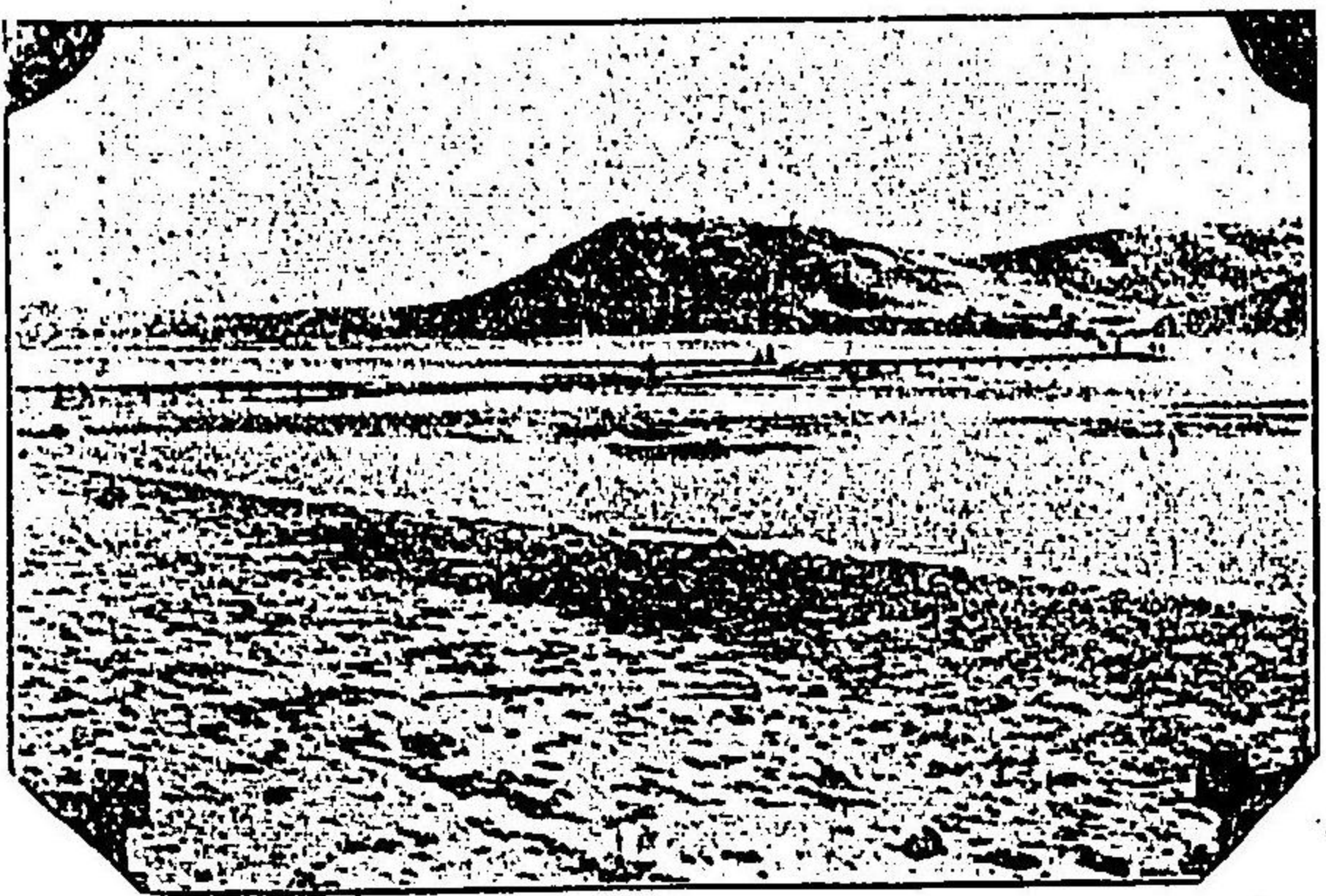
おんべいけん 恩平縣 清國廣東省、肇慶府に屬す。

おんもん 諺文 韓國常民の用ふる一種の文字にして、佛典の梵字に基づき百濟、高句麗時代に創製せるものにして、李朝中興の祖世宗王の時大成せり、母音十一、子音十四を結合して百五十四音とす、日本假名文字の如く漢字の間に交へ綴ることを得。

おんらくけん 恩樂縣 清國雲南省、鎮州に屬す。

おーもん 澳門 (Macao) を見よ。

おーりょくこー 鴨綠江 韓國第一の大河にして、白頭山の西麓に發源し、滿韓の境を劃し、西南流して、長津、終佳江等と合し義州を過ぎて黃海に注ぐ、全長百三十里、河口より四十里、昌城迄舟楫の便あり、本江、緑、鴨、(江、緑、鴨)



おーる、上流に有名なる大森林地あり。  
おんごんがわ 額爾古納河 清露兩國の境界をなす河にして、

て、康熙二十八年の分界石碑あり。

おんごんがわ 鄂爾坤河 一に幹兒渾、鄂勒昆に作る、古來有名なる河にして、源を外蒙古の抗愛山尾の南麓に發し、東流して塔塔河と會し、始めて鄂爾坤河の名を得、抗愛山以北、枯庫嶺以東の諸川を合せ東北に流れ、更に正北に折れ無數の小流を會し、曲流六十里餘にして「セレン」河に入る、元の大統七年河の西なるハラホリムに都を建て、大遠征の會議を開く、時に西曆一二三五年なり。

おーも

おんら

五二四

か

があんけん 雅安縣 清國四川省、雅州府にあり。

かいえんけん 海鹽縣 清國浙江省、嘉興府に屬す。

がいか 垓下 今の清國安徽省鳳陽府靈璧縣の南にして、虹縣の四五十清里にあり。漢の高祖此地にて大に楚の項羽を破り、遂に死に至らしめたる處として有名なり。

かいきゅうけん 介休縣 清國山西省、雅州府に屬す。

かいくふ 開化府 清國雲南省の西南隅にありて、安南に流下する盤龍江の水源地に屬す。

かいけい 會稽 清國浙江省紹興府の東南にある山名にして、越王勾踐と共に有名なり。

かいげん 開原 清國盛京省の一都にして、鐵嶺の北に在り、人口約三萬五千、城内には唐代建築の古塔あり、此地西北に丘陵を負ひ、西南ひらけて、近く清河の流に臨む、鐵道鐵嶺より來りて昌圖方面に行く、交通の便多く、商業稍々盛なり、明治三十八年三月十九日日本軍此地を占領せり、此地もと蕭愷の地にて、元朝の時、邊城防備のため城壁を築き、明の洪武年間之を改築し、城外に壘濠を設け、深さ一丈、濶さ四丈、周回二十三里餘ありしが、今は全く燬滅せり、清も、遂に果さずして止む。

かいしゅー 開州 清國直隸省、大名府に開州あり。●貴

州省、資陽府

に開州縣あり。

●かいじ

よー(開城)を

見よ。●海州

(Hainan) 韓

國黃海道の南

部にあり、京

城を距る三十

四里、本道の

治所にして、

北に首陽山を

負ひ、南海州

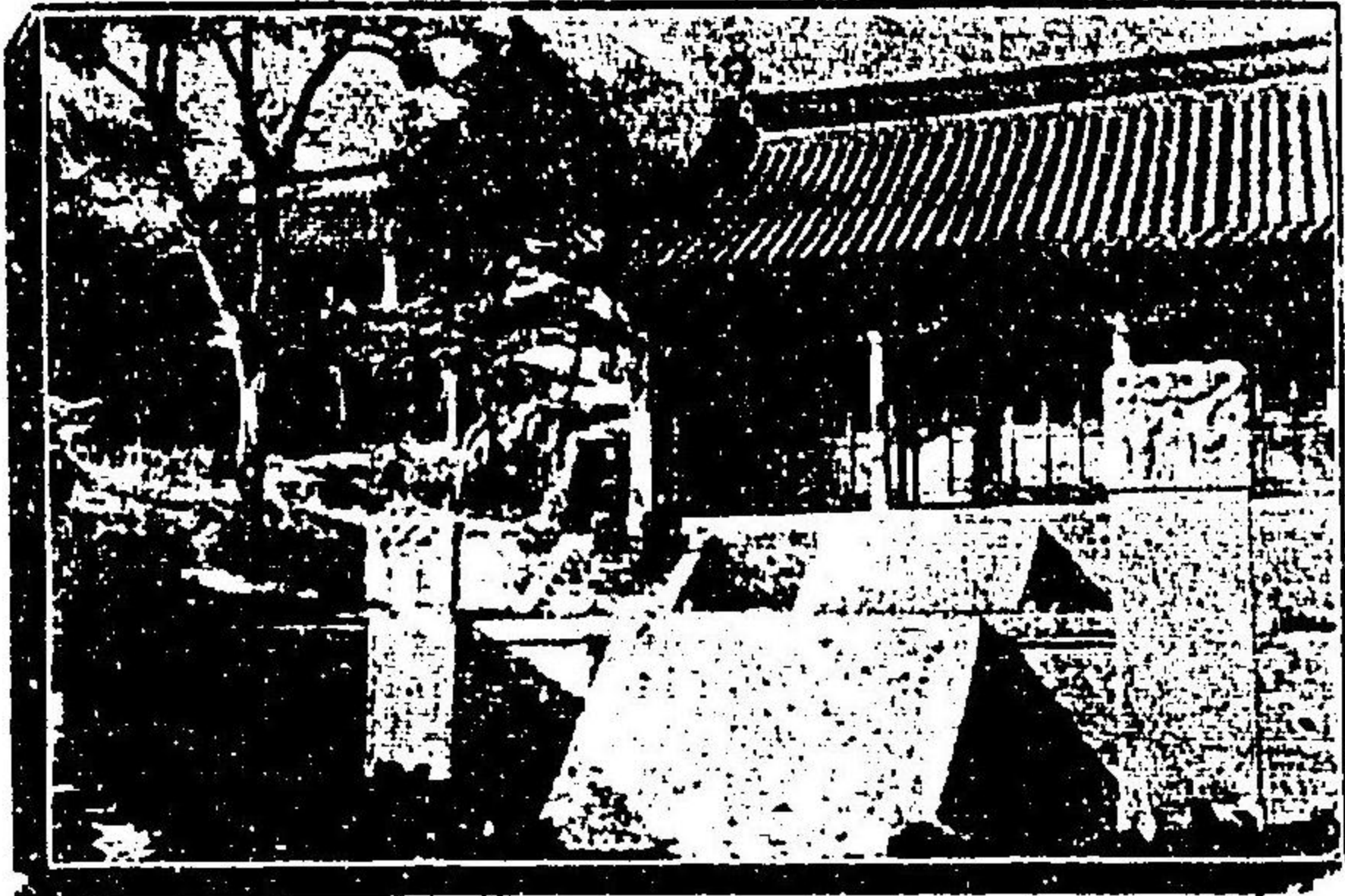
灣に臨む、戸

數約三千、人

家稠密にし

て、商業頗る盛なり。

かいじゅー 開城(Kai-Sung) 韓國京畿道にあり、一に松都と稱し、京城を距る北十六里、住古、高麗朝の舊都にして、發



(城 海)

朝に至り更に之を修築せり、城壁の高

さ約三丈四

尺、周回一里

半、今大半崩

壞す、人口約

一萬五千。

かいけんけん 開建縣 清

國廣東省、肇

慶府にあり。

かいこー 海口

瓊州(けいし

ゆー)を見よ。

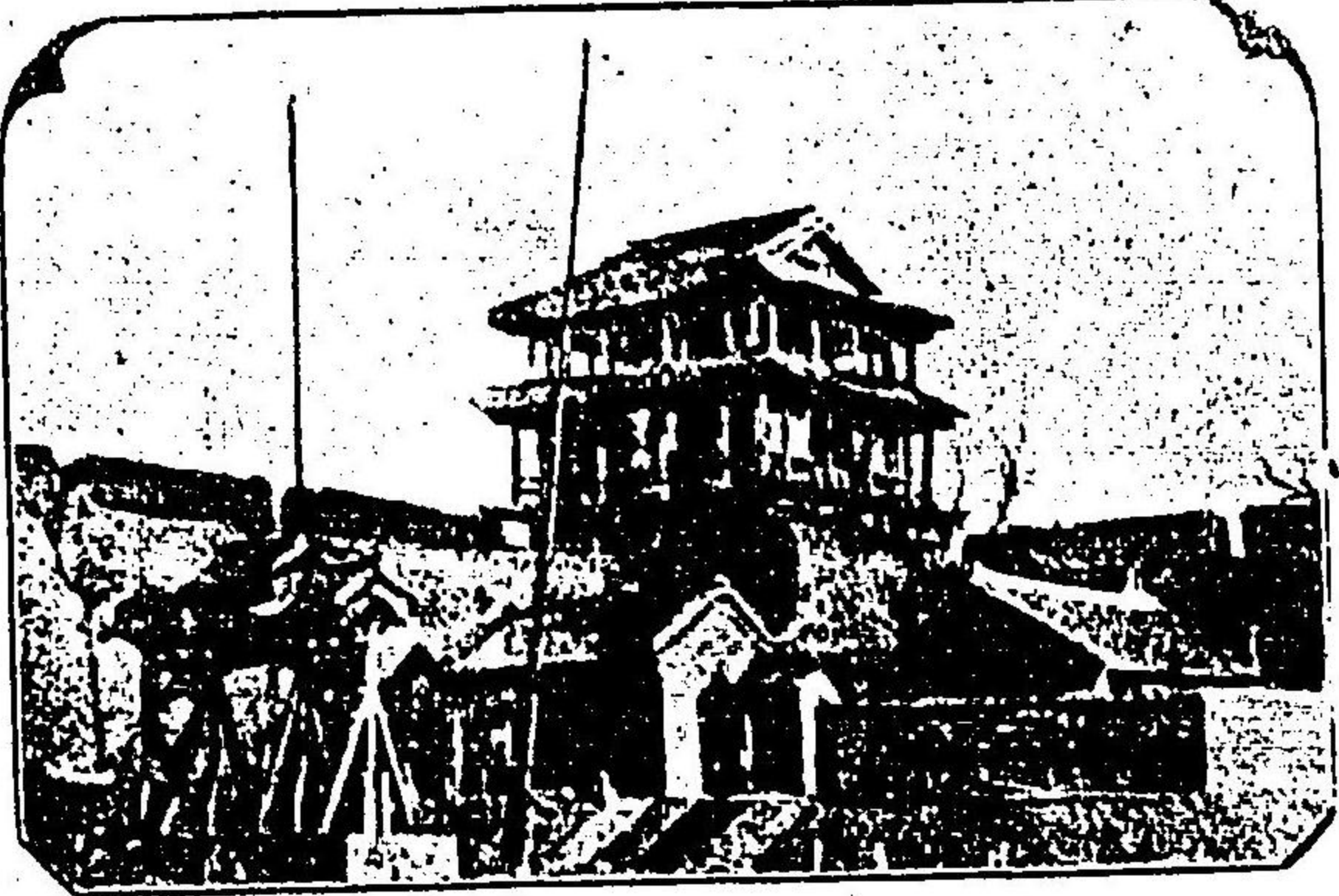
かいこーけん 海康縣 清國廣東省、瓊州府にあり。

がいざん 崖山 廣東省廣州府新會縣の南方約十四里にあ

り、宋室滅亡の地なり、宋の祥興元年、元將張弘範等閩廣に

侵入す、帝厓山に據る、同二年二月元年之れを攻撃し、宋

室亡ぶ、其後張傑再び此地に至り、兵を集めて恢復を圖りし



(原 開)

州街道の要衝たり、仁川と密接の關係を有し、商業繁盛にして、平壤と相伯仲す、人口約五萬、邦人の居留者多く、人參の取引地として名あり。●海城 滿洲盛京省の一都會にして、海城河の東北に位す、人口約一萬四千、街衢縱横、商業繁盛なり、附近棉の産出多く、鑛泉亦少からず、此地日清戦役及び日露戦役に於てともに、激戦ありたる地としてあまれ

く知らる。かいたいけん 開泰縣 清國貴州省、黎平府にあり。かいたんとー 海壇島 清國福建省の東岸に在り。かいちやー 海澄 清國福建省、漳州府にある縣なり。かいなんかきよー 海南海峽 (Hainan Strait) 清國廣東省瓊州半島と海南島との間にあり、西は東京灣、東は支那海に通ず。

かいなんどー 海南島 (Hainan) 清國廣東省の南方にあり、一に瓊州島と稱す、北は海南海峽によりて廣東省瓊州半島と分たれ、兩者相距る二十哩、南部は花崗岩、中部は古生界、東北部は第四紀層より成り、地味肥沃にあらずるも鑛産多く、木材を出し、又甘蔗、煙草等の産出を以て名あり、北岸に瓊州府あり、其港を海口といふ、貿易港たり。

かいねー 海寧 清國浙江省、杭州府にある州にして、もと

海寧縣と稱せり。

かきびん 開平 (Kaiping) 「かきん」を見よ。

かきへい 開平 清國天津の東北直隸省永平府にあり、津榆鐵道の一驛たり、附近唐山とともに炭坑多く、開平炭の名世に著はる。

かきへい 蓋平 清國盛京省の一市にして、牛莊の南約七里に位し、東清鐵道の線路に當る、人口約三萬、糧米の中央市場にして、又漁業の中樞地たり。

かきへいけん 開平縣 清國廣東省、肇慶府にある縣なり。

かきへいたんこ 開平炭坑 清國直隸省永平府にあり、一日の採掘高二千三百乃至二千四百噸にして、北清第一の稱あり、開平炭と稱するも實は開平を距る數哩の唐山附近より産出するもの多しと。

かきほーけん 海豐縣 山東省武定府にあり、廣東省惠州にあり。

かきほう 開封府 (Kaifong) 清國河南省の首府にして、北京を距る二百六十里、黄河の南に位し、市街繁盛なり、蘆漢鐵道此地を通ず、此地古くは大梁或は汴と稱し、宋及び五代の國都たり、其開封府の名は、五代の時後梁の朱溫の命名せるなりと。

かきんけん 河陰縣 清國河南省、開封府にあり。

かきもんち 海門廳 清國江蘇省、揚州府に屬する廳なり。

かきもんわん 海門灣 南支那海にあり、清國廣東省の北東沿岸にあり、深さ七尋乃至八尋、灣内に汕頭あり、開港場たり。

かきよーけん 海陽縣 清國山東省、登州府にあり、廣東省、潮州府にあり。

かきよーとー 海洋島 清國盛京省の南黃海中に在り、周圍約四哩、全島山岳より成るも平地亦少からず、山の高さ最高一千三百尺に至る、長さ四海里、高さ約三百三十尺、四周斷崖より成り、其西側に乘登港あり、水深、十一尋乃至七尋、大艦巨船の碇泊に便なり、此地附近の海上は、日清戰役の際我が艦隊、敵の北洋艦隊を撃破したる古戰場たり。

かきらんせー 海拉爾城 「はいらるじょー」を見よ。

かきりーじー 海龍城 滿洲開原縣の東、山城子の東にある都邑にして、開原若くは孟家屯より吉林に通ずる大道の要衝に當る。

かかかん 河間府 清國直隸省、天津の西南にあり。

かきよけん 嘉魚縣 清國湖北省、武昌府に屬す。

かきよけん 河曲縣 清國山西省、保德州に屬す。

かきしゅー 岳州 又岳陽と云ふ、清國湖南省岳州府巴陵縣にあり、漢口より大江の上流二十二里、洞庭湖の東岸に位し、古來重鎮として頗る形勝の地を占む、有名なる岳陽樓は此府の城門なり、明治三十二年清國自ら開港場となす、此地洞庭湖の咽喉に當り、上流湖南の大市場たる、長沙、常德、湘潭等を控え、洞庭湖以南より長江に出づべき貨物の集散地として、商業頗る盛なり。

かきしゅー 岳州府 清國湖南省にありて、洞庭湖畔、長江に出でんとする口に位し、明治三十二年の開港場なり、古の岳陽にして、有名なる岳陽樓は當時の城門なり。

かきちけん 岳池縣 清國四川省、順慶府にあり。

かきよーけん 岳陽縣 清國山西省、平陽府にあり。

かきよー 岳陽 かくしゅー(岳州)を見よ。

かきよーろー 岳陽樓 かくしゅー(岳州)を見よ。

かきけん 嘉禾縣 清國湖南省、桂陽州に屬す。

かきけん 夏縣 清國山西省、解州にあり。

かきけん 賀縣 清國廣西省、平樂府にあり。

かきけん 河源縣 清國廣東省、惠州府に屬する縣なり。

かきこー 嘉興 韓國、忠清道にありて又一に可興と書く、忠州府に屬す、漢江上流の要津にして慶尙道の洛東に通ず、此地文祿の役、糧餉部を置かれ、日清戰役にも電信隊本部を置

かる。夏口 今の清國湖北省漢口の浦名にして、重鎮として古來險要の一に數へられたり、詳しくは、かんこー(漢口)を見よ。河口 清國雲南省にあり、東京河の上流、紅河とナンシ河と相合する處にあり、河を隔てて、佛領老開に對し、蒙自を距る約三十五里、一八九五年清佛條約により開かれたる五市場なり、人口約四千。

かこくかん 嘉峪關 清國甘肅省と新疆との境上にあり、萬里の長城西方の終點なり。

かこー 嘉興府 清國浙江省の北方にあり、杭州、上海間の中央に位す、上海を距る約四十里、杭州府と相駢んで、地味肥沃にして、農産豐饒の地と稱せらる、吳の時嘉禾と稱し、唐代に杭州に屬し、明の時嘉興府と改む、水路縱横に亘り、舟楫の便頗る多し、此地大運河の上海、蘇州への分岐點にして、商賈の店舖多く城外にあり、河中常に七百隻の船舶碇繋し、人口城の内外を通じて約六萬、養蠶、養鴨の中心地たり。

かきん 牙山 (Yasan) 韓國忠清道公州の北方にあり、同名の海に臨み、京釜鐵道牙山驛あり、運輸の便多し、日清戰役の際、我軍の清軍を掃蕩せし所なり。

かきんわん 牙山灣 韓國忠清、京畿兩道の境にある大灣にして、海内分れて二となり、南にあるを貢稅湖と云ひ、北

かしん

にあるを古温浦と云ふ、海内水深く、船舶の碇繋に便なり。  
かしんけん 夏津縣 清國山東省、臨清州に屬す。○河津縣 清國山西省、絳州に屬する縣なり。

かしゅがる 喀什噶爾 (Kashgar) 一に佳沙、可失哈里とも云ふ、清國新疆省最大の都會にして、天山南路にあり、人口六萬餘、塔里木河の上流にあり、露領トルキスタンとの陸上貿易の中心地にして、市況頗る殷盛なり。

かしゅー 葭州 清國陝西省、榆林府に屬す。○河州 清國甘肅省、蘭州府に屬す、もと鹽池府に屬せり。○雅州府 清國四川省の殆んど中央にありて、成都府の西南に當る。

かしゅーけん 嘉祥縣 清國山東省、濟寧州にあり。かせいけん 河西縣 清國雲南省、臨安府に屬す。がせきせい 下石西 清國廣西省、太平府に屬す、故土州たり。

かせんけん 嘉善縣 清國浙江省の嘉興府にある縣なり。かたけけん 河内縣 清國河南省、懷慶府に屬する縣なり。かたくけん 荷澤縣 清國山東省、曹州府に屬する縣なり。かちしゅー 河池州 清國廣西省、慶遠府に屬する州なり。がっほ 合浦 韓國馬山浦の別稱にして、高麗王時代の稱なり。

かていふ

嘉定府 (Kai-tin) 清國四川省、成都府の南に在り、岷江の西岸に位し、長江方面より成都に輸入する物貨積替地にして、市況稍々盛なり、附近に峨眉山あり、勝景を以て知らる。



(人 定 嘉)

かどー 瑯島 一に皮島といふ、韓國平安道鐵山の南四里許の所にある一島なり、明の時一度び明に屬せしが、後再び韓國の有に歸す。かどーかどーそーとく 河東河道總督 清國黄河土木工

事を監督する官吏。

かどくじま 加徳嶋 韓國慶尙道の南方海中、巨濟島の東にあり、周回八里餘、大船を泊すべし港灣なきも、西南岸には漁船の碇繋所多し、島の周圍には屬島多く、其中閑山島は文祿の役李舜臣の我軍と最後の決戦を試みし處なり。かなんしゅー 河南省 (Honan) 清國直隸省の南、黄河の大流域を占む、土地豊饒、物産亦饒多なり、首府を開封と云ふ、面積六一、三〇〇方哩、人口約二五、三一六、八三〇。

かなんふ 河南府 清國河南省の一市にして、洛水の北に位す、古の洛陽にして、殷、東周、漢、及西晋等の帝都たり、附近歴史上有名なる遺跡極めて多く、古の洛陽城址は府の東、洛水の北にあり、又府の東に有名なる白馬寺あり、漢明帝の時の建立にして支那に於ける最初の僧寺とす。

かはんたん 家班站 滿洲吉林省松花江の右岸にあり、新店驛頭を距る約六里、人口約一萬、松花江流域に於ける阿片産出地の中心地たり。

がひけん 峨眉縣 清國四川省、嘉定府にある縣名なり。がびざん 娥眉山 清國四川省嘉定府峨眉縣の西南にあり、兩山相對して恰も娥眉の如きを以て此名あり、風景絶佳にして、有名なる「娥眉山半輪秋、影入平羌江水流、夜發四溪向三峽、思君不見下豫州」の詩は此山につきて詠ぜるなり。

かひん

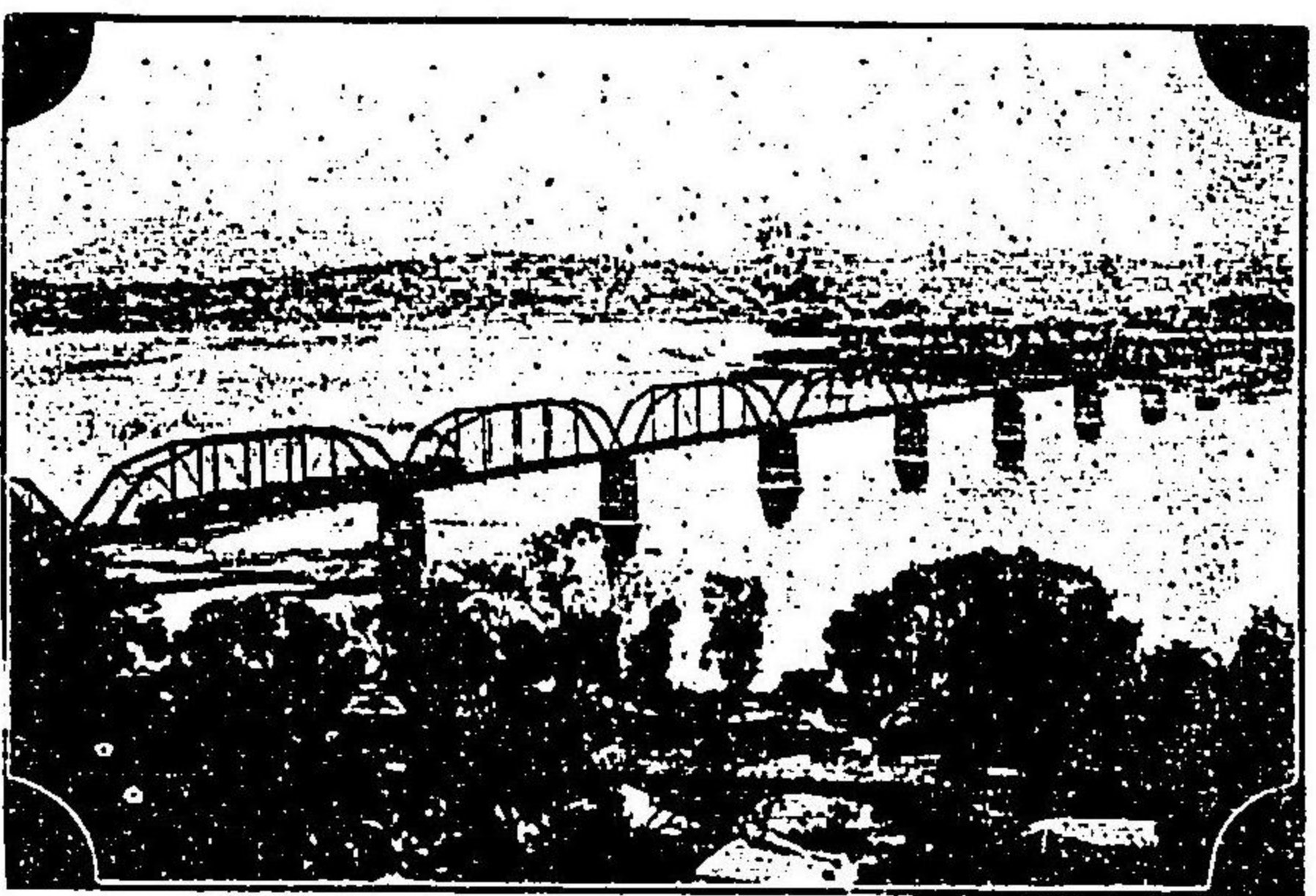
かんき

かほく 河北 清國、黄河以北の地、即ち山西直隸一帯の地の總稱なり。かほけん 河浦縣 清國福建省、福寧府にあり。かんいんちゅー 漢陰廳 清國陝西省、興安府に屬す。かんおんけん 感恩縣 清國廣東省、瓊州府に屬する縣なり。

かんかい 瀚海 蒙古ゴビ沙漠の漢稱、「こびさばく」を見よ。かんきょーとー 咸鏡道 (Hamking) 韓國の東北部にして、北は露領沿海州と界し、東は日本海に臨み、西は山脈により平安道と接し、南江原道に隣る、土地高峻にして寒氣強く、人民一般に標悍なり、本道は古沃沮の地にして、漢代の玄菟郡なり、今南北兩道に分れ、南道は咸鏡に、北道は鏡城に觀察使を置く。

かんきょーなんどー 咸鏡南道 韓國咸鏡道の一部にして、咸鏡北道の南に在り、東一帯日本海に臨み、西は平安南北兩道に境し、南江原道に隣る、咸興は其首府なり。かんきょーほくとー 咸鏡北道 韓國咸鏡道の北部にして、北は圖們江を隔てて露領沿海州に接し、南は咸鏡南道に境し、西は長白山脈を隔て、滿洲に接し、東一帯日本海に臨む、境城は其首府なり。かんけん 漢縣 清國四川省、成都府に屬する縣なり。

かんこー漢江 韓國五大江の一にして、上流二派あり、南江は江原道の金剛山の西南麓に發し、忠清道に入り西流して京畿道に入り、驪州を過ぎ龍津附近にて北江に合す、北江は咸鏡、江原兩道の境なる鐵嶺に發し、南下して諸川を合せ、更に西南流して京畿道に入り、南江と合し、京城の東南を流れ臨津江を合せて黄海に注ぐ、江中所々に岩礁多く、大船の航行に不便なるも、流勢稍々緩漫にして、小漁艇日々京城(龍山)仁川間を往復す。○楊子江の支流にして、一に漢水と稱す、源を北嶺に發し、上流を丹江と云ふ、東南江して、湖北省漢陽府城の東北に至りて江に合す。○咸興(Han-Hung)韓國咸鏡道の首府にして、元山の北廿七里に位す、現王朝李氏創業の地にして、附近に太祖李成幼時の邸宅と稱するものあり、此地に有名なる樂民樓あり、平壤の練光亭と並び稱せらる。○漢口(Hankow)清國湖北省の開港場にして楊子江と、漢江との合流點に位し、水を隔てて武



(橋 鐵 の 江 漢)

漢陽と相鼎立す、人口約八十萬、一八五八年天津條約により、開港場と指定せらる、船舶の輻輳、貨物の集散、上海に次ぎ、市街の繁盛なる清國中屈指の大都會なり、市街は北は廣漠なる平野に接し、限るに城壁を以てし、一面長江に接し、一面漢江に臨む、市街の廣袤八十萬坪、三條の大馬路ありて市中を貫き、數條の横街ありて江岸に達し、街路廣潤、大廈高樓を並べて頗る壯麗なり、英、米、佛、獨、露及び我國の領事館あり、從來貨物の運搬は専ら長江の水運によりしが、近時蘆漢鐵道は此地を起點として北の方北京に通せんとし、粵漢鐵道は對岸の武昌を起點として南の方、長沙、韶州等を経て廣東に通せんとし、かくして各省の物貨悉く此地に集まらんとす、世に「九省の會」と稱せらるる、亦決して誇言に非らざらんか、麻布、桐油、白蠟、豆粕、茶葉、皮等を輸出し、金、布、綿布、紡

織糸、海産物、銅、石油、砂糖等を輸入す。かんこく 韓國 (Korea) 亞細亞の東北に位する一大半島國

にして、北は鴨綠江、長白山脈、及圖們江を以て滿洲、及露領沿海州に接し、西は黄海を隔てて支那本部に對し、南は朝鮮海峡によりて我對島に面し、東一帯日本海に臨む、面積八萬二千方哩(我邦の二分一に當る)、此國は古の三韓の地にして、西紀一三九二年李氏起り、國を朝鮮と改む、第八世宣祖の時、豐臣秀吉征韓の事あり、後、清の大寶の封冊を受け爾來其附與國の如くなりしが、一八七六年我邦は其獨立を認め、尋で歐米諸國亦之れに倣ひしも、獨り清國のみ其外藩たらしめんとするに及び、遂に我國と衝突して、所謂日清戰爭を惹起せしが、我が外征軍大勝利を得て、同國の獨立を承諾せしむ、明治三十二年八月十七日國王勅して、朝鮮を改めて大韓帝國と稱す、西紀一九〇五年、日露戰役の結果、我國は同國を保護國とし、統監府を京城に設け、其政務を監視するに至れり。

かんこくかん 函谷關 秦の東關、河南省陝州府靈寶縣にあり、戰國以來秦の故關なり、始皇帝の時、楚趙魏韓衛等合従して秦を討ち、此地に至りて敗れ還る、二世の三年、沛公此地を守りて、項羽の入るを拒む、又、孟嘗君の、鷄鳴に法を免れしも、此處なりと。

かんこくかん 韓國十三道 慶尙南道、同北道、全羅南道、同北道、忠清南道、同北道、京畿道、江原道、黄海

道、平安南道、同北道、咸鏡南道、同北道、之れなり。

かんこくせいふはちがもん 韓國政府入衙門 議政府、内部、外部、度支部、軍部、法部、學部、農商工部、及警察部を云ふ。

かんこくのくかく 韓國の區劃 古は八道に分れしが、今は十三道となし、府及び郡に分る、即ち左の如し、京畿道(四府、三十四郡)、忠清北道(十七郡)、忠清南道(三十七郡)、全羅北道(二十六郡)、全羅南道(一牧、一府、三十三郡)、慶尙北道(四十一郡)、慶尙南道(一府、二十九郡)、江原道(二十六郡)、咸鏡北道(一府、九郡)、咸鏡南道(一府、十三郡)、黄海道(二十三郡)、平安北道(二十一郡)、平安南道(一府、二十二郡)。

かんこくのしゅきょー 韓國宗教 儒教大に行はれ、他の宗教は一般に卑まれ、佛教の如き、皆て非常なる勢力を以て、隆盛を極めたる時代ありしが、其後漸次に衰微して、國中各地に古刹の高く雲表に屹立するを見るのみ、耶蘇教も百餘年前より行はれ、其布教區域八道に涉り、新舊兩教の信者數萬人を有するに至れり、下等社會の人民は迷信深く、日月星辰、山川草木等を祭り、巫女及卜者を信すること尤も深し、而して此風は獨り下層の人民に勢力を有するのみならず、深く上流社會にも侵入し、巫女の如き宮中に出入し、

政治上に容喙するものもあり。

かんこのせいぞろい 韓國政治 日本帝國保護の下にある君主專制にして、皇帝は絶対權を有す、中央政府は議政府、宮内、内部、度支部、軍部、學部、法部、農商工部、警務部の各省より成り、省毎に長官あり、此他皇室の事を掌る宮内府、皇帝の最高顧問府たる中樞院等あり、又財政には日本の顧問府あり、外交には日本政府より置ける統監府ありて、一切の事を處理し、警務部、理事部等ありて各其政務を監視す、地方には各道に觀察使ありて各道の行政を統轄し、道の下に府或は郡あり、府には府尹あり、郡には郡守あり、又京城には判尹あり、釜山、仁川、元山、鎮南浦、木浦、群山、城津、馬山浦等には「カニム」と稱する地方官ありて、直接中央政府に隸屬す。

かんこのせいぞろい 韓國族制 韓國の人民間には古來三種の階級あり、兩班、常漢、奴婢是れなり、兩班は貴族にして、常漢は常民、奴婢は奴隸なり。

かんこのせいぞろい 韓國の地名 今其主なるものを擧ぐ、

- 平 安 道(ピョ、ガン、ド) 鴨綠江(アプ、ノツク、カグ) 義州府(ウイ、ヂウ、プ) 義順館(ウイ、シユン、グワン) 咸鏡城(ウイ、ウオン、シヨグ) 龍川府(リヨク、チヨン、プ) 秋邱郡(チュ、ナグ、グワン) 大田牧(タイ、クワン、モグ) 牧 島(モク、ド)

- 大和島(タイ、フアー、ドウ) 鐵山府(チヨル、サン、プ) 宣川府(シヨ、チヨ、ン、プ) 宣沙浦(シヨ、サン、プ) 郭山郡(カク、サン、グン) 串 牧(クワン、モク) 隨 州(シユ、ヂユ) 定 州(チヨ、ヂウ) 島 山(トウ、サン) 莖 山(タイ、サン) 嘉山郡(カ、サン、グン) 廣 通(クワ、トグ) 清川江(チヨ、チヨ、ン、ガグ) 安 城(アン、シヨ、グ) 永 柔(ヨウ、ギユ) 柔 遠(ユ、ウオン) 咸從府(ハム、チヨ、グ、プ) 廣 梁(クワ、ニヨ、グ) 三和府(サム、フアー、プ) 賈林串(クイ、ニム、グワン) 大同江(ダイ、ドグ、カグ) 龍岡縣(ニヨ、カグ、ヒヨ、ン) 鐵島鎮(チヨル、ト、チン)

○黃 海 道(フア、グ、ハイ、ド)

- 大同江(タイ、ドグ、カグ) 濟堂江(チエ、ダグ、カグ) 黃州府(フア、グ、ヂウ、プ) 安岳郡(ア、ナツ、クン) 溫 井(ワン、ヂヨ、グ) 長連縣(チヤ、グ、ニヨ、ン、ヒヨ、ン) 新 中(シン、グリン) 許沙島(ホ、サー、ド) 殷栗縣(ウル、リル、ヒヨ、ン) 龍 串(ハク、クワン) 程 邑(ピツ、パ、クワン) 豐川府(フ、チヨ、ン、プ) 業 津(オ、プ、チン) 溥石山(ハク、シヨ、ク、サン) 松禾縣(シヨ、グ、ハ、ヒヨ、ン) 長淵縣(チヤ、ギヨ、ン、ヒヨ、ン) 大東江(タイ、ドグ、カグ) 阿郎浦(ア、ナグ、ホ) 長山串(チヤク、サン、グワン) 白朝島(ハク、チヨ、ド) 大背島(タイ、チヨ、ク、ド) 小背島(シヨウ、チヨ、グ、ド) 白沙汀(ハク、サー、ヂヨ、グ) 五叉浦(オ、サー、ホ) 龍 梁(クワ、ル、リヨ、グ) 智 浦(チ、ホ)

- 登津郡(リ、チン、グン) 康嶺縣(カグ、シヨ、グ、ヒヨ、ン) 延平島(ヨン、ピヨ、グ、ト) 龍媒梁(ニヨ、グ、マイ、ニヨ、グ) 延安府(ヨ、ナン、プ) 角 山(カク、サン) 石 串(シヨク、クワン) 白川郡(ハク、チヨ、ン、グン) 江陰縣(カ、ゲム、ヒヨ、ン) 松都江(シヨ、グ、ドウ、カグ) 江 華 道(キヨ、グ、ゲイ、ド) 喬桐島(キヨ、ドグ、ド) 喬桐縣(キヨ、ドグ、ヒヨ、ン) 江華島(カグ、フアー、ド) 江華府(カグ、フアー、プ) 草 芝(ツア、グ、ヂ) 項山島(チヨ、サン、ド) 磨尼山(マ、ニ、サン) 漢 江(ハン、カグ) 鹽 河(ヨン、ハ) 大 井(タイ、ヂヨ、グ) 豐德府(フ、トク、プ) 臨津江(ニム、チン、カグ) 交河府(キヨ、ハ、プ) 高陽縣(コ、ヤグ、ヒヨ、ン) 楊花津(ヤグ、フアー、チン) 漢城府(ハシ、シヨ、グ、プ) 陽川縣(ヤグ、チヨ、ン、ヒヨ、ン) 金浦縣(キム、ホ、ヒヨ、ン) 龍 城(ニヨ、グ、シヨ、グ) 通津府(トグ、チン、プ) 德 浦(イ、ホ) 仁川府(イン、チヨ、ン、プ) 濟物浦(チメ、ムル、ホ) 月尾島(ウオル、モ、ド) 永宗島(ヨグ、ゾグ、ド) 己 島(クイ、ド) 大阜島(タイ、フ、ド) 小阜島(シヨウ、フ、ド) 靈興島(コグ、フ、ド) 水深島(シヌ、チン、ド) 富平府(フ、ピヨ、グ、プ) 重 林(チヨ、グ、ニム) 南陽府(ナ、ミヤ、グ、プ) 新里面(シル、リ、メヨ、ン) 牙山縣(ア、サー、ヒヨ、ン) 泗川郡(メヨ、ン、チヨ、ン、グン) 唐津浦(ダグ、チン、ホ)

- 平 蕪(ヒヨ、グ、シン) 孟 津(マ、グ、チン) 端山郡(タン、サン、グン) 波知島(ハ、チ、ド) 泰安郡(タイ、アン、グン) 海美縣(ハイ、ミ、ヒヨ、ン) 兵 營(ヒヨ、ギヨ、グ) 結城縣(キル、シヨ、グ、ヒヨ、ン) 高 岳(コウ、アク) 安民島(アン、ミン、ドウ) 水 營(シユ、ヨ、グ) 藍浦縣(ナム、ホ、ヒヨ、ン) 外畑島(オイ、ヨ、ン、ド) 庇仁縣(ピ、イン、ヒヨ、ン) 舒山郡(シュ、サン、グン) 舒山浦(シュ、サン、ホ) 錦 江(クム、カグ) 長浦江(チヤ、グ、ホ、カグ) 舖 浦(ポ、ホ) 沃溝縣(ヨク、カグ、ヒヨ、ン) 萬頃縣(マン、ヒヨ、グ、ヒヨ、ン) 新倉津(シン、ツエ、グ、チン) 扶安縣(フ、アン、ヒヨ、ン) 黔毛浦(ウム、モ、ボウ) 神 山(シン、サン) 興德縣(フ、トク、ヒヨ、ン) 茂長縣(ム、チヤ、グ、ヒヨ、ン) 靈光縣(ヨグ、グワ、ヒヨ、ン) 臨炳島(ニム、ヒヨ、グ、ド) 七山島(チル、サン、ド) 多度浦(ター、ダク、ホ) 臨 川(ニム、チヨ、ン) 法聖浦(ホ、シヨ、グ、ホ) 臨 瀾(ニム、ス) 木 浦(モク、ホ) 榮山江(ヨグ、サン、カグ) 茅 津(モ、チン) 右水營(ウ、シユ、ヨ、グ) 珍 島(チン、ド) 珍島郡(チン、ド、グン) 毛池島(モ、チ、ド) 猶巨島(ユ、コ、ド) 海南縣(ハイ、ナム、ヒヨ、ン) 遼 梁(タル、リヨ、グ) 馬 島(マ、ド) 完 島(リン、ド) 所安島(シヨウ、アン、ド) 古樹島(コ、イ、ド) 濟州島(チエ、ヂユ、ド) 濟 州(チ、ヂユ)

旋義縣(シヨ、ヌイ、ヒヨシ) 鹿島(ウー、ドー) 鹿島(ウク、ト) 雲龍島(ウル、リヨグ、ドー) 高興(コウ、フグ) 興陽縣(フー、ギヤグ、ヒヨシ) 鉢浦(バル、ポー) 召山島(セウ、サン、ドー) 樂安郡(ナ、カン、ゲン) 順天府(シユン、チヨシ、プー) 古突山(コ、トル、サン) 左水營(ツァ、シユ、ヨグ) 光陽縣(クワ、キヤグ、ヒヨシ) 蟾江(チヨム、ガグ)

慶尚道

河東縣(ハ、トグ、ヒヨシ) 南海縣(ナム、ハイ、ヒヨシ) 平山浦(ピヨグ、サン、ポー) 昌善島(チャグ、シヨシ、ドー) 赤梁島(チヨク、ニヨグ、ドー) 蛇梁島(シヤ、ニヨグ、ドー) 昆陽郡(コ、ニヤグ、ゲン) 泗川縣(サツ、チヨシ、ヒヨシ) 臥龍山(ワ、リヨグ、サン) 固城縣(コウ、シヨク、ヒヨシ) 鏡營(チヨ、ギヨグ) 閑山島(ハン、サン、ドー) 會源(ホ、ウオン) 兵營(ヒヨ、ギヨク) 馬山浦(マ、サン、ポー) 昌原府(チャグ、ウオン、プー) 薺浦(チエ、ポー) 巨濟島(コウ、テ、ドー) 巨濟府(コウ、チエ、プー) 竹林浦(チヌク、ニム、ポー) 加背梁(カ、ベ、ニヨグ) 粟浦(リニル、ボボ) 加德島(カ、トク、トウ) 熊川縣(ウグ、チヨシ、ヒヨシ) 猪仇味(ウイ、クウ、ミー) 金海府(キム、ハイ、プー) 黃苴江(フエグ、トン、ガグ) 梁山縣(ニヨグ、サン、ヒヨシ) 黃山津(フ、グ、サン、チン) 東萊府(トグ、ネ、プー) 釜山(プー、サン)

絶影島(チヨ、リヨグ、ドン) 黑崎(フツ、クイ) 左水營(ツァ、シユ、ヨグ) 包伊浦(ポー、イー、ポー) 海雲山(ハイ、ウン、サン) 機張縣(クイ、チャグ、ヒヨシ) 蔚山府(ウル、サン、プー) 鹽浦(ヨム、ポー) 長鬚縣(チヨグ、キ、ヒヨシ) 冬外串(トウ、ゴイ、グワン) 迎日縣(ヨ、キル、ヒヨシ) 迎日灣(ヨ、キル、マン) 興海縣(フグ、ハイ、ヒヨシ) 清河(チヨグ、ハイ) 盈德縣(ヨグ、トク、ヒヨシ) 寧海府(ニヨグ、ハイ、プー) 丑山浦(チユ、サン、ポー)

江原道

平海郡(ヒヨグ、ハイ、ゲン) 越松浦(ウオル、シヨグ、ポー) 蔚珍縣(ウル、チン、ヒヨシ) 蔚珍浦(ウル、チン、ポー) 安邊正山(ア、ニル、チヨグ、サン) 三陟府(サム、チヨク、プー) 列邊(ヨル、ベヨシ) 蓮谷浦(ニヨシ、ゴク、ポー) 江陵府(カグ、ニヨグ、プー) 鏡浦臺(キヨグ、ポー、タイ) 慶陽府(ヤ、ギヤグ、プー) 杆城郡(カン、シヨグ、ゲン) 高城郡(コウ、シヨグ、ゲン) 通川郡(トグ、チヨシ、ゲン) 月移臺(ウオ、リ、タイ) 長箭洞(チャグ、チヨシ、ドグ) 登禾山(ツグ、ハイ、サン) 歙谷縣(ナブ、コク、ヒヨシ) 咸鏡道(ハム、キヨグ、ドー) 安邊府(アン、ベヨシ、プー) 古龍津(コウ、リヨグ、チン) 德源府(トク、ウオン、プー) 元山津(ウオン、サン、チン) 松島(シヨグ、ドー) 豐津浦(フ、チン、ポー) 文川縣(ムン、チヨシ、ヒヨシ) 永興灣(ヨグ、フグ、マン) 永興府(ヨク、フグ、プー) 分川(ブン、チヨシ) 牧東應串(モク、トグ、ウグ、グワン) 空德(コク、トク)

咸興府(ハム、フグ、プー) 洪原縣(クワ、ゴン、ヒヨシ) 哥牧場(カ、モク、チャグ) 長津浦(チャグ、チン、ポー) 北青府(フク、チヨグ、プー) 長沙池(チャグ、サ、チ) 利原縣(ニ、ウオン、ヒヨシ) 遮湖浦(チャ、ポー、ポー) 端川府(タン、チヨシ、プー) 碌水串(ノク、シユ、グワン) 蒙白串(モグ、バク、クワン) 靑善串(ア、ロー、ゲン) 魚游洞(オ、ユ、カン) 鏡城府(キヨク、シヨク、プー) 富家察訪(フ、ハ、ツアル、バグ) 大草牧(タイ、ツァグ、モク) 四水羅(シヨ、シユ、ナ) 造山浦(ツォ、サン、ポー) 鹿島(ノク、ト) 豆滿江(ツァ、マン、ガグ) 慶興府(キヨグ、フグ、プー) 慶源府(キヨ、ゴン、プー) 穩城府(オン、シヨグ、プー)

かん 韓國里程

京畿道

仁川(四里十六町) 楊州(五里十二町) 富平(四里十六町) 驪州(十六里) 坡州(七里四町) 楊州(九里十二町) 利川(十二里十六町) 長湍(十二里二十四町) 通津(八里三十二町) 喬桐(十六里) 竹山(十五里四町) 楊根(十二里二十四町) 安山(九里十八町) 朔寧(十七里四町) 安城(十五里四町) 麻田(十四里八町) 高陽(三里三十町) 金浦(五里十二町) 交河(七里四町) 加平(十一里二十町)

永平(十二里十六町) 龍仁(六里八町) 振威(十里二十四町) 陽川(二里二十四町) 砥平(十四里八町) 抱川(八里三十二町) 積城(八里三十二町) 果川(二里二十四町) 始興(二里二十四町) 漣川(十二里十六町) 陰竹(十六里三十二町) 陽城(十三里十二町)

忠清道

忠州(二十四里三十二町) 清州(二十五里二十八町) 公州(二十八里十六町) 洪州(二十六里二十四町) 清州(三十里八町) 林川(三十五里二十町) 丹陽(三十二里三十二町) 泰安(三十四里二十四町) 韓山(三十九里四町) 舒州(二十六里二十四町) 浚川(二十七里二十町) 天安(十八里二十四町) 沃川(三十六里十六町) 桃山(二十四里三十二町) 瑞山(三十一里四町) 溫陽(二十里十六町) 大興(二十四里三十二町) 報恩(三十三里二十八町) 文義(二十七里二十町) 鴻山(三十六里十六町) 堤川(二十四里八町) 德山(二十四里三十二町) 平澤(十四里八町) 稷山(十六里) 懷仁(三十一里四町) 定山(三十一里四町) 青陽(二十八里十六町) 延豊(二十八里十六町) 陰城(二十一里十二町) 清安(二十四里三十二町) 恩津(三十五里二十町) 懷德(三十里八町) 鎭岑(三十里八町) 連山(三十五里二十町) 晉城(三十二里三十二町) 扶餘(三十三里二十八町) 石城(三十四里二十四町) 鹿仁(三十七里十二町)



藍浦 (三十二里三十二町)	結城 (二十七里二十町)	海美 (二十七里二十町)	新昌 (十九里二十町)	木川 (二十一里十二町)	燕岐 (二十五里二十八町)	黄瀬 (四十五里十二町)	牙山 (十八里二十四町)	全州 (四十四里十六町)	綾州 (六十六里二十四町)	路 (八十六里八町と云ふ)	光州 (六十四里)	南原 (五十六里)	順天 (六十八里十六町)	礪山 (三十八里)	茂朱 (四十二里二十四町)	益山 (四十里)	金溝 (四十六里八町)	咸悅 (三十九里四町)	非邑 (五十二里十六町)	龍安 (三十七里十二町)	務安 (七十里八町)	谷城 (五十九里二十四町)	任安 (五十二里二十四町)	鎮安 (五十一里二十町)	鎮川 (二十一里十二町)	保寧 (三十一里四町)	唐津 (三十一里四町)	禮山 (二十二里八町)	全義 (二十一里十二町)	永春 (四十一里二十八町)	青山 (三十七里十二町)	永同 (四十一里二十八町)	羅州 (六十六里二十四町)	濟州 (八十三里二十町水)	長興 (七十九里四町)	潭陽 (五十三里三十四町)	長城 (五十九里二十町)	寶城 (七十五里二十町)	古阜 (五十三里十二町)	光陽 (七十二里十六町)	扶安 (五十二里二十四町)	高敞 (五十六里三十二町)	茂長 (五十九里二十町)	求禮 (六十七里二十町)	雲峯 (六十一里二町)	長水 (五十七里十二町)	同福 (六十四里三十二町)	海南 (八十里)
---------------	--------------	--------------	-------------	--------------	---------------	--------------	--------------	--------------	---------------	---------------	-----------	-----------	--------------	-----------	---------------	----------	-------------	-------------	--------------	--------------	------------	---------------	---------------	--------------	--------------	-------------	-------------	-------------	--------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	-------------	---------------	--------------	--------------	--------------	--------------	---------------	---------------	--------------	--------------	-------------	--------------	---------------	----------

興陽 (七十九里四町)	里十六町)	二十四町)	慶州 (六十七里二十町)	普州 (七十五里二十町)	昌原 (七十八里八町)	金海 (七十八里八町)	密陽 (七十二里)	符松 (五十五里四町)	順興 (四十三里三十二町)	蔚山 (七十八里八町)	慶山 (八十里)	金山 (四十九里二十八町)	昆陽 (八十里)	慶山 (六十二里八町)	固城 (八十里)	開寧 (四十八里三十二町)	宜寧 (六十八里十六町)	龍宮 (四十里)	清河 (七十二里)	黎原 (六十八里十六町)	靈山 (六十五里二十八町)	泗川 (七十八里八町)	熊川 (七十六里十六町)	英陽 (五十六里三十二町)	旋義 (濟州を距ること十二里)	大靜 (濟州を距ること十里)	和順 (六十七里二十町)	尙州 (四十二里二十四町)	星州 (五十三里十二町)	安東 (四十八里)	寧海 (六十六里二十四町)	善山 (四十八里三十二町)	大邱 (五十九里二十町)	巨濟 (八十八里三十二町)	東萊 (八十八里三十二町)	釜山 (八十八里三十二町)	咸安 (七十一里四町)	豐基 (三十八里八町)	義城 (五十二里十六町)	盈德 (七十里八町)	南海 (八十里三十二町)	三嘉 (六十八里十六町)	河陽 (六十里十六町)	春化 (四十五里十二町)	彦陽 (七十二里)	鎮海 (七十四里二十四町)	昌寧 (六十三里四町)	機張 (八十四里十六町)	慈仁 (六十四里)
-------------	-------	-------	--------------	--------------	-------------	-------------	-----------	-------------	---------------	-------------	----------	---------------	----------	-------------	----------	---------------	--------------	----------	-----------	--------------	---------------	-------------	--------------	---------------	-----------------	----------------	--------------	---------------	--------------	-----------	---------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	-------------	-------------	--------------	------------	--------------	--------------	-------------	--------------	-----------	---------------	-------------	--------------	-----------

黄海道

黄川 (四十里三十二町)	延安 (二十二里八町)	豐川 (四十八里三十二町)	長淵 (四十六里八町)	瑞興 (三十里八町)	安岳 (四十七里四町)	遂安 (三十八里八町)	信川 (四十里三十二町)	新溪 (二十九里十二町)	長連 (五十里二十四町)	康翎 (四十里)	兎山 (二十里十六町)	安道	義州 (五十六里)	安州 (六十四里)	江界 (百十五里二十町)	昌城 (九十六里)	成川 (六十三里四町)	肅川 (五十八里二十四町)	中和 (四十四里十六町)	鐵山 (八十五里十二町)	楚山 (百四里)	咸從 (五十五里四町)	德川 (七十二里三十二町)	嘉山 (六十九里十二町)	海州 (三十三里二十八町)	平山 (二十三里四町)	谷山 (三十九里四町)	瓮津 (四十二里二十四町)	鳳山 (三十六里十六町)	載寧 (四十里三十二町)	白川 (十八里二十四町)	金川 (十七里二十八町)	文化 (四十六里八町)	松禾 (四十五里十二町)	殷栗 (四十八里三十二町)	平壤 (四十八里三十二町)	定州 (七十八里八町)	寧邊 (六十八里十六町)	宣川 (八十里三十二町)	朔州 (九十里二十四町)	龜城 (七十八里八町)	慈山 (五十九里三十二町)	龍川 (八十八里)	三和 (五十八里二十四町)	祥原 (五十五里四町)	价川 (七十二里三十二町)	郭山 (七十八里八町)
--------------	-------------	---------------	-------------	------------	-------------	-------------	--------------	--------------	--------------	----------	-------------	----	-----------	-----------	--------------	-----------	-------------	---------------	--------------	--------------	----------	-------------	---------------	--------------	---------------	-------------	-------------	---------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------	--------------	---------------	---------------	-------------	--------------	--------------	--------------	-------------	---------------	-----------	---------------	-------------	---------------	-------------

咸鏡道

順川 (六十二里二十四町)	碧潼 (九十六里三十二町)	博川 (六十七里二十町)	寧邊 (七十一里四町)	永柔 (五十六里)	三登 (五十六里三十三町)	甌山 (五十六里三十二町)	陽德 (八十里)	泰川 (七十二里)	江東 (五十四里八町)	江陵 (四十七里四町)	淮陽 (三十二里二十八町)	春川 (八十里八町)	三陟 (五十七里二十八町)	伊川 (二十四里三十二町)	通川 (三十九里四町)	高城 (四十五里十二町)	平昌 (三十二里三十二町)	蔚珍 (七十一里四町)	平康 (二十二里八町)	狼川 (二十里十六町)	楊口 (三十二里三十二町)	橫城 (二十一里十二町)	咸鏡道	熙川 (八十六里八町)	雲山 (七十三里二十八町)	渭原 (百十五里二十町)	龍岡 (五十六里三十二町)	江西 (五十三里十二町)	江東 (五十四里八町)	鳴安 (五十三里十二町)	孟山 (二十六里六十一町)	殷山 (五十九里二十町)	原州 (二十一里十二町)	襄陽 (四十八里)	鐵原 (十七里二十八町)	寧越 (三十六里十六町)	平海 (七十八里八町)	溫泉 (三十八里八町)	旌善 (三十八里八町)	杆城 (四十八里三十二町)	金城 (二十里)	欽谷 (四十一里二十八町)	金化 (十九里二十町)	洪川 (十九里二十町)	麟蹄 (三十二里三十二町)	安峽 (十九里二十町)
---------------	---------------	--------------	-------------	-----------	---------------	---------------	----------	-----------	-------------	-------------	---------------	------------	---------------	---------------	-------------	--------------	---------------	-------------	-------------	-------------	---------------	--------------	-----	-------------	---------------	--------------	---------------	--------------	-------------	--------------	---------------	--------------	--------------	-----------	--------------	--------------	-------------	-------------	-------------	---------------	----------	---------------	-------------	-------------	---------------	-------------

吉州 (百二十四里) 咸興 (六十九里二十町)  
 永興 (六十里十六町) 鏡城 (百四十二里八町)  
 慶源 (百九十五里四町) 會寧 (百七十二里十六町)  
 鏡城 (百八十一里十二町) 穀城 (百八十七里二十町)  
 慶興 (二百五里十二町) 富寧 (百五里八町)  
 北青 (八十九里二十八町) 德源 (四十九里二十八町)  
 定平 (六十四里) 茂山 (百六十四里十六町)  
 安邊 (四十六里八町) 三水 (百二十一里十二町)  
 端川 (百八里) 明川 (百三十三里八町)  
 甲山 (百十三里十二町) 長津 (百三十五里二十町)  
 文川 (五十二里十六町) 高原 (五十六里)  
 洪原 (八十一里二十八町) 利原 (九十九里四町)

かんざい 關西

韓國黃海道の別稱なり。  
 かんざん 韓山 韓國忠清道にあり、全羅道の境、錦江の沿岸に位す、附近地味肥沃にして五穀の産多し、且水運の便多く、船舶の出入多し、麻、苧等の産地として名あり。

かんざんじ 寒山寺

清國江蘇省蘇州府の附近にあり、(吳縣の四十里許の楓橋にあり) 相傳ふ寒山拾得嘗て此に止まる、故に此名ありと、寺内に寒山拾得の二像あり、此地「月落烏啼」の詩にて有名にして、其句を刻せし石碑今尙ほ寺の傍に存す。

かんじんしゅ

漢人種 太古西北方より來り、苗人種を驅逐して、支那内地に蔓延せり、支那歴代の帝王は火抵此人種より、顔骨高く、體格端正、性質溫良、蓄財の念に富めども、公

共心に乏し。◎韓人種 蒙古人種に屬し、容貌日本人に類するも、性質、服装等は支那人に似、階級制度極めて嚴にして、兩班、中人、常人、奴隸の別あり、人民一般に懶惰にして、性點狩なり、生活の程度亦極めて低し。

かんしゅー

簡州 清國四川省、成都府に屬す。◎甘州 今の清國甘肅省甘州府の地なり、甘肅省の名は蓋し甘州府と肅州との二都市より來れるものなり。

かんしゅくしゅー

甘肅省 (Kansu) 支那本部の西北部にあり、東は陝西省に、南は四川省に境し、西蒙古に隣る、地勢概ね高峻にして、平野少きも、黃河南西より流れて、東北蒙古に入り、省の中央を横斷し、其支流亦縱横省内を流る、此地古來漢人と蠻夷との衝突地にして、現今露國南下の要路に當り、頗る重要地點を占む、面積一三一、〇〇〇六哩、人口一〇、三八六、三七六。

かんしゅーふ

甘州府 清國甘肅省の西北隅にある府なり。

かんじゅー

韓城 清國四川省、陝西省、同州府に屬する縣治の地たり。◎漢城 韓國京城の別稱、「けいじゅー」を見よ。

かんじゅーふはんいん

漢城府判尹 朝鮮京城を統治する官名。

かんすい

漢水 かんしゅー(漢江)を見よ。

り出で、文化比較的進み、知識に富む、今日も猶支那内地に



(種人韓)

ては大なる勢力を有す、皮膚蒼白にして黄色を帯び、顔

かんせんけん

漢川縣 清國湖北省、漢陽府に屬する縣名なり。◎甘泉縣 清國蘇江省、揚州府にあり。◎陝西省延安府に屬す。

かんぞく

漢族 漢人種を見よ。

かんたんけん

邯鄲縣 清國直隸省、廣平府に屬す、春秋戰國以來史上に有名にして、周安王十六年、趙の敬信が晉陽より遷りて都せし地なり、又赧王五十八年趙、秦の圍みを受けし時、平原君援を魏及び楚に求め、信陵君、春申君と共に大に秦軍を破りし所なり、又後漢の初め王郎軍兵の地たり。

かんちく

甘竹 清國廣東省、江門の上流十七里にあり、西江の支流の北岸に位す、人口約二萬、江門と同時の開港なり。

かんちん

漢鎮 かんしゅー(漢口)を見よ。

かんちゅーふ

漢中府 (Han-chung) 清國陝西省にあり、漢江の上流に位し運輸の便あり、巴蜀に對する重要地點を占む。

かんでんけん

寬甸縣 清國盛京省、鳳凰城の東約十二里にあり、鴨綠江の支流、長店河の上流に位す、明治三十七年五月七日、日本第一軍の支隊露軍を擊破し此地を占領せり。

かんど

漢土 支那本部の古稱。

かんとー

雁島 韓國全羅南道の四南海中にあり、我が出稼漁夫の根據地たり。

**かんざん** 漢孛山 かんらさん(漢羅山)を見よ。  
**かんざん** 廣東 一しゅーふ(廣州府)を見よ。  
**かんざんかんたい** 廣東艦隊 清國廣東省廣東を根據地とせる同國艦隊の一にして、兩廣總督に屬す。

**かんざんがわ** 廣東河 しゅー(珠江)を見よ。

**かんざんしゅー** 廣東省 (Kwang-tung) 支那の最南端に位置し、東は福建省に隣り、西は廣西省に界し、東南一帯支那海及び東京灣に臨み、北は湖北、湖南兩省に接す、土地豊饒にして、農耕に適し、河水運河縱横に通じ、舟楫の便あり、沿岸亦良港に富み、古來外國貿易盛に行はる、人民は商業に巧に、且他省に比し最も文明的知識を有す、面積七九、四五六方哩、人口三一、八六五、二五一。

**かんざんわん** 廣東灣 清國廣東省南岸の灣名にして、珠江の注入する所なり、其口に香港島、及澳門あり、其沿岸は崖山の戦、及鴉片戦争等の古戰場として、史上有名なり。

**かんねーけん** 甘肅縣 ①湖北省、武昌府にあり。②陝西省、西安府に屬す。

**かんぼーけん** 咸豐縣 清國湖北省、施南府に屬する縣なり。

**かんよー** 漢陽 (Han-yang) ①清國湖北省にあり、漢江の右岸に位し、長江を隔てて武昌府と相對す、槍砲局、鐵政局

からんしゅー 崑崙州 清國山西省、太原府に屬する州なり。

**かりよー** 嘉陵江 (Ka-ling-kiang) 楊子江の支流にして、源は甘肅省の東南に發し、南流して四川省に入り、重慶府に於て、本流に合す。

**かるかん** (Kalam) 一しゅー(張家口)を見よ。

等の設置あり、附近の嘉魚の赤嶺は、吳の孫權の臣周瑜が魏の曹操の大軍を撃破せし地にして、月湖には有名なる伯牙臺(琴臺)あり。③韓國京城の別稱、西紀一三九二年李成桂、高麗を滅ぼして王位に即きし時、奠めし都なり。④咸陽 清國陝西省西安府の北西にあり、秦の故都にして、附近に始皇帝の經營せる有名なる阿房宮址あり。

**かんらさん** 漢羅山 (Han-las-an) 一に漢孛山と稱し、韓國の南部濟州島に在る高峯にして、樹木繁茂して、航海者の標識となる。

**かんりけん** 監利縣 清國湖北省、荊州府に屬する縣なり。

**かゆーけん** 夏邑縣 清國河南省、歸德府に屬する縣なり。

**かよーけん** 河陽縣 清國雲南省、徵江府に屬する縣なり。

**から** 鶴洛 韓國釜山の南西にある金海府の故稱なり、三韓の一なる辨韓十二國の一なりしが、西紀前二世紀の項、神功皇后、將を遣はし、之れを征し、安羅と共に日本の領土となせり、日本史上任那と云ふは、即此等の總稱なりと、今尙其遺址を見るべし、此地の北三里に龜旨峰あり、其王祖發祥地と稱せらる。

**からいしゅー** 下雷州 清國廣西省、鎮安府に屬す。

**からんざん** 喀喇和林 「はらはるむ」を見よ。

**からんざん** 樺太島 「はれん」を見よ。

き

**まあんけん** 歸安縣 清國浙江省、湖州府に屬する縣なり。

**まうけん** 宜烏縣 清國浙江省、金華府にある縣なり。

**まうんざん** 瓊州 (Kwang-chau) 「けいしゅー」を見よ。

**まがけん** 淇雅縣 清國四川省、嘉定府に屬する縣なり。

**まごんけん** 宜君縣 清國陝西省、邠州に屬する縣なり。

**まご** 歸化 之に應及縣の二あり、其縣は清國貴州省、安順府に屬し、其縣は福建省、汀州府に屬するもの之れなり。

**まごけん** 宜禾縣 清國甘肅省、鎮西府に屬する縣なり。

**まごじゅー** 歸化城 内蒙古南部の大都會にして、黄河々奎の東北に位す、土人は庫々和屯(ククホトン)と稱す、人口三萬餘、支那本部より烏里雅蘇臺、巴里坤等に通ずる要路に當り、市街稍々盛なり、此地喇嘛僧の居住者多く、其數約二萬に達すと。

**まけいしゅー** 貴溪廳 清國江西省、廣信府に屬する廳なり。

**まけん** ①輝縣 清國河南省、衛輝府にある縣なり。②杞縣 清國河南省、開封府にある縣なり。③淇縣 清國河南省、衛輝府に屬する縣なり。④祁縣 清國山西省、太原府に屬する縣なり。⑤貴縣 清國廣西省、潯州府に屬する縣なり。

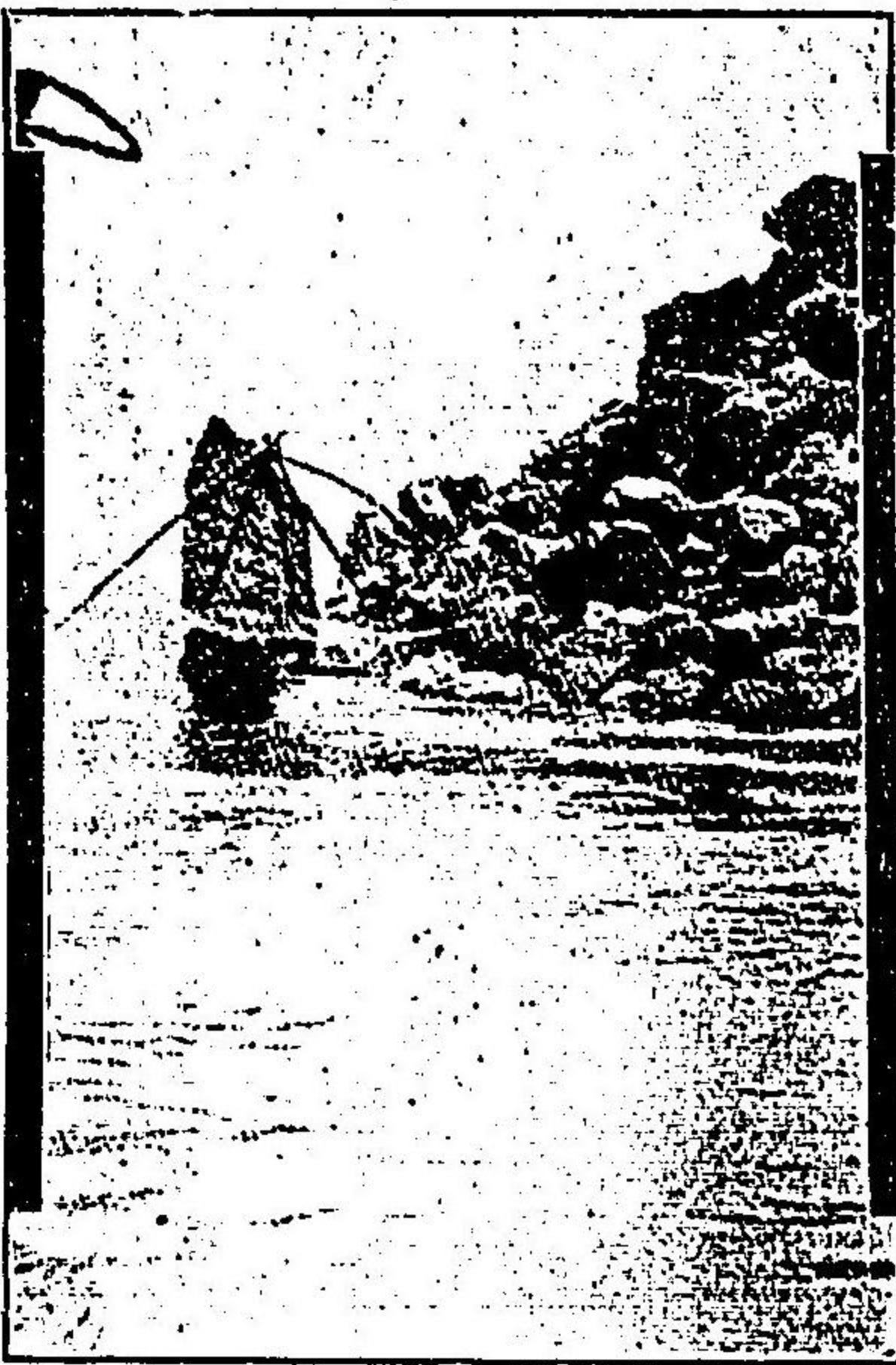
きこーけん 綦江縣 清國四川省、重慶府にある縣なり。  
 きこーけん 宜興縣 清國江蘇省、常州府にある縣なり。  
 宜黃縣 清國江西省、撫州府に屬する縣なり。  
 きざん 龜山 一に龜城と稱す、今の韓國慶尙北道義興郡の地なり。

きざんけん 宜山縣 清國廣西省、慶遠府にある縣なり。  
 岐山縣 清國陝西省、鳳翔府にある縣なり。

きしけん 猗氏縣 清國山西省、蒲州府にある縣なり。  
 きしゅー 歸州 清國湖北省、宜昌府に屬す。○祁州 清國直隸省、保定府に屬す。○蔚州 清國湖北省、黃州府にあり。

きしゅー 義州 韓國平安道にあり、鴨綠江の東岸に位する同國最北の都邑にして、江を隔てて清國九連城と相對す、平壤を距る五十四里、北清の要路に當り、韓國北門の鎖鑰たり、清國と陸路貿易盛なり、府城は東西に長く、南北に短かく、街路凸凹傾斜多し、市區極めて不整なり、内外二城に分る、内城は城壁をめぐらし、五門を通ず、南門は層樓にして、府中第一の關門たり、外城は内城の二面を圍み、東より南に廻る、此地は日露戰役及び日露戰役に於て我軍の奮闘せる所にして、殊に日露戰役に於ては露軍を擊破せし初舞臺にして、戰後軍氣俄かに奮ひ、士氣頓に起り、之れより連戰連勝向ふ所殆んど敵なく、未曾有の大勝利を得るに至れり。

きしゅー 宜昌 (Yichang) 清國湖北省にあり、一に夷陵と稱し、長江の北岸に位す、漢口を距る三百七十里、水陸運輸の便多く、蜀楚の關門に當る、長江航路の極端地にして、我大阪商船會社代理店あり、此地もと楚の地にして、國都夷陵の地なり、爾來、西陵、宜州、拓州、陝州等と稱せられ、清の雍正年間今の名に改む、長髮賊の亂に大被害を被むる、一八七七年英清芝罘條約により、開港場とせらる。  
 きしゅー 宜昌峽 三峽の一なり、清國湖北省、宜昌府



(宜昌峽)

の少しく下流にあり、尙さんきょー(三峽)の部對照。  
 きしゅーけん 宜章縣 清國湖南省、郴州にある縣なり。

きしゅー 貴州省 支那本部の一省にして四川省の南、湖南省の西にあり、山嶽重疊し、地味確なり、氣候不順なれども、礦産多く、殊に水銀の産出を以て知らる、民慓悍にして、苗族多し。

きしゅー 徽州府 (Kueichan) 清國安徽省の南部、錢塘江の上流にあり、徽墨の産を以て著はる。○婺州府 清國四川省の極東、楊子江の北岸にあり。

(宜昌)

きしゅん 歸順 清國廣西省、鎮安府に屬す。  
 きしゅんけん 宜春縣 清國江西省、袁州府にある縣なり。

きしゅーけん 宜城縣 清國湖北省、襄陽府の下にある縣なり。

きすいけん 蘄水縣 清國湖北省、黃州府に屬する縣なり。  
 きせいふ 議政府 韓國中央政府の一省にして、其長官議政は各部大臣の首班たり。

きせん 宜川 清國陝西省、延安府にあり。  
 きせんけん 歸善縣 清國廣東省、惠州府に屬する縣なり。

きたい 奇台 清國甘肅省、鎮西府にあり。  
 きちくけん 貴筑縣 清國貴州省の貴陽府にある縣なり。

きちけん 貴池縣 清國安徽省、池州府に屬する縣なり。  
 きしゅー 吉州 韓國咸鏡北道の南方にある一邑にして、大豆の産地として知らる。

きつりん 吉林 「きりん」を見よ。  
 きていけん 貴定縣 清國貴州省、貴陽府に屬する縣なり。

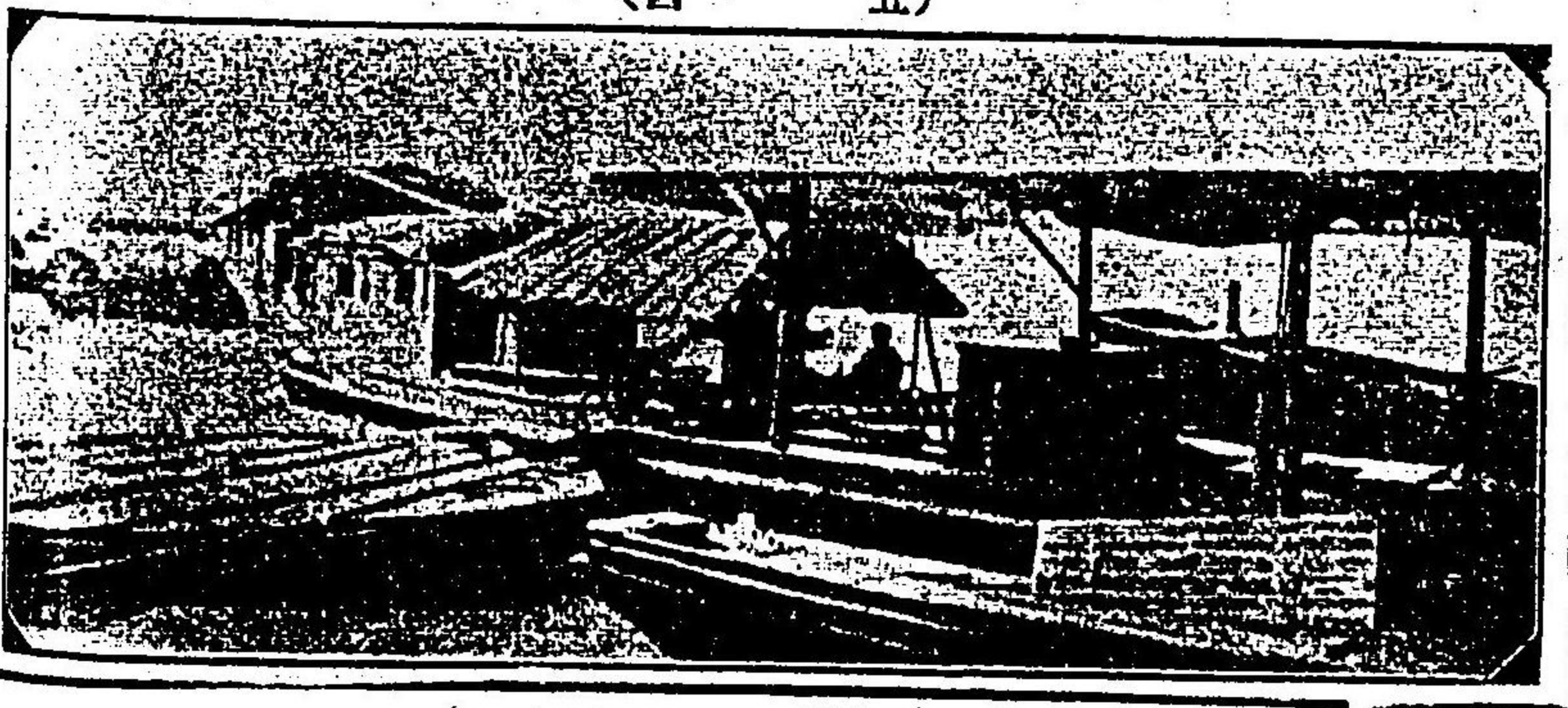
きくちゅー 貴德廳 清國甘肅省、西寧府に屬する廳なり。

きくふ 歸德府 清國河南省にあり、宋の時代に之を應天府と稱せしが、金の時歸德府と改む。

きどけん 宜都縣 清國湖北省、荊州府にある縣なり。

きない 畿内 韓國京畿道の別稱なり。

きねーけん 義寧縣 清國江西省、南昌府にある縣なり。



**きんひんけん** 宜賓縣 清國四川省、叙州府にある縣なり。  
**きんほ** 龜浦 韓國慶尙南道洛東江口の左岸にあり、釜山鎮を距る約八哩、慶尙道各地への貨物中継所として商業上樞要の位置を占め、市街頗る殷盛なり、京釜鐵道の停車場あり。  
**きんぼく** 徽墨 清國安徽省徽州に産する墨にして、有名なり。

**きん** 金 四紀一一一五年女眞の一部なる定顔部の河骨打(金の太祖)の滿州松花江水域に創建せし國にして、一一二五年遼を滅ぼし、屢々宋を攻めしが、一二三四年蒙古、宋と共に之れを攻め、遂に滅ぼされたり。

**きんかい** 金海 韓國慶尙道洛東江下流の西にあり、古の大伽羅の首府にして、今尙其遺趾を存す、尙ほ駕洛(から)の條参照。

**きんかごん** 金家屯 滿州昌圖府の西南約二十里にある一村落にして、新民廳と昌圖府との間に位し、南路の要衝に當る、人口約一萬、附近五穀の産多し。

**きんきちほ** 近畿地方 韓國京畿道、江原道、黃海道の三道を云ふ。

**きんけいけん** 岑溪縣 清國廣西省、梧州府にあり。

**きんけん** 鄞縣 清國浙江省、寧波府にあり。

**きんこ** 錦江 韓國全羅慶尙兩道の境なる蘆嶺山脈中なる

船の出入多し、開外鐵道

此地を過ぎて

新民廳及び營

口方面に向

ふ。◎沂州

清國山東省沂

水の流域にあ

り、北京に通

ずる大道に當

るを以て頗る

要害の地た

り、山東鐵道

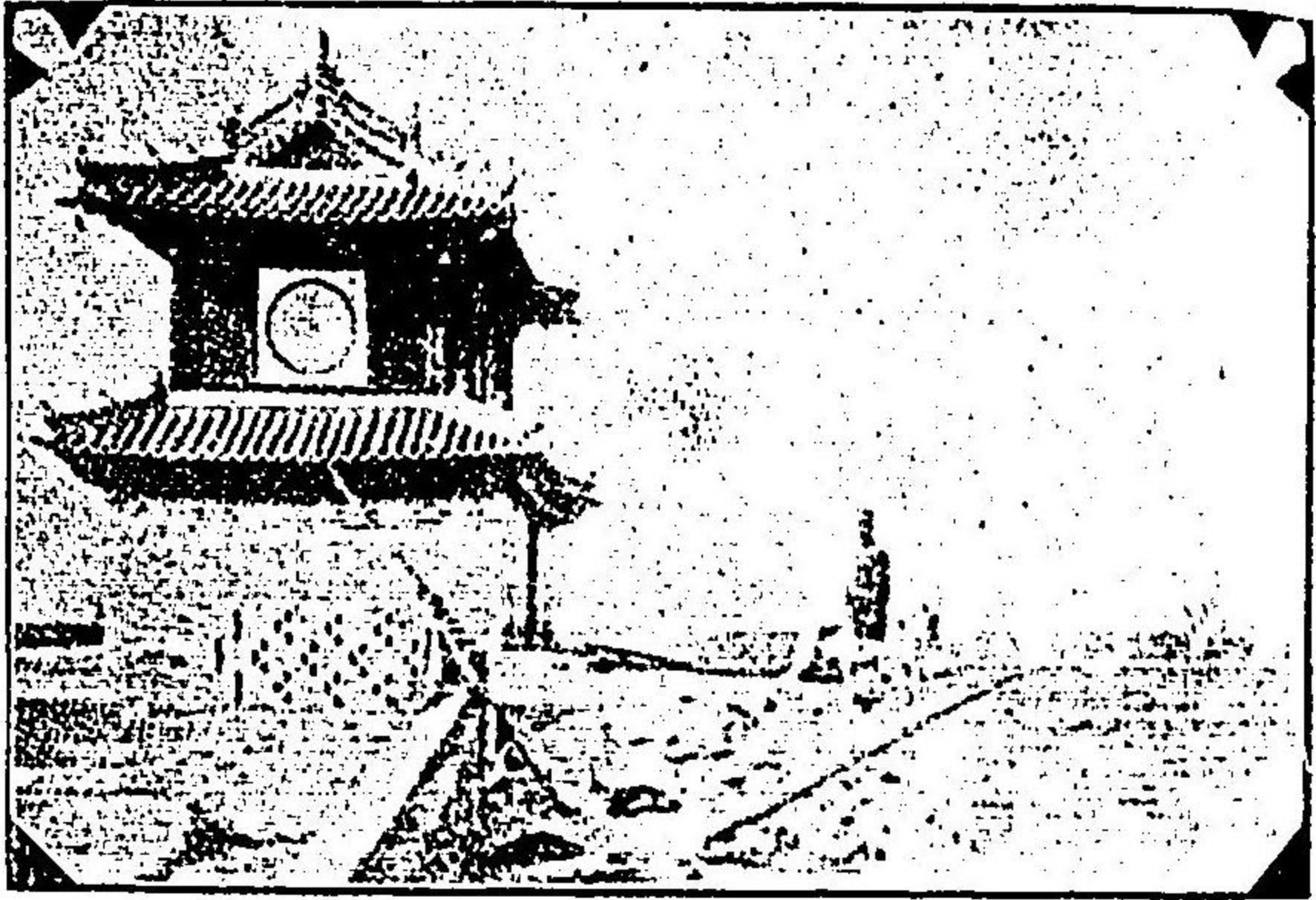
此府を通ず、

此地古の昌平

郷にして、孔

子の生れたる地と稱せらる。

**きんしゅーはんご** 金州半島 滿州の西南にあり、西南は直隸海峽を隔てて、山東省に臨み、西渤海灣、東及南は黃海に瀕す、此處に金州驛あり、其地峽の最も狭き所に南山あり、日露戰役に於て大激戰のありたる所なり。



(内城州金)

る俗離德祐等の諸山に發し、全羅道を北流し、尋て西北に流れ忠清南道を貫き、江景に至り江景河となり、西に折れ鎮江となり群山浦の北を流れて海に入る。

**きんこーけん** 黔江縣 清國四川省西陽州にあり、舊黔彭廳に屬せり。

**きんこーど** 金鷲嶋 韓國全羅南道の南方海中にあり、周囲約十里、全島樹林繁茂す、好漁場として名あり、島の南方に本邦漁民の根據地あり。

**きんざん** 金山 「あるたいざん」を見よ。

**きんしゅー** 金沙江 (Kin-shu-kiang) 清國楊子江上流の稱、「よーすー」を見よ。

**きんしゅー** 金州 (Kin-shu) 滿洲盛京省の南部金州半島の咽喉に當り、旅順口の東方十五里にあり、其の背面を防禦する要地たり、日清戰役の時我軍の占領せし地にして、又近く日露戰役に於て彼我兩軍の小戰ありたる所とす、城は方形にして方九町餘、四面に各一門あり、城外十數町に滿洲鐵道の停車場あり、人口約二萬、商業稍々盛なり、附近に南山あり、小高き丘陵に過ぎざるも、日露戰役に於て大激戰ありたる古戰場にして其名高し。◎錦州 (Kin-shu) 滿洲盛京省にあり、奉天、山海關間の最大都府にして、大賈、巨商多く、百貨輻輳す、人口約七萬、其海港を錦州灣と稱す、支那小

**きんしゅーわん** 金州灣 清國遼東半島金州の西方にある一大灣にして、灣口濶さ二十六哩、灣入二十哩、灣首、多山高角により二部に分れ、北部を「アダムス」港と稱し、南部を南海といふ、灣内到處、好錨地あり、灣の南岸屈曲多く、背面に山岳聳立す、日露戰役の際、我第二軍南山攻撃の際、島海艦以下の小砲艦此灣に入り、海上より敵の陣地を砲撃し、陸軍の進撃を接護し、奇功を奏せり。

**きんせいしゅー** 黔西州 清國貴州省、大定府にあり。

**きんせん** 金泉 韓國慶尙道金山郡にあり、東は甘川に臨み、北は金山、秋風嶺等に接す、交通至便にして、商業頗る殷盛なり、毎月五、十の兩日市を開く、米、藍、反物類等の賣買多し。

**きんもんご** 金門島 清國福建省の西南沿岸廈門島の東北に在り、明の遺臣鄭成功が義兵を擧げし地として名あり。

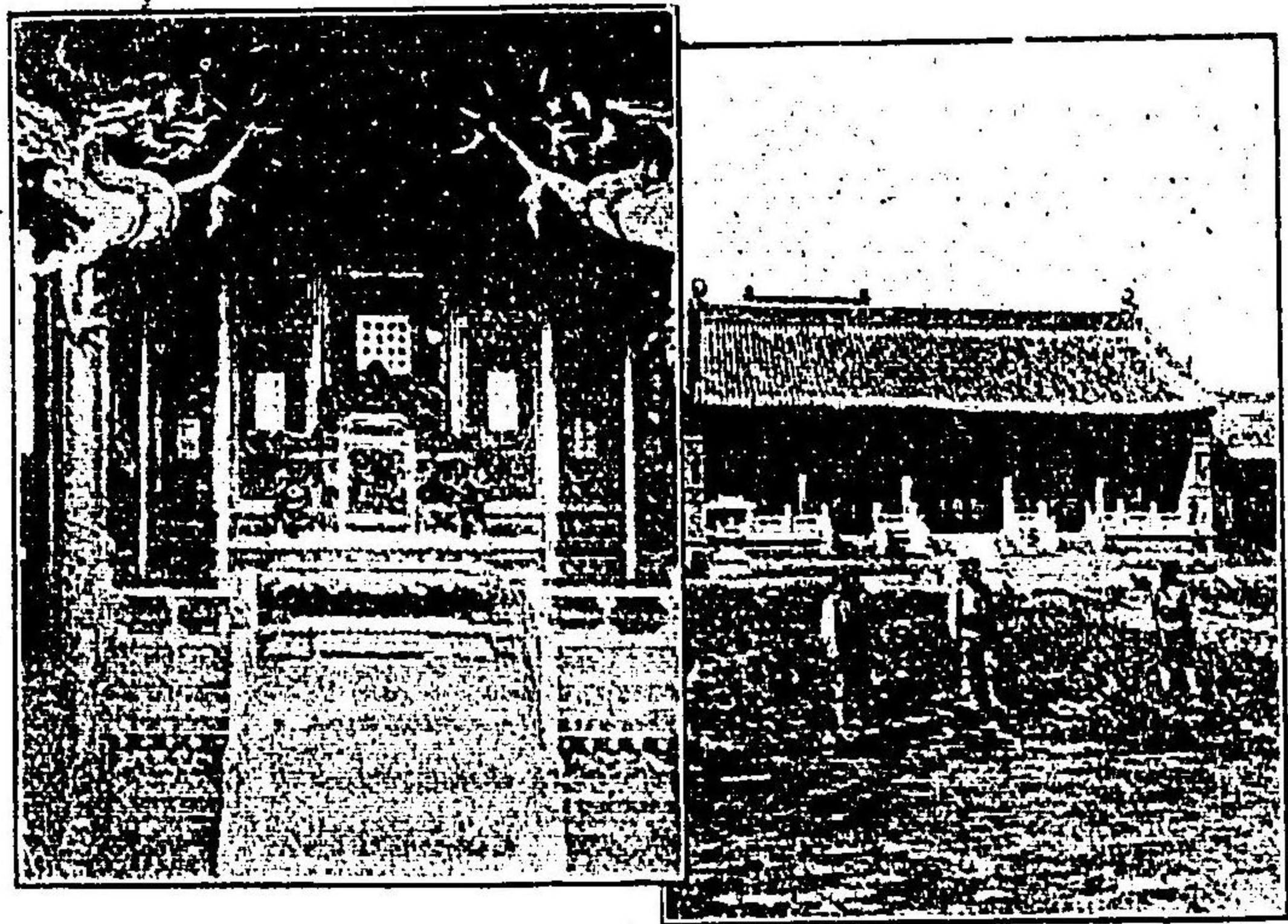
**きんよーけん** 黔陽縣 清國湖南省沅州府にあり、舊辰州府に屬せり。

**きんらんでん** 金鸞殿 清國奉天府城内にある宮殿にして、昔時滿洲朝の宮殿なり、はいてん(奉天)の條参照。

**きんりょー** 金陵 清國江寧府の舊稱、「なんきん」を見よ。

**きんれんけん** 筠連縣 清國四川省、叙州府にあり、  
**きんもんけん** 祁門縣 清國安徽省、徽州府に屬する縣なり。

きょーけん 汲縣 清國河南省衛輝府あり。○欽縣 清國安



(殿宮天奉)

敷省、徽州府にあり。

きょーけい 九江 (Kin-king) 清國江西省の開港場にし

て、翻陽の長江に注ぐ所にあり、水陸運輸の便多く、商業頗る盛なり、古の潯陽江にして、自樂天が琵琶行の名詩を殘せし所にて、風光絶佳なり、茶、陶器の輸出盛にして漢口、福州と相並びて支那茶の三大市場と稱せらる。此地春秋の際吳楚に屬す、明の初九江府を置く、清朝に至り長髮賊の亂あり、府城大半破壊せられしが、近時漸く衰勢を恢復せり、其東北に有名なる景徳鎮あり、磁器の製出を以て名あり。

きょーせい 九姓 土司にして、清國四川省瀘州にあり。

きょーそーのじとー 九層の磁塔 南京大報恩寺にありしが、長髮賊の亂の際、烏有に歸せり。

きょーねーけん 休寧縣 清國安徽省、徽州府にあり。

きょーりーのくわん 九龍 (Kow-Lung) 香港島の對岸にあり、廣東省廣州府新安縣に屬す、近年英國の租借地となれり。

きょーりーてつとー 九龍鐵道 清國廣東省廣東と九龍との間の鐵道にして、延長約四十里、英國シヤヂン、マシソン會社の經營に成る。

きょーれんじょー 九連城 滿洲盛京省の東邊にあり、鴨綠江を隔てて、韓國義州と相對す、相距る僅かに一里餘、北に虎山を控へ南に老龍頭山あり、饒河其下を流れ、頗る險要の地たり、日清戰役の時、我軍の占領せし地なり、又日露戰役

の初期に當り、我が第一

軍兵戰の後、鴨綠江を渡り

此地を占領し、先づ敵軍

の心膽を寒からしめし所と

す、其西方蛤蟆嶺の地は、

我軍の露軍を擊殺せし所なり。



(城 遊 九)

きょーか 夾河 直隸省冀州武邑縣の北にあり、清漳水より分れて滹沱河に入る。

きょーけん 宜陽縣 清國河南省、河南府に屬する縣なり。

きょーあ 曲阿 今の清國江蘇省、鎮江府丹陽縣の地にして、三國の時吳の孫策、楊州の刺史劉繇を擊破せる所として知らる。

きょーくきょーけん 萊蕪縣 清國直隸省、冀州にあり。

きょーくかんちょー 玉環縣 清國浙江省、温州府にあり。

きょーくこーけん 曲江縣 清國廣東省、韶州府にあり。

きょーくさんけん 玉山縣 清國江西省、廣信府にあり。

きょーくしゅーけん 曲周縣 清國直隸省、廣平府にあり。

きょーくじょー 曲城 清國イリ(伊犁)の別稱なり、精しくは「イリ」を見よ。

きょーんじょーのへいや 棘城平野 韓國黃海道靑江流域の平野を中心として、北は黃州に至り、東は鳳山に達し、西は文化、安岳、信川地方に連り、廣袤十數里に亘る。灌溉の利多く地味肥沃にして五穀の産多し、殊に米は其實精良にして、王家歴代の内膳の供御に供せらる。

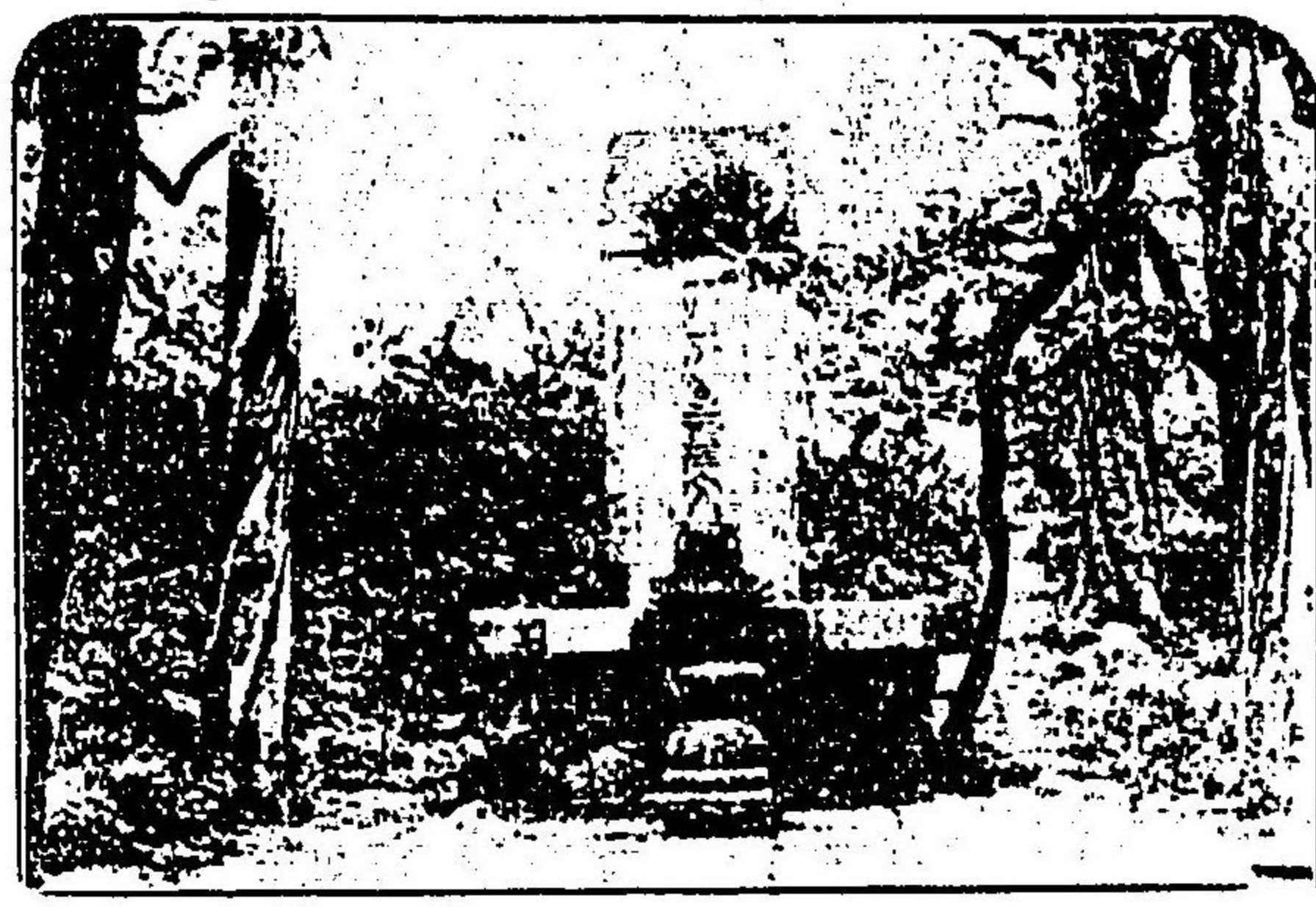
きょーくせいふ 曲靖府 清國雲南省にあり。

きょーくせんざん 玉泉山 清國北京の近郊に在る一勝地にして、萬壽山と並び稱せらる、山高からざるも古色蒼然として峻峭地を抜くの趣あり、元明時代の大理石塔、多寶塔等今尚ほ存す。

きょーくでんけん 玉田縣 清國直隸省、遼北州にあり、もと永平府に屬せり。

きょーくふ 曲阜 (Kung) 清國山東省にあり、兗州府に屬す、魯の故都にして、孔子の廟あり。

**きょくふけん 曲阜縣** 清國山東省、兗州府にあり。  
**きょくふけん 玉屏縣** 清國貴州省、思州府にあり。  
**きょくふけん 玉門關** 清國甘肅省の西北部に在り、玉門縣に屬す、往昔西域に至る門戸にして、古來國名關の一なり。



(關の子孔)

**きょくふけん 玉門縣** 清國甘肅省、安西州にあり。  
**きょくふけん 曲陽縣** 清國直隸省、宅州にあり。  
**きょくふけん 襄陽縣** 清國湖北省、襄陽府にあり。  
**きょくふけん 曲沃縣** 清國山西省、平陽府にあり。

棘陽城址 清國河南省、南陽府新野縣の東北十數里にあり、後漢の光武帝の攻略せし地として史上に名あり。  
**きょくふけん 祁陽縣** 清國湖南省、永州府に屬す。  
**きょくふけん 渠縣** 清國四川省、綏寧府にあり、もと順慶府に屬す。

**きょくふけん 登封縣** 清國河南省、河南府にあり。  
**きょくふけん 淇縣** 清國河南省、衛州府にあり。  
**きょくふけん 許州** 清國河南省、許州府にあり、今直隸省にあり。  
**きょくふけん 邛州** 清國四川省にあり、直隸州たり。  
**きょくふけん 饒州府** 清國江西省にあり、鄱陽湖の東南岸に位し、鄱江其の南門外を流る、附近地味肥沃にして物産豊かなり。  
**きょくふけん 鏡城 (Kweng-sung)** 韓國咸鏡北道の首府にして、戸數一千餘、北韓第一の都邑たり、其海岸に獨津あり、鏡城貨物の集散地にして、船舶の出入多し、此地生牛の産地として知られ、毎年の輸出額頗る大なり。  
**きょくふけん 恭城縣** 清國廣西省、平樂府にあり。

**きょくふけん 巨濟島** 韓國の南方海中にあり、慶尙道に屬す、馬山浦と相對する島にして、中央に鶴冠山聳え、餘脈全島に亘る、古、倭寇の根據地となり、豊太閤征韓の役には彼我海軍の争地たり、一に釜島と稱す、其北岸長承浦には日本の漁業根據地あり。

**きょくふけん 魚臺縣** 清國山東省、濟寧州にあり、もと兗州府に屬す。  
**きょくふけん 鄉寧縣** 清國山西省、平陽府にあり、もと山西省吉洲に屬す。

**きょくふけん 貴陽府** 清國貴州省の首府にして、雲南街道の要衝に當り、商業稍盛にして、附近茶の産出多し、雲貴總督及び貴州巡撫の駐在所たり。

**きょくふけん 巨文島** 韓國全羅南道と濟州島との間にあり、東、西、倭の三島より成る、英人之を「ポート、ハミルトン」と稱し、往年英露兩國中央アジア問題に關し紛擾起るや、英國は攻守の必要上、艦隊を送りて一時此島を占領せることあり、全島四村より成り、人口約二千。

**きょくふけん 拱北** 清國廣東省、新會縣の南にあり、開港場たり。  
**きょくふけん 鉅野縣** 清國山東省、曹州府にあり。

**きょくふけん 居庸關** 清國北京の西北昌平縣を距る西北我が五六里の地にある關門なり。

**きょくふけん 饒陽縣** 清國直隸省、深州にあり。  
**きょくふけん 鉅鹿縣** 清國直隸省、順德府にあり。

**きょくふけん 吉林 (Kirin)** 滿洲吉林省の首府にして、一に船廠と云ひ、松花江上流の左岸に在り、北滿洲の咽喉に當り、其繁盛と市街の宏壯とは奉天府に次ぐ、府城は一面江に臨み、三面城壁を繞らし、周圍一里二十餘町、吉林將軍の駐紮地にして、人口約十萬、漢人及び回々教徒多し、機器局、火藥製造局等あり、煙草、木材、毛皮等の産出多し、本邦よりは洋傘、洋燈、卷煙草等を輸入す。

**きょくふけん 吉林省 (Kirin)** 東三省の一にして、其東南部を占む、東は烏蘇里江、及興凱湖を隔てて、露領沿海州に、南は圖們江によりて韓國に境し、西に蒙古を控へ、北は松花江を以て、黒龍江省に隣る、首府を吉林となす、省内土地豊饒にして、五穀の産多し、東三省の穀倉と稱せらる。

**きょくふけん 宜良** 清國雲南省、雲南府に屬する縣名なり。  
**きょくふけん 祁連山** 蒙古と青海及び甘肅省との間にあり、山脈にして、一に南山と稱す、山勢東に走り、其中部の最高峯一萬六千尺に達する所あり。

く 衢 清國浙江省にある州府なり。

ぐきょーけん 虞郷縣 清國山西省、蒲州府にあり。

ぐじょーけん 虞城縣 清國河南省、歸德府にあり。

くすうくろこ 庫蘇克爾湖 蒙古札薩克圖汗所屬の烏梁海旗にある山湖にして、海拔五千六百餘尺の高地にあり、東西狭く南北廣く、其長二十七里、幅十里、蒙古第一の大湖にして、湖水の中央に島嶼あり、魁博爾多克山と稱す、周圍山脈重疊し、諸水流湧出して湖中に入る、其水流れて額赫河となる。

くたいけん 盱眙縣 清國安徽省、泗州にあり。

くだら 百濟 「ひやくさい」を見よ。

くまなり 久摩那利 韓國忠清道公州の舊稱、「こましゅー」を見よ。

ぐんきし 軍機所 清國中央政府の一部。樞密院にして内閣を兼ね、職官を軍機大臣と云ひ、五名を出でず、皇帝は毎朝親臨して萬機を裁す。

ぐんざんぼ 郡山浦 (Kun-San-po) 韓國全羅道の開港場にして、錦江河口の南岸にあり、仁川木浦の間に在り、金州

を距る十二里、此地もと微々たる一寒村なりしが、明治三十三年開港場と指定せられてより、俄かに勃興して殷盛なる一商港となるに至れり、港内廣く深き亦三尋内外なるも、灣口淺瀬及び暗礁多く、五、六百噸以上の船舶の入港に適せず頗る不便なり、然れども此地東南近く錦江流域の大沃野を控ゆるを以て、米及び其他の貨物多く此處に集まり、將來極めて有望の地なり、我國人の居留民多く、我が理事廳分館、警察署、郵便局、海關、病院等あり。

くよーけん 句容縣 清國江蘇省、江寧府にあり。  
くるはら 庫爾哈拉 天山北路にあり、清國にて錦綏城といふ、伊犁府の北東にあり、烏魯木齊より伊犁に通ずる街道の要衝に當る。

くろん 庫倫 外蒙古北部の大都會にして、鄂爾坤河に臨む、北京より露領恰克圖に通ずる大道に當り、商業繁盛にして政治上及商工業の中心地たり、辦事大臣二名駐在す、人口三萬餘、蒙古人の聖地にして、壯麗なる佛堂及喇嘛教の高僧宮殿あり、毎夏期に禮拜するもの甚多し。

くわいあんけん 懷安縣 清國直隸省、宣化府にあり。

くわいえんけん 懷遠縣 清國安徽省、鳳陽府にあり。

くわいざい 懷教 ふいふいざい(回教)を見よ。

張 天山南路の別稱なり。

くわいけいけん 會稽縣 清國浙江省、紹興府にあり。

くわいけいふ 懷慶府 清國河南省にあり。

くわいけいざん 會稽山 清國浙江省、紹興府城の東南二里許にあり、春秋戰國の時、越王勾踐の據りし地なり。

くわいじんけん 懷仁縣 清國山西省、大同府にあり。

くわいしゅーけん 懷集縣 清國廣西省、梧州府にあり。

くわいじゅーけん 懷柔縣 清國直隸省、順天府北路廳にあり。

くわいしゅーけん 會昌縣 清國江西省、贛州府にあり。

くわいたくけん 會澤縣 清國雲南省、東川府にあり。

くわいざくけん 懷德縣 清國盛京省、昌圖府の東北約四十里にあり、往古「マハツヤシ」と稱せり、人口約二萬。

くわいざーけん 會同縣 清國湖南省、靖州にあり。

くわいねい 會寧 韓國咸鏡北道にあり、六鎮の一にして、圖們江の沿岸に在り、壬辰の役、加藤清正の高麗の二王子を扈

にせし地として知らる。

くわいけん 懷寧縣 清國安徽省、安慶府にあり。

くわいけん 懷縣 清國甘肅省、鞏昌府にあり。

くわいぶ 外務部 清國中央政府の一にして、専ら外交の

くわいんけん 華陰縣 清國陝西省、同州府にあり、もと華州に屬す。

くわいもーこ 外蒙古 喀爾喀と稱す、東及南は黒龍江省、及内蒙古に接し、西南は甘肅省、西北は科布多に接し、北は露領西比利亞に境す、車臣汗(チヨチンハン)、土謝圖汗(トシエト)、三音諾顏(サンインヨアン)、札薩克圖汗(チアサク)

ト)の四部落より成る、庫倫は北部の大都會なり。  
くわいらいけん 懷來縣 清國直隸省、宣化府にあり。

くわいりしゅー 會理州 清國四川省、寧遠府にあり。

くわいわん 會灣 清國盛京省、金州半島の北部に在り。

くわえんこー 花園江 遼東半島の東南岸に在り、日清戦役の時、我軍の上陸地點として知らる。

くわかくけん 獲嘉縣 清國河南省、衛輝府にあり。

くわくけいしゅー 鶴慶州 清國雲南省、麗江府にある舊府なり。

くわくざんけん 崑山縣 清國安徽省、六安州にあり。

くわくざんけん 崑山縣 清國安徽省、六安州にあり。

くわくざんけん 崑山縣 清國安徽省、六安州にあり。

くわくざんけん 崑山縣 清國安徽省、六安州にあり。



くわくしゅー 霍州 清國山西省、平陽府にある直隸州なり。  
くわくほしゅー 鶴峰州 清國湖北省、宜昌府にあり。  
くわくやけん 霍耶縣 清國安徽省、穎州府にあり。  
くわくろくけん 獲鹿縣 清國直隸省、正定府にあり。  
くわくしゅー 果化州 清國廣西省、南寧府にある土州なり。  
くわけん 花縣 清國廣東省、廣州府にあり。  
くわさん 華山 古の五岳の一にして、陝西省同州府、華陰縣の南一里半許にあり。  
くわしゅー 華州 清國陝西省、同州府にあり、もと直隸省たり。①和州 清國安徽省にあり、直隸州たり。②化州 清國廣東省、高州府にあり。  
くわじゅんけん 和順縣 清國山西省、遼州にあり。  
くわていけん 華亭縣 ①清國江蘇省、松江府にあり。②清國甘肅省、平涼府にあり。  
くわどー 華島 韓國漢江の注口にある孤村にして、一帯の丘陵を以て仁川と境す、昔時典圍局(造幣局)の設置せられし所として、其名普く世に知らる。  
くわぶたぶ 科布多部 外蒙古にあり、ここに科布多城あり。  
くわへいけん 和平縣 清國廣東省、惠州府にあり。

くわんぐわいていしゅー 關外鐵道 清國山海關より錦州を経て營口に至る鐵道、及び新民廳に至る線路を稱す。  
くわんけん ①瀘縣 清國四川省、成都府にあり。②完縣 清國直隸省保定府にあり。③環縣 清國甘肅省、慶陽府にあり。④冠縣 清國山東省、東昌府にあり。  
くわんくわいしゅー 觀察使 韓國各道(十三道)の政務を監察する地方官なり。  
くわんさんけん 含山縣 清國安徽省、和州に屬する縣なり。  
くわんじゅーけん 觀城縣 清國山東省、曹州府にあり。  
くわんせい 關西 韓國平安南道、及同北道を云ふ。  
くわんちゅーいち 關中平野 清國陝西省南部の平野を稱す。  
くわんどー 莞島 韓國全羅南道康津郡の前方海中に横はり、長さ約六里、幅二里半、島中山岳多く、最高點二千餘尺に及び、全島樹林蒼鬱として、同國沿岸中稀に見る所とす。①關東 韓國江原道を云ふ。  
くわんどーけん 館陶縣 清國山東省、東昌府にあり。  
くわんどーしゅー 關東州 清國盛京省、遼東半島中の皮子窩と普蘭店とを連れて東西に引ける線より以南の半島と、之に附屬せる諸島とを併せたる一帯の地の總稱にして、北緯

け

百二十二度、東經四十度の間にあり、面積約二百二十平方里、其關東州と云へるは、西紀一八九八年三月十五日(我明治卅三年)、清國北京に於て露清兩國全權委員の間に調印締結し、更に同年四月十五日露都に於て追加せられたる特約條項に據り、露國が清國より租借したる地に附加せる名稱にして、日露戦役の結果、我國の手に入り、關東總督府を旅順口に置き、大島陸軍大將を其總督とし、民政、軍政の兩署ありて、政務を執る。  
くわんどーはけい 關東八景 韓國江原道の沿岸にあり、同沿岸は鐵嶺山脈起伏し、山水の風景極めて佳なり。  
くわんよーけん 灌陽縣 清國廣西省、桂林府にあり。  
くわんわ官話 清國中流以上の社會に用ひらるる普通語にして、同國一般に通ず。  
くわよーけん 華容縣 清國湖南省、岳州府にあり。①華陽縣 清國四川省、成都府にあり。  
くわりんじゅー 和林格爾城 清國山西省にあり。

けいあんけん 惠安縣 清國福建省、泉州府にある縣名なり。  
けいい 涇渭 涇水、渭水の總稱なり、何れも清國陝西省西安府附近にあるを以て二者併稱す。  
けいうんけん 慶雲縣 清國直隸省、天津府にある縣名なり。  
けいえんふ 慶遠府 清國廣西省の府名なり。  
けいおんもん 迎恩門 韓國京城の四大門外の發州街道にありしものにて、毎歲清國の勅使を迎ふる所なりしが、日清戦役の影響として、今帝其獨立を覺り、之を毀ちて新に獨立門を建つ。  
けいぎていしゅー 京義鐵道 韓國京城より起り、開城平壤等を経て、鴨綠江畔の義州に至る鐵道にして、延長三百三哩、日露戦役中軍用の爲め我政府の敷設せるものなり、京城、高陽、坡州、長湍、開城、金川、平山、瑞興、鳳山、黃州、中和、平壤、順安、肅川、安州、嘉山、定州、宜川、新義州等の停車場あり。  
けいぎていしゅー 京畿鐵道 (Kiang-ki) 韓國半島の中央部に位す。

東は江原道に接し、南忠清道に隣り、北黄海道に接し、西方一帯海に臨む、古來王城の所在地たるを以て、政治上及商業上の中心地となり、其繁盛他道に冠たり、人口亦頗る稠密なり、港には有名なる仁川あり、漢江及京仁鐵道は兩者間を連絡し、交通の便多し。

けいけいけん 荆溪縣 清國江蘇省、常州府にあり。

けいけん 涇縣 清國安徽省、寧國府にあり。

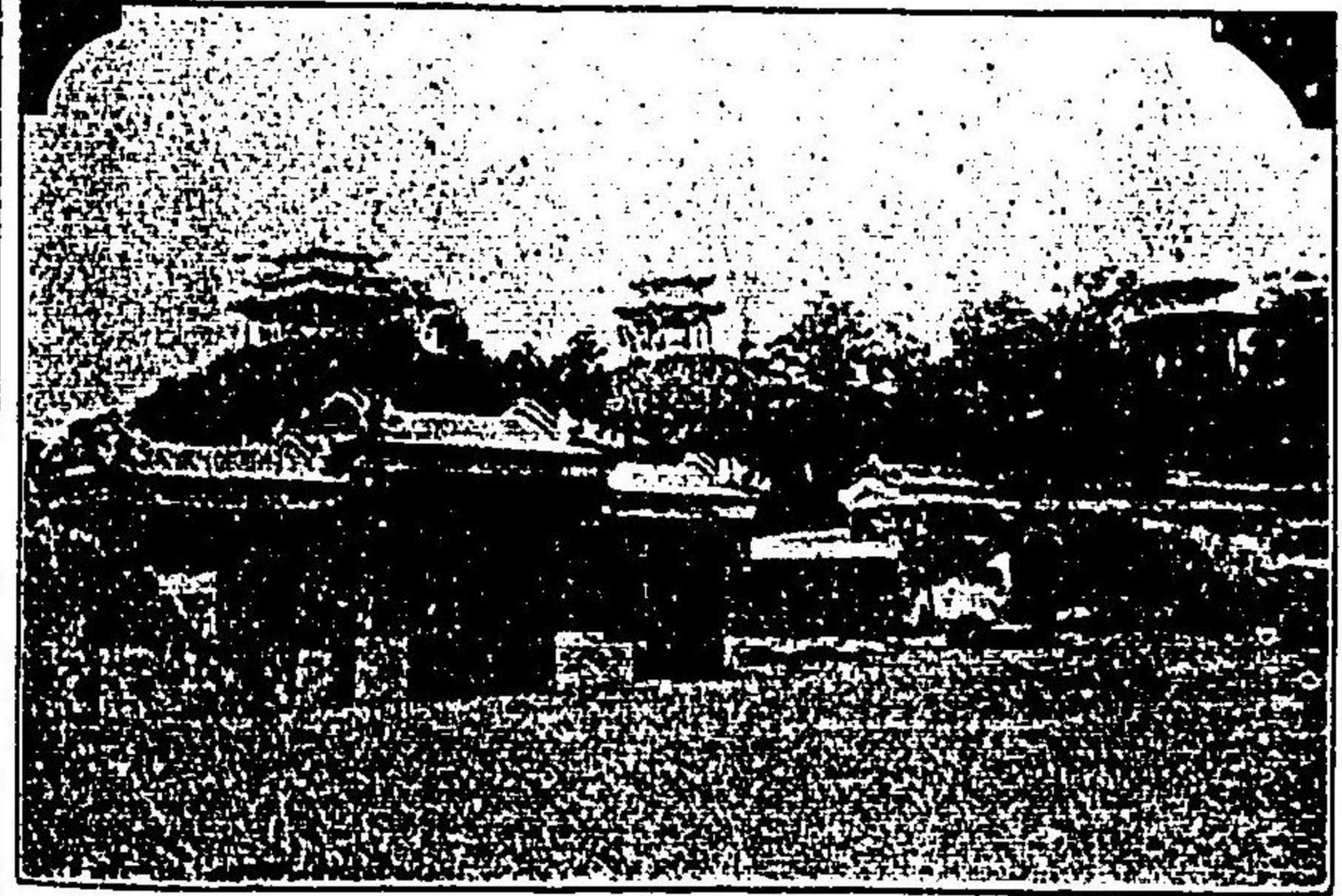
けいげんけん 慶元縣 清國浙江省、處州府にあり。

けいんぐ 慶興 (Kong-Heng) 清國咸鏡北道にあり、六鎮の一にして、圖們江の沿岸に位す、露領沿海州と最も接近せる地にして、兩者の間陸上貿易盛に行はる。

けいこわん 慶興灣 韓國の北方咸鏡北道にあり、露領沿海州に接す。

けいざん 慶山 韓國慶尙道慶尙郡にあり、人口一千許、此地東に東山あり、西に聖岩山あり、北方曠野に連り農産

にして、往古我國との關係特に深し、人口約五千、米、大豆の集散地にして、毎月二、七の兩日市を開く、市況稍盛なり。○荊州 清國湖北省沙市の上流、長江の北岸にあり、古來形勝の地にして、春秋戰國の際、楚國の古都たり、今城内に滿洲將軍入旗兵を率ゐて駐在す、商業沙市に及ばざるも稍々盛なり。○景州 清國直隸省、河間府にあり。○薊州 清國直隸省、順天府、東路驛にあり。



(山景)

けいじんてつごう 京仁鐵道 韓國京城と仁川との間の鐵道にして、延長三十哩、もと米人モリス允許を得しものなるが、明治三十一年十月我京仁鐵道會社之を譲受け、三十六年四月工事に着手し、同三十三年七月全線の開通を見るに至れり。

けいしゅう 慶州 (Kyeongju) 韓國慶尙北道の東南部にあり、新羅の故都

勢からず、京釜鐵道停車場あり、毎月五、十の兩日市場を開く。○景山 清國北京城、神武門外に築ゆ、山頭五峰に分れ、各峰に小亭あり、山上北京城の内外を望み、風景絶佳の稱あり。

けいざんけん 慶山縣 清國廣東省、瓊州府にあり。○京山縣 清國湖北省、安陸府にあり。

けいじつわん 迎日灣 韓國慶尙北道の東にあり、灣口に冬外串突出す、灣内碇泊に便ならず。

けいしんてつごう 京津鐵道 清國蘆津鐵道の別稱、「ろしんてつごう」を見よ。

けいじんてつごう 京仁鐵道 韓國京城と仁川との間の鐵道にして、延長三十哩、もと米人モリス允許を得しものなるが、明治三十一年十月我京仁鐵道會社之を譲受け、三十六年四月工事に着手し、同三十三年七月全線の開通を見るに至れり。

けいしゅう 慶州 (Kyeongju) 韓國慶尙北道の東南部にあり、新羅の故都

にして、往古我國との關係特に深し、人口約五千、米、大豆の集散地にして、毎月二、七の兩日市を開く、市況稍盛なり。○荊州 清國湖北省沙市の上流、長江の北岸にあり、古來形勝の地にして、春秋戰國の際、楚國の古都たり、今城内に滿洲將軍入旗兵を率ゐて駐在す、商業沙市に及ばざるも稍々盛なり。○景州 清國直隸省、河間府にあり。○薊州 清國直隸省、順天府、東路驛にあり。

けいしゅう 瓊州港 (Kien-chau) 清國廣東省、瓊州島(海南島)の北岸に位し、雷州半島と相對す、其港を海口といひ、貿易港たり、廣東を距る二百八十五哩、其港にあらざるも、船舶の出入多く、商業稍盛なり。

けいしゅう 瓊州島 海南島を見よ。

けいしゅう 惠州府 清國廣東省、東南にあり、府の近傍に象頭山あり、温泉湧出す、昔時蘇東坡の浴せし地として知らる。○瓊州府 清國廣東省にあり。○荊州府 清國湖北省の中央にあり。

けいしゅう 京城 (King-sung) 一に、漢陽と稱す、韓國の首都にして、土音之を「セラル」と稱す、蓋し王都の義なりと、北に北漢山を控へ、南漢江に臨み極めて形勢の地たり、人口十九萬六千餘、市街は四方城壁を繞らし、高さ一丈餘、周回約五里、八ヶ所に城門あり、王宮を景福宮と云ひ、市の

西北部にあり、其の正門を光化門と云ふ、門前諸官衙及び貴族の邸宅等多し、城内五署、四十七坊、三百四十契に分ち、街衢整然たるも城外は全く不規律にして、且不潔甚し、市民の大半商業を營み、官吏労働者之に次ぐ、東南兩大門内に毎朝市を開き日用物貨を販賣す、極めて盛大にして、殊に南大門のものは有名なり。此地もと高麗朝の都にして南京と稱せしが、李成桂高麗を滅ぼし王位につくに及び松都より徙りて、新に都を奠め、爾來今日に至る迄歴代の王城たり、王宮(景福宮)はもと太祖の建設せるものなりしが、文祿の役兵火に罹り、爾來二百五十有餘年、僅かに其遺址を止むるのみなりしが、今帝の即位後攝政大院君大猛斷を以て大工事を起し再築せるものとす、其南に慶運宮あり、我が明治三十年の新築なり、同三十七年火を失して烏有に歸せり、又其東に昌德宮及昌慶宮あり、結構何れも壯麗なり、迎春門外に各國の領事館ありしが、日露戰役の結果悉く撤回し、我國獨り統監府を此地に置きて、文武百般の政務を監視す、我國の居留民多く、政治、司法、教育、交通運輸の諸機關よく備はる、商業はもとより仁川、釜山等に及ばざるも、全國の中心地たるを以て取引極めて活潑なり、附近名勝蹟多く倭將登、觀石塔等尤も名あり。

けいしゅう 京城電氣鐵道 韓國京城内

の鐵路を中心として、一線は南大門を経て、龍山に至り、一線は東大門を経て清涼里に至り、一線は西大門を経て、京釜鐵道停車場に至る、皆單線にして總延長九哩。

けいしやうどー 慶尙道 (Kieng-siang) 韓國半島の東南端に位し、一に嶺南と稱す、洛東江其中央を流れ、地味從て豊饒なり、日本と最も接近するを以て、古來兩者の關係多き地として知らる。

けいしやうなんどー 慶尙南道 韓國慶尙道の東南部を占め、晋州其首都なり、南岸には有名なる釜山、及馬山浦等あり。

けいじやうのじやうさんじやうどー 京城十三重塔 韓國京城の塔洞にある古塔にして、塔洞の名も之れにより、塔は十三層にして大理石より成り、表面に佛像、蓮華、龍等を刻し一種の形式を現はす、豊太閤の征韓役に當り之を日本に携へ歸らんとし上部三層を取り落せしが、其重さに堪へずして之を見合せ、後ち再び之を積むものなくして今に至るといふ、其建築年代は明かならず。

けいしやうほんざうどー 慶尙北道 韓國慶尙道の北部を占め、北江原道に接し、南慶尙南道に境し、西は忠清北道に隣り、東一帯日本海に臨む、大邱府は其首都なり。

けいふてつどー 京釜鐵道 韓國京城南大門を起點とし、同國釜山港を以て終點とす、延長二百七十五哩、本邦人の經營にかかり、明治三十一年敷設權を得、同三十四年兩端より起工し、日露戰役起るに及び速成工事を施し、同三十七年十一月全線落成して、翌年一月營業を開始す、廢軌式にして、米國の最新式に則る、五十三哩あり、隧道二十六、橋梁約三百、隧道の長きものは、清道、慶山兩驛間の省峴隧道にして、橋梁の長きは倭館、若木兩驛間の洛東江橋梁にして千五百三十四呎とす、三十九年七月



(宮 福 京)

省西安府高陵縣の西南にて渭水に入る、尙「けい」(涇渭)を見よ。

けいだいけん 刑臺縣 清國直隸省、巡德府にあり。

けいたくけん 梁澤縣 清國河南省、開封府にあり。 雞澤縣 清國直隸省、廣平府にあり。

けいこうけん 景德鎮 (King-te-ling) 清國江西省九江府にあり、鄱陽湖の東北に位す、陶磁器の製出を以て有名なる所にして、其製作頗る精巧、清國第一と稱せらる、北京帝室の用度多く此地より献すと。

けいとうけん 慶都縣 清國直隸省、保定府にあり。

けいとうけん 桂東縣 清國湖南省、郴州にあり。

けいとうけん 鷄頭山 今开頭山に作る、清國甘肅省平涼府にあり、黃帝及秦の始皇并に四巡して此山に至るといふ。

けいとうけん 景東廳 清國雲南省、徽江府にある廳なり。

けいねいけん 景寧縣 清國浙江省、處州府にあり。

けいふくけん 景福宮 韓國の王宮にして、京城の北西部にあり、もと李朝の太祖李成桂の建設にかゝる、文祿の役兵火にかかりしが、今上陛下に至り再建し、即位三年此新宮殿に移られたり、白岳山の南麓に位し、四方に巖壁を繞らし、四角的構造の高樓巍然として聳ゆ。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

けいふけん 慶符縣 清國四川省、叙州府にあり。

月我が政府買収して國有となす。

けいふけん 桂平縣 清國廣西省、潯州府にあり。

けいふけん 惠民縣 清國山東省、武定府にある縣名なり。

けいふけん 滎陽 今の清國河南省、開封府、滎陽縣にして、漢の高祖と楚の項羽との交戦の地なり。

けいふけん 桂陽縣 清國湖南省、郴州にあり。 揭陽縣 清國廣東省、潮州府にあり。 涇陽縣 清國陝西省、西安府にあり。

けいふけん 慶陽府 清國甘肅省の府名なり。

けいふけん 惠來縣 清國廣東省、潮州府にあり。

けいふけん 桂林 (Kwei-ling) 清國廣西省の首府にして桂江の上流に位す、廣西鎮撫駐在地なり、府の東に桂山あり、山上に巨巖あり、疊彩と名く。

けいふけん 鷄林八道 韓國慶尙道、全羅道、忠清道、京畿道、江原道、黃海道、平安道、咸鏡道を云ふ、近年これらを分ちて十三道となせり、鷄林の名は新羅の脱解王の時、其都城の西なる始林の樹梢に金櫃掛かり、白鷄其下に鳴く、脱解櫃を開きて一男兒を得、金閼智と名け始林を改めて鷄林となし、又之を國號となせりとの傳説より、後遂に韓國の別號となれるなりと云ふも、もとより附會の脱信するに足

らす、或は云ふ、鶴林は鶴(チ)林、稽(チ)林、口林、吉林など  
と稱し、共に老林の意にして、韓国はもと至る處、樹林鬱蒼  
たるより起れるなりと、蓋し或は然らんか。

**げつびどー月尾島** 韓国仁川港の港口にある一小島にし  
て、周囲一里、明治十五年、京城の變に我花房公使以下の避  
難せる所にして、北岸に日本海軍貯炭庫あり、附近に小月尾  
島あり、其周圍水深く大艦巨船の碇繋に便なり、日露戦役の  
初期に當り我が瓜生艦隊の露艦「ワリヤーク」、「コレツチ」  
の兩艦を撃沈せる所として知らる。

**けんあんけん 建安縣** 清國福建省、建寧府にあり。  
**けんいけん 健爲縣** 清國四川省、嘉定府にあり。  
**けんぎょけん 建業** 清國南京の舊稱、同條下を見よ。  
**けんくわけん 元和縣** 清國江蘇省、蘇州府にあり。  
**けんけん 獻縣** 清國直隸省、河間府にあり。  
**けんこーけん 健康** 清國南京の舊稱。

**けんこーきょー 健康宮** 健康は清國江蘇省、江寧府にして  
所謂南京なり、即其地の宮殿の名なり、もと太初宮と云ひし  
が、晋の亂に燬けて再營し、健康宮と稱す。  
**けんこーけん 沅江縣** 清國湖南省、常德府にあり。  
**けんこーしー 元江州** 清國雲南省の直隸州たり。  
**けんさん 元山** 韓国咸鏡南道永興灣の南岸に在り、同國三

大港の一にして、釜山を距る三百六哩、浦羅斯徳へ三百三十  
哩、我が下關港へ三百八十哩あり、明治十三年の開港に係  
り、同國唯一の良港にして、貿易繁盛なり、市街背に山を負  
ひ、東北港灣に臨み、南赤田川を界して元山里(韓人街)に接  
す、中央に運河あり小舟を繋留す、港灣廣く、灣内大小十二  
島嶼あり、北に大江島あり、南に葛麻島あり、共に牛島形に  
して大陸に連る、葛麻島の西方に長徳島あり、大船巨船多  
く此附近に碇泊す、灣内北風を受け波浪嶮惡にして碇繋極  
めて困難なるも他には風浪の畏れなし、灣の南端に元山港  
あり、其極まる所を元山津とす、我郵船會社及大坂商船會  
社の定期航海船の寄港あり、砂金、大豆、牛皮等を輸出し、白  
木綿、金巾、打綿等を輸入す、我國人の居留者多く、理事廳、  
郵便局、守備兵營、銀行等あり。

**けんさんしん 元山津** (Gensan; Wonsan) けんさん(元  
山)を見よ。  
**けんさんり 元山里** 韓国元山津の韓人街にして、同市街  
と赤田川を隔てて相對す、後に丘陵を負ひ、地形狹長にして  
帶の如し、此地往時殷富と稱せられ倉庫を置き、北路鐵道に  
際し救助に充てし所なりと、人口一萬餘と稱するも確かな  
らず。  
**けんしけん 建始縣** 清國湖北省、施南府にあり。

**けんしけん 元氏縣** 清國直隸省、正定府にあり。  
**けんじほ 兼二浦** 韓國平安南道にあり、平壤鎮南浦間に  
位し、大同江に臨む、明治三十八年初めて開かれたる開港  
場にして、港内水深く四千噸内外の汽船自由に入出するを  
得、附近沃野多く農産物に富み、京義鐵道支線兼二浦線は近  
き將來に於て敷設せられんとす、將來頗る有望の地たり。

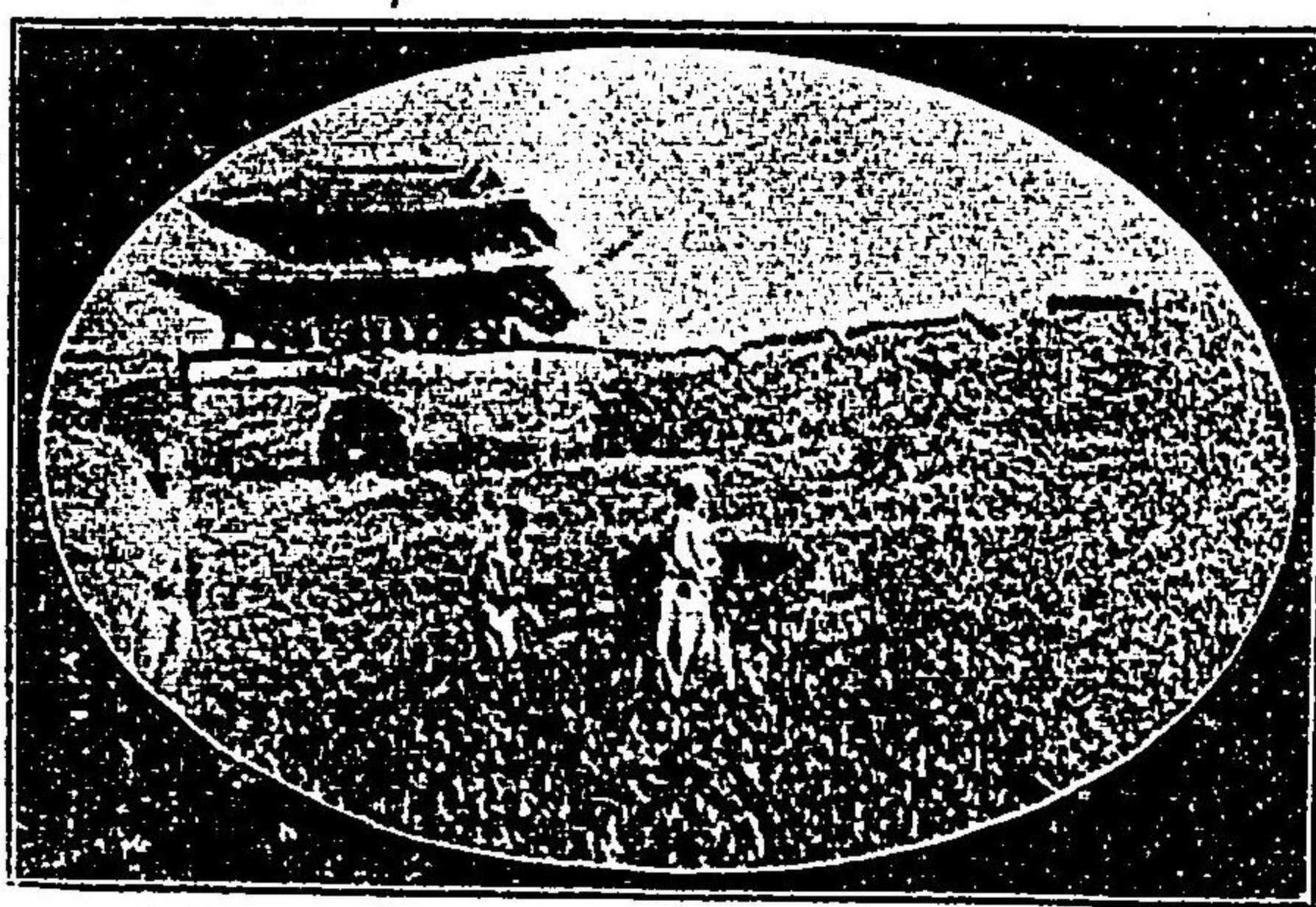
**けんしゅー 劍州** 清國四川省、保寧府にあり。  
**けんしゅー 原州** (Yanju) 韓國江原道の首都にして、山  
間に位し、商業稍繁盛なり。  
**けんしゅーちよー 乾州廳** 清國湖南省にあり。  
**けんしゅーふ 嚴州府** 清國浙江省にあり。◎ 湖州府 清國  
湖南省の四端にあり。

**けんしよーけん 建昌縣** 清國直隸省、承德府にあり。◎  
江西省、南康府にあり。  
**けんじよーけん 元城縣** 清國直隸省、大名府にあり。  
**けんしよーふ 建昌縣** 清國江西省にあり。  
**けんすいけん 建水縣** 清國雲南省、臨安府にあり。  
**けんせんしゅー 劍川州** 清國雲南省、麗江府にあり。  
**けんぞくけん 建德縣** 清國安徽省、池州府にあり。◎ 浙  
江省、嚴州府にあり。

**けんぞん 玄菟郡** 漢武帝時代に、今の韓國咸鏡道方面

に置かれたる郡名にして、咸興は其治所たりといふ。  
**けんぞくさん 肯特山** 外蒙古杭愛山の東幹にして、漠北の  
一大分水嶺なり。  
**けんねいけん 建寧縣** 清國福建省、邵武府にあり。  
**けんねいふ 建寧府** 清國福建省建寧府の西にあり、閩江  
に臨み、同江  
上流に於ける  
貨物集散地に  
して商業盛な  
り、附近茶の  
産出多く、福  
州より輸入す  
る茶は多く此  
地より出づ  
と。

**けんぶけん 原武縣** 清國  
河南省、懷慶  
府にあり。  
**けんぶもん 玄武門** 韓國



(門 武 玄)

平壤外廓の一門にして、乙密蓋と最勝蓋との間にあり、日清戦役の時、平壤攻撃に我第三師團の一勇士が破門したるを以て名あり。

けんべいけん 建平縣 清國安徽省、廣德州にあり。

けんぼーけん 元謀縣 清國雲南省、武定府にあり。

けんもんくわん 劍門關 「たいけんざん」(大劍山)を見よ。

けんもんざん 劍門山 清國四川省、保寧府の北方にあり、蜀地北境の要害にして、世に蜀の樓道と稱す。

けんよーけん 沂陽縣 清國陝西省、鳳翔府にあり。建陽縣 清國福建省、建寧府にあり。

けんりょーけん 沅陵縣 清國湖南省辰州府にあり。

けるばー (Quelpar) 韓國濟州島の洋稱。

けるれんが 克魯倫河 (Kerulen) 蒙古にあり、ケント山脈の南に發源し、東流して、外蒙古を出で、滿洲と露領との境を劃し、北走して黒龍江に入る、河床淺くして春季出水の時のみ舟楫の便あり、河中魚族多し。

こー

こー江 清國楊子江の略稱、「よーすーこー」を見よ。

こーあん 興安 清國陝西省に興安府あり、同省の東南隅にあり、又江西省、廣信府及び廣西省桂林府に興安縣あり。

こあんけん 固安縣 清國直隸省、順天府南路廳にあり。

こーあんけん 高安縣 清國江西省、瑞州府にあり。江安縣 清國四川省、瀘州にあり。黄安縣 清國湖北省、黃州府にあり。公安縣 清國湖北省、荊州府にあり。

こーあんざんみやく 興安山脉 「ひんあんざんみやく」を見よ。

こーあんしゅー 廣安州 清國四川省、順慶府にあり。

こーいんけん 江陰縣 清國江蘇省、常州府にあり。

こーえんけん 高苑縣 清國山東省、青州府にあり。

こーが 黄河 (Hwang-Ho, or Yellow River) 單に河とも云ふ、西藏の巴顏哈刺山に發源し、甘肅省に入り、洮水、湟水を入れ、長城に沿うて蒙古の地を過ぎ、更に長城を横斷して、山西省と陝西省との境を流れ、汾水、渭水を入れて、瀧關に至り、河南省に入り、孟津を過ぎ、山東省に入り、終に直隸海に注ぐ、延長二千五百哩、此河其上流に於て阿爾垣河と稱

し、次で喀屯河となり、甘肅省に入りて始めて黄河と稱せらる、蓋し其水黄土を含んで黄濁なるを以てなり、流水の速度一時間平均四哩、船舶の航行に便ならず、加之土砂の流下甚しく次第に河底を高め、古來洪水氾濫の禍多く、禹の治水の大工事を始め、歴世之がために苦心一方ならず、其被害の如き時に或は數百方に亘り、田野を荒廢せしむることあり、世に之を「中國之憂」と稱す、又其河道の如き屢々變じて、或は山東の南を流れ或は其北を流れしが、一八五五年の大氾濫の際、遂に二百七十哩の遠距離を越えて現時の河道をとるに至れり、其土砂を流出するが如き、近時の研究によれば、一時間實に二百萬立方尺の多量に達すと、此を以て、其下流數萬方里の地は悉く其作り上げたる沖積土にして、天津の如き今は海岸を距る十數里の地にあるも、漢代には渤海岸の一埠頭たりしといふ、漢人種此河の上流地方より起りて、其流域に沿うて漸次内地に侵入し、遂に羈縻を開けるは史上注意すべき事なり。

こーが 黄海 (Yellow Sea) 韓國の西、滿洲の南、支那本部の東にある大海にして、南は東海に連る、其水濁りて黄色を呈す、以て此名ありと、蓋し、黄河の水黄土を含んで此處に注入するを以てなり。江界 韓國平安道にあり、京城を距る一百三里、此地もと、咸鏡道に屬せしが、世宗王の時

平安道に編入せれる、附近一帶所謂鴨綠江上流の大深林地にして、樹林藪鬱として、大材巨幹多く、良材の産出地として知らる、此地往古、清太宗の發祥地に近きを以て、清廷に對する政略上、廢郡とせしが、近時遼東地方の清人來り、材木の採伐に従ふもの多し。

こーかいどー 黄海道 (Hwang-Hai) 韓國の西岸、平安南道の南に在り、山脈全道に分布するも、平野亦少からず、地味稍豊饒なり、海州に治所を置きて全道を治む。

こーかけん 五河縣 清國安徽省、泗川にあり。

こーかけん 江夏縣 清國湖北省、武昌府にあり。交河縣 清國直隸省、河間府にあり。

こーかちー 五家張 清國吉林省にあり、松花江の右岸に位す、伯都納の上流約二十里にあり、人口約二千、吉林、伯都納の大道及び長春、阿楚喀及び白彦蘇々間の大道の交叉點にして、交通の要路に當り、市況稍盛なり。

こーかどー 孤下島 韓國木浦居留地の南方海中にあり、木浦港の關門を爲す、島内鹽の産出多し。

こーかんけん 孝感縣 清國湖北省、漢陽府にあり。

こーがんけん 黄巖縣 清國浙江省、寧州府にあり。

こーがりのーえさちほー 黄河流域地方 清國直隸、山東、山西、河南、陝西、甘肅の六省、所謂中原の地を云ふ、同河

の氾濫は肥料の効ある細泥を其流域に止め、耕耘に資すること頗る大にして、土地頗る豊饒なり、然れども同河氾濫多く、其被害極めて大にして、數百町の田野一時に荒廢するこ

と少かなす。  
二一七 清國貴州省の西南に興義府あり。興義縣は同府に屬す。清國陝西省、西安府に孝義廳あり。山西、汾州府に孝義縣あり。

二一八 興義府 清國貴州省の南端に位し、廣西地方に通ずる要路に當り、商業稍々盛なり。

二一九 江鏡 韓國忠清南道にあり、恩津郡に屬し、京城を距る三十七里、錦江の沿岸にあり、水陸交通の便多く、且京城大路の衝に當るを以て市街頗る殷盛にして、元山、平壤と相並んで、韓國の三大市場と稱せらる、人口四千、我國人の居留者亦多し。

二二〇 吳橋縣 清國直隸省、河間府にあり。

二二一 興業縣 清國廣西省、鬱林州にあり。

二二二 黑鹽井 清國雲南州、楚雄府にあり。

二二三 激溪江 一に衢江と稱す、清國浙江省、衢州府同化縣の百濟鎮に發し、東流數十里にして、東陽江に合し、錢塘江となる。

二二四 殺城縣 清國湖北省、襄陽府にあり。

二二五 黑龍江城 「アイゲン」城の別稱。

二二六 黑龍江省 滿洲の西北部を占め、黒龍江を隔てて露領黒龍江州と相對す、西は露領トランス、バイカル州及蒙古に、南は蒙古及吉林省に境す、面積約八十九萬方哩、黒龍江及激江流域は平野多く、耕作に適し、且牧畜に富むも、内地は山地多く、森林鬱茂して、野獸多く生息し、木材、毛皮等の産に富み、礦産亦尠からず。

二二七 興化 清國福建省にあり、興化府に屬す、福州府の南に隣り、仙遊運河の左岸に位す、地勢三面山を負ひ、一面海に臨む、商業稍々盛にして、砂糖、煙草、落花生等を輸出す。清國福建省三沙灣頭に興化府あり。江蘇省、揚州府に興化縣あり。

二二八 光化縣 清國湖北省、襄陽府にあり。江華縣 清國湖南省、永州府にあり。

二二九 江華嶋 (Kang-Kwa) 韓國仁川の西北方漢江の流口にある一島にして、周圍三十餘里、其東北岸に江華府あり、府内に離宮、兵營、武庫等あり、住民は重に漁業を營み、又航海に従事するもの多し、島中石材、莞草等を産す、西紀一三三一年蒙古の太宗が撒里禮塔をして、高麗の高宗を征せしむるや、高宗餘を此地に避く、其後一三八九年李

黒水 「コクリョーニ」を見よ。

黒水靺鞨 現今の黒龍江地方に據りし女眞國にして、唐代より漸次隆盛となり、遂に金朝の基を創す。

國內城 今の清國奉天府懷仁縣の東、鴨綠江の上流にありとも云ひ、或は今の韓國平安北道義州の地なりとも云ふも、詳かならず、西紀四世紀の頃、高句麗の故國厚王の一時遷都せし所なりと。

高句麗 後世高麗に作る、漢の成帝の時、扶餘國の王子高朱蒙南に移りて王業を創め、數世の後版圖を擴め、今の韓國、咸鏡、平安、江原、黃海の諸道を征服し、一時頗る盛なりしが、後内憂外患交々起り、其勢漸く振はず、唐の高宗の時唐將李勣の討滅する所となる、建國以來七百五年、代を重ねる二十八にして亡ぶ。

黒林 「ハラホルム」の漢稱。

黒龍江 (Amur) 弱水又は弱洛水と云ひ、土俗黒水と稱す、亞細亞東大陸の一大河にして「シルカ」「アルゲン」兩河の合流なり、共に源を蒙古に發し、二流合して東流し、松花江、烏蘇里江等を合せ、「ニコライエフスタ」に於て薩榭海峡に注ぐ、全長千二百里、西比利亞第一の要河にして、八百餘里の間舟行に適す、其沿岸は古代遼陽及高麗人の

成往高麗王朝を廢して、此島に斷す、一八六六年朝鮮擾亂の擧あるや、佛艦此島を襲ひ、利あらずして去れり、仁川開港後、此に水兵團を置き漢江口を防備せることあり。

候官縣 清國福建省、福州府にあり。

壺關縣 清國山西省、潞安府にあり。

支那周の代の都にして、今の陝西省西安府なり、「せーあん」府を見よ。興京 清國盛京省にあり、奉天府の東約百二十哩、渾河の上流に位す、清の太祖の舊都にして、四方峻嶺により圍まれ、交通極めて不便なり、日露戰役の際、我が最右翼軍たる鴨綠江軍、清河城及び撫順方面より漸次敵を壓迫して、奉天大會戰を距る三日、即ち明治三十八年三月十三日此地を占領せり、此地を距る約三哩に清太祖の墳墓地たる永陵あり。

鄂縣 清國陝西省、西安府にあり。吳縣 清國江蘇省、蘇州府にあり。

瑯縣 清國山東省、臨清州にあり、もと東昌府に屬す。絳縣 清國山西省、絳州にあり。興縣 清國山西省、太原府にあり。

廣元縣 清國四川省、保寧府にあり。

固原州 清國甘肅省、平涼府にあり。

江原道 (Kang-wen) 韓國日本海に面する

一道にして、西北は平安、黄海兩道に接し、四南京畿、忠清道と境し、南は慶尙道に、北は咸鏡道に隣る、東一帯海に臨み、西方山嶺多く、高山亦少からず、風景の美なる韓國第一の稱あり、山間亦奇景多く、關東入景の稱あり、然れども地極めて礫納にして、農耕に適せざるも、至る所嶺脈に富み、産額亦少からず、此地古の鎭國の根據地にして、上古我國との關係尤も深き地と稱せらる。

2201 吳江 清國浙江省蘇州府より杭州府に至る通路中にあり、城は方形にして、周圍三里、六城門あり、戸數七、八百、商業振はず、漸次衰微の傾あり、米、種菜油等を産す。

2202 瀘江 清國上海の別稱、「しゃんはい」を見よ。湖廣 清國湖南湖北兩省の總稱、湖廣總督武昌に駐在し兩省を治む。

2203 興國 興國州は清國湖北省、武州府にあり。興國縣は江西省、贛州府にあり。

2204 湖口縣 清國江西省、九江府にあり。

2205 吳江縣 清國江蘇省、蘇州府にあり。

2206 高濟縣 清國江蘇省、江寧府にあり。黃岡縣 清國湖北省、黃州府にあり。

2207 合江縣 清國四川省、瀘州にあり。

2208 古今島 韓國全羅南道木浦を距る約五十哩の

海中にあり、長港灣あり、附近漁利多し。

2209 五寨縣 清國山西省、寧武府にあり。

2210 孤山 清國浙江省、西湖の中にある一小嶼にして、其嶺を歲寒巖と稱し、山陰を後湖即裏湖と云ふ、林處士の隱居、有東閣、放鶴亭、和靖墓、四賢祠等あり、東に瑪瑙坡あり、西に六一泉、數峰閣あり、島中梅樹多し。

2211 黃山 一に恩山とも稱す、韓國忠清南道連山郡の地たり。二に恩山とも稱す、韓國忠清南道連山郡に臨む、江を隔てて忠清道の江景と相對し、市街稍々繁盛なり。

2212 甲山 (Kop-san) 韓國咸鏡南道の北部に在る金嶺山なり、一に慶川、甲州、夷山等とも稱す。三香山 清國北京近郊の一勝地なり。四恒山 (Hanshan) 清國直隸省定州府曲陽縣の西北にあり、古の五岳の一にして、一に北嶽と稱す、興安嶺の一支脈なり。五衡山 (Kanshan) 支那南嶺の一支脈にして古の五岳の一たり、湖南省衡州府衡山縣の西方にあり。

2213 光山縣 清國河南省、光州にあり。江山縣 清國浙江省、衢州府にあり。衡山縣 清國湖南省、衡州府にあり。香山縣 清國廣東省、廣州府にあり。興山縣 清國湖北省、宜昌府にあり。

2214 廣信府 清國江西省の東方にあり。

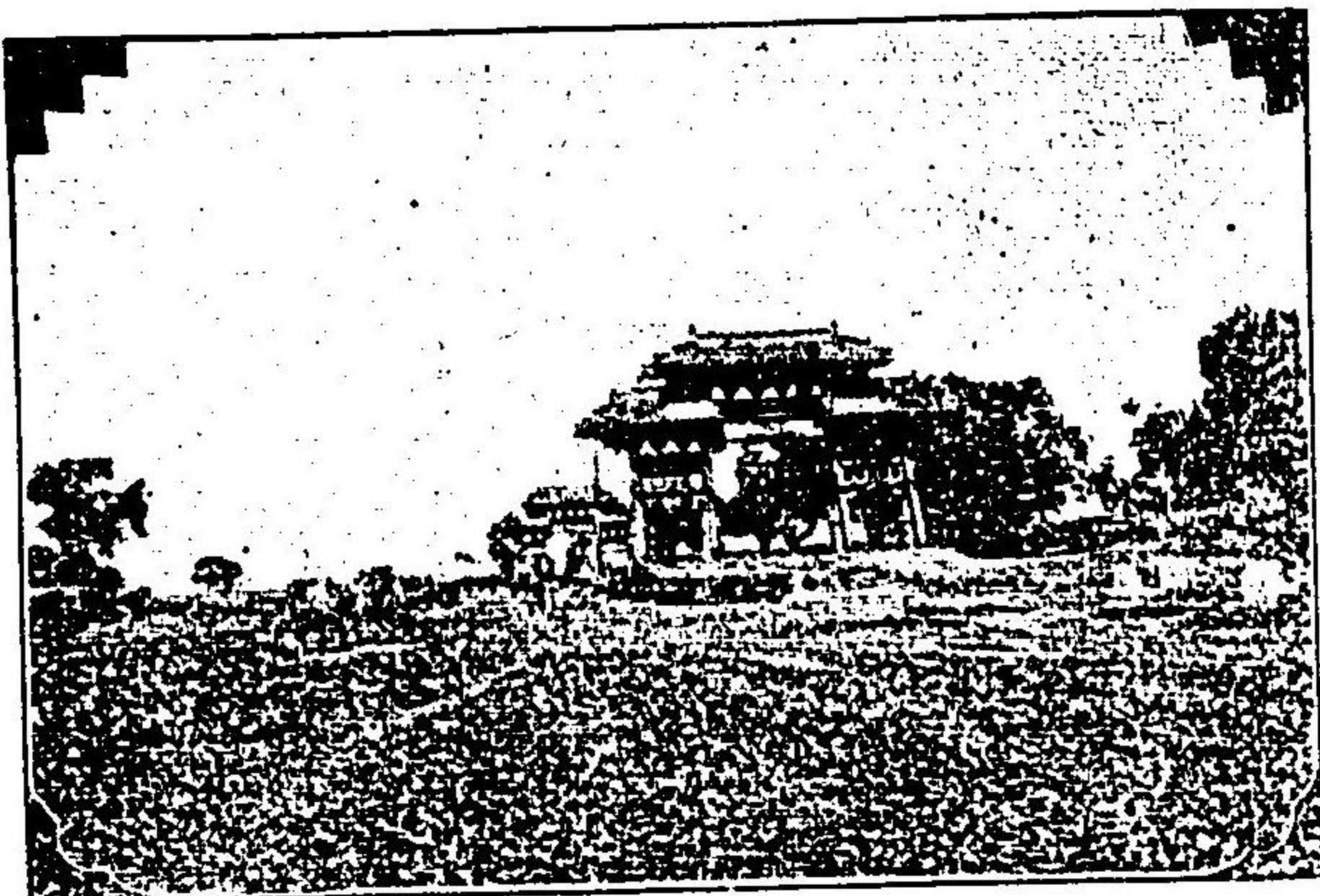
2215 興仁門 韓國京城四大門の一にして、東大門の稱なり、壯觀雄偉、堅牢無比と稱せらる。

2216 湖州 清國浙江省の西北部にあり、杭州を距る水路十六里、蘇州を去る二十里餘、生糸、米等産出の中心地たり、人口約十萬、此地禹域揚州にして、春秋の時吳に、後ち越に屬し、戰國の時楚に、三國吳の寶鼎元年始めて吳興郡を置き、隋の代湖州を置き、宋の寶慶の初、安吉州と爲し、元の時湖州路と稱し、明の初今の名に改む、長髮賊の亂、賊將黃老虎來りて之を攻む、清兵拒守三年城内糧盡き城陥り老虎代り據守せしが、清兵の圍む所となり終に降る、府城略菱形をなし、南北最長約九千尺、東西約六千尺、六城門を設く、人口約十萬餘、河中船居のものを加ふれば十六萬に上るといふ、蠶糸の産出頗る多く、毎年の産額五萬包に達すと。

2217 梧州 (Wu-chau) 清國廣西省梧州府にあり、西江の北岸、桂江の會流點に位し、一八九七年に開かれたる開港場なり、此地兩廣二省の中央に位し、廣西の咽喉を扼し頗る重要地點にあるも、一八五七年長髮賊蜂起の際、所在の賊徒の占領する所となり、大半荒廢に歸し、且つ一八九四年火災に罹りてより、未だ其舊觀を復する能はず、「古史に舜南巡して蒼梧に崩す」とあるは、當地のことなりと。

2218 黃寺

(皇寺) 清國奉天府小西邊門外にあり、本名實勝寺、喇嘛教の本山にして、皇室の尊信篤く、大喇嘛什勒布木東其寺主たり、本寺所藏の西藏、蒙古、滿洲三文の藏經は古來有名なるものにして、其滿文藏經の如き乾隆帝の勅撰にして、名僧章嘉湖圖克圖が漢藏兩經を參考して、譯出せるものとす。



(寺黃外門邊西小)

2219 虎崗峽

清國湖北省宜昌峽の下流にあり。

2220 固始縣

清國河南省、光州にあり。

2221 江津縣

清國四川省、重慶府にあり。

廣州 (Huang-shi) 韓國黃海道にあり、京城平壤間の要路に當り、且大豆産地の中心地を占め市況最盛なり、京義鐵道の一驛にして、且兼三浦線の分岐點なるを以て、將來頗る有望の地なり。○廣州 (Kwang-shu) 「かんとん」を凡ふ。○光州 (Kwang-shu) 韓國全羅南道の首府にして、



羅州の東六里にあり、榮山江の上流に位す、附近廣漠たる平野にして農産物多し、人口約六千、人家櫛比し商業盛なり。○洪州 韓國忠清道にあり、京城を距る二十七里、附近平野多く、農耕に適し、米豆の産多し、人口三千五百餘、附近貨物の集散地に

して商業頗る盛なり。○公州 (Kong-shi) 韓國忠清南道の首府にして、錦江中流の左岸にあり、京城を距る南三十里、京義鐵道英江停車場へ六里、水陸交通の便多く、商業頗る盛なり、春秋二期に藥種大市を開き、盛況驚くべきものありしが、近時政府命令の下に、忠清北道の忠州及び慶尙南道の普州等にて市を開くに至り、漸く衰微の傾あり。○杭州 (Hang-shu) 清國浙江省巡撫の所在地にして、錢塘江の北岸にあり、大運河の起點に當る、水利の便多く、古來商業繁盛の地として知らる、人口六十萬と稱す、茶、蠶糸、絹織物を産す、馬關條約の結果として開かれたる開港場にして我が領事館、郵便局等の設あり。○高州 清國江西省の南方に贛州府あり、贛州縣は同府に屬す。○高州 清國廣東省の西南に高州府あり。四川省叙州府に高州縣あり。○黃州 清國湖北省の東部揚子江の沿岸に黃州府あり、山東省、登州府に黃州縣あり。

合州 清國四川省、重慶府にあり。

廣宗縣 清國直隸省、順德府にあり。

古州廳 清國貴州省、黎平府にあり。

黃州府 清國湖北省漢口の下流、揚子江の左岸にあり、人口約三萬、此地古へ蘇東坡の貶謫せられし地にして、有名なる赤壁山は府城の西北漢川門外にあり、又其上

に元の忽必烈の大軍を渡したる陽邏堡の要津あり。○濟州府 清國湖北省、湘江の沿岸にあり。○廣州府 (Kwang-shu) 清國廣東省の首府にして、廣東と稱し、一に省城又は羊城と云ふ、兩廣總督駐在地なり、珠江の北東に位し、新舊二城より成る、人口約百萬、南清貿易の中心地にして、且海外貿易の大埠頭たり、清國開港場中尤も早く開けたる所に於て西歐諸國との關係尤も深し、香港の發達以來、商權漸く其地に移り、此地の貿易一大影響を受くるに至れり、住民一般に野卑なるも堅忍不撓の氣宇に富み、海外移住者の多き、清國中第一位を占む。

廣順州 清國貴州省、貴陽府にあり。

膠州灣 (Kiau-chau) 清國山東省南岸の一

大灣にして、灣内圓形にして直徑約十五里、其面積百八十五哩、灣口約二哩、深さ二十尋に達す、日清戰役後、露國旅順口を租借すると同時に獨逸亦此地を租借せり、其範圍は、灣の周圍三十一哩に及ぶ、灣の西北に膠州市あり、南岸の一小半島の東南角に青島あり、百般の設備よく整頓し、獨逸山東經營の策源地たり、灣の近傍は土地一般に荒廢を極めたる焦土にして、黄色粘土中處々に花崗石塊散布す、灣口の西方十一哩に打蒜山あり、一に高雙山と稱す。○廣州府 清國廣東省にあり、北は吳川より西南雷州府に至る、八百九個の

村落と二個の島嶼等より成る、面積三百八十餘方哩、明治三十二年佛國の租借地となれる所にして、爾來同國は此地を東洋の軍港、且つ商港となさんかため、盛に其經營を爲せり、綿糸、黒砂糖等を輸出す。

吳淞 (Wu-shung) 清國江蘇省の開港場にして、上海より黃浦河を下り吳淞江に出づる所にあり、一八九八年上海の外港として、開かれたるものにして、港内水深く大船巨船の碇繋に便なり、此處に有名なる吳淞砲臺あり、陸に滬滬鐵道あり、上海に通ひ、延長十七哩、同國鐵道布設の濫觴たり。

固城 韓國慶尙道泗川の東にあり、蓄永軍統營の在りし地にして、一に鐵城と稱す。

故城縣 清國直隸省、河間府にあり。

廣昌縣 清國直隸省、易州にあり。○江

西省建昌府にあり。

交城縣 清國山西省、太原府にあり。○藁

城縣 清國直隸省、正定府にあり。○考城縣 清國河南省、衛輝府にあり。○項城縣 清國河南省、陳州府にあり。

孤嶼山 清國浙江省甌江中の一島にして、文天

祥が守備を議せし所として知らる。

五將山 清國陝西省、西安府醴泉縣の西北約



三十里にあり。

こしよーちよー 五常廳 滿洲の北部拉林河左岸の谷地にあり。拉林市を距る東南約十五里、人口約一千。

こしよーどん 胡庄屯 滿洲營口の東約七里にあり、丘陵に沿ひ、風景佳なり、家畜の貿易地として、頗る殷盛なり、市場は三乃至四日毎に開かる。

こすいけん 衡水縣 清國直隸省、冀州にあり。

こすいけん 合水縣 清國甘肅省、慶陽府にあり。

こせい 湖西 韓國忠清南道、及同北道地方の別稱。

こせい 江西 韓國平安南道にあり、鎮南浦を距る八里半平壤へ七里、人家稠密にして、市況稍々殷盛なり。

こせいけん 廣濟縣 清國湖北省、黃州府にあり。

こせいしよー 江西省 (Kiangsi) 清國安徽省の西南にあり、北は長江を隔てて、湖北省に對し、西は湖南省に、南は廣東省に、東は福建、浙江二省に境す、地勢西南東の三面山脈により圍なれ、贛江其中央を流れ鄱陽湖北方に横はり、諸水多く之に注ぐ、有名なる茶の産地にして、首都を南昌とす、面積約六萬七千五百方哩、人口二千六百五十三萬二千餘あり。○廣西省 (Kwangsi) 清國廣東省の西北に位す、北は貴州、湖南兩省に、東は廣東省に、南は佛領安南に接し、西雲南省に境し、西江之れを貫流す、山地多く、地味亦硬確にして、建康に適せず、桂林は其首都なり、面積約八萬方哩、人口五百十四萬二千餘、山地には苗族の居住者多し。

て、建康に適せず、桂林は其首都なり、面積約八萬方哩、人口五百十四萬二千餘、山地には苗族の居住者多し。

こせん 杭扇 清國浙江省杭州府に産する扇なり。

こせんけん 吳川縣 清國廣西省、高州府にあり。

こせんけん 江州縣 清國雲南省、澂江府にあり。

こせんろー 降仙樓 韓國平安南道成川にある巖一の樓觀にして、壬辰の役世子の避難せし所なり。

こそさん 姑蘇山 清國江蘇省、蘇州府外にあり、寒山寺と共に「月落烏啼」の詩にて有名なり、又城外西南三十里に姑蘇臺あり、吳王闔閭の築造せるものにして、其高さ三百丈餘、登るに九曲の道あり、絶頂よく六十里外を望見し得ると稱す。

こせしよー 江蘇省 (Kiangsi) 支那本部東岸の一省にして、東一帯黃海に臨み、西は河南、安徽省に、南は浙江省に、北は山東省に接す、揚子江其南部を貫きて、洪澤、高郵の二大湖あり、且大運河南北に貫通し、從て水利の便に富み、地味亦豊饒なり、面積三萬六千九百方哩、人口二千三百九十八萬餘あり、本省は古の建康即ち江寧府の所在地たるを以て史上尤も重要な位置を占め、從て名所古跡の訪ふべきもの少からず。

こぞのいんこー 吳楚咽喉 清國江西省の九江、即ち古の

所謂潯陽なり。

こだいけん 五臺縣 清國山西省、代州にあり。

こだいけん 高臺縣 清國甘肅省、肅州にあり。

こだいさん 五臺山 韓國江原道の海岸に近き山名にして、五峰五臺の勝を以て有名なり。

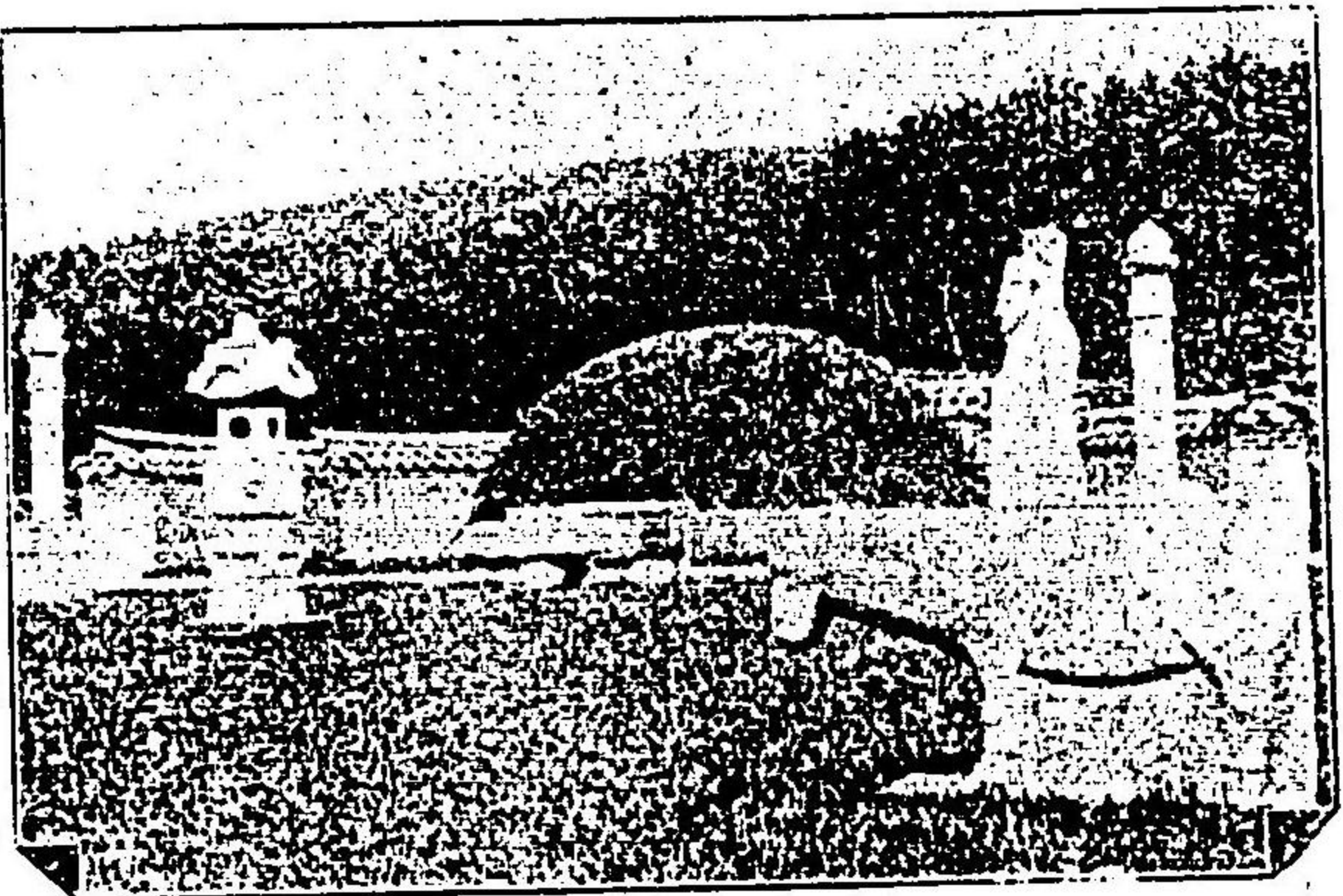
こたか 濼沱河 清國山西省の代州の山地より發し、直隸省保定府の西南より河間府に至り渤海灣に注ぐ。

こたくけん 光澤縣 清國福建省、邵武府にあり。

こたくこ 洪澤湖 清國江蘇省、安徽省の間在り、淮水流れて此に注ぎ、其水更に流れて淤黄河に入り、又大運河に横く、此湖も一小溜池に過ぎざりしが、黄河氾濫して涯水を塞ぎ、其水渚して大湖となる、湖中二小島あり、ともに風景に富む。

こつけん 滑縣 清國河南省、衛輝府にあり。

こつけん 廣通縣 清國雲南省、楚雄府にあり。



こでんけん 古田縣 清國福建省、福州府にあり。

こーと 江都 清國江蘇省、揚州府の古稱。

こーとくり 孔德里 韓國京城南大門より約二十町の所にあり、もと現王の父君大院君の別墅の地にして、此地の一小丘に其陵墓あり、丘上漢江を望み風景頗る佳なり。

こーけん 行唐縣 清國直隸省、正定府にあり。

こーけん 洪洞縣 清國山西省、平陽府にあり。

こーくしよー 廣德州 清國安徽省の直隸州なり。

こーけん 江都縣 清國江蘇省、揚州府にあり。

こーしよー 高唐州 清國山東省、東昌府にあり。

こなん 湖南 韓國全羅南道、及同北道を云ふ。

こーなん 江南 清國江蘇省、安徽省の兩省を云ふ、揚子江の流域にして地味最も沃饒、人家稠密にして、都府の殷賑なるも

の亦尤も此地方に多し。

こゝなが 江南河 隋の煬帝の開く所、即ち今の浙江の運河にして、京口より餘杭(今の杭州)に至り、頗る運輸の便あり。

こゝなんしよー 湖南省 (Hu-nan) 支那本部の一省にして、

東は江西省に、西は貴州、四川の兩省に、南は福建、江西に、北は湖北省に接す、地勢南部は山岳重疊たるも、北部には洞庭湖あり、湘江、沅江等の水流多く之に合す、附近廣漠たる平野相連り、地味豊饒にして五穀の産多し、洞庭湖畔には岳陽樓、武陵桃源の如き名勝地多し、長沙は本省の首都にして湖南巡撫駐在す、面積七萬四千方哩、人口約二千二百十六萬九千餘。

こゝなんのしんし 江南唇齒 清國安徽省、廬州を云ふ。

こゝなんふ 廣南府 清國雲南省の東南隅にあり。

こゝねいけん 廣寧縣 清國盛京省、廣寧山の麓にあり、支那聖地の一にして、錦州府の東北約二十里にあり。興寧縣 清國湖南省、郴州にあり。廣東省嘉應州にあり。

こゝねいふ 江寧府 (Kiang-Ning) 清國江蘇省の南部にあり、一に南京と稱す、又金陵、建康、石頭、秣陵、蔣州、鐘阜等とも云ふ、其江寧と稱するは清朝の命名による、吳(建業の都)、東晉、南朝、明(應天府の都)の舊都にして、今は兩江總督の駐在する地として知らる。

こゝぶししー 向武州 清國廣西省、鎮安府にあり。

こゝぶししー 科布多城 (Kobdo) 外蒙古科布多部に在り、烏里雅蘇臺に次ぐ繁華の都會にして、外蒙古西北部の咽喉を扼し、新疆の各地に通ずる重要地點にして、參贊大臣駐紮し、邊防を司る、人口約三千。

こゝぶんけん 興文縣 清國四川省、叙州府にあり。

こゝへいけん 高平縣 清國山西省、澤州府にあり。興平縣 清國陝西省、西安府にあり。黃平州 清國貴州省、鎮遠府にあり。

こゝへいふ 廣平府 (Hwang-Ping) 清國直隸省南部の一都會なり、廣平縣之れに屬す。

こゝほくしよー 湖北省 (Hu-Peh) 清國安徽省の西、河南省の南に位し、西は四川、陝西省に接し、南は江西、湖南兩省に連る、長江の中流流域平原を占め、土地豊饒にして、麻、棉、茶等の産多し、漢江亦本省を貫流し、湖水多く、水運の便多し、武昌は其首府なり、面積六萬五千九百方哩、人口約三千五百二十八萬六百餘。

こゝほくちよー 江北廳 清國四川省、重慶府にあり。

こゝほけん 江浦縣 清國江蘇省、江寧府にあり。

こゝほけん 合浦縣 清國廣西省、廉州府にあり。

督の駐在地たり、昔は文學の府と稱せられ、文人、雅客多く、今は開港場として、人口約四十萬、綢、緞、絞、綾、陶器の製造盛なり、就中南京緞子有名なり、南朝の四百八十寺、明皇の舊陵、王安石の居跡、方孝孺の墓等の名所蕭々多し、城壁は明の洪武年間の修築する所にして、高さ五十呎乃至六十呎、周回十七哩、二十六門を備へ、結構極めて壯大なり、此地咸豊の亂、長髮賊の根據地となり、市街殆んど兵燹に歸し、頗る荒廢せしが、近時漸く恢復して大に其面目を改むるに至れり、一八五八年清佛條約により開港場となり、日、英、佛等諸國の租借地あり。

こゝひけん 黃附縣 清國湖北省、漢陽府にあり。

こゝひけん 合肥縣 清國安徽省、廬州府にあり。

こゝびさばく 戈壁沙漠 (Gobi) 蒙古の中央にあり、全土の三分一を占め、西南部より東部に亘る、土人は「シャモ」、漢人は「瀚海」と云ふ、海拔凡四千尺、長さ八百餘里、幅二百里あり、地勢概ね平坦にして岳陵は波状をなし、積水處々に散在するも、沙漠の中部は數百里間一の水流なく、氣候は夏季炎熱燥くが如く、冬季寒威凜冽なるのみならず、秋冬の頃強風吹き荒々み、砂石を飛ばし、草木を抜き、隊商を苦むること頗る多し。

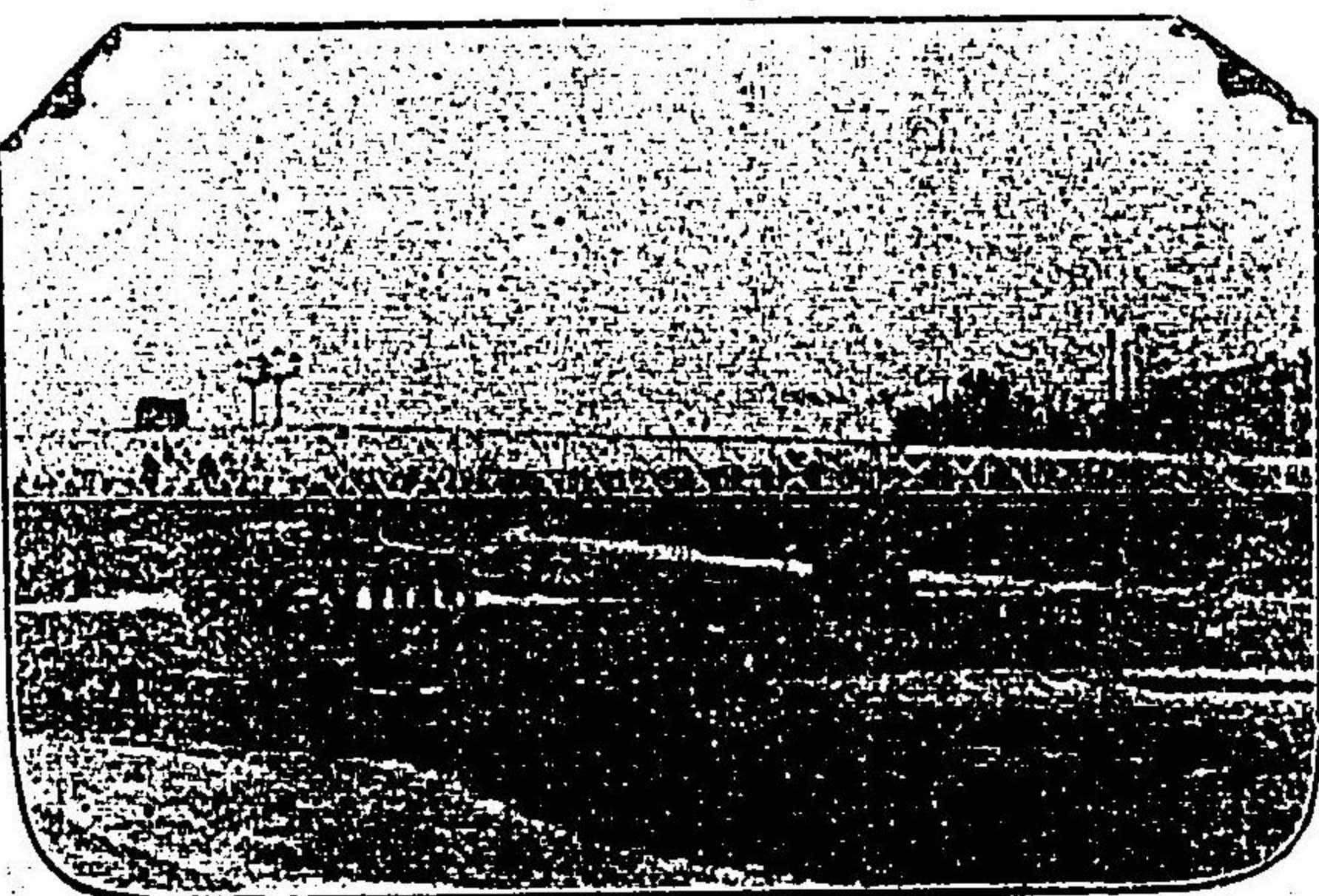
こゝふ 古阜 韓國全羅北道の西南部に在り、東學黨の巨魁全

こゝほーけん 吳堡縣 清國陝西省、綏德府に屬す。

こゝほーけん 孝豐縣 清國浙江省、湖州府にあり。廣豐縣 清國江西省、廣信府にあり。

こゝみつけん 高密縣 清國山東省、萊州府にあり。

こゝなが 渾河 一に潘水と稱す、滿洲奉天府の東南方を流れて遼河に入る、源を南滿洲の邊疆に發し、東北より西南に向つて流る、水淺く、夏季は沙洲により自由に徒渉するを得、日露奉天大會戰前、兩軍此河を挾んで陣し、屢々激戦せる所たり、河上滿洲鐵道の鐵橋を架



(橋 鐵 河 渾)

す、長さ二千二百呎、日露戦役の際露軍之を破壊して退却し、我軍巨額の費を抛つて間もなく之を修架せり。

こんごうざん 金剛山 韓國江原道の東北部にあり、太白山系に屬す、一に楓岳又一萬二千峯と稱す、東亞の名山にして、山麓に禪宗の大本山正陽寺を始め、其他の名刹多し。

こんざんけん 昆山縣 清國江蘇省、蘇州府にあり。

こんしん 琿春 (Kham-ch'an) 滿洲吉林省にあり、清、韓、露三國の境界に接する要地にして、圖們江の左岸、琿春河の右岸に位す、露國との陸上貿易行はれ、牛、豚、麥粉等を輸出し、更紗、綿布、石油、燐寸、卷煙草等を輸入す、我國よりは綿布、ランプ、傘等を輸出す。

こんごうごう 混同江 滿洲松花江の古稱なり。

こんめいけん 混明縣 清國雲南省、雲南府にあり。

こんよーしゅー 昆陽州 清國雲南省、雲南府にあり。

こーめいけん 高明縣 清國廣東省、肇慶府にあり。

こーもん 江門 清國廣東省西江の支流の沿岸にあり、明治三十八年の開港場にして、廣東の西南方面に對する貨物の集散地として、將來有望の地たり。

こーゆけん 贛榆縣 清國江蘇省、海州にあり。

こーゆーけん 高邑縣 清國直隸省、趙州にあり。

こーろほー 高浪浦 韓國京畿道にあり長湍郡に屬す、開城府を距る東六里、臨津江畔に位す、有名なる長湍大豆の最も多く産出する地にして、且附近貨物の集散地たり。

こーろほー 香爐峰 清國江西省九江の名山なり。

こーゆーしゅー 高郵州 清國江蘇省、揚州府にあり。

こーよーけん 衡陽縣 清國湖南省、衡州府にあり。

こーよーけん 高陽縣 清國直隸省、保定府にあり。

こーらんけん 皋蘭縣 清國甘肅省、蘭州府にあり。

こーりーかい 五拉界 「アイラジエ」或は「ウルカイ」と云ふ、滿洲吉林省にあり、吉林府を距る約七八里、松花江下流の右岸に位す、人口約一萬。

こーりー 江陵 韓國江原道の東岸にあり、職國の故都にして、且臨屯郡の治所たりし所なり、清國湖北省荊州府江陵縣にして、秦の末漢初の頃共敖、臨江王となりて都せし所なりと。

こーりーけん 高陵縣 清國陝西省、西安府にあり。

こーれい 高靈 大駕洛の古稱なり。

こーれいけん 廣靈縣 清國山西省、大同府にあり。

こーろくごー 光祿島 清國盛京省、黄海沿岸、長山列島の西に在り。

こーろーけん 古浪縣 清國甘肅省、涼州府にあり。

こーろーけん 黃銀縣 清國四川省、雷波衛にあり。

さいかえん 細河沿 一に橋頭と云ふ、滿洲遼陽の東約十五里、順天嶺の山脈を帯び、太子河の支流に臨み、頗る險要の地たり、明治三十七年六月十九日黒木大將の率ある日本第一軍露軍を撃破して、此地を占領せり。

さいねー 載寧 韓國黃海道にあり、載寧江の西岸に位す、東南北の三面平野に接し、戸數約五百、水陸運輸の便多く附近の貨物集散地にして、商業頗る盛なり。

さいねーこー 載寧江 韓國大同江の一支流にして、黃海道にあり、其水深く、上流數里に四五百石積の船舶を通航せしむるを得、其流域附近は所謂棘城の野にして、地味肥沃、五穀の産多し。

さいびしゅー 賽馬集 土音之を「サマシ」と云ふ、清國盛京省鳳凰城の東北約十八里に位す、巴道河兩源流の會合點にあり、山間の都邑にして、市況稍々繁盛なり、海拔約九千尺、極めて險要の地たり、明治三十七年六月七日、日本第一軍露軍を撃破して此地を占領せり。

さうんけん 左雲縣 清國山西省、朔平府にあり。

さが 沙河 清國北京の北方十里許(日本里數)、又温榆河と

いふ、昌平、宛平二縣の界を流れて遂に白河に注ぐ。

まろしゅー朔州 清國山西省、朔平府にあり。

まろへいふ朔平府 清國山西省にありて、北方萬里長城の南に位す。

まろしゅー左州 清國廣西省、太平府にあり。

まろしゅー雜谷廳 清國四川省茂州に屬す。

さんいんけん 山陰縣 清國浙江省、紹興府にあり。○山西省、大同府にあり。

さんかいぐん 山海關 (Shan-hai-guan) 清國直隸省の要地にして、長城其北に連り、南渤海に臨む、滿洲方面に至るの要關にして極めて險要の地たり、津榆鐵道此地に終はり、關外鐵道是より起る、清祖の朔北に興るや、先づ金、遼の地を取り、蒙古を併せ、以て明の關外に及びしが、此地を破り、本部に關入せんとするに當りて、前後殆んど三十年間、大小數百戰に及び、却て明兵に擊退せらる、以て其



(關一第下天)

險要の地たるを知るべし、城は輪關地と稱し、其東門に天下第一關の額を掲ぐ、海に沿て七砲臺あり、北清事變後、暫時我兵の駐屯せしことあり、英露の兩國亦鐵道を監視せり、附近牧場及耕田多し、關の西南に唐山あり、開平炭の産出地として知らる。

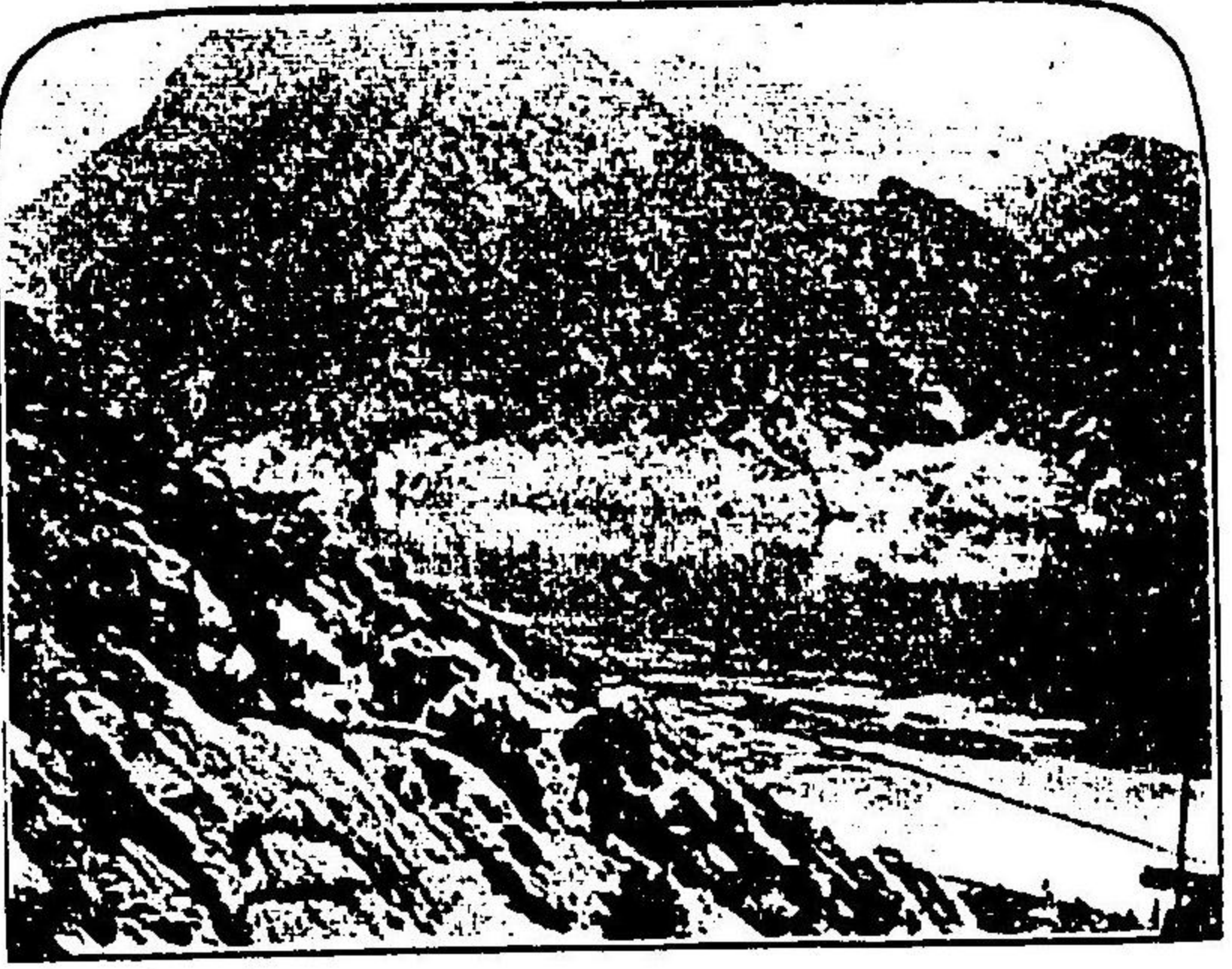
さんかけん 三河縣 清國直隸省、順天府の東路廳にあり。

さんきょー三峽 楊子江流れて湖北省に入り、夔州府治の東より宜昌府治の西に至る間、兩岸峭立、巖壁絶壁高く聳え、奔流激湍、其間を走り、其勢凄まじく、之を峽江と稱し、宜昌峽、巫山峽、兵書峽の三峽あるより又之を三峽とも云ふ。

さんげんけん 三原縣 清國陝西省、西安府にあり。

さんこー三江 何れも清國、江蘇省太湖の委流にして、松江、婁江、東江の三江より成る。○松江は太湖より流れて蘇州府、吳江縣、長橋口より嘉定縣の東南吳淞口に至りて海に入る。○婁江

も亦太湖より分流して蘇倉州の東を流れて、大倉省の東南劉家河口に至りて海に入る。○東江も亦太湖より流れて吳江縣の東南を過ぎ浙江省嘉興府附近より海鹽縣の東北に至りて海に入りしが、今は江蘇省松江府より松江に合して海に注ぐ。



(峽山巫)

さんせいしゅー三水 (San-shui) 「さんすい」を見よ。

さんせいしゅー三涉 一に涉洲といふ、韓國京城を距る五十八里、曾根山の南麓にある一都邑にして、往古悉直國の地なり、其東約一里に三涉浦あり、嘗て水軍營を置かれたる所なり、

り、三涉の西北曹賢山の東麓に江陵あり、昔時鐵の都せし處にして、新羅時代には溟省と稱す。

さんじょー山城子 滿洲開原縣の東、海龍城の西にある都邑にして、商俗多し、郭外の丘陵に古城址あり、今帝室領森林内に入り、庶民の出入を禁す。

さんすい 三水 (San-shui) 清國廣東省三水縣にあり、西江、北江、潭江の會流點に位す、甘竹を距る二十六裡、四紀一八九七年に開ける開港場なり。

さんすいけん 三水縣 清國陝西省、邠州にあり。○廣東省、邠州府にあり。

さんせいしゅー三姓 (San-sheng) 滿洲語にて「イランハラ」と云ふ、滿洲吉林省の一市にして、松花江と瑚爾哈河(牡丹江)との合流地點の東南岸に位す、人口約七千、市街三方水流を繞らし舟楫の便多く、穀物木材等の取引活潑なり、附近に有名なる砂金の産出地あり。

さんせいしゅー山西省 (Shan-shi) 清國直隸省の西に在り、西は陝西省に、南は河南省に、北は蒙古に境す、地勢西に大行山脈あり、北に陰山あり、平野少く、地味一般に磽确にして、人口稀少なり、一に晉と云ふ、往古、堯は平陽府に、舜は蒲州府に、禹は解州に都せしと云ふ、首府を太原府とす、面積六萬六千七百方哩、人口約一千二百二十萬餘。

さんただいけん 三臺縣 清國四川省、瀘州府にあり。

さんたけん 山丹縣 清國甘肅省、甘州府にあり。

さんつお 三都 一に三沙と云ふ、清國福建省、三都澳の中央なる福海島にあり、福寧府寧海縣に屬す、福州を距る約四里餘、一八九九年の開港場にして、港内水深く、大船巨船の投錨に便なり、商業未だ微々として振はざるも、茶の輸出の中心地として將來有望の地と稱せらる。

さんごーかく 山東角 清國山東省、山東半島東端の岬にして、黃海に突出す、遼東半島と南北相應じて渤海海口を扼す、其東端に榮城灣及び威海衛あり、共に日清戦役に於て有名なる所とす。

さんごーしー 山東省 (Shan-tung) 支那本部の一省にして、渤海と黃海との間に突出し、南は江蘇省に隣り、西は河南省に接し、北は直隸海峽を隔てて遼東半島と相對す、地勢至る所山岳多く、良港灣に富む、面積約十四萬五千方哩、人口約千六百二十五萬、齊魯の故地にして、半島の南には齊の田單が火牛の謀を用ひ、燕の樂毅の軍を破りし即墨城あり。

さんごーてつごー 山東鐵道 清國山東省膠州と同省濟南との間の鐵道にして、獨逸國政府の經營せるものなり。  
さんなん 三南 韓國の南部即ち全羅、忠清、慶尙三道の總稱にして嶺南、湖南、湖西を云ふ、同國中最も土地豐饒にして

て五穀の産多く、同國の寶庫と稱せらる、人口亦頗る稠密、京釜鐵道此地を通す。

さんばさん 三哈屯 滿洲吉林省拉林河の支流、莫林河の右岸に位し、五常縣の東南約七里にあり、市街繞らすに土壁を以てす、人口約五千。

さんぶーがわ 藏布川 (Sampu) 西藏の南部にあり、其流域は南部西藏の主部にして、人口最も稠密なり。

さんもんわん 三門灣 清國浙江省の東岸に在り、嘗て伊太利政府屢々此地を租借せんとして失敗せし所なり。

さんよーけん 山陽縣 清國江蘇省、淮安府にあり。陝西省、高州にあり。

さんろーしん 三浪津 韓國慶尙道密陽府にあり、巨谷江の洛東江と合する所にして、地勢山を負ひ水に臨み船舶の便あり、附近貨物の集散地にして、商業殷盛なり、此地を距る半里柳島に京釜鐵道停車場あり。

さんさんみゃく 薩彦山脉 蒙古の北、露清兩國の境を成す山脈にして、其高峯「ムーツエン」山は高さ一萬一千四百尺あり。

さりん 沙林 滿洲奉天府の南約五里、遼陽の西にある大邑にして、人口約二萬。  
さりーしー 茶陵州 清國湖南省、長沙府にあり。

し

しあんけん 思安縣 清國雲南省、昭通府にあり。

しおん 思恩 清國廣西省にあり。思恩縣 廣西省、慶遠府にあり。

しかい 洱海 清國雲南省にあり、其形人耳に似たるより此名ありと、南北約十三里、東西約二里、湖水極めて深く、五十尋に及ぶ所あり、其水流れて陽平江となり瀾滄江に注ぐ、湖上の風景絶佳と稱せらる。

しきんじょー 紫禁城 清國北京城内にある宮殿の名稱、「へきん」を見よ。

しきわいけん 四會縣 清國廣東省、肇慶府にあり。

じけいけん 慈谿縣 清國浙江省、寧波府にあり。

しこー資江 清國湖南省の南境山中に發源し、北流して洞庭湖に入る。

しこーけん 芷江縣 清國湖南省、沅州府にあり。始興縣 清國廣東省、南雄州にあり。枝江縣 清國湖北省、荊州府にあり。  
ししゅー 泗州 清國安徽省の直隸州なり。資州 清國四川省の直隸州なり。

じしゅー 磁州 (Tschuan) 清國河南省、彰德府にあり、唐の時置き河北道に屬せしめし地なり。清國直隸省廣平府にあり。

ししゅーけん 師宗縣 清國雲南省、廣西州にあり。

ししゅーふ 思州府 清國貴州省、思南府の南方にあり、府城は湖南省沅州府に近く位す、往古商業の盛地なりしが、今は其商權全く鎮遠に奪はれて振はす。

しじょーふ 泗城府 清國廣西省の西隅にあり。

しすい 泗水 一に清河と云ひ、又南清河といふ、清國山東省、泗水縣の東なる陪尾山に發し、四泉井に西流し、始め合して一となり、後分れて江南運河に入る。

しすいし 泗水師 清國左記の四艦隊を云ふ。

名稱	管轄區域	長官
北洋水師	渤海の沿岸	北洋海軍提督 (直隸總督に屬す)
南洋水師	江蘇浙江兩省沿岸	南洋海軍提督 (兩江總督に屬す)
福建水師	福建省の沿岸	福建海軍提督 (閩浙總督に屬す)
廣東水師	廣東省の沿岸	廣東海軍提督 (兩廣總督に屬す)
しせん 泗川	韓國慶尙南道の南部、晋州の南にあり、島津義弘が明將董一元の大軍を撃破せし所なり。	

しせんけん 淄川縣 清國山東省、濟南府にあり。

しせんしよー 四川省 支那本部の一省にして、東は湖南、

湖北兩省に接し、西は西藏に接し、南は雲南、貴州に、北は陝西、甘肅兩省に隣る、山岳多く、谿谷幽邃なり、蜀の故地にして、成都を首府とす、面積十六萬八千方哩、人口約六千八百七十二萬四千餘あり、楊子江横断山脈の溪間を南下し、次で省の南部を東西に貫流して、湖北省に入り、嘉陵江、瓊江、鴨綠江、皆本省より流れて楊子江に注ぐ、四川省の名蓋し之れより起ると、

しちくりん 紫竹林 清國天津に於ける外國人の居留地を云ふ、本邦領事館此處に在り。

しちやんこー 七山嶋 韓國木浦より群山に至る航路の間、靈光郡法聖浦の海上十四五哩にある群島にして、石首魚(タチウオ)の産多く、其流區南北二十哩、東西十哩に及ぶ。

じっしよーけん 日照縣 清國山東省、沂州府にあり。

しな 支那 (China) 清國の外國人の稱呼にして、其起因に關する説多きも、秦の始皇帝海内を統一し、餘威國外に及びしより、附近の民族之を呼んで秦となし、後轉訛して支那となりしとの説尤も有力なるが如し、尙「しん、く」(清國)の部参照。

しなのしちん 支那四鎮 湖北省の漢口、河南省の朱仙、

江西省の景德、廣東省の佛山之れなり。

しなのばり 支那巴里 清國四川省成都府の歐稱なり、之れ其街衢廣濶、店舖櫛比、官廳寺院の壯麗なる支那第一なるにやれり、尙「せーと」(成都)の部参照。

しなへいげん 支那平原 支那東部、及北東部の平原を云ふ。

しなほんぶ 支那本部 (China Proper) 亞細亞の東部に位し、東は渤海、黄海、東海、及南海に瀕し、北は滿洲及蒙古の漠野に接し、西北は長城に沿ひ、蒙古、及新疆と分ち、西は新疆、及西藏に接し、南はバールマ、シヤム、及安南に隣る、面積約百三十五萬方哩、人口四億七百三十三萬餘、直隸、山東、山西、河南、陝西、甘肅、江蘇、安徽、江西、湖北、湖南、四川、雲南、貴州、浙江、福建、廣東、廣西の十八省に別る、尙清國及び各省の部参照。

しなんふ 思南府 清國貴州省の東北涪陵江の流域にあり、本省北部の重要地點にして、附近水銀の産多し。施南府 清國湖北省の西南隅にあり。

しへいがい 四平街 清國奉天府市街の中心地にして、各種の店舖軒を並べ、車馬絡繹行人織るが如し、商店の多くは吳服商、毛皮商及び雜貨店にして、大商店にては巧に彫刻及び

るる鏡塘江の上流にして、源を安徽省徽州府の西北なる黄山に發す。

しんうんけん 縉雲縣 清國浙江省、處州府にあり。

しんかけん 新河縣 清國直隸省、冀州にあり。

しんかん 辰韓 古の三韓の一にして、現今韓國慶尙道の東部に當る、當時秦民の乱を避けて、此地に住するもの多かりしに由りて、一に秦韓とも云ふ、後新羅の爲めに併せらる。

しんぎけん 信宜縣 清國廣東省、高州府にあり。

しんぎしよー 新義州 韓國平安道の北部義州の下一里許にあり、京義鐵道終點地たり。

しんきんけん 新淦縣 清國江西省、臨江府にあり。

しんきんけん 新渠縣 清國甘肅省、寧夏府にあり。

しんきんけん 新郷縣 清國河南省、衛輝府の西南八里餘にあり、道口鐵道の一驛にて、附近貨物集散の中心地たり。

しんきんけん 新疆省 (Sin-Kiang) 支那本部の西部に位し、西、及北は蒙古、並に露領中央亞細亞に界し、東、及南は喀喇崑崙山脈、及崑崙山脈によりカシミル、西藏、青海、及甘肅省に接す、面積九萬七千方哩、人口百二十萬、支那の直領省にして、巡撫を置きて統治す。

しんくわいけん 新會縣 清國廣東省、廣州府にあり。

しんくわいけん 仁懷縣 清國貴州省、遵義にあり。同

裝飾を施せる  
廣告を店頭高  
く飾り、以て  
客の來るを待  
つ。

しへいけん 施  
秉縣 清國  
貴州省、鎮遠  
府にあり。

しへー思茅  
(Shi-Mao) 清國  
雲南省、南部  
の開市場にし  
て、支那最良  
の茶を産す、  
人口約一萬。



(街 平 四)

しめん 四明 「ねーほー」(寧波)を見よ。

しんあんけん 新安縣 清國直隸省、保定府にあり。河

南省、河南府にあり。秦安縣 清國甘肅省、秦州にあり。

しんあんこー 新安江 一に徽江と稱す、清國浙江省に流

省遊義府にあり。

しんくわけん 新化縣 清國湖南省、資慶府にあり。

じんくわけん 仁和縣 清國浙江省、杭州府にあり。①仁化

縣 清國廣東省、韶州府にあり。

しんけいけん 辰谿縣 清國湖南省、辰州府にあり。

しんけん 莘縣 清國山東省、東昌府にあり。

しんけんけん 進賢縣 清國江西省、南昌府にあり。①新建

縣 清國江西省、南昌府にあり。

しんげんげん 沁源縣 清國山西省、沁州にあり。

しんごー ①申江 清國上海の別稱なり。②新興縣 清國雲

南省、貴州府にあり。③新興縣 廣東州肇慶府にあり。

しんごー 清國 (China) 支那帝國と稱し、國人自から呼ん

で中國或は中華と云ふ、清國とは今より二百五十年前建設

せられたる現朝の稱なり、東北は烏蘇里、黒龍の二江を以

て、北及北西は興安嶺、阿爾泰山等の諸脈によりて露領西北

利亞に接し、西は天山山脈を以て露領土耳其斯坦と分れ、南

はヒマラヤ山脈を隔てて英領印度、バルマ、シヤム、安南に

隣り、東は支那海、東海、黃海に臨み、鴨綠江により韓國に界

す、東西長一千三百里、南北幅九百里、面積六十九萬九千餘

方里、人口四億萬餘、支那本部、滿洲、蒙古、新疆及西藏等に

分る。

しんごのしゅーきー 清國宗教 信仰自由にして、儒教、

喇嘛教、佛教、道教、回教、天主教、耶穌新教等専ら行はる、

其中儒教最も盛にして、喇嘛教之れに次ぐ。

しんごのじゅーみん 清國住民 主に蒙古人種にして支

那人(漢人種)、滿洲人、蒙古人、西藏人、苗人及び土耳其人之

れなり。

しんごのぞーせんしゅ 清國造船所 馬尾、上海、廣東等

にあり。

しんごのたぐいふー 清國二大弊風 婦人の纏足

(幼児の時より足を緊縮して、成るべく小なるを美とす、故

に其足骨軟弱の如く彎曲し、歩行に堪へざる者あり)と、鴉

片喫煙の弊の行はるること之れなり。

しんごのいせいぞーしゅ 清國兵器製造所 上海、天

津、江寧、廣東、吉林、蘭州等に在り。

しんごーけん 普江縣 清國福建省、泉州府にあり。

しんごーけん 新郷縣 清國河南省、衛輝府にあり。

しんさいけん 新蔡縣 清國河南省、汝寧府にあり。

しんしんけん 新津縣 清國四川省、成都府にあり。

しんしゅー ①深州 清國直隸省の直隸州なり。②秦州 清

國甘肅省にあり。③沁州 清國山西省の直隸州なり。④晋

州 清國直隸省、正定府にあり。⑤晉州 (Chungking) 韓國慶

尚道の首府にして、馬山浦の四方、沃野の間に位す、木綿の

産地として名あり、交通の要衝に當るを以て貨物の集散繁

く、市況頗る活潑なり、人口約二萬。

じんじゅけん 仁壽縣 清國四川省、資州にあり。

しんしゅーふ 辰州府 清國湖南省にあり。

しんじょーき 新場基 韓國慶尙道蔚山灣の北東岸にあり、

陸路慶州等の各邑に通じ交通の便多し、商船常に輻輳す。

しんしゅーけん 新昌縣 清國江西省、瑞州府にあり。①

浙江省、紹興府にあり。

しんじょーけん 新城縣 清國直隸省、保定府にあり。①

江西省、建昌府にあり。②浙江省、杭州府にあり。③山東省、

濟南府にあり。

しんじょーほ 新城浦 韓國全羅南道にあり、順天郡に屬す、

俗に「エートル」と稱す、近く順天郡の諸邑を控え、交通の要

衝に當り、船舶の出入多し。

しんすいけん 沁水縣 清國山西省、澤州府にあり。

じんせん 仁川 (Inch'on) 韓國三大開港場中最重要のもの

にして、江華灣内、漢江河口の東北岸にあり、其埠頭を濟物

浦といふ、前面に月尾島、小月尾島等横はり、港内風浪の危

険なく、船舶常に輻輳す、京城を距る陸路十二里、鐵道の便

あり、又漢江を溯り汽船の往復あり、日本專管居留地、領事

館、第一、第十八、第五十八銀行の各支店、日本郵船、大坂商

船兩會社支店

及其他の會

社、小學校、病

院等あり、此

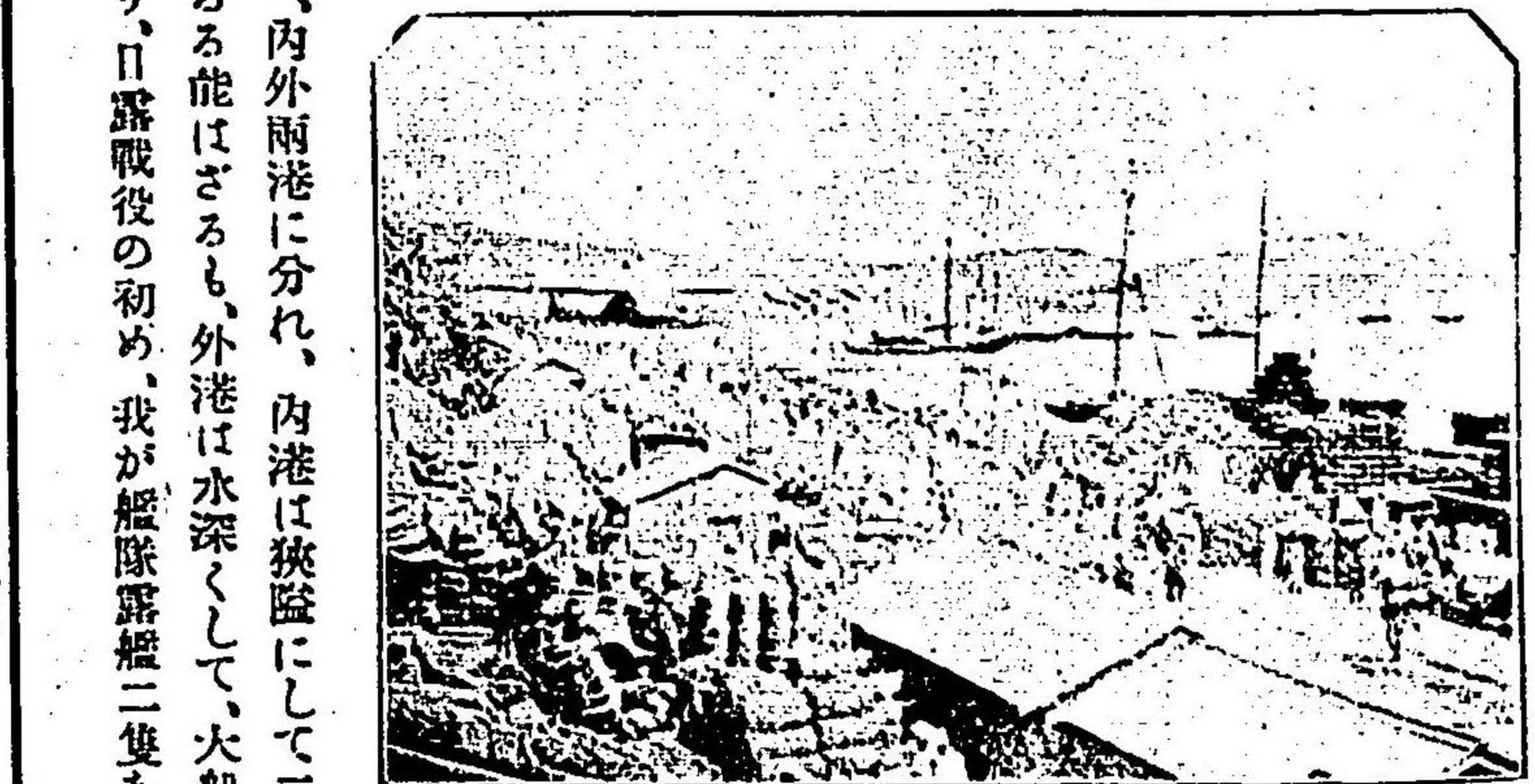
地明治十六年

我政府の要求

により始めて

開港せるもの

にして、もと



(仁川)

じんせんばうけい 仁川八景 韓國仁川附近の風景にして「鼎足の山」「漢江の水」「瓦釜丘の月」「華島の雲」「月尾島の花」「八尾島の朝霞」「沙尾島の夕照」「華開洞の夜色」是れなり。

しんたいけん 新泰縣 清國山東省、泰安府にあり。  
しんたくけん 濰澤縣 清國江蘇省、蘇州府にあり。◎深澤縣 清國直隸省、定州にあり。

しんちけん 神池縣 清國山西省、寧武府にあり。  
しんていけん 新鄭縣 清國河南省、開封府にあり。  
しんてん 新店 滿洲吉林省松花江の右岸白彦蘇々の下流にあり、吉林、伯都納等より同楚略、賓州を経て三姓に至る道路の要衝に當る、附近沃野多く、農産饒多にして、此地より松花江下流に送る貨物頗る多し。

しんでんけん 新田縣 清國湖南省、永州府にあり。  
しんてんしゅ 尋甸州 清國雲南省、曲靖府にあり。  
しんぞけん 新都縣 清國四川省、成都府にあり。

しんぞけん 梓潼縣 清國四川省、錦州にあり。  
しんねー 新寧 清國廣西省、南寧府に新寧府あり、湖南省寶慶府、四川省綏定府及び廣東省廣州府等に新寧縣あり。  
しんねーしゅー 晋寧州 清國雲南省、雲南府にあり。

しんねーとー 秦皇島 (Chin-Yang-Tao) 清國直隸省山海

めて頻繁なり、日露戦役の際、我第三軍は早くも此地を占領し、大迂回をなして、以て奉天大會戦に奇功を奏し、占領後奉天間に輕便鐵道を敷設して、以て軍用に供せり、戦後其所屬につき日清兩國間の問題たり、此地前に新民屯と稱せしが、後新民縣と改む。

しんやけん 新野縣 清國河南省、南陽府にあり。  
しんゆけん 新喻縣 清國江西北、臨江府にあり。

しんよー 海陽 清國江西北、九江の蕪稱なり。  
しんよーけん 新陽縣 清國江蘇省、蘇州府にあり。  
しんよーしゅー 信陽州 清國河南省、汝寧府にあり。◎清國河南省の南方、湖北省との境にあり、賢山の麓に位す、人口約五萬、城内に道臺、知州衙門、兵營等あり、京漢鐵道の停車場あり。

しんら 新羅 四紀前五七年頃、朴赫居世が朝鮮の南部、今の慶尚道に建設せし國にして、辰韓、弁韓の諸部を合せ韓半島の南部を領せしが、神功皇后の征伐に遭ひ、我に朝貢する數十年、六六八年頃高句麗、百濟の滅後、漸次其領土を擴張し、唐の内亂起るに乗じ、半島全部を併吞せしが、八三五年頃高麗の爲めに滅ぼされ、建國以來九百九十二年五十五世にして滅ぶ。

しんらくけん 新樂縣 清國直隸省、正定府にあり。

關の南四里、渤海中に突出せる一小半島地にして、冬期の寄泊地として重要地點を占め、西紀一九〇〇年(明治三十四年)開港地となれり、港には一哩餘の突堤と、約二哩の防波堤とありて、以て風浪を防ぎ、數個の波止場ありて、碇泊に便なり、陸には鐵道ありて、榆津鐵道の蕩河驛に通じ、水陸運輸の便多く、將來有望の地たり、羊毛、獸皮、石炭等の輸出盛なり。

しんぱんけん 新繁縣 清國四川省、成都府にあり。  
しんぺいけん 新平縣 清國雲南省、元江州にあり。  
しんぺいほ 新兵堡 清國盛京省、興京の東約十里にあり、清の光緒元年に開設せし村邑にして、人口約一千、人参、毛皮等の貿易地なり。

しんぼ 新浦 韓國咸鏡南道にあり、陸臺岬と馬養島とに擁せられて成れる港灣にして、海の北東は丘陵相連り、西北南の三方の風を避け碇泊安全なり、近海明太魚の産地にして、其漁期には漁船の出入多し。

しんぼくけん 神木縣 清國陝西省、榆林府にあり。  
しんぼくけん 信豐縣 清國江西北、贛州府にあり。  
しんみんちやう 新民廳 清國盛京省、奉天府の西十三里にあり、遼河中流の流域に位す、人口約三萬、附近貨物の集散地にして、關外鐵道の支線此地に達し、北京方面との交通極

しんれい 秦嶺 清國陝西省、西安府藍田縣にあり、秦嶺山脈の一にして、韓退之の「雲橫秦嶺家何在、雲擁藍關馬不前」の句を以て名高し。

しんれいさんみやく 秦嶺山脉 清國甘肅省の秦嶺山に起り、陝西省の中部を横斷し、河南省の伏牛山脉の熊耳山に接概す。

しんわいすい 秦淮水 舊名を龍藏浦と云ひ、清國江蘇省にあり、一は句容縣の北なる華山に發して南流し、一は漂水縣の東南東廬山に發し、北流して二者相合し、遂に大江に注ぐ。

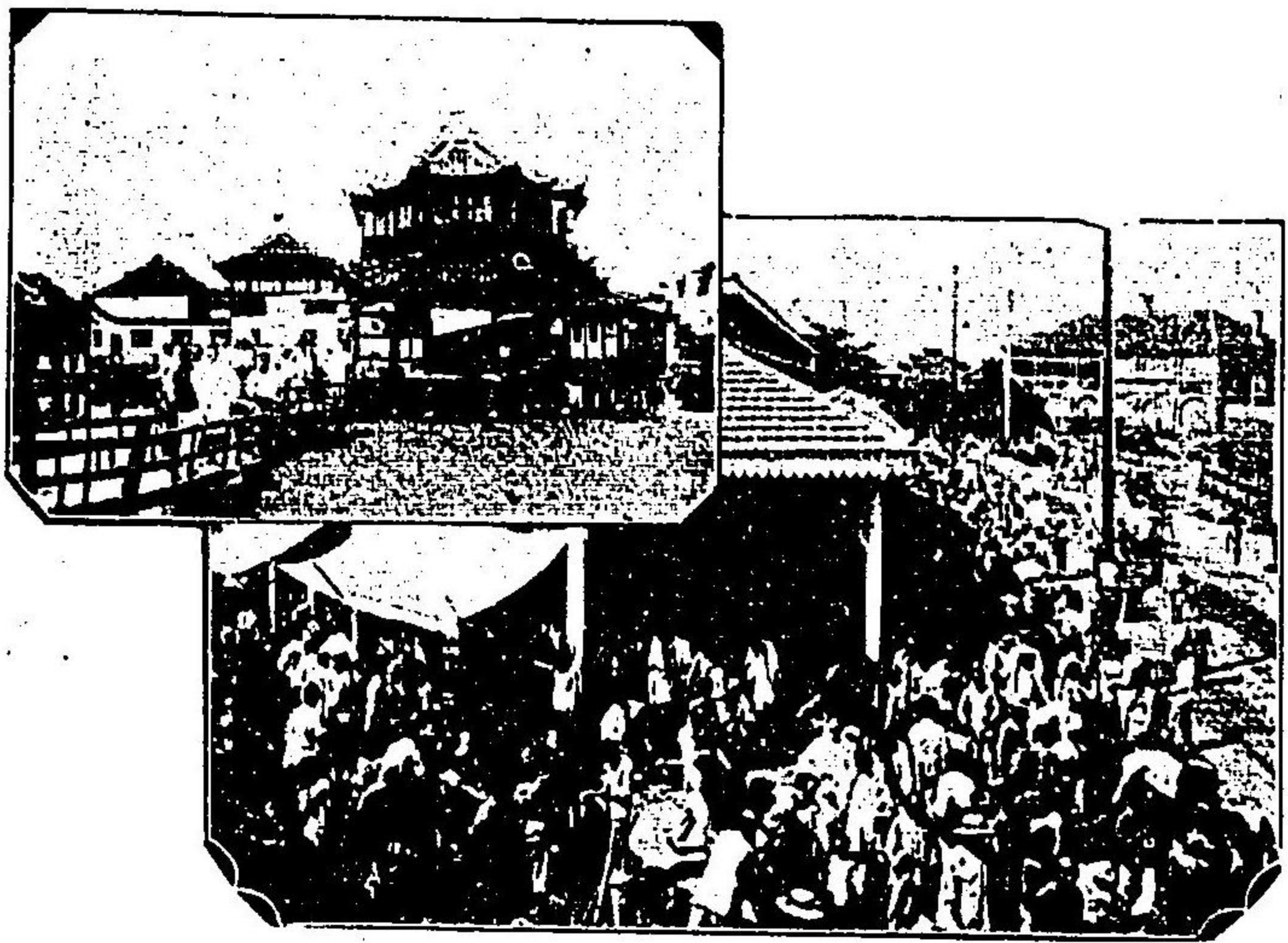
しんきやう 射洪 清國四川省、潼川府にあり。  
しんきやうしゅー 釋皇寺 韓國元山津を距ること七里、京城街道にあり、堂宇壯麗にして、風景に富む、賽者常に多し。

しんけん 沙縣 清國福建省、延平府にあり。  
しんしゃし 沙市 (Shashi) 清國湖北省、長江の北岸に位す、一に荆沙又沙頭と云ふ、漢口の上流二百八十七里にあり、此地中央支那航路の中心點に當り、運輸の便多し、馬關條約の結果、開港せし樞要の地にして、棉産地の中心なり、日本領事館、及郵便局あり。

しんしゃん 書房 韓國の既婚男子の稱にして、結婚す。  
しんしゃんばい 上海 (Shanghai) 清國江蘇省の最東南角にあり、吳淞江と黃浦江との合流點に位し、附近廣漠たる平野に



して、水陸交通の便多く、東洋第一の貿易港たり、輸出入總



(海上)

額年二億五千餘萬兩に達す、市街の設備構造も亦極めて完

全にして、他に多く比類を見ず、各國專管居留地あり、大厦  
高樓を並べ、秩序整然として成る、我郵船會社所屬の大倉  
庫と、其專用棧橋、日本領事館、其他本邦人の營める商館、旅  
店、概ね米租界に在り、横濱正金銀行支店、日清商品陳列所  
は英租界に、大阪商船支店は佛租界に在り、其他招商局、麥  
邊洋行本店、怡和洋行、太古洋行(北英)、大東汽船(日本)、ビ  
ーオー、エムエム(北米)、及北獨逸各汽船會社の支店并に代  
理店あり、此地一千八百四十三年阿片戰爭終結後、英清兩  
國間に結ばれたる南京條約の結果として開かれたる開港場  
にして、一に中江又滬江と稱す、東洋航海の汽船は必ず此地  
に寄港す、唯惜むらくは、河床年々高まり大船巨舶の入港に  
適せず、近時河流通濶計畫の噂あるも、未だ其成功如何を聞  
かず、吳淞は其外港にして、此港の不便を補はんがために開  
港せられたるものにして、兩者の間に鐵道の便あり。

しやも (Shamo) 「び砂漠」を見よ。

しやれいさんみく 車嶺山脉 韓國の橫斷山脉なり。

しやいがけん 習義縣 清國雲南省、臨安府にあり。

しやいかこー 周家口 清國河南省、沙河と賈魯河との交  
點に位し、市街三叉に分る、沙河の南岸を河南縣、北岸を河  
北縣、賈魯の西岸を河西縣と云ふ、其中河北縣最も繁盛な  
り、人口通じて二十五六萬、省内第一殷盛の地とす。

しやーかん 岫巖 (Siu-sen) 滿州盛京省、大洋河の中流にあ  
り、岫巖石の産出を以て名あり、日清戰役の時我軍の占領せ  
し地にして、日露戰役の際に我が大孤山上陸軍の通過地點  
たり。

じゅきよー 儒教 經義(聖賢の教)によりて世道人心を教化す  
るものにして、佛教、道教に對して起りし名目なり、孔子を  
祖とし之を祭る、現今清國に行はるる宗教中の首位を占む。

しゅくしん 肅慎 其地詳かならず、北海道の北部か、將た滿  
洲大陸の一部か、而して肅慎の字は假用なるべしとの説あ  
り。

しゅくしやー 宿州 清國安徽省、鳳陽府にあり。○肅州 清  
國甘肅省の直隸州なり。○(Siu-chuan) 清國甘肅省の西北隅  
に在る一都會にして、もと漢の酒泉郡の地なり、隋の時肅州  
と稱す、明の時之を肅州府となせしが、清に至り、肅州直隸  
州となせり。

しゅくしやーけん 宿松縣 清國安徽省、安慶府にあり。

しゅくわーけん 肅寧縣 清國直隸省、河間府にあり。

じゅくくわーけん 從化縣 清國廣東省、廣州府にあり。

じゅーけい 重慶 (Chung-king) 清國四川省、嘉陵江と楊子  
江との合流點にして、楊子江の上流一千四百哩にあり、馬關  
條約によりて開かれたる貿易港にして、貿易の範圍甚廣大

なり、我領事館、及專管居留地あり、人口二十三萬と稱す、此  
地一に渝州或は固陵と云ひ、古來より巴蜀の難關と稱せら  
る、周時巴國の地にして、秦に巴郡と云ひ、漢には江州或は  
永寧と稱す、梁に楚州、隋に渝州、唐に南平と云ひ、宋に寧り  
て始めて重慶と稱す、一千八百九十年英清開港の定によ  
り條件附開港場となりしが、日清戰役後馬關條約により純  
然たる開港場となれり。

しゅーけん 攸縣 清國湖南省、長沙府にあり。

しゅーこー 珠江 (Siu-kei) 東江、西江、南江の三水より成  
り、其中西江最も大にして本流をなす、清國雲南省に發源  
し、廣東に入りて潯江となり、江西省の南疆に發する東江と  
合し、廣東灣に注ぐ、支那南部に於ける最重要の河にして、  
運輸の便と物産の豊富と共に大なり。

じゅーこーけん 壽光縣 清國山東省、青州府にあり。

しゅーこーりえーきわーほう 珠江流域地方 支那本部の南  
部なる廣東、廣西、雲南三省の地を云ふ、該地域は古來苗、獠  
等の蠻族の巢窟たりしが、近來南方アシアとの交通開け、次  
第に其面目を改むるに至れり。

しゅーざんけん 秀山縣 清國四川省、酉陽州にあり。

しゅーざんれつごー 舟山列嶋 清國浙江省の東海に散布せ  
る諸島にして、杭州灣口に位し、普陀島、岱山島、嵎山島、大衛

島、馬鞍島等より成る、明の末年勤王の士王族を擁して此地に據り、鴉片戦役に英軍假根據地として一時之を占領せり。

しゅーじんけん 修仁縣 清國廣西省、平樂府にあり。

しゅーしゅー 壽州 清國安徽省、鳳陽府にあり。

しゅーしゅーけん 壽昌縣 清國浙江省、嚴州府にあり。

しゅーすいけん 秀水縣 清國浙江省、嘉興府にあり。

しゅーせん 朱仙 支那四鎮の一にして、河南省にあり。

しゅーせん 周村 清國山東省にあり、山東鐵道の一驛にして、開市場たり、此地近年迄極めて寂寥たる一寒村なりしが、近時俄かに勃興して同省内に於ける唯一の物貨集散地となれり、絹糸、絹織物等の産あり。

しゅーちゅーけん 壽張縣 清國山東省、兗州府にあり。

しゅーねーけん 壽寧縣 清國福建省、福寧府にあり。

しゅーぶけん 修武縣 清國河南省、懷慶府にあり。

しゅーぶんけん 修文縣 清國貴州省、貴陽府にあり。

しゅーふーれー 秋風嶺 韓國忠清、慶尙兩道の界にありて、交通の衝に當る。

しゅーほーけん 什那縣 清國四川省、成都府にあり。

しゅーんあんけん 淳安縣 清國浙江省、嚴州府にあり。

しゅーんぎ 遵義 清國貴州省の北方遵義府にあり。○遵義縣は同府に屬す。

じゅんぎけん 順義縣 清國直隸省、順天府北路廳にあり。

じゅんくけん 淳化縣 清國陝西省分州に屬す。

じゅんくわしゅー 遵化州 清國直隸省の直隸州たり、もと順天府(北京)に屬したりしものなり。

じゅんくわちゅー 循化廳 清國甘肅省、蘭州府に屬す。

じゅんけいふ 順慶府 清國四川省にあり、嘉陵江の左岸に位す、重慶より保寧府に通ずる要路に當る、附近地味肥沃にして五穀の産多し。

じゅんしゅーふ 濶州府 清國廣西省にありて、濶江に臨む。

じゅんしゅーけん 順昌縣 清國福建省、延平府にあり。

じゅんせん 春川 韓國江原道にあり、東城を距る東北二十里、北に山を貫ひ、南照陽江(漢江上流)に臨み、商業稍繁盛なり、此地古の獺狛國の古都にして、獺城又獺城と稱するものあり。

じゅんてんふ 順天府 清國北京の本名なり。

じゅんてんゆー 順天邑 韓國全羅道新成浦の西北三里許にあり、戸數約四千、毎月二、七の日市を開く、市人來集するもの多し、文祿の役、豊太閤の死去により我軍韓國を引き上げんとし、明韓兩國軍の追撃に遇ひ大激戦せる所とす。

じゅんてん 順德 清國直隸省の西南に順德府あり。○廣

東省、廣州府に順德縣あり。

じゅんねー 順寧 清國雲南省の西南に順寧府あり。○順寧縣は同府の内にあり。

じゅんぶ 巡撫 清國の地方官にして、支那本部に於ては直隸、四川の二省を除き、他の諸省に設け、又新疆にもあり、其資格總督の下級官吏にあらずして、之れと同級官吏なり、即總督と相議して事務を處理す、按察使司、鹽運使司、布政使司、糧道、分巡道、海關監督、知府、知州、知縣等皆其下にあり。

じゅんぶけん 洵陽縣 清國陝西省、興安府にあり、もとは興安州に屬したりき。

じゅよーけん 壽陽縣 清國山西省、平定府にあり。

じゅーあんけん 詔安縣 清國福建省、漳州府にあり。

じゅあんごー 所安嶋 韓國全羅道の南端、唐津の突角より約八里の海中にあり、木浦を距る約三十五里、其西方、甫吉島、荷島、露見島等と相擁して、一大港をなす、船舶の碇繋に便なり、附近我漁舟の集合地にして、鮑、海鼠、鱈等の好漁場あり。

しゅーいんけん 湘陰縣 清國湖南省、長沙府にあり。

しゅえいちゅー 叙永廳 清國四川省にあり。

しゅーえんけん 招遠縣 清國山東省、登州府にあり。

しゅーえんけん 襄垣縣 清國山西省、潞安府にあり。

じゅーおーしゅー 上峽州 清國廣西省、鎮安府の屬州たりしが今廢されたり。

しゅーがく 松嶽 韓國京城の西北にあり。

しゅーかけん 商河縣 清國山東省、武定府にあり。

じゅーかごー 上下凍 清國廣西省、太平府にある土州なり。

じゅーかん 常漢 韓國人に於ける族制の一にして、一に常民と間稱す、普通の人民にして、農工商業等に從事す、何等の權利を有せず、兩班に對しては絶體的に服従せざるべからず、生活上非常なる制限、束縛を受け、兵役其他あらゆる義務を負ふ。

しゅーきあけん 昌吉縣 清國甘肅省、迪化州にあり。

しゅーきよー 松京 韓國開城の別稱なり。

しゅーかんのさんかん 蜀漢三關 陽平關(陝西省漢中府寧羌州褒城縣の西北にあり、一に漢陽關と稱す)。○白水關(陝西省漢中府寧羌州の西南約十七里にあり)。○江關(四川省夔州府の東にあり、一に壘塘關と云ふ)。

じゅーぐけん 上虞縣 清國浙江省、紹興府にあり。

しゅーごん 稷山 韓國慶尙道にあり、一に蛇山と云ふ、百濟の溫祿王始めて都を奠めし河南慰禮城の地にして、文祿の役黒田長政、明將麻貴を破りし所なり。

しゅーごんけん 稷山縣 清國山西省、絳州にあり。

しよくさんちん 蜀山鎮 清國江蘇省、常州府下荆溪縣にあり、支那最古の陶業地にして、茶壺、茶瓶、茶碗等の製造盛なり。

しよのさんごう 蜀棧道 清國四川省成都より陝西の西安府に出でんとする四川省境にあり、極めて險難羊腸の路として知らる。

しよくちけん 昌化縣 清國杭州府にあり。 廣東省瓊州府にあり。 昭化縣 清國四川省、保寧府にあり。

しよくちん 松花江 (Sun-gari-kiang) 滿洲の大河にして、長白山脈に發源し、西北流して、伯都納附近にて西興安嶺より來る諸江を合せ、嫩水を入れ、東北流して黒龍江に注ぐ、其流域滿洲全部の三分二を占む、水運の便多く、漁利亦多し。

しよーけん 紫陽縣 清國陝西省、興安府にあり。 資陽縣 清國四川省、資州にあり。

しよーけん 滋陽縣 清國山東省、兗州府にあり。 蕭縣 清國江蘇省、徐州府にあり。 涉縣 清國河南省、彰德府にあり。

しよーけん 嶧縣 清國浙江省、紹興府にあり。 上元縣 清國江蘇省、江寧府にあり。 湘江 清國湖南省の大河にして、北流して、洞庭

湖に入り、頗る水利の便あり。 紹興 清國浙江省杭州の東南にあり、人口約二十萬、商業盛なり、紹興酒の醸造地として名あり、生絲の産出亦多し、越王勾踐の都、會稽の故地なりと。

しよーけん 城固縣 清國陝西省、漢中府にあり。 徐溝縣 清國山西省、太原府にあり。 湘鄉縣 清國湖南省、長沙府にあり。

しよーけん 上杭縣 清國福建省、河州府にあり。 高縣 清國江西省、瑞州府にあり。

しよーけん 城口廳 清國四川省、綏定府にあり。 松滬鐵道 清國上海と吳淞との間に在り、同國鐵道の嚆矢にして、其計畫實に我慶應二年にあり、外國人の企業にして、明治九年上海江灣間の線路落成せしが、其後清國政府其文明の利器たるを知らず、之を兇器視し、巨額の金を投じて之を購ひ線路を破壊し、其軌條車輛は臺灣に轉送せり、明治三十年清政府再び敷設に着手し、翌年八月全部落成せり。

しよーけん 松江府 清國江蘇省、上海の西南にあり。 昭山 清國湖南省、長沙府湘潭縣にあり、周の昭王南征して此地に至り遂に歸らず、故に名づくると云ふ。

しよーけん 象山縣 清國浙江省、寧波府にあり。

百貨輻輳し商業發達なり、古來富豪多く、又名士を出せる。と少なからず、此地古來韓建國の際の根據地にして、文祿の役韓將李謐此地に據り我軍を防ぎしが、小西行長の爲めに撃破せらる。

しよーけん 常州 清國江蘇省にあり、大運河の沿岸に位す、古の延陵の地にして、無錫縣を距る約十八里、運輸の便多く、木材の取引殊に盛なり、人口約二萬、此地古へ延陵又晋と稱し、晋の時毘陵郡、隋宋の代常州と云ひ、明代も亦常州と云ふ。

しよーけん 常熟 清國江蘇省蘇州府にあり、府城を距る約十五里、上海及蘇州に水路の便あり、米、麥、大豆等の産多し。

しよーけん 處州府 清國浙江省にあり。 漳州府 清國福建省にありて、廈門の西方に位す。

しよーけん 徐州府 清國江蘇省の北西にあり。 常州府 清國江蘇省の南部にあり。 饒州府 清國江西省にあり、贛陽湖の東岸樂安江の河口に位す。

しよーけん 昌城 韓國平安北道の一都會なり。 邵城 韓國仁川府の地なりと。 鐘城 韓國咸鏡道にあり、北兵使行營を置き茂山、會寧、鐘城、穩城、慶源、慶興の六鎮を管

す。

しよー

蕭山縣 清國浙江省、紹興府にあり。

しよーけん 常山縣 清國江蘇省、衢州府に屬す。 松滋津 清國湖北省、荊州府に屬す。

しよーけん 上思州 清國廣西省、南寧府にあり。 城津浦 (Song-chin-po) 韓國咸鏡北道の南臨溟灣の西粵にあり、元山の北百二十里、浦鹽斯德港の南西同距離に位す、明治三十二年五月の開港にして、群山、馬山浦と共に開かる、此地北韓に於ける重要地點を占むるも港灣淺くして、船舶の碇繋に便ならず、商業從て振はず。

しよーけん 滁洲 清國安徽省の直隸省なり。 汝州 清國河南省の直隸州なり。

しよーけん 南州 清國陝西省の直隸州なり。 象州 清國廣西省、柳州府にあり。 漳州 清國福建省、泉州府の西南にあり、漳州平原の中央に位し、漳江其南を流る、附近茶、麻、砂糖等の産出多し、此地昔時は泉門と並んで福建南部に於ける殷盛なる都會にして、人口五十萬と稱せられしが、長髮賊の亂に賊の據る所となり、左宗棠官兵を率ゐて府城を圍み、之を陥れ、市民死するもの十萬許、市街大半荒廢に歸す、爾來漸く衰微して、又振はず、今や人口約十萬と稱せらる。

しよーけん 尙州 (Song-ju) 一に洛陽と稱す、朝鮮慶尙北道の西北部にあり、東洛東江に臨み、釜山に通ず、水陸交通の便多く、

せる所なり。

しよじょけん 諸城縣 清國山東省、青州府にあり。

しよしよけん 鐘祥縣 清國湖北省、安陸府にあり。

しよじょけん 上饒縣 清國江西省、廣信府にあり。

しよじょけん 商城縣 清國河南、光州にあり。

しよしよ 漳水 之に二流あり、一は濁漳と云ひ清國山西

省隸安府に出づ、即隸水之れ

なり、一は清漳と云ひ同太原

府に出で直隸省に至りて海に

入る。

しよしよけん 商水縣 清國

河南省、陳州府にあり。

しよしよけん 小水里邑

清國盛京省にあり、本溪湖邑

の東約十五里、太子河の上流

に位す、附近鐵礦を産す、鐵鑛鑄鐵所及び綠礬製造所あり、

邑の東に又石炭礦あり。

しよせいもん 小西門

滿洲奉天府城の西方にある城門

にして、三層より成る、同地停車場に下車して城内に至らんと

とするには、必ず此門を通過す。



(門 西 小)

しよせんけん 如泉縣 清國江蘇省、通州にあり。

しよたん 湘潭 清國湖南省の一大都府にして、湘江の中

流に位し、藥材の取引盛なり。

しよたんけん 湘潭縣 清國湖南省、長沙府にあり。

しよちんあん 小鎮安 故廳にして、清國廣西省、鎮安府

にあり。

しよつう 昭通府 清

國雲南省の東北隅にあ

り。

しよせんわん 松田灣

韓國咸鏡南道、永興灣内

の北隅にありて、元山津

と相對す、灣内廣く、水深

く大船巨舶の碇繋に便な

り、灣内牡蠣の産多し。

しよと 松都 韓國開城

の別稱なり。

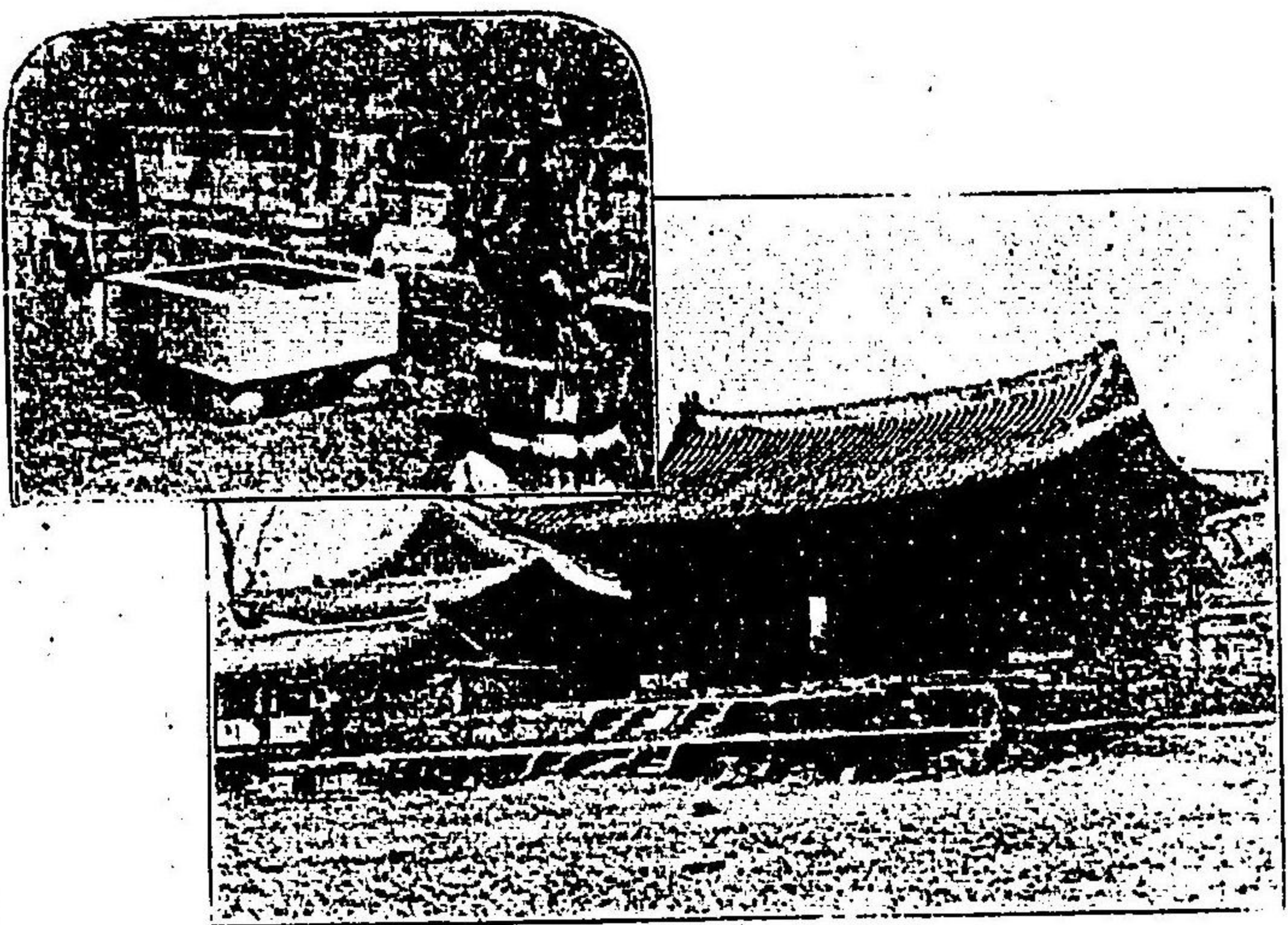
しよとく 常德 清國湖南省にあり、一に鼎州と稱す、沅江

の上流沅水の北岸に位す、本省の西部市場にして、人口約二

十五萬、商業繁盛なり、米の産出多し、城外に春申君の碑あ

り、又上流十五里に武陵桃源洞の古蹟あり。

しよとく 昌德宮 韓國京城内の王宮の一にして、



(宮 德 昌)

市の北方鷹峰の麓にあり、李朝第二世定宗王の時の創建に

して、第十一世中宗王の時修理し、第十九世高宗王の時漸く

大成せるものとす、結構壯麗、園水の美他に勝り、風色雅美

なるも、今は殿宇荒廢して、又昔日の觀を止めず。

しよとん 承德府 (Chengde) 一に熱河と云ふ、北京

の東北七十里、長城外、滦河の上流にあり、北に大陰山脈あ

り、南西に燕山脈あり、極めて形勝の地たり、金銀を産す、

此地古へ山戎東胡の地にして、漢の初匈奴の地となる、清朝

に至り熱河廳を設け、次で承德府と改む、今離宮あり、咸豐

年間、英佛同盟軍北京を陥れし時、文宗帝の靈座せし處な

り。◎彰德府 清國河南省の極北にあり。

しよとく 常德府 清國湖南省、洞庭湖の西にあり。

しよとく 松桃廳 清國貴州省、銅仁府にあり。

しよとく 昌圖府 清國盛京省、開原の北五里餘にあり、市

街繞らすに城濠を以てし、富戸軒を並べ、市況殷盛なり、戸

數約二千餘、蒙古人の居住者多し、蒙古王族ここに駐在す、

府の東方、東遼河と西遼河との會流點に通江子あり、豆類の

集散地として名高し、明治三十八年三月二十一日日本軍此

地を占領せり。

しよなんけん 商南縣 清國陝西省の商州にあり。

しよねけん 常寧縣 清國湖南省、衡州府にあり。

しよねん 汝寧府 清國河南省にあり。